

すこやかに こころ豊かに

～河内長野市第3次保健計画～



平成23年3月

河 内 長 野 市

すこやかに ころろ豊かに <河内長野市第3次保健計画書の構成図>

この計画は下記のような構成です。興味・関心をお持ちのところからご覧ください。

何のためにつくった計画か？

第1章 保健計画 (1～41頁)

1. 計画策定の背景・趣旨 1頁
2. 計画の基本理念 2頁
3. 計画の性格と位置づけ 2頁
4. 計画の期間 2頁
5. 計画の基本方針 3頁
6. 重要課題 4頁
7. 施策の体系 6頁
8. 施策の方向性 8頁

*ライフステージ別施策

- (1)妊産婦期 8頁
- (2)乳幼児期 10頁
- (3)学童期・思春期 13頁
- (4)青年期・成人期 15頁
- (5)中高年期 18頁
- (6)高齢期 22頁

*その他の課題別施策

- (1)難病対策 25頁
- (2)精神対策 26頁
- (3)感染症対策 27頁

9. 目標値 28頁

この計画で、どのように健康づくりをすすめるのか？
市民は健康づくりのために何をしたらいい？

この計画をどのように進めていくのか？

第2章 計画推進体制の整備 (42～46頁)

1. 関係機関との連携・協力 42頁
2. 地域医療体制の充実 44頁
3. 健康情報収集・提供の整備 45頁
4. 計画推進の基盤整備 45頁
5. 進行管理 46頁

前の計画から、市民の健康づくりの状況は良くなった？
変わっていない？

第4章 第2次保健計画等の評価 (100～138頁)

1. 評価の方法 100頁
2. 現状の分析と評価 101頁
3. 目標の達成状況 130頁
4. ライフステージ別の課題と今後の方向性 132頁
5. その他の施策の分析、方向性 138頁

第3章 市民の生活環境と健康状態 (47～99頁)

市民の生活環境や健康づくりの現状はどうなっている？

1. 社会経済的情勢 47頁
2. 市民の健康状態 56頁
3. 保健医療と社会福祉 65頁
4. 保健事業の現状 69頁

資料 (139～255頁)

1. アンケート調査の概要 139頁
2. アンケート調査の結果 140頁
3. アンケート調査票 220頁

4. 重要課題別ヒアリング 243頁
5. 策定経過 245頁
6. 用語解説 250頁

目 次

すこやかにこころ豊かに ～河内長野市第3次保健計画～

第1章 保健計画	1
1. 計画策定の背景・趣旨	1
2. 計画の基本理念	2
3. 計画の性格と位置づけ	2
4. 計画の期間	2
5. 計画の基本方針	3
6. 重要課題	4
7. 施策の体系	6
8. 施策の方向性	8
1) ライフステージ別施策	8
(1) 妊産婦期（妊娠から出産）	8
(2) 乳幼児期（出生から5歳）	10
(3) 学童期・思春期（6歳から18歳）	13
(4) 青年期・成人期（19歳から39歳）	15
(5) 中高年期（40歳から64歳）	18
(6) 高齢期（65歳以上）	22
2) その他の課題別施策	25
(1) 難病対策	25
(2) 精神保健対策	26
(3) 感染症対策	27
9. 目標値	28
1) 「健やか親子21」目標値について	28
2) 「健康かわちながの21」目標値について	32
(1) 身体活動・運動	32
(2) 栄養・食生活	33
(3) 休養・こころの健康づくり	35
(4) がん	36
(5) たばこ	37
(6) アルコール	38
(7) 歯の健康	39
(8) 糖尿病	40
(9) 循環器病	41

第2章 保健計画推進体制の整備	42
1. 関係機関との連携・協力	42
2. 地域医療体制の充実	44
3. 健康情報収集・提供の整備	45
4. 計画推進の基盤整備	45
5. 進行管理	46
第3章 市民の生活環境と健康状態	47
1. 社会経済的情勢	47
1) 人口の動き	47
2) 流入・流出人口	53
3) 経済的情勢	54
2. 市民の健康状態	56
1) 平均寿命、健康寿命、早世・障がい	56
2) 死亡統計からみた健康水準	57
3) 国民健康保険被保険者の疾病構造	62
4) 介護保険における要支援・要介護認定者数の推移	64
3. 保健医療と社会福祉	65
1) 保健医療の社会資源	65
2) 社会福祉などの状況	67
4. 保健事業の現状	69
1) 母子保健事業の現状	69
2) 学校保健の現状	82
3) 成人・高齢者保健事業の現状	84
4) 精神保健対策の現状	93
5) 感染症対策の現状	95
6) 難病対策の現状	98
第4章 第2次保健計画等の評価	100
1. 評価の方法	100
2. 現状の分析と評価	101
1) ライフステージ別	101
(1) 妊産婦期(妊娠から出産)	101
(2) 乳幼児期(出生から5歳)	103
(3) 学童期・思春期(6歳から18歳)	108
(4) 青年期・成人期(19歳から39歳)から高齢期(65歳以上)まで	111
・たばこ	111

・糖尿病	113
・休養・こころの健康づくり	115
・身体活動・運動	117
・栄養・食生活	119
・アルコール	123
・歯の健康	124
・循環器病	126
・がん	128
3. 目標の達成状況	130
4. ライフステージ別の課題と今後の方向性	132
5. その他の施策の分析、方向性	138

資料

1. 「河内長野市第3次保健計画（仮称）」策定のためのアンケート調査の概要	139
1) 母子保健事業アンケート調査の方法	139
2) 市民アンケート調査の方法	139
3) 市民アンケート調査の回収状況	139
2. アンケート調査の結果	140
1) 妊娠婦期	140
2) 乳幼児期	144
3) 学童期・思春期	152
4) 成人期	174
5) 自由記載（抜粋）	218
3. アンケート調査票（次頁参照）	220
・妊娠届出時アンケート	221
・4か月児健康診査アンケート	221
・1歳7か月児健康診査アンケート	222
・2歳6か月児歯科健康診査アンケート	222
・3歳6か月児健康診査アンケート	223
・食生活に関するアンケート	223
・小学3年生用アンケート	224
・小学6年生用アンケート	226
・中学3年生用アンケート	229
・17・18歳用アンケート	232
・20歳以上用アンケート	235
4. 重要課題別ヒアリング結果	243
5. 策定経過	245
1) 策定委員会及び検討委員会などの開催経過	245
2) 策定委員会設置規程及び委員構成	246
(1) 河内長野市保健計画策定委員会設置規程	246
(2) 策定委員会委員構成	247
3) 検討委員会設置規程及び委員構成	248
(1) 河内長野市保健計画検討委員会設置規程	248
(2) 検討委員会委員構成	249
6. 用語解説	250

第 1 章 保健計画

1. 計画策定の背景・趣旨

わが国では生活環境の改善や医学の進歩により男女とも世界有数の長寿国の一つとなっています。65 歳以上の高齢者が平成 22 年 3 月末には 23.9%となり、超高齢社会に突入しました。人口の急速な高齢化や生活スタイルの変化により、がん・心臓病・脳卒中・糖尿病などの生活習慣病が増加し、それに起因する寝たきり・認知症の要介護者の増加が深刻な社会問題となっています。

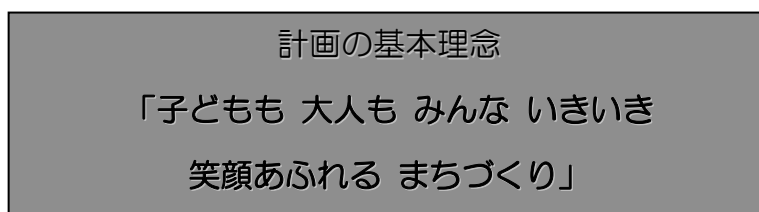
そこで、国では「すべての国民が健やかでこころ豊かに生活できる活力ある社会」を目指し、平成 12 年 3 月に「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）」を策定し、大阪府も健康日本 21 の理念を踏まえ、「健康おおさか 21」を平成 13 年 8 月に策定しました。本市においても健康寿命の延伸及び生活の質の向上を実現するため、平成 15 年 3 月に「河内長野市第 2 次保健計画及び健康かわちながの 21 計画」を策定し、市民が生涯にわたり心身ともに健やかで心豊かに生活できることを目指し施策を展開してきました。平成 19 年 3 月に健康かわちながの 21 計画の実施状況について中間評価を行い、生活習慣病対策など、今後強化すべき取り組み課題を明らかにしました。

一方、少子化も進み、子どもたちが健やかに育つことができる社会の実現が課題となりました。そこで、国は「21 世紀の母子保健の主要な取り組みを提示するビジョン」で、みんなで推進する国民運動計画として「健やか親子 21」を平成 13 年度からスタートさせました。本市においても平成 17 年 3 月に策定した「河内長野市第 2 次母子保健計画」の中で健やか親子 21 の評価指標を取り入れ、母子保健の推進に取り組んでいます。

その後、平成 20 年度に開始された医療制度改革の具体的な取り組みとして、メタボリックシンドロームに焦点を当てた特定健康診査・特定保健指導が導入されました。また、平成 10 年以降 12 年連続で全国の自殺者が 3 万人を超え、深刻な社会問題となっていることから、地域における自殺対策が喫緊の課題となり、平成 21 年度から自殺対策緊急強化事業が始まったところです。

このような状況の変化に対応するため、「河内長野市第 2 次保健計画及び健康かわちながの 21 計画」及び「河内長野市第 2 次母子保健計画」の評価や新たな課題も踏まえ、「河内長野市第 3 次保健計画」を策定するものです。本計画は市民の健康づくりへの支援を各ライフステージの中で位置づけるとともに、市民の健康目標及び施策の方向性、重点事項を定め、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組めるよう支援していくこととします。

2. 計画の基本理念



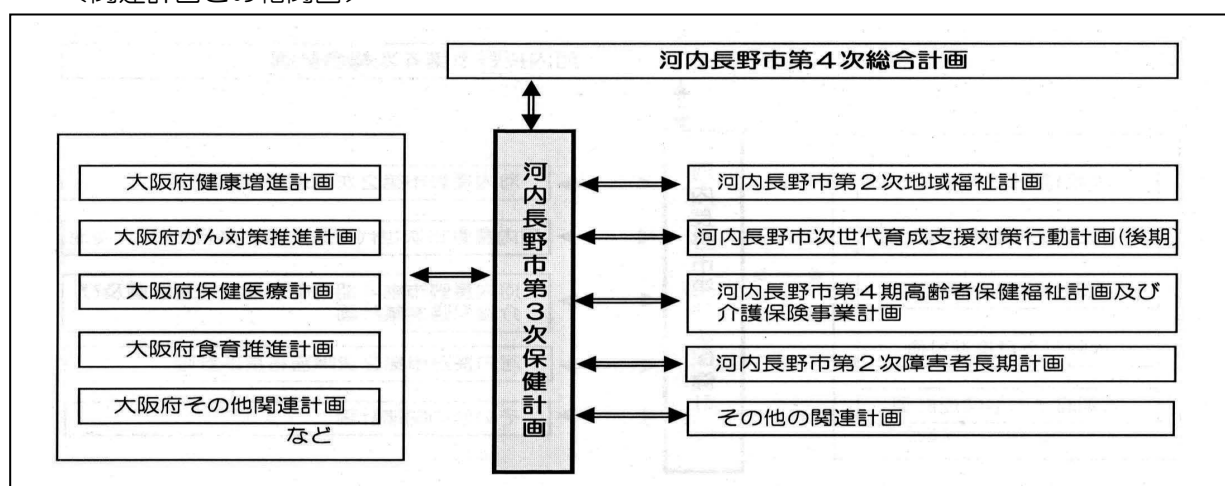
市民が生涯にわたっていきいきと生活できるように、心身ともに健やかで心豊かな人を育むまちづくり、社会に参加して役割をもてるまちづくり、相互に助け合う思いやりと笑顔あふれるまちづくりを進めます。

3. 計画の性格と位置づけ

本計画は、「河内長野市第4次総合計画」に基づき、こころと身体健康づくりの推進を目指し、保健事業を推進するための計画です。「河内長野市第2次保健計画及び健康かわちなかの21計画」を継承し、市民が生涯にわたり健康な生活を過ごせるよう、妊娠婦期・乳幼児期から高齢期に至る各ライフステージに応じた健康づくりの推進、疾病予防対策の推進、医療体制の充実などの基本方針と施策を示したものです。また、本計画は健康増進法に基づく市町村健康増進計画としての性格も持ちます。

計画の策定、推進にあたっては、国や大阪府の計画や動向、本市の「第4期河内長野市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」、「河内長野市次世代育成支援対策行動計画（後期）」、「河内長野市特定健康診査など実施計画」、「河内長野市第2次地域福祉計画」「河内長野市第2次障害者長期計画」などとの整合性を図っていくこととします。

＜関連計画との相関図＞



4. 計画の期間

本計画の期間は、平成23年度から平成29年度の7年間とします。必要に応じて期間内に計画の見直しを行います。

5. 計画の基本方針

本計画の基本方針は、すべてのライフステージのなかに位置づけることができるよう次の3つとしました。

①生涯にわたる健康生活を支援する体制づくり

乳幼児から高齢者まで、市民が生涯を通じて健康な生活を送ることができるよう、関係機関との連携のもと、健康教育、健康相談、健康診査などを通じて、健康づくりに関する正しい知識の普及や情報提供を行います。また、主体的な市民の健康づくりを支援していくための体制づくりを進めていきます。

②子どもを安心して生み、育てられる環境づくり

子どもを安心して生み、育てることができるよう、妊娠早期から継続した支援を行います。子どもの発達や健康状態、生活習慣や保護者の子育ての様子を把握し、それぞれの状況に応じて子どもの健康や子育てに関わる問題に対応していきます。また、関係機関との連携のもと、子どもたちの身体やこころの成長・発達を促し、虐待予防を視野にいれ、積極的に子育てを支援していきます。

③生涯現役で生活できる地域社会づくり

市民が生涯を通じて、社会と積極的に関わりをもち、地域社会の一員としていきいきと生活していくことができるよう、それぞれの市民の状況に応じた健康づくりを支援するとともに、関係機関との連携のもと自治会などの地区組織団体やボランティア団体などと協働し、市民の自主的な健康づくり活動を推進していきます。

6. 重要課題

今回実施したアンケート結果（資料参照）では、現在の健康状態について「よい」「まあまあよい」と回答した人は約4割、「ふつう」と回答した人も約4割、「あまりよくない」「悪い」と回答した人は約2割となっており、平成13年度調査とほぼ同様の結果でした。

また、本市の健康寿命は男性 76.4 歳、女性 78.6 歳で、全国の男性 72.3 歳、女性 77.7 歳（2004 年 WHO）より長くなっており、本市の健康水準は比較的良好な状況にあります。しかし、第4章の第2次保健計画等の評価で示すように改善が進んでいる項目もある一方で、改善がみられない項目やむしろ悪化している項目が見られました。

生涯を通じた健康づくりを推進し、今後の取り組みをより効率的に進めるため、これまでの評価を踏まえ、各分野の新たな重要課題を設定しました。

【母子保健分野】

1) 妊娠中から出産後早期の支援の充実

【成人・高齢者保健分野】

2) 身体活動・運動

3) 栄養・食生活

4) 休養・こころの健康づくり

5) がん対策

1) 「妊娠中から出産後早期の支援の充実」について

妊婦アンケートの結果、妊婦の約5割が心配なことがあると回答しており、できるだけ早期から継続した相談支援体制を確立することにより、育児不安を解消し、子どもの健やかな成長を推進していくために重要課題としました。

2) 「身体活動・運動」について

運動習慣（1回30分以上の運動を週2回、1年以上している）のある人は23.3%となっており、平成13年度の19.9%より改善していますが、前回と同様に大阪府の34.1%に比べ低い

状況にあります。また、運動不足と感じている人が約7割を占めています。運動習慣を高めることで、生活習慣病の予防やこころの健康づくりにも寄与することから重要課題としました。

3)「栄養・食生活」について

成人男性（20 歳から 60 歳代）の肥満型が 25.2%となっており、平成 13 年度の 22.6%より増えています。また、反対に 20 歳代女性のやせ型は 35.0%で、平成 13 年度の 23.6%から 10%以上増えており、食生活の状況が悪化していることが推測されます。生活習慣病予防や母子保健の観点から各年齢層に応じた食生活の見直しや改善が必要であることから重要課題としました。

4)「休養・こころの健康づくり」について

本市において、自殺が平成 17 年から 21 年における主要死因で占める割合は 3%と必ずしも高いわけではありません。しかし、自殺未遂者はその十倍から数十倍いると言われており、自殺対策は本市においても優先する課題の一つとなっています。また、市民アンケートの結果ではストレスを感じている人の割合が 67.7%で、大阪府の 23.9%（平成 15 年から 18 年大阪府民の健康・栄養調査）を上回ることや、普段の睡眠で休養がとれていない人が 23.9%で、平成 13 年度の 24.8%とほとんど改善が見られないことから重要課題としました。

5)「がん対策」について

がんの標準化死亡比は大阪府に比べると低いものの、がんは本市において死因順位の第1位となっており、市民の生命及び健康にとって重大な課題となっています。また、がん検診の認知度は 40～50%にとどまり、がん検診の受診率は低い状況が続いており、特に肺がん検診は平成 13 年度の受診率の 1/3 程度にまで減少しています。早急に積極的な取り組みが必要なことから重要課題としました。

これらの 5 つを重要課題とし、より重点的に市民の健康づくり運動を進めていくために、次の項に施策の体系を示し、その支援体制の整備に努めていきます。

7. 施策の体系

1) ライフステージ別施策

(1) 妊産婦期（妊娠から出産） P.8~P.9

市民の健康目標

1. 安心して妊娠期を過ごし、元気な赤ちゃんを出産できる
2. 安心して子育てをするための準備ができる

施策の方向性

- ア) 妊娠届出時からの継続した支援・相談体制の充実
- イ) 支援の必要な妊婦への早期からの支援の充実
- ウ) 禁煙・飲酒についての啓発及び支援の推進
- エ) 就労している妊婦への相談体制の充実
- オ) 不妊・望まない妊娠に関する相談の推進

(2) 乳幼児期（出生から5歳） P.10~P.12

市民の健康目標

1. 子どもの身体と心が健やかに育つ
2. 母親が安心して子育てを楽しむことができる（育児不安の軽減）
3. 疾病や障がいのある子どもが安心して生活できる

施策の方向性

- ア) 保健事業を通しての子育て支援の充実
- イ) 虐待予防を視野に入れた保健事業の展開
- ウ) 疾病や障がいのある児へのサポート体制の充実
- エ) 事故予防についての啓発活動及び支援の充実
- オ) 食育の推進
- カ) 歯の健康を守るための支援の充実
- キ) 子どもが病気になったときの対応についての知識の普及

(3) 学童期・思春期（6歳から18歳） P.13~P.14

市民の健康目標

1. 生涯にわたる健康への基礎づくり
2. 毎日元気に生活できる
3. 子どもの頃からの母性づくり、父性づくり、自分づくり

施策の方向性

- ア) 健康教育の充実
- イ) 喫煙・飲酒・性の問題・薬物対策などの思春期保健の充実
- ウ) 保護者への積極的な健康情報の提供と、家庭環境づくりの推進
- エ) 児童・生徒の悩みの相談体制の充実
- オ) 安全な生活環境づくりの推進
- カ) 学校保健と地域保健との連携強化

(4) 青年期・成人期（19歳から39歳） P.15~P.17

市民の健康目標

1. 青年期から健康的な生活習慣を身につけ、自分らしい健康づくりを心がける

施策の方向性

- ア) 健診を受けやすい環境の整備や周知方法の充実
- イ) 生活習慣病のリスク減少を視野に入れた肥満予防対策の推進
- ウ) 日々の生活に運動を取り入れる支援の充実
- エ) 喫煙対策の充実
- オ) 職域保健と地域保健の連携の推進

(5) 中高年期(40 歳から 64 歳) P.18~P.21

市民の健康目標

1. 健康な生活習慣で自分らしい健康づくりができる
2. 健康長寿を目指し将来をみすえたいがいつくり

施策の方向性

- ア) 健康診査受診率の向上とフォロー体制の強化
- イ) 生活習慣病予防のために生活習慣を見直し改善を促す支援の充実
- ウ) 日々の生活に運動を取り入れる支援の推進
- エ) こころの健康づくりの支援の推進
- オ) 喫煙対策の充実
- カ) 職域保健と地域保健の連携の推進

(6) 高齢期(65 歳以上) P.22~P.24

市民の健康目標

1. 健やかで心豊かに生活できる
2. 障がいや疾病があっても自分らしい人生をおくることができる

施策の方向性

- ア) 生活習慣病予防、介護予防のための支援の充実
- イ) 閉じこもり予防、介護予防を視野に入れた地域活動の充実
- ウ) 健康診査受診率の向上とフォロー体制の強化
- エ) うつ傾向のある人の早期発見・早期支援の推進
- オ) 介護予防のための地域でのネットワークの充実

2) その他の課題別施策

(1) 難病対策 P.25

施策目標

1. 在宅療養生活支援の推進

施策の方向性

- ア) 在宅療養支援体制の整備

(2) 精神保健対策 P.26

施策目標

1. 精神保健対策の推進

施策の方向性

- ア) 精神障がいに対する正しい知識の普及
- イ) 身近な相談体制の充実
- ウ) 精神障がい者の日常生活支援に向けたネットワークの充実

(3) 感染症対策 P.27

施策目標

1. 感染症対策の推進

施策の方向性

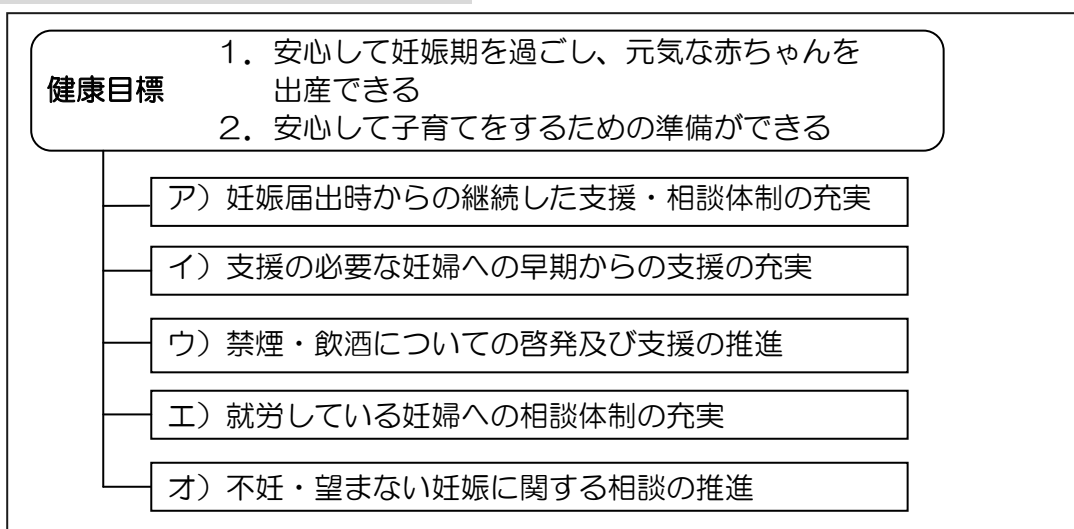
- ア) 感染症に対する理解及び正しい知識の普及
- イ) HIV 感染者・その他感染者に対する偏見の解消、早期発見と感染の拡大防止

8. 施策の方向性

1) ライフステージ別施策

(1) 妊産婦期（妊娠から出産）

①市民の健康目標と施策の方向性



②今後の取り組み

◎は重要課題の取り組み

ア) 妊娠届出時からの継続した支援・相談体制の充実

- ◎ 妊娠届出時に妊婦の面接を行い、妊婦の状況（妊娠したときの気持ち・妊婦の心身面・胎児の成長・経済面・相談相手の有無など）の把握に努め、支援が必要かどうかを総合的に判断し、保健指導・継続支援の充実に努めます。また情報提供として妊婦ガイドブックを作成し配付します。
- ◎ 医療機関と連携のもと、妊娠中からの支援や出産後に支援が必要と思われる妊婦には早期から積極的に関わり、信頼関係づくりを行います。
- ◎ 両親教室に夫・パートナーが参加しやすい日程や内容を検討し、妊娠中の経過や出産、子育ての相談や学習機会を充実させます。
- ◎ 両親教室では地域で身近な人同士が相談し、助け合って出産・育児が行えるような仲間づくりを進めます。
- ◎ 両親教室や両親教室同窓会など妊婦や保護者が交流できる機会を設け、妊娠中や育児を行ううえで共に助け合える仲間づくりを進めます。

イ) 支援の必要な妊婦への早期からの支援の充実

- ◎ 妊娠届出時の面接や保健師活動の中で支援の必要な妊婦を把握し、早期から支援を開始し、必要に応じ訪問や電話などで継続支援に努めます。
- ◎ 妊娠届出時面接や両親教室時に妊婦の健康管理・胎児の成長確認のために定期的に健康診査を受診することの必要性を伝えていきます。また、医療機関などを通じ広報していきます。

ウ) 禁煙・飲酒についての啓発及び支援の推進

- ◎ 妊娠届出時面接や両親教室を通じ、喫煙（受動喫煙を含む）や飲酒の母体・胎児への影響についての情報提供や知識の普及を行います。また、必要に応じて個別的なサポートをします。

エ) 就労している妊婦への相談体制の充実

- ◎ 就労している妊婦の早期把握、相談しやすい条件づくりを進めます。
- ◎ 妊婦の状況（就労の中断や生活スタイルの変化などによるストレスの有無など）確認を行い必要に応じ相談支援を行います。
- ◎ 就労している妊婦や夫・パートナーが両親教室に参加できるような日程や内容に努めます。

オ) 不妊・望まない妊娠に関する相談の推進

- ◎ 妊婦面接により望まない妊娠を把握し、支援の必要な妊婦として継続支援を行います。
- ◎ 保健師活動の中で、二人目不妊（続発性不妊）や望まない妊娠に関する相談に応じます。
- ◎ 不妊治療専門相談窓口・女性のためのカウンセリング窓口などの紹介を行います。
- ◎ 必要に応じ不妊治療助成事業の制度について情報提供を行います。

③ 私たち市民が行う健康づくり

◎は重要課題の取り組み

〈食事〉

- ◎母子ともに健康であるために、毎日バランスの良い食事をします。

〈歯の健康〉

- ◎ていねいな歯磨きを続けます。

〈たばこ・アルコール〉

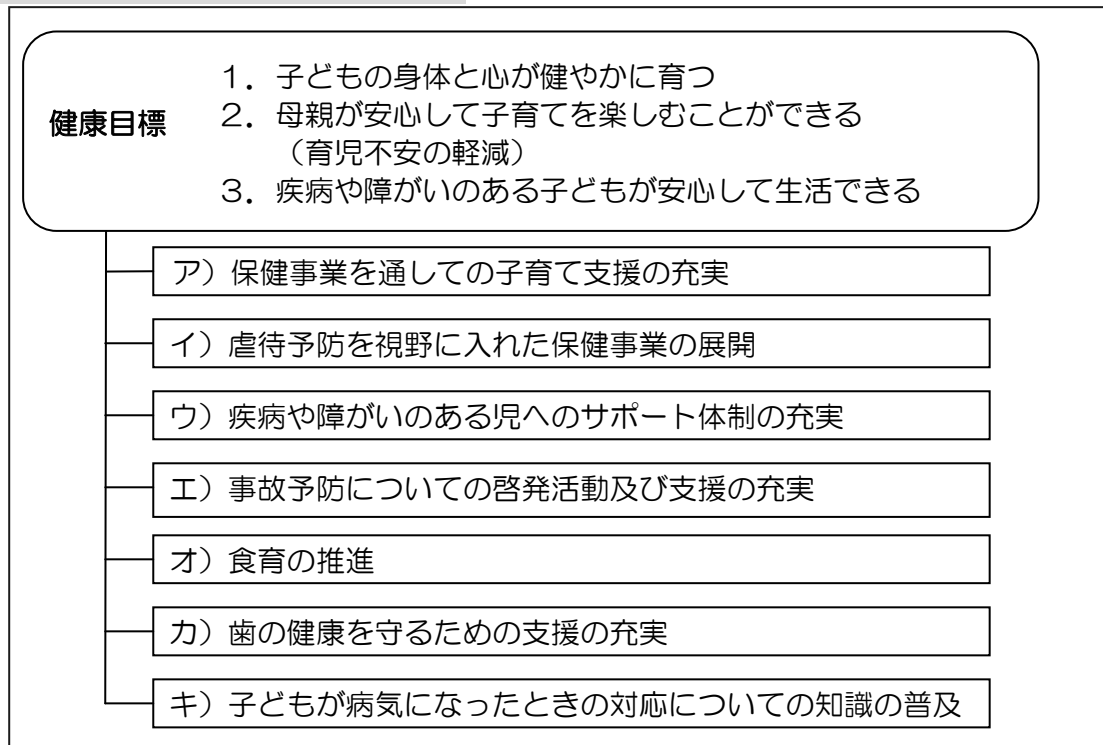
- ◎妊娠中や授乳中は、たばこを吸いません。
- ◎夫・パートナーや家族は、妊婦の周りでたばこを吸いません。
- ◎妊娠中や授乳中は、お酒を飲みません。

〈その他の健康づくり〉

- ◎妊娠 11 週までに妊娠の届出を行います。
- ◎妊婦健康診査を定期的に受診し、母子の健康を確認します。
- ◎夫・パートナーや家族は、妊婦のころや身体をサポートします。

(2) 乳幼児期（出生から 5 歳）

①市民の健康目標と施策の方向性



②今後の取り組み

◎は重要課題の取り組み

ア) 保健事業を通しての子育て支援の充実

- ◎ 関係機関との連携のもと、相談体制・訪問指導を充実させます。
- ◎ 医療的ハイリスク児以外の未熟児訪問を行っていきます。
- 健康診査や訪問を通じ、育児についての相談、助け合うことのできる仲間や自主グループに関する情報を提供します。
- 予防接種の意義や正しい知識について普及啓発します。
- 地域で行われている子育てのグループなどに出向き、保健指導・健康教育を実施します。
- 4 か月児健康診査で行っているブックスタート事業を通じて、親子が豊かな時間を共有し触れ合う機会を増やしていきます。

イ) 虐待予防を視野に入れた保健事業の展開

- 健康診査・健康相談・訪問を通じて、子育て上の問題を抱える親子を早期発見し、継続した支援を行います。
- 大阪府子ども家庭センター、大阪府保健所、医療機関、子育て支援課などの関係機関との連携のもと、虐待問題への連携体制の整備を進めます。
- 健康診査の未受診者対策を充実させます。特に 4 か月児健康診査の未受診者は、未受診理由が把握できるよう訪問を行い、関係機関とも連携を図り虐待の早期発見に努めます。

ウ) 疾病や障がいのある児へのサポート体制の充実

- 医療機関との連携のもと、健康診査・健康相談でのフォローの必要な児や保護者の把握に努め、就学前までの継続した支援を行います。
- 就学に向けて支援の必要な児や保護者に対し、各機関と連携して相談体制づくりの充実を図ります。
- ◎ こんにちは赤ちゃん訪問事業をより充実させ育児不安や悩みの解消に努め、養育に問題のある親へ必要な支援を提供していきます。
- 子育て支援を実施している関係機関との連携のもと、子育て支援情報の提供を充実させます。
- 専門クリニックや発達相談を通じ、発達障がい児への適切な養育方法を伝えることで、育児負担の軽減を図ります。
- 大阪府保健所、関係機関との連携のもと、継続性のある適切な支援を受けられる体制（療育体制）の充実に努めます。

エ) 事故予防についての啓発活動及び支援の充実

- 関係機関との連携のもと、妊娠届出時、健康診査時、各種教室・訪問などを通じてよく起こる事故や、事故予防の方法についての情報提供を推進します。
- 市立乳幼児健診センターにて、事故予防に関する展示を行い啓発を進めます。

オ) 食育の推進

- ◎ 健康診査、子育て相談、離乳食講習会を通じて、食習慣についての正しい知識を提供し、乳幼児期の食育の土台づくりを行います。
- ◎ 大阪府保健所、関係機関との連携のもと、食育への連携体制を充実させます。

カ) 歯の健康を守るための支援の充実

- 各地域で乳幼児をもつ保育者が集まる小グループやサークルに出向き、歯みがきの仕方や、糖分摂取（食生活）を見直して、う歯（むし歯）予防に取り組める仲間づくりを支援し、身近で実践できる情報を継続的に提供していきます。
- 庁内関係課、各医療機関と連携のもと、幼児期から学童期へ継続して支援できる体制を充実させ、ライフステージを通して歯の健康を守る支援に努めます。

キ) 子どもが病気になったときの対応についての知識の普及

- 小児救急システムの周知、充実に努めます。
- 健康診査、訪問を通じて、子どもが病気になったときの対応について知識の普及に努め、「かかりつけ医や歯科医、薬局」をもつよう啓発活動を推進します。

③私たち市民が行う健康づくり

◎は重要課題の取り組み

<食事>

- ◎ 子どもは可能な場合は母乳で育て、離乳食も素材そのものの味を感じられるよう薄味にします。
- ◎ 規則正しいリズムでいろいろな食品をバランス良く与え、いろいろな味や食感を楽しめる食事にします。
- ◎ 食事の時間は子どもとの楽しいコミュニケーションの場になるよう、家族そろっての食事を心がけます。
- ◎ 食事の準備や後片付けなどに関わる機会を作り、料理や食材そのものへの興味を育てます。
- ◎ 毎日元気に過ごすことと、食事との関係を幼児期から話題にし、食生活を大切にする意識を育てます。

<運動>

- ◎ 外でしっかり遊ばせます。

<睡眠>

- 早寝、早起き、朝ごはんの規則正しい生活を送らせます。
- 睡眠のとれる環境を整えます。

<歯の健康>

- 食後、歯を磨く習慣を身につけます。
- 間食で甘い食べ物や飲み物を与える回数を減らします。
- むし歯予防のため、フッ素塗布を受けます。

<たばこ・アルコール>

- 子どもの前では、たばこを吸いません。
- 子どものたばこの誤飲ややけどなど、事故を予防します。

<その他の健康づくり>

- 赤ちゃんが生まれたら、市の「こんにちは赤ちゃん訪問」を利用します。
- 早寝早起き、生活リズムを整えます。
- 乳幼児健康診査を受診し、子どもの発育発達を見守ります。
- 予防接種は効果や副反応を理解した上で接種をします。
- 事故予防のために家の中の整理整頓を行います。

(3) 学童期・思春期（6歳から18歳）

①市民の健康目標と施策の方向性

健康目標

1. 生涯にわたる健康への基礎づくり
2. 毎日元気に生活できる
3. 子どもの頃からの母性づくり、父性づくり、自分づくり

ア) 健康教育の充実

イ) 喫煙・飲酒・性の問題・薬物対策などの思春期保健の充実

ウ) 保護者への積極的な健康情報の提供と、家庭環境づくりの推進

エ) 児童・生徒の悩みの相談体制の充実

オ) 安全な生活環境づくりの推進

カ) 学校保健と地域保健との連携強化

②今後の取り組み

◎は重要課題の取り組み

ア) 健康教育の充実

- 定期健康診断、健康教室、健康相談の充実に努めます。
- ◎ 将来の生活習慣病予防のために、健康に関する基本的な知識の普及や、運動習慣の確立に努めます。
- 母子保健事業を通じて、小学生と乳幼児との触れ合い体験を行い命の大切さを学ぶ機会を設けます。

イ) 喫煙・飲酒・性の問題・薬物対策などの思春期保健の充実

- 保健所との連携のもと、飲酒、喫煙（受動喫煙を含む）、薬物についての正しい知識の提供や、健康な生活環境づくりを積極的に推進します。
- 学校保健との連携のもと、性教育を通じ性に関する正しい知識を提供するとともに、母性父性を育成し、また性感染症などの身体的影響についても啓発に努めます。

ウ) 保護者への積極的な健康情報の提供と、家庭環境づくりの推進

- ◎ 朝食の必要性について、啓発に努めます。
- 市内の健康に関するイベントで、喫煙・飲酒・薬物についての積極的な啓発と、情報提供を行います。
- 予防接種などの健康情報について、積極的な情報提供を行います。

エ) 児童・生徒の悩みの相談体制の充実

- ◎ 児童・生徒が抱える悩みを、相談できる環境づくりを推進します。
- ◎ 関係機関との連携のもと、いじめ、登校拒否、引きこもりなどの児童・生徒の抱える様々な問題を早期に発見し、適切に対処できる体制を充実させます。

オ) 安全な生活環境づくりの推進

- 校内・校外において児童が自分自身の力で事故から身を守る能力・態度・習慣を養うとともに、安全意識を高めさせるため、校舎内での危険防止の徹底、安全な遊び方・場所の指導、交通安全教育などの安全教育を推進します。

カ) 学校保健と地域保健との連携強化

- 健康などへの配慮が必要な児童・生徒について、相談・指導内容の充実に努めます。
- 青年期以降の健康や生活習慣づくりを見据えた学童期の保健活動の推進、学校保健と地域保健の連携のもと、より効果的に生涯にわたる健康づくりを支援します。
- 地域や保健所、学校現場と連携し、食育の推進に努めます。

③私たち市民が行う健康づくり

◎は重要課題の取り組み

<食事>

- ◎ 朝食を欠かさずに食べます。
- ◎ なんでも好き嫌いせずに食べます。
- ◎ 毎日牛乳を飲みます。
- ◎ 必要のないダイエットはしません。
- ◎ 河内長野産の農作物に興味を持ち、積極的に食べます。

<運動>

- ◎ 日中は外で身体を動かして遊びます。

<睡眠>

- 早寝・早起きをします

<歯の健康>

- フッ素入り歯みがき剤を使い、歯磨きをします。
- むし歯になったら、早めに治療を受けます。
- よく噛んで食べます。

<たばこ・アルコール>

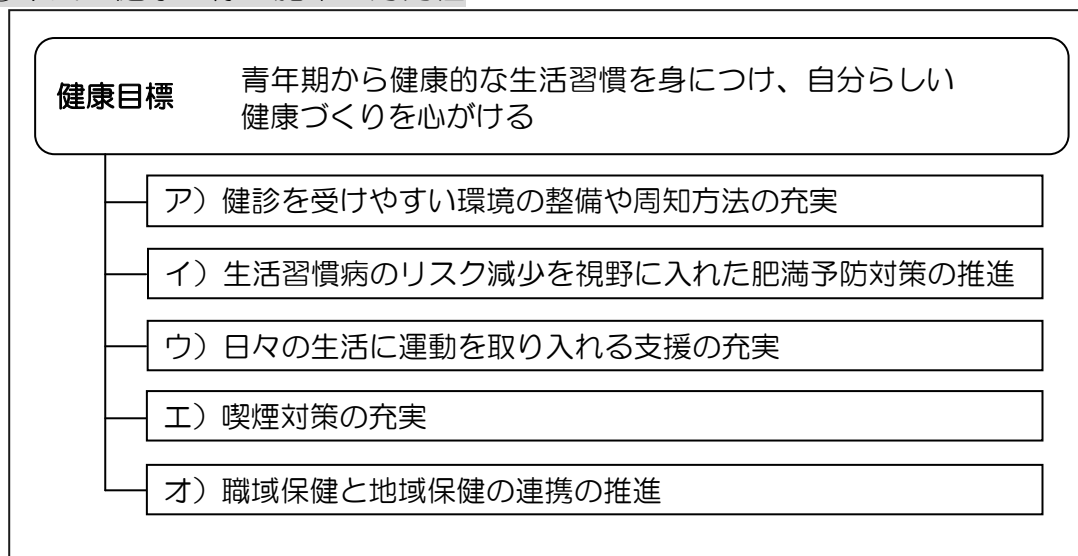
- たばこは吸いません。
- お酒は勧められても飲みません。

<その他の健康づくり>

- ◎ 自分の適正な体重を知り、維持します。

（４）青年期・成人期（１９歳から３９歳）

①市民の健康目標と施策の方向性



②今後の取り組み

◎は重要課題の取り組み

ア) 健診を受けやすい環境の整備や周知方法の充実

- ◎ 母子保健事業などの様々な機会を通じ、青年・成人健康診査や子宮頸がん検診（２０歳以上の女性対象）の効果的な周知に努めます。
- ◎ 学校や職場で受けることができない人が受診できるように、日程・場所などを検討します。

イ) 生活習慣病のリスク減少を視野に入れた肥満予防対策の推進

- ◎ 生活習慣改善に向け、栄養・食生活や運動習慣、歯のケアについての健康教室を実施します。
- ◎ 青年・成人健康診査、母子保健事業などの様々な機会を利用して、積極的な運動や適正体重維持のための正しい食習慣、適切な飲酒量、噛ミング 30 運動などについて啓発します。
- 市広報紙、市ホームページなどを通じて市民の健康問題や健康水準向上に向けた情報を提供します。

ウ) 日々の生活に運動を取り入れる支援の充実

- ◎ 日々の生活に運動を取り入れられるよう、ウォーキングコースの設定などを進めます。
- ◎ 市広報紙・市ホームページで、運動の効果や運動に関するイベントの啓発を行います。
- ◎ 運動を中心とした生活習慣病予防教室を実施します。

工) 喫煙対策の充実

- 青年・成人健康診査や母子保健事業などの機会を通じ、喫煙（受動喫煙を含む）が健康や歯と口腔に与える影響についての啓発を進めます。
- 仕事をしている人が参加しやすいように土・日曜日の相談日を設定し、禁煙支援体制を充実させます。
- 公共施設での敷地内禁煙を推進します。

才) 職域保健と地域保健の連携の推進

- パートタイム労働者などの健康診査を受診する機会の少ない市民に対し、受診する機会を提供するために、青年・成人健康診査、子宮頸がん検診、乳がん検診についての情報提供や、利用しやすい条件づくりに努めます。
- 職域保健、地域保健による健康教育、健康相談の保健事業の相互利用を推進します。
- こころの健康に関する啓発に努めます。
- 禁煙や分煙の徹底を職場に働きかけます。

③ 私たち市民が行う健康づくり

◎は重要課題の取り組み

<食事>

- ◎ 毎日必ず朝食を食べます。
- ◎ 自分の適正体重を知り、それを維持するために自分の体にあった食事量をとります。
- ◎ 必要のないダイエットは健康によくないのでしません。
- ◎ 規則正しい食生活をします。
- ◎ 「食事バランスガイド」を参考に、主食・主菜・副菜、牛乳・乳製品・果物のそろったバランスのよい食事をします。
- ◎ 脂肪分や塩分をとりすぎません。
- ◎ 菓子・嗜好飲料をとりすぎません。
- ◎ 河内長野産の農作物に興味を持ち、積極的に消費します。

<運動>

- ◎通勤時に歩く、歩いて買い物に行く、毎日散歩するなど、生活の中に歩くことを組み込みます。
- ◎近い所には歩いて行くなど、今より 1,000 歩多く歩き、1 日 10,000 歩を目指します。
- ◎エスカレーターやエレベーターより階段を利用します。
- ◎1 回 30 分以上、週 2 回以上運動します。
- ◎「楽しく歩く」を心がけ、ウォーキングの輪を広げます。

<休養・こころの健康>

- ◎ 生活リズムを整えることを心がけ、休養を十分にとります。
- ◎ 自分にあったストレス解消法を見つけ、ストレスとうまく付き合います。
- ◎ 悩みや不調を一人で抱え込まず、家族や仲間に話します。
- ◎ 悩みや不調を解決できない時は、専門家に相談します。

<歯の健康>

- かかりつけ歯科医をもち、定期的に歯科検診を受けます。
- かかりつけ歯科医や歯科衛生士から歯周病予防のための助言を受け、自分にあった口内清掃方法を学び実践します。
- 毎日、歯間ブラシや糸ようじなどの歯間清掃補助用具などを使い口内清掃を行います。
- よく噛んで食べます。

<たばこ>

- 喫煙の健康への影響についての理解を深めます。
- 喫煙者の私は分煙をこころがけ、喫煙マナーを守ります。
- 喫煙者の私は禁煙を目指します。

<アルコール>

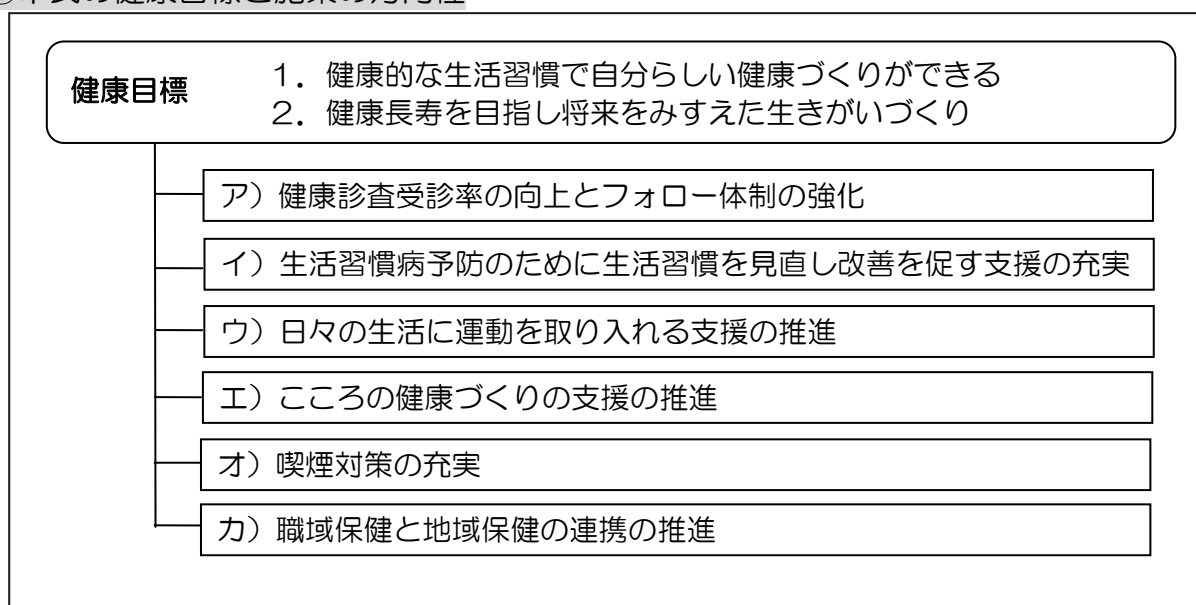
- 飲酒の適量や害を知り、許容量を守ります。
- 1週間のうち休肝日（飲まない日）を作ります。
- 未成年者にお酒を飲ませません。
- 他人に無理にお酒をすすめません。

<その他の健康づくり>

- 普段から自分の体重や血圧を自己チェックし、健康状態に努めます。
- ◎ 女性は、乳がんの正しい自己チェックの仕方を学び、実践します。
- かかりつけ医を持ち、健康管理に努めます。
- 毎年、健康診査を受け、自分の健康状態を把握します。
- ◎ 健診後の指導を受け、生活習慣の改善に努めます。

（５）中高年期（４０歳から６４歳）

①市民の健康目標と施策の方向性



②今後の取り組み

◎は重要課題の取り組み

ア) 健康診査受診率の向上とフォロー体制の強化

- ◎ メタボリックシンドローム及びその予備軍に対する保健指導を実施します。
- ◎ がん検診については、個人のライフスタイルに合わせて検診場所や検診時期を選べるように、受けやすい環境づくりを進めます。
- ◎ 健康診査、がん検診、歯周病疾患検診の重要性を啓発し、受診率向上に努めます。
- ◎ 精密検査が必要な人には、精密検査の必要性を伝え、精密検査受診率向上に努めるとともに精検受診者の継続した支援に努めます。
- ◎ 健康診査結果に基づき健康教室、必要な相談を実施するとともに、経年的データの蓄積と分析を行います。
- ◎ 医療機関との連携のもと、個別健康診査要指導者の事後指導や受診を促進します。

イ) 生活習慣病予防のために生活習慣を見直し改善を促す支援の充実

- ◎ 生活習慣改善に向け、栄養・食生活や運動習慣についての健康教室を実施し、生活習慣病予防に取り組みます。
- ◎ 糖尿病予防相談や教室の充実のために、実施回数や曜日を検討します。
- ◎ 集団健康教室については、グループワークにより参加者主体の健康学習や、健康づくりの自主グループの育成を進めます。
- ◎ 運動を習慣的に行えるよう、身近で利用可能なウォーキングコースの周知を進めます。
- ◎ 学校や地域における、河内長野産農産物の地産地消を推進します。
- 歯周病予防を中心としたお口の健康アップのための利用しやすい相談や教室の充実に努めます。

ウ) 日々の生活に運動を取り入れる支援の推進

- ◎ 市広報紙・市ホームページで、運動の効果や運動に関する教室の情報を提供します。
- ◎ 日々の生活に運動を取り入れられるよう、ウォーキングコースの設定などを進めます。
- ◎ 運動を始めるきっかけづくりにつながる教室を実施します。
- ◎ 運動を推進するための地域ボランティアの育成を進めます。
- ◎ 運動を継続していくための仲間づくりを支援します。

エ) こころの健康づくりの支援の推進

- ◎ 市広報紙・健康教室・キャンペーン・講演会などで、こころの健康に関する啓発を行います。
- ◎ 自殺予防デーに啓発キャンペーンを実施し、自殺予防を推進します。
- ◎ 医療機関にかかっておらず、こころの症状を持っている人のこころの相談会を実施します。
- ◎ 適切な対応・支援ができるように、職員向け研修会などを実施し、職員の資質向上に努めます。
- ◎ 職員の資質向上に努め、こころの健康についての相談体制を充実します。
- ◎ 健康教室など様々な機会を通じて、こころの相談ができる相談機関の周知を推進します。

オ) 喫煙対策の充実

- 健康増進事業などの機会を通じ、喫煙の健康への影響（受動喫煙を含む）について啓発します。
- 禁煙希望者の禁煙成功率向上を目指し、その人の状況にあった個別支援を充実させます。

カ) 職域保健と地域保健の連携の推進

- 禁煙や分煙の徹底を職場に働きかけます。
- 退職前の職域保健と地域保健との連携を図り、職域保健からの連続性のある健康づくり支援を推進します。
- ◎ 自殺予防対策を視野に入れたこころの健康に関する啓発を強化します。

③私たち市民が行う健康づくり

◎は重要課題の取り組み

<食事>

- ◎ 毎日必ず朝食を食べます。
- ◎ 自分の適正体重を知り、それを維持するために自分の体にあった食事量をとります。
- ◎ 必要のないダイエットは健康によくないのでしません。
- ◎ 規則正しい食生活をします。
- ◎ 「食事バランスガイド」を参考に、主食・主菜・副菜、牛乳・乳製品・果物のそろったバランスのよい食生活をします。
- ◎ 脂肪分や塩分をとりすぎません。
- ◎ 菓子・嗜好飲料をとりすぎません。
- ◎ 河内長野産の農作物に興味を持ち、積極的に消費します。

<運動>

- ◎ 通勤時に歩く、歩いて買い物に行く、毎日散歩するなど、生活の中に歩くことを組み込みます。
- ◎ 近い所には歩いて行くなど、今より 1,000 歩多く歩き、1 日 10,000 歩を目指します。
- ◎ エスカレーターやエレベーターより階段を利用します。
- ◎ 1 回 30 分以上、週 2 回以上運動します。
- ◎ 「楽しく歩く」を心がけ、ウォーキングの輪を広げます。

<休養・こころの健康>

- ◎ 生活リズムを整えることを心がけ、休養を十分にとります。
- ◎ 自分にあったストレス解消法を見つけ、ストレスとうまく付き合います。
- ◎ 悩みや不調を一人で抱え込まず、家族や仲間に話します。
- ◎ 悩みや不調を解決できない時は、専門家に相談します。

<歯の健康>

- かかりつけ歯科医をもち、定期的に歯科検診を受けます。
- かかりつけ歯科医や歯科衛生士から歯周病予防のための助言、自分にあった口内清掃方法、口腔機能を維持する方法を学び実践します。
- 毎日、歯間ブラシや糸ようじなどの歯間清掃補助用具などを使い口内清掃を行います。
- よく噛んで食べます。
- 健康教室に参加し、健康相談を利用します。

<たばこ>

- 喫煙の健康への影響についての理解を深めます。
- 喫煙者の私は分煙をこころがけ、喫煙マナーを守ります。
- 喫煙者の私は禁煙を目指します。

<アルコール>

- 飲酒の適量や害を知り、許容量を守ります。
- 1週間のうち休肝日（飲まない日）を作ります。
- 未成年者にお酒を飲ませません。
- 他人に無理にお酒をすすめません。

<その他の健康づくり>

- 普段から自分の体重や血圧を自己チェックし、健康状態に努めます。
- ◎ 女性は乳がんの正しい自己触診の方法を学び、実践します。
- かかりつけ医を持ち、健康管理に努めます。
- ◎ 毎年特定健診やがん検診を受け、自分の健康状態を把握します。
- ◎ 健診後の指導を受け、生活習慣の改善に努めます。
- 健診で要精密検査、要医療と診断されたら、必ず医療機関を受診します。

post card

自分のカラダ、
自分で守る。

乳がん自己触診カード

乳がんは自分で見つけられます。
さあ自己触診を始めましょう!

STEP 1 乳房や乳頭に異常がないかをよくみましょう。

まず、鏡の前で自分の乳房の形をよく見て覚えておきます。
以前に比べて、次のような変化がないか、以下の3パターンの状態でよく観察します。

★ 両腕を下ろした状態で



★ 両腕を上げた状態で



★ 両手を腰にあてた状態で



ココをチェック!

乳房の皮膚に
「ひきつれ」「くぼみ」
「ふくらみ」はないですか?

乳頭が最近、
「へこんだり」「ゆがんだり」
してきていませんか?

乳頭に
「ただれ」はないですか?

STEP 2 乳房やワキの下を触り、しこりがないか調べましょう。

ココをチェック!

触る胸と反対側の手を使います。親指を除く指を軽くそろえ、それらの指先の腹側のみで軽く圧迫しながら、なでてみます。左右の乳房を同じように、ゆっくり、注意深く色々な方向で調べましょう。



中心から円を描くようになでましょう

中心から左右に向けてなでましょう

中心から外側に向けてなでましょう

STEP 3 乳頭から異常分泌液が出ないか調べましょう。

ココをチェック!

両手の親指と人さし指で、図のように乳頭の根元を軽く摘んでしぼるようにし、異常な分泌液が出ないか確かめます。



月経が終わってから1週間以内に行うとよいでしょう。

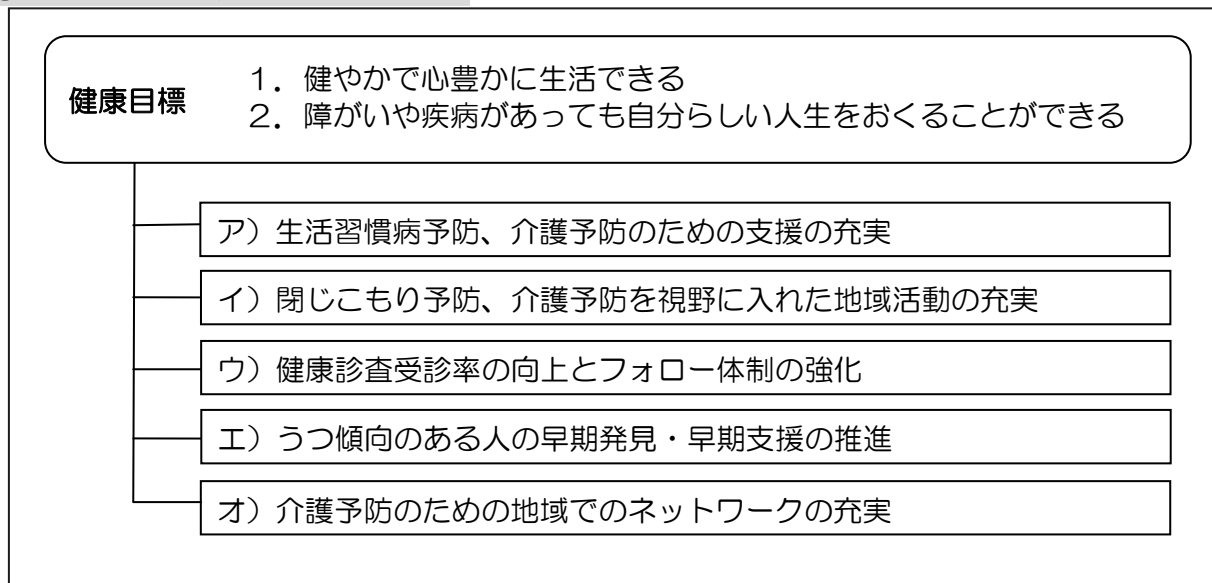
異常があるからといって、必ずしも「乳がん」だとは限りません。
異常を見つけたら、すぐに専門医の診察を受けて下さい。

AD CARD 06-6265-3808 www.adcard.co.jp not for sale HKD/SEN/TYO/NGO/OSA/FUK 0004605

- 21 -

（６）高齢期（６５歳以上）

①市民の健康目標と施策の方向性



②今後の取り組み

◎は重要課題の取り組み

ア) 生活習慣病予防、介護予防のための支援の充実

- ◎ 健康教室や健康相談で、糖尿病などの生活習慣病につながる可能性の高い人の生活改善を支援します。
- ◎ 高齢者向けの介護予防のための健康教室を開催します。
- 誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアや栄養改善についての啓発を充実させます。
- ◎ 高齢者一人ひとりが日々の生活に運動を取り入れられるよう支援します。

イ) 閉じこもり予防、介護予防を視野に入れた地域活動の充実

- ◎ 既存の市民組織や市民グループとの連携のもと、ニーズを踏まえた健康づくりの支援に努めます。また、健康づくりグループの育成を進めます。
- ◎ 介護予防に向け、地域での健康づくり活動を推進します。
- ◎ 関係機関との連携のもと、高齢者が住みなれた地域で自立し、いきいきとした生活を送るための生きがいづくり、健康づくりの支援を推進します。
- ◎ 地域で介護予防を推進するための、健康づくりサポート講座を実施します。

ウ) 健康診査受診率の向上とフォロー体制の強化

- ◎ がん検診については、個人のライフスタイルに合わせて検診場所や検診時期を選べるように、受けやすい環境づくりを進めます。
- ◎ 健康診査、がん検診、歯周病疾患検診の重要性を啓発し、受診率向上に努めます。
- ◎ 精密検査が必要な人には、精密検査の必要性を伝え、精密検査受診率向上に努めます。
- ◎ 健康診査結果に基づき健康教室、必要な相談を実施するとともに、経年的データの蓄積と分析を行います。
- ◎ 医療機関との連携のもと、個別健康診査要指導者の事後指導や受診を促進します。

エ) うつ傾向のある人の早期発見早期支援の推進

- ◎ 家族や周囲の人が、高齢者のうつ傾向に気づき早期に対応できるように、啓発を推進します。
- ◎ 元気アップ教室など地域での健康づくり教室を実施し、閉じこもり予防を推進します。
- ◎ 脳げんき教室・うつ予防教室などの健康づくり教室を実施し、うつ予防を推進します。
- ◎ キャンペーンなど様々な機会を通じて、こころの相談ができる相談機関の周知を推進します。

オ) 介護予防のための地域でのネットワークの充実

- 民生委員、地区福祉委員などの市民組織、関係機関、大阪府保健所との連携のもと、効果的な介護予防のための保健事業を展開できる体制の充実に努めます。

③ 私たち市民が行う健康づくり

◎は重要課題の取り組み

<食事>

- ◎ 自分の適正体重を知り、それを維持するために自分の体にあった食事量を守ります。
- ◎ 規則正しい食生活をします。
- ◎ たんぱく質をしっかりととり、よい栄養状態を維持します。
- ◎ 脂肪分や塩分をとりすぎません。
- ◎ 菓子・嗜好飲料をとりすぎません。
- ◎ 水分補給を意識し、脱水に気をつけます。
- ◎ 河内長野産の農作物に興味を持ち、積極的に消費します。

<運動>

- ◎ 自分の体力を定期的にチェックします。
- ◎ 自分に合った運動を見つけ、実践します。
- ◎ 地域活動やボランティア活動などの機会を活かし、積極的に外出します。
- ◎ スポーツやレクリエーション活動に積極的に参加します。

<休養・こころの健康>

- ◎ 生活リズムを整えることを心がけ、休養を十分にとります。
- ◎ からだを動かして気分転換を図ります。
- ◎ 生きがいや趣味を持ち、人とのふれあいを楽しみます。
- ◎ 悩みや不調を一人で抱え込まず、家族や仲間に話します。
- ◎ 悩みや不調を解決できない時は、専門家に相談します。

<歯の健康>

- かかりつけ歯科医をもち、定期的に歯科検診を受けます。
- かかりつけ歯科医や歯科衛生士から歯周病予防のための助言、自分にあった口内清掃方法、口腔機能を維持する方法、誤嚥性肺炎などの予防のための口腔ケアを学び実践します。
- 毎日、歯間ブラシや糸ようじなどの歯間清掃補助用具などを使って口内清掃を行います。
- よく噛んで食べます。
- 健康教室に参加し、健康相談を利用します。

<たばこ>

- 喫煙の健康への影響についての理解を深めます。
- 喫煙者の私は分煙をこころがけ、喫煙マナーを守ります。
- 喫煙者の私は禁煙を目指します。

<アルコール>

- 飲酒の適応量や害を知り、許容量を守ります。
- 1週間のうち休肝日（飲まない日）を作ります。
- 未成年者にお酒を飲ませません。
- 他人に無理にお酒をすすめません。

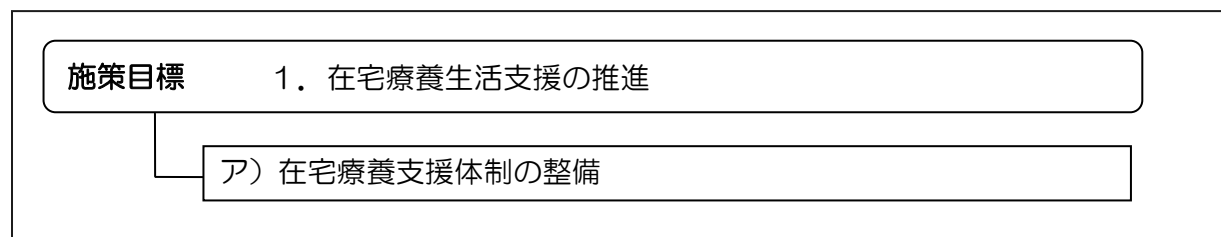
<その他の健康づくり>

- 普段から自分の体重や血圧を自己チェックし、健康状態の把握に努めます。
- ◎ 女性は乳がんの正しい自己触診の方法を学び、実践します。
- かかりつけ医を持ち、健康管理に努めます。
- ◎ 毎年特定健診やがん検診を受け、自分の健康状態を把握します。
- ◎ 健診後の指導を受け、生活習慣の改善に努めます。
- 健診で要精密検査、要医療と診断されたら、必ず医療機関を受診します。
- 介護予防事業に積極的に参加します。

2) その他の課題別施策

(1) 難病対策

①施策目標と施策の方向性



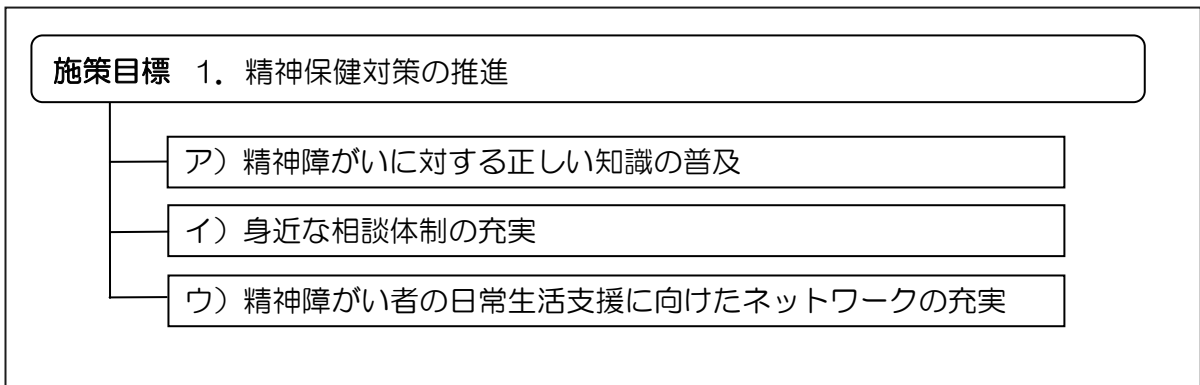
②今後の取り組み

ア) 在宅療養支援体制の整備

- 大阪府保健所との連携・支援のもと、難病患者やその家族に対する相談・訪問の充実に努めます。
- 大阪府保健所、関係機関との連携のもと、難病患者の生活の質の向上や家族の介護負担の軽減のための支援の充実に努めます。
- 大阪府保健所、関係機関との連携のもと、難病患者についての情報交換などの支援の充実に努めます。
- 相談者の状況に応じて、介護保険や福祉サービスを紹介し、在宅療養生活の支援に努めます。
- 特別な口腔ケアを必要とする難病患者に対しケアを充実させるため、歯科専門職がコーディネーターの役割を担当し、訪問を含めた歯科健診、保健指導などの総合的な歯科保健サービスを紹介します。

(2) 精神保健対策

①施策目標と施策の方向性



②今後の取り組み

ア) 精神障がいに対する正しい知識の普及

- 大阪府保健所との連携のもと、こころの健康づくりの重要性についての啓発に努めます。
- 大阪府保健所、関係機関との連携のもと、精神障がいに対する正しい知識の普及に努めます。

イ) 身近な相談体制の充実

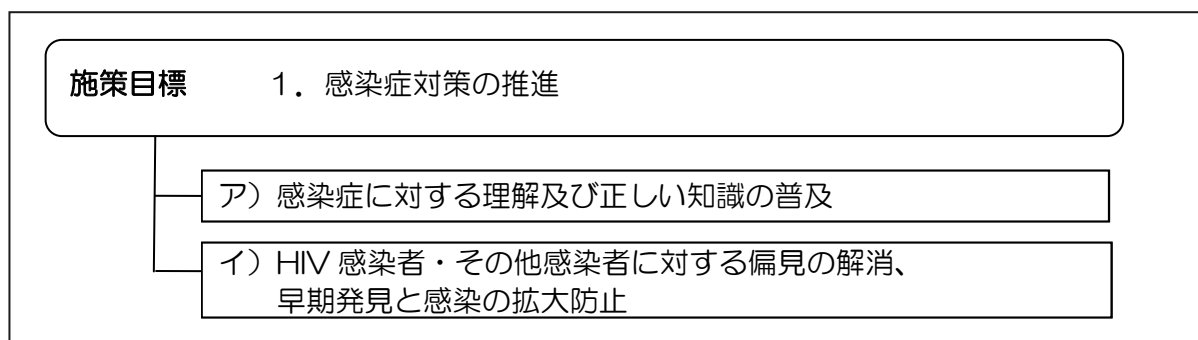
- 大阪府こころの健康総合センター、大阪府保健所との連携のもと、こころの健康に関する様々な問題について気軽に相談できる機関を紹介します。
- 大阪府こころの健康総合センター、大阪府保健所、専門医療機関、関係機関との連携のもと、こころの健康に関する悩みや相談がある人に対して、大阪府保健所での事業や医療機関での治療に速やかな移行を支援できるよう、相談体制の充実を図ります。また、専門医療機関や大阪府保健所とのコーディネート機能の充実に努めます。

ウ) 精神障がい者の日常生活支援に向けたネットワークの充実

- 関係機関との連携のもと、精神障がい者の生活支援事業の利用促進を図るとともに、個々の障がい者の状況を把握し、適切な保健・福祉サービスの充実に努めます。
- 大阪府保健所、関係機関との連携のもと、精神障がい者の社会復帰に向けた環境整備を進めるとともに、精神障がい者や家族の自主活動を支援します。
- 関係機関との連携のもと、認知症高齢者とその家族の在宅生活支援体制の整備を進めます。

(3) 感染症対策

①施策目標と施策の方向性



②今後の取り組み

ア) 感染症に対する理解及び知識の普及

- 市広報紙やホームページ、健康教室の機会を利用して、感染症に対する理解や知識の普及に努めます。
- 乳幼児の保護者に対しワクチンの有用性や予防接種の意義について周知するとともに、特に麻疹・風疹・BCGなどの予防接種率の向上に努めます。
- 大阪府保健所との連携・指示のもと、学校及び職場などにおける健康教育の推進、指導、助言を行います。また、感染症に関する情報の収集、関係者、市民への迅速な情報提供を行います。

イ) HIV感染者・その他感染者に対する偏見の解消、早期発見と感染の拡大防止

- 大阪府保健所との連携・指示のもと、感染の拡大防止及び患者・感染者に対する偏見の解消やHIV相談事業についての情報提供に努めます。

9. 目標値

生涯を通じた健康づくりを推進し、今後の取り組みをより効率的に進めるため、これまでの評価を踏まえ、各分野の新たな目標値を設定しました。

1)「健やか親子21」目標値について

「健やか親子21」とは、21世紀の母子保健の主要な取り組みを提示するビジョンで、みんなで推進する国民運動計画です。具体的に取り組むべき4つの主要な課題を提示し、それぞれについて具体的な指標や具体的な目標を設定しています。 ※表中の数値は全て本市における数値です。

妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援

項 目	平成17年度	現 状	目 標 (平成29年度)
妊産婦死亡率 妊産婦死亡数	0人 (H14年大阪府衛生年報)	0人 (H21年大阪府衛生年報)	維 持
妊娠・出産について 満足している者の割合 現状 ―「妊娠がわかったときに うれしかった人の割合」	79.0% (H16年河内長野市次世代育成支援 に関わるニーズ調査)	92.0% (H22年妊娠届出時アンケート)	100%
妊娠11週以下での妊娠届出率	84.3% (H15年河内長野市母子保健統計)	92.4% (H21年河内長野市母子保健統計)	100%

小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備

項 目	平成17年度	現 状	目 標 (平成29年度)
周産期死亡率 (出生千対)	8人 (H14年大阪府衛生年報)	周産期死亡数 5人 周産期死亡率 7.2 (H21年大阪府衛生年報)	減少傾向へ
全出生数中の低出生体重児の割合	8.8% (H15年大阪府富田林保健所 事務概要書)	9.2% (H21年富田林保健所管内の 公衆衛生の動向)	減少傾向へ
新生児死亡率 (出生千対)	1.1 (H15年大阪府衛生年報)	1.0 (H21年大阪府衛生年報)	維 持
乳児(1歳未満)の死亡率 (出生千対)	3.3 (H15年大阪府衛生年報)	1.0 (H21年大阪府衛生年報)	維 持

項 目	平成 17 年度	現 状	目 標 (平成 29 年度)
幼児（1 歳～4 歳）死亡率 (人口 10 万対)	—	1.8 (H20 年死亡票)	減少傾向へ
不慮の事故死亡率 不慮の事故死亡者数	—	0 ～ 5 歳 0 人 6 ～ 18 歳 2 人 (H18 年死亡票)	減少傾向へ 減少傾向へ
う歯のない 3 歳児の割合	75.4% (H17 年度 3 歳 6 か月児 健康診査受診結果)	75.3% (H21 年度 3 歳 6 か月児 健康診査受診結果)	80%以上
妊娠中の喫煙率	7.7% (H16 年河内長野市次世代育成支援 に関するニーズ調査)	2.8% (H21 年妊婦健診受診票)	なくす
妊娠中の飲酒率	11.2% (H16 年河内長野市次世代育成支援 に関するニーズ調査)	13.0% (H21 年妊婦健診受診票)	なくす
かかりつけの小児科医を持つ 親の割合 H17 年度 — 「かかりつけ医がいる」 現状 — 「かかりつけ医をもつ幼児の割合」	81.9% (H16 年河内長野市次世代育成支援 に関するニーズ調査)	92.6% (H22 年 1 歳 7 か月、2 歳 6 か月、 3 歳 6 か月児健康診査受診児の 保護者向けアンケート)	100%
事故防止対策を実施している 家庭の割合	—	97.2% (H22 年 4 か月、1 歳 7 か月、 2 歳 6 か月、3 歳 6 か月児健康 診査受診児の保護者向けアンケート)	100%
6 か月までに BCG 接種を 終了している者の割合	—	97.0% (H21 年河内長野市 母子保健統計)	95%
1 歳 6 か月までに 三種混合・麻疹の予防接種を 終了している者の割合 現状 — 麻しん第 1 期 7 月接種率	—	91.9% (H18～H21 年 河内長野市母子保健統計)	100%

子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減

項 目	平成 17 年度	現 状	目 標 (平成 29 年度)
子どもを虐待していると思う親の割合 現状－子どもを虐待していると思うことがある親の割合	23.2% (H16 年河内長野市次世代育成支援に関するニーズ調査)	17.6% (H21 年河内長野市次世代育成支援に関するニーズ調査)	減少傾向へ
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合 現状－「お母さんはゆったりとした気分で子どもと過ごす時間がありますか」の設問に対し「はい」と回答した親の割合	67.6% (H16 年河内長野市次世代育成支援に関するニーズ調査)	84.8% (H21 年 1 歳 7 か月児健診、3 歳 6 か月児健診問診票)	増加傾向へ
育児について相談相手のいる母親の割合	91.9% (H16 年河内長野市次世代育成支援に関するニーズ調査)	95.3% (H21 年河内長野市次世代育成支援に関するニーズ調査)	増加傾向へ
乳幼児の健康診査に満足している者の割合 H17 年度－「医師や保健師の話が勉強になった」と回答した親の割合 現状－乳幼児健診受診者で健診受診後「とても満足」「満足」と回答した親の割合	24.5% (H16 年河内長野市次世代育成支援に関するニーズ調査)	75.9% (H22 年 4 か月、1 歳 7 か月、2 歳 6 か月、3 歳 6 か月児健康診査受診児の保護者向けアンケート)	増加傾向へ

思春期の保健対策の強化と健康教育の推進

項 目	平成 17 年度	現 状	目 標 (平成 29 年度)
十代の自殺率 十代の自殺者数	—	自殺者数 1 人 (H18 年～H21 年)	減少傾向へ
児童生徒における肥満児の割合	—	2.9% (H20 年学校保健統計調査)	減少傾向へ

項 目	平成 17 年度	現 状	目 標 (平成 29 年度)
薬物乱用の有害性について正確に知っている小・中・高校生の割合 薬物に対する認知度（急性中毒） ★中学生 ★高校生	53.7%（中学2年生） 71.2%（高校2年生） （H16 青少年の次世代育成等に関わる実態と意向調査）	77.9%（中学3年生） 85.6%（17・18 歳） （H22 年市民アンケート）	100% 100%
薬物に対する認知度（依存症） ★中学生 ★高校生	70.7%（中学2年生） 88.5%（高校2年生） （H16 青少年の次世代育成等に関わる実態と意向調査）	94.4%（中学3年生） 95.4%（17・18 歳） （H22 年市民アンケート）	100% 100%
十代の喫煙率 ★中学生 ★高校生 H17 年度 — 「1 カ月間での喫煙有」 現状 — 「吸ったことがある・吸っている」	1.3%（中学2年生） 5.8%（高校2年生） （H16 青少年の次世代育成等に関わる実態と意向調査）	1.9%（中学3年生） 11.6%（17・18 歳） （H22 年市民アンケート）	なくす なくす
十代の飲酒率 ★中学生 ★高校生 H17 年度 — 「1 カ月間での飲酒有」 現状 — 「飲んだことがある・飲んでいる」	9.2%（中学2年生） 29.5%（高校2年生） （H16 青少年の次世代育成等に関わる実態と意向調査）	32.2%（中学3年生） 49.3%（17・18 歳） （H22 年市民アンケート）	なくす なくす
性行動による性感染症等の身体的影響について知識のある高校生の割合 「性行動は、相手のところや身体を傷つける可能性があると思う」	—	94.2%（17・18 歳） （H22 年市民アンケート）	100%
「自分の身体を大切にしている人の割合」	—	91.8%（17・18 歳） （H22 年市民アンケート）	100%
スクール・カウンセラーを配置している中学校の割合	—	100% （H22 市立中学校）	維 持

2)「健康かわちながの21」目標値について

「健康かわちながの21」とは、国において平成12年に始まった「健康日本21」（21世紀における国民健康づくり運動）の地方計画で、健康寿命の延伸、早世・障がいの減少、生活の質の向上を目的としています。健やかで心豊かに生活できる、活力ある社会とするために重要となる課題9分野について、具体的な指標や具体的な目標を設定しています。

※表中の数値は全て本市における数値です。

(1) 身体活動・運動

項 目	平成13年度	現 状	目標値 (平成29年度)
外で体を使って遊んだり、運動をしている 児童・生徒の増加（体育の授業を除く） ★小学生（小学6年生） ★中学生（中学3年生）	76.2% 48.6% (H13年市民アンケート)	82.3% 74.5% (H22年市民アンケート)	85%以上 77%以上
意識的に運動を心がけている人の増加 ★男性 ★女性	53.5% 51.8% (H13年市民アンケート)	59.0% 54.7% (H22年市民アンケート)	63%以上 63%以上
運動習慣者の増加 ★男性 ★女性 ※運動習慣者 1回30分以上の運動を、週2回以上実施し、1年間以上持続している人	21.5% 19.2% (H13年市民アンケート)	27.3% 20.0% (H22年市民アンケート)	30%以上 30%以上
何らかの地域活動を実施している人の増加 ★男性（60歳以上） ★女性（60歳以上）	34.5% 32.2% (H13年市民アンケート)	27.4% 27.0% (H22年市民アンケート)	45%以上 40%以上

(2) 栄養・食生活

項 目	平成 13 年度	現 状	目標値 (平成 29 年度)
適正体重を維持している人の増加 ★児童・生徒の肥満児 ★20 歳代女性のやせ型 (BMI 18.5 未満) ★20～60 歳代男性の肥満型 (BMI 25.0 以上) ★40～60 歳代女性の肥満型 (BMI 25.0 以上)	3.4% 23.6% 22.6% 17.2% (H13 年市民アンケート)	3.0% 35.0% 25.2% 12.2% (H22 年市民アンケート)	現状維持 15%以下 15%以下 10%以下
脂肪の少ない食事をとっている人の増加 ★男性 ★女性	33.9% 46.3% (H13 年市民アンケート)	32.8% 40.3% (H22 年市民アンケート)	50%以上 60%以上
薄味にしている人の増加 ★男性 ★女性	34.6% 49.8% (H13 年市民アンケート)	32.8% 47.4% (H22 年市民アンケート)	50%以上 60%以上
緑黄色野菜（ホウレン草、人参等）を ほぼ毎日とっている人の増加 ★男性 ★女性	41.7% 59.9% (H13 年市民アンケート)	38.3% 57.1% (H22 年市民アンケート)	50%以上 70%以上
朝食を欠食する人の減少 ★中学・高校生 ★男性（20 歳代） ★男性（30 歳代） ★女性（20 歳代） ※毎日朝食をとる人以外の割合	19.2% 46.5% 30.3% 19.7% (H13 年市民アンケート)	12.9% 37.5% 34.7% 35.0% (H22 年市民アンケート)	0% 15%以下 15%以下 15%以下
外食や食品を購入する時に栄養成分表示を 参考にしている人の増加 ★成人	13.2% (H13 年市民アンケート)	20.0% (H22 年市民アンケート)	50%以上
自分の適正体重を維持することのできる 食事量を理解している人の増加 ★成人男性 ★成人女性 ※適正体重を知っており、かつ健康維持のため 食事内容や量のコントロールに努めている人の割合	47.0% 53.1% (H13 年市民アンケート)	50.0% 48.7% (H22 年市民アンケート)	80%以上 80%以上

自分の食生活に問題があると思う人のうち、食生活の改善意欲のある人の増加 ★成人男性 ★成人女性	61.3% 74.6% (H13 年市民アンケート)	62.7% 84.7% (H22 年市民アンケート)	80%以上 90%以上
食事バランスガイドを参考にしている人の増加 ★成人男性 ★成人女性 ※「ほぼ毎食参考にしている」「毎日1食は参考にしている」「時々参考にしている」と回答した人の割合	— —	14.4% 29.6% (H22 年市民アンケート)	60%以上 60%以上
食育に関心がある人の増加 ★成人男性 ★成人女性 ※「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合	— —	52.3% 73.6% (H22 年市民アンケート)	95%以上 95%以上
メタボリックシンドロームの認知度の増加 ★成人男性 ★成人女性 ※「内容を知っている」と回答した人の割合	— —	71.4% 78.5% (H22 年市民アンケート)	95%以上 95%以上
河内長野市の農作物を知っている人の増加 ★成人男性 ★成人女性	— —	17.0% 20.6% (H22 年市民アンケート)	40%以上 40%以上
河内長野市の農作物を食べるようにしている人の増加 ★成人男性 ★成人女性	— —	10.3% 18.7% (H22 年市民アンケート)	40%以上 40%以上

(3) 休養・こころの健康づくり

項 目	平成 13 年度	現 状	目標値 (平成 29 年度)
十分な睡眠の確保 睡眠による休養を十分とれていない人の減少 ★とれていない人の割合	24.8% (H13 年市民アンケート)	23.9% (H22 年市民アンケート)	22%以下
ストレスを感じた人の減少 ★ストレスを感じた人の割合	68.4% (H13 年市民アンケート)	67.7% (H22 年市民アンケート)	62%以下
自殺者の減少 ★自殺者数	24 人 (H12 年大阪府衛生 年報)	37 人 (H21 年大阪府衛生 年報)	10 人以下
悩みごと等必要なときに相談できる相手が いない人の減少 ★成人 ★17・18 歳 ★中学生 (中学3年生) ★小学生 (小学6年生) ※成人：必要なとき自由に自分の気持ちを話すことが できる家族・友人がいない人の割合 ※小学生・中学生・17・18 歳：悩みごとの相談相手が いない人の割合	10.2% 11.8% 26.4% 23.3% (H13 年市民アンケート)	14.9% 10.9% 15.4% 16.7% (H22 年市民アンケート)	8%以下 8%以下 10%以下 10%以下
こころがつかれたとき相談できる専門機関を 知っている人の増加 ★知っている人の割合	38.0% (H13 年市民アンケート)	47.9% (H22 年市民アンケート)	57%以上

(4) がん

項 目	平成 13 年度	現 状	目標値 (平成 29 年度)
市が実施するがん検診受診者(率)の増加 ★肺がん(40 歳以上) ★胃がん(40 歳以上) ★大腸がん(40 歳以上) ★乳がん(女性のみ) ★子宮頸がん(女性のみ) ※乳がん H13 年度 — 30 歳以上 現状 — 40 歳以上 ※子宮頸がん H13 年度 — 30 歳以上 現状 — 20 歳以上	6.1% 14.2% 15.4% 13.8% 8.1% (H13 年度老人保健事業データ)	2.8% 14.5% 17.5% 14.2% 8.6% (H21 度 市実施の健康増進事業データ)	18%以上 25%以上 25%以上 25%以上 14%以上
市が実施するがん検診受診後の精密検査受診者(率)の増加 ★肺がん(40 歳以上) ★胃がん(40 歳以上) ★大腸がん(40 歳以上) ★乳がん(女性のみ) ★子宮頸がん(女性のみ) ※乳がん H13 年度 — 30 歳以上 現状 — 40 歳以上 ※子宮頸がん H13 年度 — 30 歳以上 現状 — 20 歳以上	84.4% 77.1% 47.2% 76.8% 45.5% (H13 年度老人保健事業データ)	100.0% 84.7% 44.2% 95.5% 75.0% (H21 度 市実施の健康増進事業データ)	90%以上 90%以上 90%以上 90%以上 90%以上

項 目	平成 13 年度	現 状	目標値 (平成 29 年度)
市民全体のがん検診受診者(率)の増加 ★肺がん ★胃がん ★大腸がん ★乳がん(女性のみ) ★子宮頸がん(女性のみ) ※市のがん検診や職場・人間ドックなどでがん検診を受けた人	22.0% 39.3% 33.8% 38.0% 38.5% (H13 年市民アンケート)	16.2% 26.8% 26.2% 27.8% 33.7% (H22 年市民アンケート)	50%以上 50%以上 50%以上 50%以上 50%以上

(5) たばこ

項 目	平成 13 年度	現 状	目標値 (平成 29 年度)
喫煙率の減少 喫煙している人の割合 ★男性 ★女性	41.9% 12.4% (H13 年市民アンケート)	25.3% 11.6% (H22 年市民アンケート)	20%以下 5%以下
未成年者の喫煙をなくす 喫煙している人の割合 ★男性（中学3年） ★女性（中学3年） ★男性（高校3年） ★女性（高校3年） 現状－「吸っている」と回答した人	— — 13.4% 9.9% (H13 年市民アンケート)	0% 0% 7.3% 3.5% (H22 年市民アンケート)	0% 0% 0% 0%
喫煙したことのある人の割合 ★男性（中学3年） ★女性（中学3年） ★男性（高校3年） ★女性（高校3年） 現状－「以前吸ったことがある」と回答した人	— — — —	1.2% 2.0% 6.5% 6.5% (H22 年市民アンケート)	0% 0% 0% 0%
喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及 知っている人の割合 ★肺がん ★喘息 ★気管支炎 ★心臓病 ★脳卒中 ★胃潰瘍 ★妊娠に関連した異常 ★歯周病	93.9% 55.1% 62.2% 40.7% 29.5% 25.2% 37.2% 13.8% (H13 年市民アンケート)	94.9% 60.2% 67.8% 49.3% 46.9% 25.4% 36.3% 24.6% (H22 年市民アンケート)	100% 100% 100% 100% 100% 100% 100% 100%
職場における分煙の推進 ★職場における分煙の割合	54.7% (H13 年市民アンケート)	73.5% (H22 年市民アンケート)	100%

(6) アルコール

項 目	平成 13 年度	現 状	目標値 (平成 29 年度)
多量に飲酒する人の減少			
多量に飲酒する人の割合			
★男性	4.0%	7.8%	3.2%以下
★女性	0.5%	3.9%	0.2%以下
H13 年度—毎日3合以上飲酒する人	(H13 年市民アンケート)	(H22 年市民アンケート)	
現状—1 回 3 合以上飲酒する人			
未成年者の飲酒をなくす			
飲酒している人の割合			
★男性 (中学3年)	—	1.8%	0%
★女性 (中学3年)	—	2.0%	0%
★男性 (高校3年)	19.0%	8.9%	0%
★女性 (高校3年)	19.3%	10.0%	0%
現状—「飲んでいる」と回答した人	(H13 年市民アンケート)	(H22 年市民アンケート)	
飲酒したことのある人の割合			
★男性 (中学3年)	—	30.6%	0%
★女性 (中学3年)	—	30.3%	0%
★男性 (高校3年)	—	43.9%	0%
★女性 (高校3年)	—	37.1%	0%
現状—「以前飲んだことがある」と回答した人		(H22 年市民アンケート)	

(7) 歯の健康

項 目	平成 13 年度	現 状	目標値 (平成 29 年度)
幼児期のう蝕予防 う歯（むし歯）のない幼児の増加 ★う歯（むし歯）のない幼児の割合（3 歳）	67.2% (H13 年度 3 歳 6 か月児 健康診査)	75.3% (H21 年度 3 歳 6 か月児 健康診査)	80%以上
間食として甘味食品、飲料を頻回飲食する 習慣のある幼児の減少 ★習慣のある幼児の割合（1 歳 7 か月児） ★習慣のある幼児の割合（2 歳 6 か月児） ※頻回飲食とは 1 日 3 回以上飲食すること	— —	7.9% 10.0% (H21 年度母子保健事業 健康診査)	7%以下 8%以下
歯間部清掃器具の使用の増加 ★40 歳（35～44 歳）で使用する人の割合 ★50 歳（45～54 歳）で使用する人の割合	45.4% 40.9% (H13 年市民アンケート)	54.8% 42.0% (H22 年市民アンケート)	60%以上 50%以上
歯の喪失防止 80 歳で 20 歯以上、60 歳で 24 歯以上の 自分の歯を有する人の増加 ★80 歳（75～84 歳）で 20 歯以上 ★60 歳（55～64 歳）で 24 歯以上 ※75 歳以上で 20 歯以上ある人	18.4% 37.7% (H13 年市民アンケート)	20.3% 40.7% (H22 年市民アンケート)	23%以上 43%以上
定期的な歯科検診の受診者の増加 過去 1 年間に受けた人の割合 ★60 歳（55～64 歳）	28.6% (H13 年市民アンケート)	42.7% (H22 年市民アンケート)	50%以上



(8) 糖尿病

項 目	平成 13 年度	現 状	目標値 (平成 29 年度)
糖尿病有病者の減少（推計） 健康診査で糖尿病要医療の増加を抑える ★男性 ★女性 現状は空腹時血糖 126mg/dl 以上または HbA1c が 6.1%以上のもの	6.0% 2.6% (H13 年度老人保健事業 データ)	13.6% 7.2% (H21 年度河内長野市 特定健康診査結果)	8%以下 4.6%以下
糖尿病検診の受診の促進 ★健康診査を受ける人の割合 ※健康診査・人間ドッグを受けた人の割合	61.0% (H13 年市民アンケート)	63.4% (H22 年市民アンケート)	70%以上
健康診査の事後指導の推進 特定保健指導の実施率 ★合計指導率 ★積極的支援 指導率 ★動機付け支援 指導率	— — —	17.9% 6.6% 20.7% (H21 年度河内長野市 特定保健指導結果)	45%以上 45%以上 45%以上

正しい歩 き方



(9) 循環器病

項 目	平成 13 年度	現 状	目標値 (平成 29 年度)
高血圧の改善 ★健康診査での要指導＋要医療割合 ※現状は収縮期血圧 130mmHg 以上・拡張期血圧 85mmHg 以上	34.2% (H13 年度老人保健事業データ)	39.7% (H21 河内長野市特定健康診査データ)	29.5%以下
高脂血症の減少 ★男性 ★女性 ※H13 年度は総コレステロール値 240mg/dl 以上 ※現状は LDL コレステロール値が [※] 140mg/dl 以上	14.5% 14.2% (H13 年度老人保健事業データ)	24.6% 33.3% (H21 河内長野市特定健康診査データ)	7.2%以下 7.1%以下
★基本健康診査での要指導＋要医療の割合 ※現状は LDL コレステロール値が [※] 120mg/dl 以上	53.0% (H13 年度老人保健事業データ)	56.0% (H21 河内長野市特定健康診査データ)	37.1%以下
健康診断を受ける人の増加 ★健康診断を受ける人の割合 ※本市は健康診査・人間ドッグを受けた人の割合	61.0% (H13 年市民アンケート)	63.4% (H22 年市民アンケート)	70%以上
★特定健康診査受診率 ※H13 年度は河内長野市基本健康診査受診率	34.8% (H13 年度老人保健事業データ)	32.4% (H21 年度法定報告)	65%以上

第2章 保健計画推進体制の整備

1. 関係機関との連携・協力

本市の健康に関する施策は、市立保健センターが地域保健対策の拠点となり、庁内関係課や庁外の関係機関と連携し、推進しています。

妊産婦期、乳幼児期に関しては、子育て支援課をはじめ、庁内関係課や大阪府子ども家庭センター・療育施設・幼稚園・保育所（園）と連携しています。乳幼児の施策を推進していくために、今後それぞれの機関が虐待予防・療育・健全育成などの課題について検討し、連携強化を図ります。

また、学童期・思春期に関しては、学校保健との連携を強化し、新しい思春期保健などの課題に対して教育委員会とともに検討していきます。

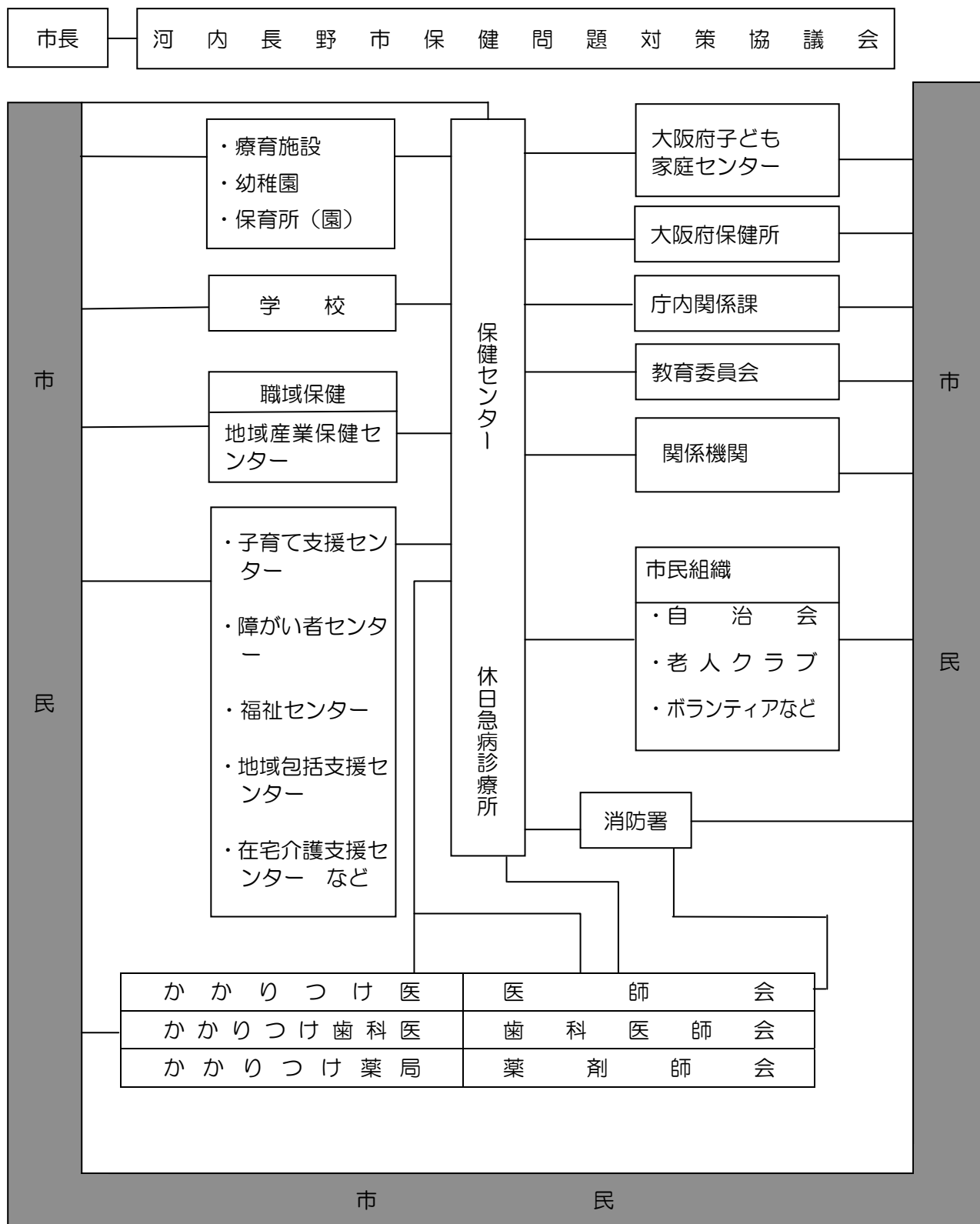
青年期・成人期、中高年期の就労している人に関しては、職域保健が主となり各種健康保険組合や地域産業保健センターにおいて健康管理を行っていますが、今後は、高齢期に向け一貫した健康管理が行えるよう連携していきます。

高齢期に関しては、現在介護高齢課などの庁内関係課や平成18年4月に設置された地域包括支援センター、介護保険事業者と連携を図って高齢者の健康管理を行っています。今後も地域包括支援センターとともに、介護予防事業をさらに推進していきます。

全ライフステージを通じて医療に関しては、各医療機関はもちろんのこと医師会・歯科医師会・薬剤師会（三師会）との連携を強化していきます。また、大阪府保健所は地域保健の専門的、広域的、技術的拠点であり、市町村だけでは対応が難しい専門的・技術的判断を要する場合や広域的対応を必要とする場合の市町村支援の役割も担っています。今後も大阪府保健所とより一層の連携を図りながら、市民の健康の保持・増進に努めていきます。

さらに、地域の健康づくりを推進していくためには、現在活動中の健康づくり推進員・食生活改善推進員・はつらつ出前ボランティアをはじめとし、民生委員や地区福祉委員、自治会、老人クラブ、ボランティアなどの市民組織とも連携を図り、より一層市民に身近なところでの健康づくり施策を展開できるように市民グループの活性化に努めていきます。

図表２－１ 保健・医療・福祉などの連携・協力体制



2. 地域医療体制の充実

市民が、いつでもどこでも安心して必要な医療が受けられる医療供給体制を確保していくことは非常に重要です。とりわけ、プライマリケアから高度専門医療まで、必要に応じて利用できるような地域医療体制を構築していくことが必要となります。また、今日では、健康増進から疾病予防、診断・治療、リハビリテーションに至る包括医療システム構築の必要性が求められており、この観点から本市地域医療体制を総合的に充実していくことが大切です。

1) かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の推進

地域医療体制の充実を図るためには、「かかりつけ医」「かかりつけ歯科医」「かかりつけ薬局」の推進が大切です。

かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の機能は、①家族構成員の生涯を通じての健康管理、②初期診療機能、③在宅保健医療の支援、④地域の保健事業への参画の4点が挙げられます。その役割は地域医療を担う医師や歯科医師、薬剤師が行うこととなります。住み慣れた自宅における治療や最期を望む人は多く、地域医療に関するニーズはさらに増大し、多様化すると考えられます。今後も引き続き市民へのかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の現状を把握し普及・啓発活動を進めていきます。

2) 医療機関の連携強化

医療の連携は、市民が包括的で継続的な医療を受けられるという点で重要であり、診療所や病院にとってもそれぞれの役割を活かした医療の充実を図ることができます。

本市の一般病院の病床数（人口 10 万対）は、一般病院、診療所（有床・無床）の施設数が大阪府と比較して少ない状況です。患者の病態に応じた適切な医療を提供していくために、今後も地域の開業医間の連携や専門病院と地域医療機関との連携を強化していきます。

3) 救急医療体制の充実

初期救急機関としては、南河内保健医療圏内に休日急病診療所が5か所設置されています。本市の救急医療体制（内科・歯科）は、河内長野市立休日急病診療所があり医師会・歯科医師会・薬剤師会の協力を得て、休日・土曜日（準夜間）・年末年始における診療体制を確立しています。また、平成 20 年には南河内圏域の二次救急受け入れ病院が重傷者への適切な医療を確保できるよう、初期救急受け入れ病院体制を整備しました。

小児については、平成 14 年 4 月から本市を含む3市2町1村の広域行政での取り組みのもと、年間 365 日、午後 8 時から翌朝 8 時までの夜間の診療を整備しています。また、平成 18 年度からは富田林病院において休日昼間の南河内南部小児救急診療体制を整備しています。このことにより、さらなる小児救急システムの充実となりました。

今後もこの救急医療体制利用の周知に努めていくとともに、効率的な 24 時間対応できる救急医療体制の充実について大阪府保健所に働きかけていきます。

4) 南河内圏域障害児（者）歯科診療事業

一般の歯科診療所では治療困難な障がいのある児（者）の歯科診療を確保し、口腔の健康の保持を通して生活の質の向上を図るため、平成 20 年 10 月より南河内圏域6歯科医師会の協力

のもと、南河内圏域（松原市・藤井寺市・羽曳野市・富田林市・河内長野市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村）9市町村が共同で、障害児（者）歯科診療事業を実施し、本市が事務局を努めています。今後も障がいのある児（者）が安心して歯科診療を受けられるよう、積極的に周知していきます。

3. 健康情報収集・提供の整備

市域の健康水準を良好に保持するためには、①市民の適切な生活習慣づくりの重要性の啓発②生活習慣の改善に有効な情報の提供など知識の普及③保健、医療、介護、福祉、教育の連携のもと、市域全体の健康水準を高めるため、健康実態を把握し、生涯を通じたトータル的な健康管理につなげられるよう、各関係機関に働きかけていきます。

そのため、保健、医療、介護、福祉、教育などの分野が連携を強化し、さまざまな健康情報を多様な機会を通じて収集・提供していきます。

4. 計画推進の基盤整備

1) 施設機能の強化

市立保健センターは本市の保健サービスの拠点として、生涯にわたって市民の健康づくりを推進するための中心的な役割を担っています。

今日の保健事業の量的・質的拡大に伴い、市立保健センターの施設規模の拡大のニーズに応え、母子保健事業及び予防接種事業を市立乳幼児健診センターで実施し、市民の便宜を図っています。今後、健康増進事業や介護予防事業など事業の拡充にむけ、市立保健センターの機能を強化していきます。

また、市民の生涯にわたる健康づくりを推進するため、身近な場所で運動できる環境づくりに努めていきます。

2) マンパワーの充実

平成 23 年度から妊婦面接を充実させるとともに、医療的ハイリスク児以外の未熟児の訪問指導が大阪府から市町村に移譲予定となっており、本市においても、よりきめ細かい母子保健事業を展開していく必要があります。また、介護保険制度施行に伴う介護予防事業については、高齢者にとって身近な地域で定期的に関催することが閉じこもり予防や転倒予防につながるため、高齢化の進展に伴う事業量の増大が考えられます。

そのため、今後の保健事業の拡大・充実も考え、本計画を実施していく中で、研修の充実など資質の向上に努めていきます。地域保健活動の基本である「みる」「つなぐ」「動かす」をその場の状況に応じて柔軟に実行し、市民が主体的に健康づくりに取り組むための支援を行えるよう人材育成にも努めていきます。

3) 市民自身による自主的な健康づくりの推進

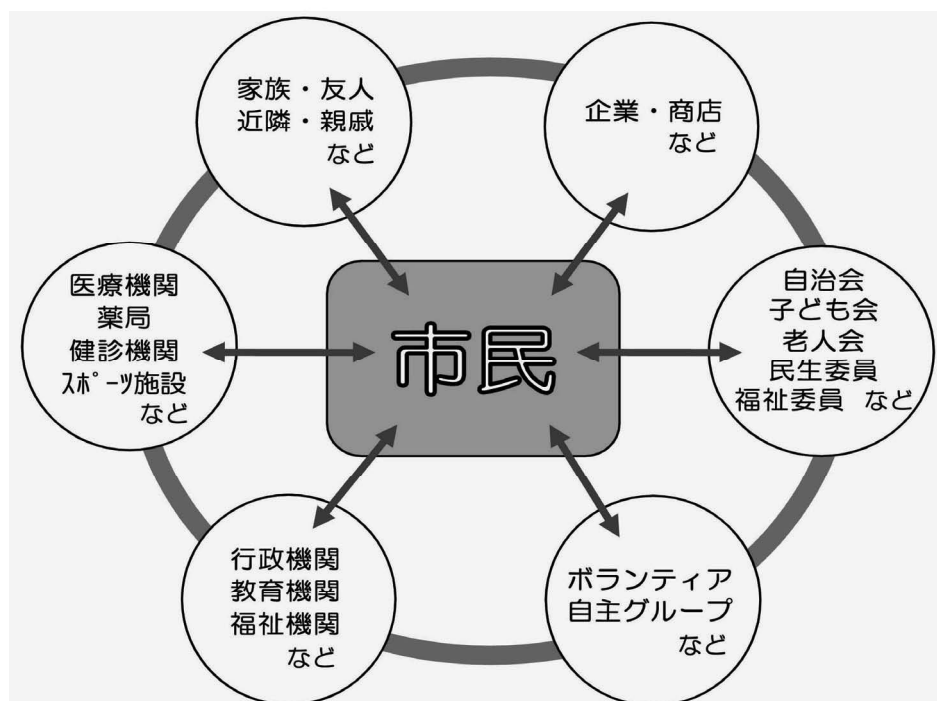
本計画に基づく地域保健医療活動は、①市民の自立自助による個人的な健康維持活動、②市民相互の協力や市民組織による協働的な活動、③公的サービスとして行われる専門的な保健・医療・介護・福祉サービスという4分野がそれぞれ有機的に連携することが重要です。

病気にならないための一次予防に重点をおいた健康づくりは、市民自らが自分の健康に関心を持ち、日常生活の中で継続的に取り組むことが基本となりますが、個人の取り組みだけでは限界があるため、個人の健康づくりを支援する市民相互の協力や市民組織による協働的な活動とそれを専門的な立場から支援する健康づくり支援が重要です。行政機関をはじめ、企業、医療機関、地域の諸団体、ボランティアなどそれぞれの役割を活かしつつ、相互に連携し、市民一人ひとりの主体的な健康づくりを総合的に推進します。

5. 進捗管理

本計画を効果的効率的に推進するため、河内長野市保健問題対策協議会で、計画の進捗状況を適宜報告し、進捗管理に努めていきます。また、必要に応じて庁内関係課とも協議、検討しながら計画を推進していきます。

【計画の推進体制】



行政機関をはじめ、企業、医療機関、地域の諸団体、ボランティアなどそれぞれの役割を活かしつつ、相互に連携し、市民一人ひとりの主体的な健康づくりを総合的に推進します。

第3章 市民の生活環境と健康状態

1. 社会経済的情勢

1) 人口の動き

(1) 総人口と人口構成

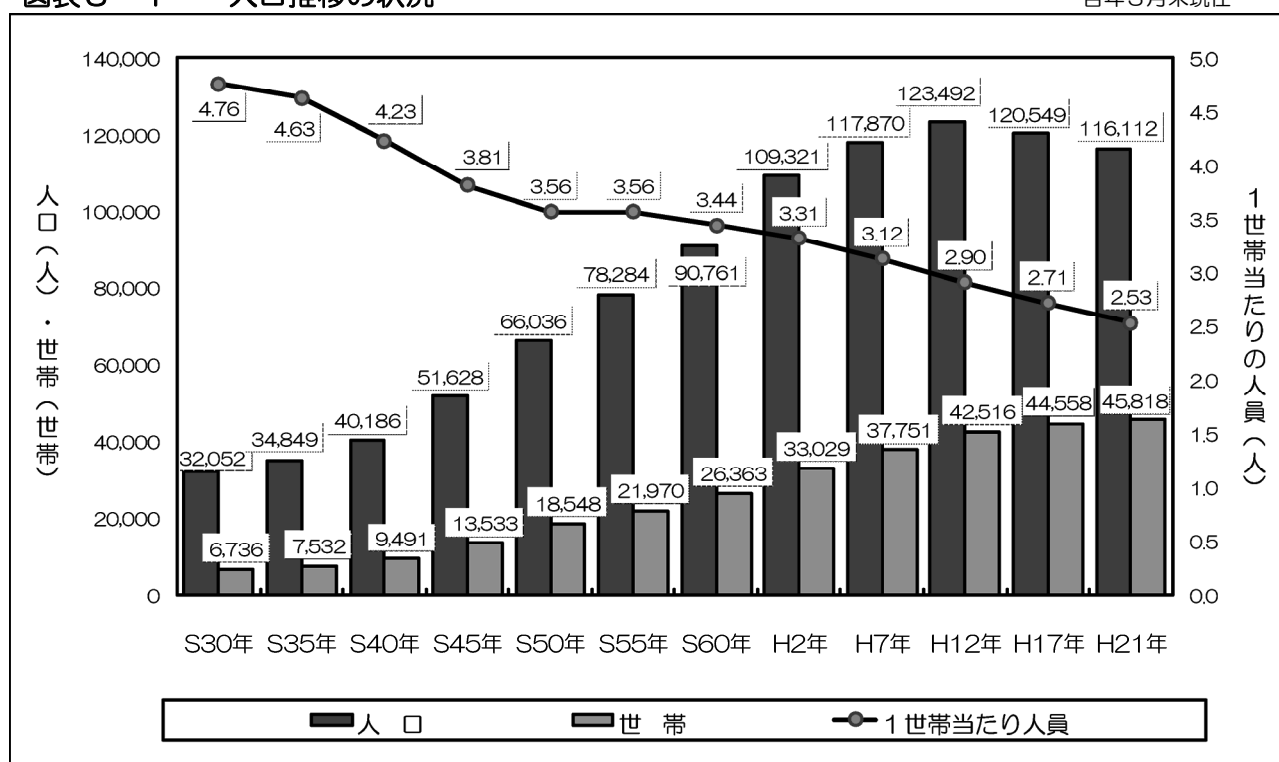
① 総人口と世帯数の推移

本市の人口は、昭和29年の市誕生から平成12年までは一貫して増加してきましたが、平成12年に123,492人となって以降、その後も緩やかな減少が続き、平成21年は116,112人となっています。

一方、世帯数は年々増加傾向にあり平成21年は45,818世帯となっています。1世帯あたりの人数は昭和30年では4.76人でしたが年々減少し、平成21年には2.53人となっています。

図表3-1 人口推移の状況

各年3月末現在



注：本表は住民基本台帳人口で昭和55年から外国人を含む。

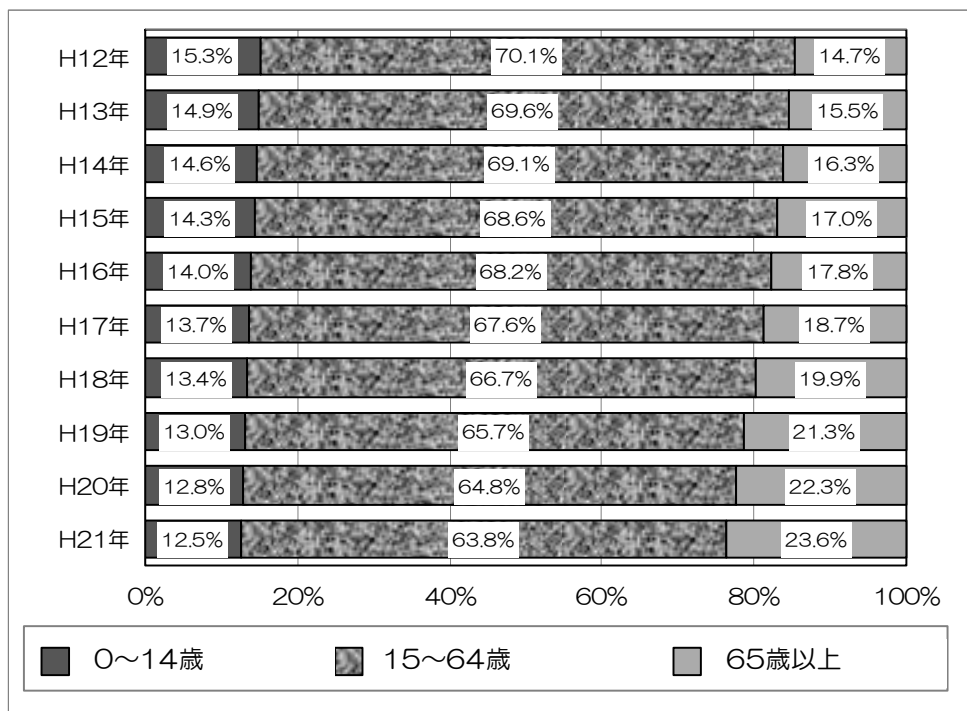
資料：河内長野市統計書

②年齢別人口構成

図3-2より、年少人口（0歳から14歳）、生産年齢人口（15歳から64歳）、老年人口（65歳以上）の年齢3区分で本市の年齢構成の推移を見ると、年少人口の減少と老年人口の増加が顕著です。年少人口は、平成12年15.3%から平成21年12.5%へ減少しています。生産年齢人口は、平成12年70.1%から平成21年63.8%へと減少しています。老年人口は、平成12年14.7%から平成21年23.6%へと増加し高齢化がすすんでいます。

図表3-2 年齢別人口割合の状況

各年9月末現在（平成21年のみ12月末現在）



資料：住民基本台帳および外国人登録

③地域別年齢別人口構成

平成21年の校区別人口は、図表3-3のようになっています。中学校区別では千代田校区の人口が28,899人と最も多く、最も少ない美加の台校区8,155人の約3倍となっています。

また、65歳以上人口割合は、西校区が31.2%と最も高く、次が加賀田校区28.8%となっています。

図表3-3 河内長野市校区別人口

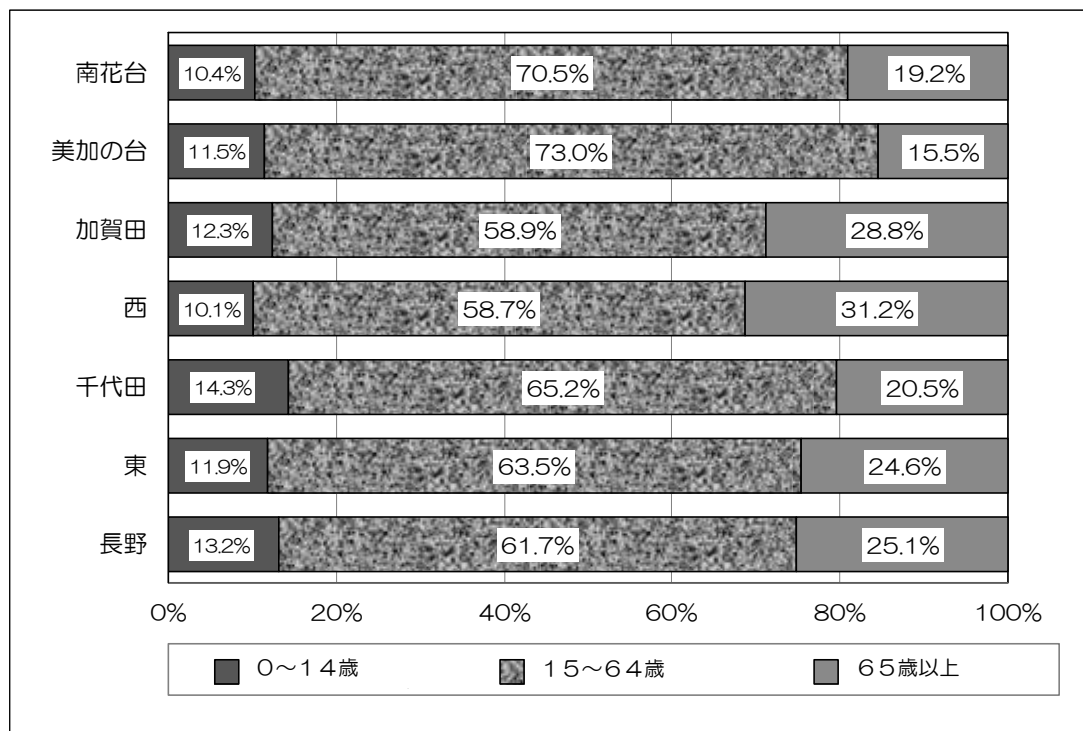
平成21年12月末現在 単位：人

中学校名	小学校名	年齢別人口			小学校計	中学校計
		0～14歳	15～64歳	65歳以上		
南花台中	南花台東小	983	6,689	1,819	9,491	9,491
	南花台西小					
美加の台中	美加の台小	936	5,953	1,266	8,155	8,155
加賀田中	加賀田小	1,116	5,094	2,029	8,239	13,318
	石仏小	524	2,751	1,804	5,079	
西中	天野小	481	2,906	1,647	5,034	9,794
	高向小	506	2,843	1,411	4,760	
千代田中	千代田小	2,480	10,526	3,351	16,357	28,899
	楠小	1,665	8,307	2,570	12,542	
東中	三日市小	1,810	7,084	2,420	11,314	21,638
	天見小	71	638	374	1,083	
	川上小	691	6,014	2,536	9,241	
長野中	長野小	2,122	10,054	3,600	15,776	24,287
	小山田小	1,076	4,930	2,505	8,511	
総数		14,461	73,789	27,332	115,582	115,582

資料：河内長野市統計書

図表3-4 校区別年齢別人口割合

平成21年12月末現在



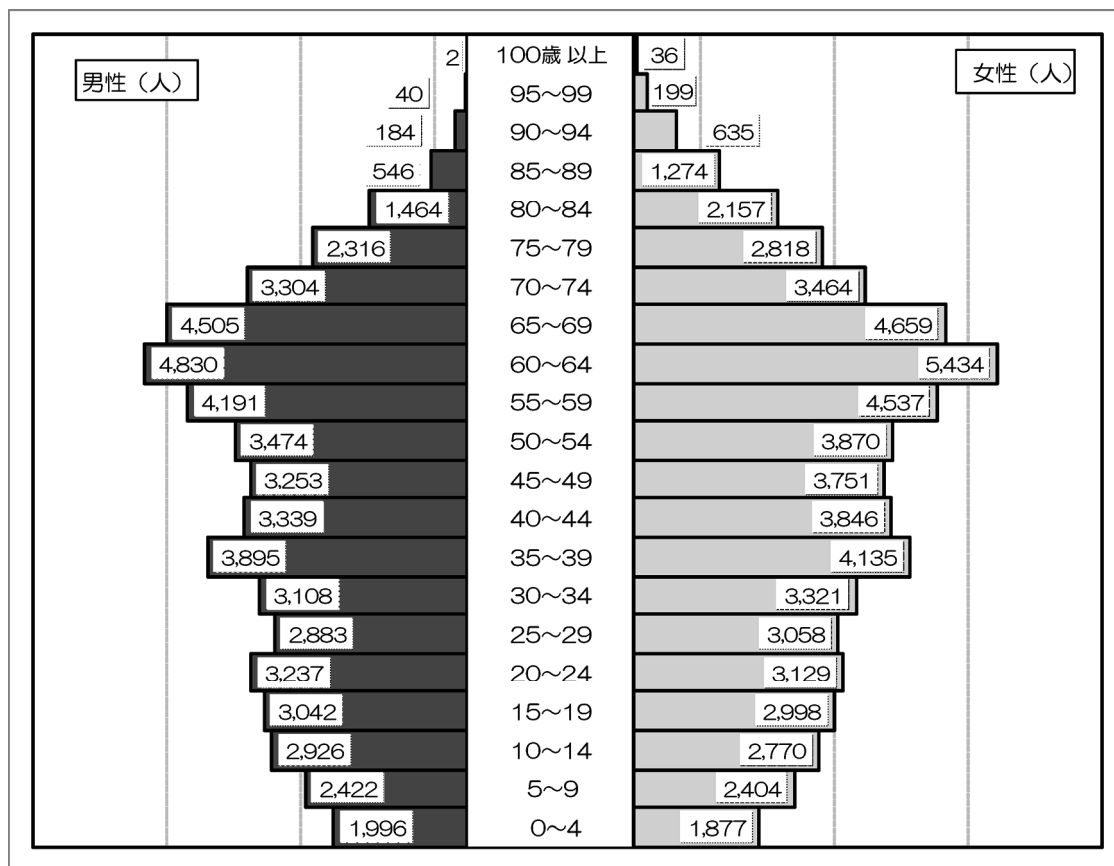
資料：河内長野市統計書

④人口ピラミッド（平成22年）

平成22年4月1日現在の人口ピラミッドは図表3-5のようになっています。

図表3-5 人口ピラミッド

H22年4月1日現在



資料：河内長野市 企画政策室

⑤外国人登録者数

外国人登録者数は、韓国が最も多く 249 人、次が中国 96 人、ブラジル 52 人となっています。

図表 3-6 外国人国籍別登録人口

H21 年 3 月末現在 単位:人

アジア					北アメリカ		南アメリカ		ヨーロッパ	その他	総数
韓国	中国	朝鮮	フィリピン	グルジア	米国	カナダ	ブラジル	ペルー	英国		
249	96	11	34	4	13	6	52	8	7	62	542

資料：河内長野市統計書

(2) 人口動態

①自然動態と社会動態

住民基本台帳から各年度の人口増加数をみると、平成 12 年度から減少しています。自然増加は平成 16 年度に死亡が出生を上回り、増加から減少に転じています。また、社会増加は平成 12 年度以降、転出が転入を上回り社会減を示しています。従って、近年の本市の人口増加の停滞は、出生数及び転入数の減少によるところが大きくなっています。

図表 3-7 人口動態の変化

単位：人

	人口 増加数	自然動態			社会動態		
		増加数	出生	死亡	増加数	転入	転出
H12 年度	-752	265	1,049	784	-1,017	4,120	5,137
H13 年度	-478	231	994	763	-709	4,163	4,872
H14 年度	-498	201	971	770	-699	4,199	4,898
H15 年度	-226	110	926	816	-336	4,067	4,403
H16 年度	-989	-35	809	844	-954	3,552	4,506
H17 年度	-1,124	-75	815	890	-1,049	3,183	4,232
H18 年度	-1,579	-172	746	918	-1,407	2,983	4,390
H19 年度	-880	-191	736	927	-689	3,372	4,061
H20 年度	-854	-221	750	971	-633	3,279	3,912

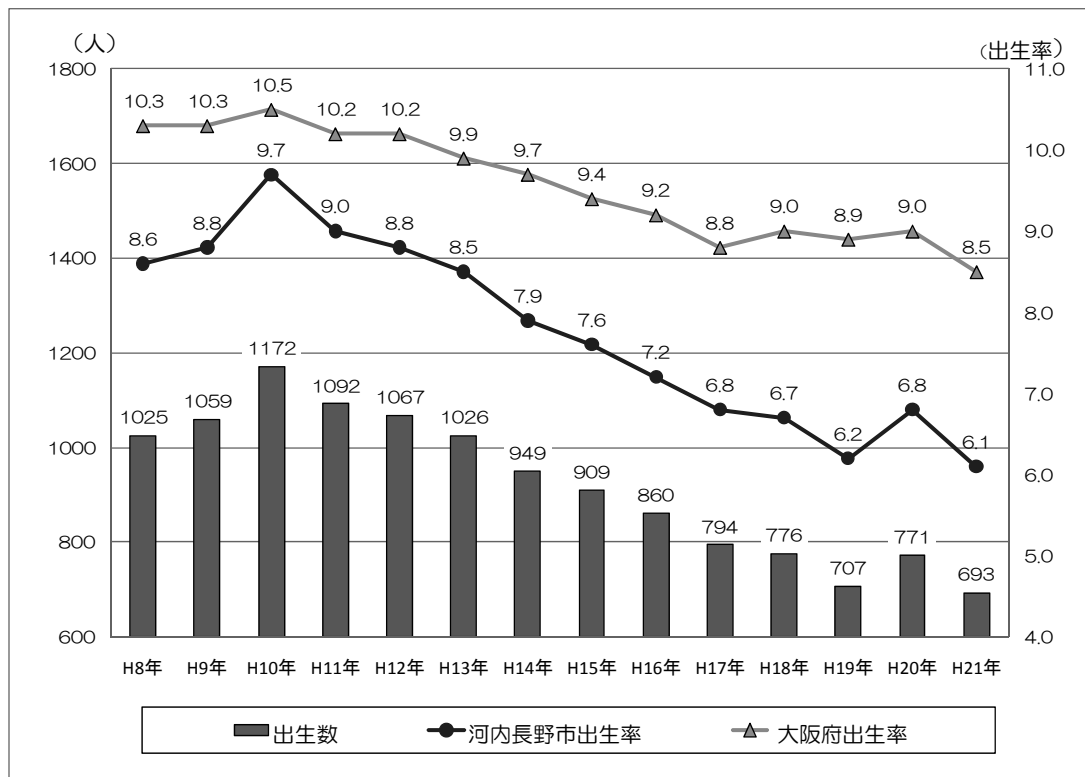
注：各年度末現在

資料：河内長野市統計書

②出生率（人口千対）

本市の出生数および出生率は、平成 20 年にやや増加しましたが、平成 10 年以降減少しています。平成 21 年の本市の出生率は、同年の大阪府の値と比較すると下回っています。

図表 3－8 出生数と出生率の推移

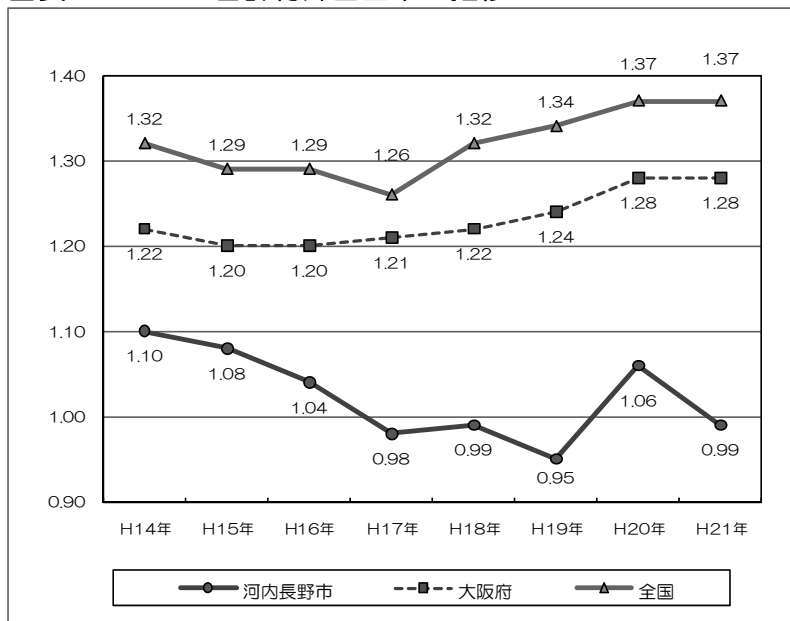


資料：大阪府HP人口動態統計

③合計特殊出生率

本市の合計特殊出生率は人口を維持するのに必要な水準である 2.08 を下回っています。また、その推移をみると、平成 20 年を除き、減少しており、大阪府、全国の値と比較すると各年において大阪府、全国の値を下回っています。

図表 3－9 合計特殊出生率の推移



資料：大阪府HP人口動態統計

④母親の年齢別出生数

本市の母親の年齢別出生数の推移をみると、平成 21 年では、母親の年齢が「25 歳から 29 歳」より、「30 歳から 34 歳」での出産の増加がみられます。また、本市の「35 歳から 39 歳」「40 歳以上」の高齢出産については、大阪府、全国の割合よりも上回っています。

図表 3-10

	H14 年	H15 年	H16 年	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年	H21 年		大阪府 (21 年)	全国 (21 年)
	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
19 歳以下	15	11	19	13	14	14	15	6	0.9	1.8	1.4
20-24 歳	79	105	88	86	81	68	78	75	10.8	11.0	11.4
25-29 歳	348	315	285	238	232	192	196	194	28.0	27.7	29.1
30-34 歳	374	345	332	331	310	290	288	247	35.6	37.7	37.1
35-39 歳	115	118	120	115	125	124	168	148	21.4	19.3	18.4
40 歳以上	18	15	16	11	14	19	26	23	3.3	2.6	2.6

資料：大阪府 HP 人口動態統計、厚生労働省平成 21 年人口動態統計

⑤出生体重別出生数

本市の出生体重別出生数の推移をみると「2500g 未満」の低出生体重児は 60～80 人で、大阪府・全国と比較すると、ほぼ同水準といえます。

図表 3-11

	H14 年	H15 年	H16 年	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年	H21 年		大阪府 (21 年)	全国 (21 年)
	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
2500g 未満	90	80	80	77	78	72	75	64	9.2	9.7	9.6
2500g 以上	859	829	780	717	698	634	696	629	90.8	90.3	90.4

注：体重不明者(H19 年)を除外

資料：大阪府 HP 人口動態統計、厚生労働省平成 21 年人口動態統計

⑥出生場所別出生数

本市の出生場所別出生数の推移をみると、「病院」、「診療所」が多く、大阪府・全国と比較しても同水準といえます。

図表 3-12

	H14 年	H15 年	H16 年	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年	H21 年		大阪府 (21 年)	全国 (21 年)
	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
病院	559	506	472	453	415	377	460	423	61.0	58.1	51.1
診療所	382	396	381	336	356	328	308	263	38.0	40.4	47.7
助産所	7	7	5	3	4	2	0	5	0.7	1.3	0.9
自宅	1	0	2	1	1	0	2	1	0.1	0.2	0.2
その他	0	0	0	1	0	0	1	1	0.1	0.0	0.0

資料：大阪府 HP 人口動態統計、厚生労働省平成 21 年人口動態統計

⑦単産・複産別出生数

本市の単産・複産別出生数の推移をみると「複産」は平成21年で全出生の2.3%であり、大阪府、全国とほぼ同じ割合になっています。

図表3-13

	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年		大阪府 (21年)	全国 (21年)
	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
単産	915	897	836	784	764	690	759	677	97.7	97.9	98.0
複産	34	12	24	10	12	17	12	16	2.3	2.1	2.0

資料：大阪府人口動態統計、厚生労働省平成21年人口動態統計

⑧出生順位別出生数

本市の出生順位別出生数の推移をみると、平成19年には「第2子」が「第1子」を上回っています。大阪府、全国と比較して第2子以降の割合が高くなっています。

図表3-14

	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年		大阪府 (21年)	全国 (21年)
	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
第1子	418	420	393	355	345	292	342	284	41.0	48.2	47.8
第2子	388	367	323	338	311	301	288	271	39.1	36.4	36.4
第3子以上	143	122	144	101	120	114	141	138	19.9	15.4	15.8

資料：大阪府人口動態統計、厚生労働省平成21年人口動態統計

2) 流入・流出口

通勤・通学で本市に「流入する人口」・本市から「流出する人口」をみると、昭和55年には市外からの流入者数の約2倍の流出口だったが、平成2年からは約3倍が就業・通学のため市外へ流出している状況にあります。

図表3-15

各年10月1日現在 単位：人

		昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
常住人口		78,572	91,313	108,767	117,082	121,005	117,239
昼間	人口	65,741	73,414	83,481	88,118	93,778	92,933
	指数	83.7	80.4	76.8	75.3	77.5	79.3
流入人口		9,550	10,648	12,831	13,388	12,942	13,003
流出人口		22,312	28,559	38,041	42,426	40,107	37,333

注：流入・流出人口は15歳以上人口。
55年の昼間人口は年齢不詳を含まない。

資料：国勢調査

3) 経済的情勢

(1) 就業構造

15 歳以上の市民の就業構造をみると、第 1 次産業は 1.3%、第 2 次産業は 22.3%、第 3 次産業は 73.7%となっています。大阪府、全国と比較すると、第 2 次産業が少なく、第 3 次産業が多くなっています。

産業大分類別にみると、第 3 次産業のサービス業（32.6%）が最も多く、次いで卸売・小売業、飲食店（23.7%）、そして第 2 次産業の製造業（15.6%）の順となっています。

図表3－16 産業大分類別 15 歳以上就業者数

H17 年度

	河内長野市		大阪府	全国
	総数（人）	%	%	%
総数	51,081	100.0	100.0	100.0
第1次産業	645	1.3	0.6	4.8
農業	618	1.2	0.5	4.4
林業	25	0.0	0.0	0.1
漁業	2	0.0	0.0	0.4
第2次産業	11,413	22.3	26.2	26.1
鉱業	4	0.0	0.0	0.0
建設業	3,419	6.7	8.2	8.8
製造業	7,990	15.6	17.9	17.3
第3次産業	37,658	73.7	70.7	67.2
電気・ガス・熱供給・水道業	448	0.9	0.4	0.5
運輸・通信業	3,377	6.6	8.6	7.7
卸売・小売業、飲食店	12,129	23.7	20.1	17.9
金融・保険業	1,677	3.3	2.6	2.5
不動産業	981	1.9	2.2	1.4
サービス業	16,658	32.6	34.4	33.8
公務	2,388	4.7	2.4	3.4
その他	1,365	2.7	2.5	1.9

注：構成比は小数点第二位で四捨五入のため、各産業の構成比とその内訳の構成比の合計は必ずしも一致しない。

資料：河内長野市統計書

(2) 所得水準

所得水準は、健康の良否に関与する必要不可欠な条件であります。

「個人所得指標」により本市市民の所得水準をみると、周辺各市の中では高く、大阪府平均を 100 とした場合 104.3、全国平均を 100 とした場合 100.8 と大阪府平均、全国平均をともに上回ります。

図表3－17 所得指標（平成 22 年版）

	所得指標	
	大阪府平均＝100	全国平均＝100
大阪府	100.0	96.6
河内長野市	104.3	100.8
堺市	97.0	93.7
富田林市	97.7	94.4
和泉市	93.6	90.4
羽曳野市	91.6	88.5
大阪狭山市	112.9	109.1
千早赤阪村	89.6	86.5

資料：個人所得指標（日本マーケティング教育センター）

注：所得指標は、人口 1 人当たり所得について大阪府平均及び全国平均をそれぞれ 100 とした場合の各市町村における指数

(3) 住宅の状況

本市の住宅状況をみると、住宅に住む一般世帯に占める「持ち家」の比率は 78.7%であり、大阪府 54.3%、全国 62.1%と比較して高くなっています。一方、「民営の借家」、「公営・公団・公社の借家」、「給与住宅」、「間借り」の比率の合計は 21.3%であり、大阪府 45.8%、全国 37.9%を大きく下回っており、本市は持ち家率が高くなっています。

図表 3—18 住宅の所有の関係別一般世帯数（平成 17 年）（10 月 1 日現在）

		河内長野市		大阪府	全国
		世帯数	%	%	%
総 数		40,768	100.0	100.0	100.0
住 宅	持 ち 家	32,104	78.7	54.9	62.1
	借 家	公営公団公社の借家		10.9	6.6
		民営の借家		31.6	27.0
	給与住宅	366	0.9	2.3	3.2
	間 借 り	394	1.0	1.0	1.1

注：構成比は小数点第 4 位で四捨五入のため、主世帯構成比とその内訳の構成比の合計は必ずしも一致しない。

資料：河内長野市統計書



2. 市民の健康状態

1) 平均寿命、健康寿命、早世・障がい

(1) 平均寿命と健康寿命

平均寿命はその地域の市民の生存中の健康状態を表したものであり、地域の健康水準を表す総合的健康指標です。平成 21 年の本市の平均寿命は男性 79.4 歳、女性 85.6 歳となっています。

健康寿命とは平均寿命から日常生活を大きく損ねる病気やけがの期間を差し引いたもので、健やかに生活できる寿命です。本市の健康寿命は男性 76.4 歳、女性 78.6 歳となっています。

図表 3—19 平均寿命と健康寿命

	男性	女性
平均寿命(0歳平均余命)	79.4 歳	85.6 歳
健康寿命	76.4 歳	78.6 歳
65歳平均余命	18.3 歳	22.7 歳
65歳健康余命	15.3 歳	15.7 歳
障害期間	3.0 年	7.0 年

切明義孝氏が提唱している介護保険制度を利用した健康寿命計算マニュアルの公式をもとに次の資料をもとに算出した

- ・ H19 年の性別・5 歳階級別人口
- ・ H17～21 年の性別・5 歳階級別死亡数
- ・ H21 年 11 月現在の介護保険の 65 歳以上の性別・5 歳階級別被保険者数
- ・ H21 年 11 月現在の介護保険の 65 歳以上の性別・5 歳階級別要支援要介護者数

注：健康寿命（0歳平均余命－障害期間）

障害期間（65歳平均余命－66歳健康余命）

(2) 早世・障がい

①早世（区間死亡確率）

早世とは「若くして死亡する」ということで、本計画では 65 歳未満の区間死亡確率を早世指標として用いました。区間死亡確率とは、生命表理論に基づき、ある年齢区間に死亡する確率を表したものです。本市の 65 歳未満区間死亡確率（65 歳までに死亡する確率）を平成 9 年と平成 19 年で比較すると、男女ともに減少し、全国値を下回っています。

図表 3—20 65 歳未満区間死亡確率の推移

単位：％

	河内長野市		全国	
	男性	女性	男性	女性
H9 年	13.7	6.8	15.7	7.8
H19 年	12.0	5.3	13.6	6.7

※ 本市の H9 年の区間死亡確率を作成するにあたり、次の資料を用いた

- ① H9 年～H19 年の性別・5 歳階級別死亡数
- ② H9 年住民基本台帳人口（3 月末日現在）
- ③ H19 年簡易生命表

②障がい（障がい率）

障がいとは「何らかの疾病・障がいのため日常生活に支障ある人」ということで、以下の手法で障がい率を算出しました。本市の平成 21 年における障がい率は 8.6％です。

図表 3—21 日常生活に支障のある人の割合（平成 21 年）

	(A) 総人口 (人)	(B) 日常生活に 支障のある人 (人)	障がい率 (B÷A)×100 (%)
全体	116,112	9,935	8.6

※ (B) 日常生活に支障のある人は次の①～③を合計して算出

- ① H21 年 5 歳階級別要介護者数（3 月末日現在）
- ② H21 年 5 歳階級別身体障がい者手帳保持者数（3 月末日現在）
- ③ H21 年 5 歳階級別精神保健福祉手帳所持者数（3 月末日現在）

2) 死亡統計からみた健康水準

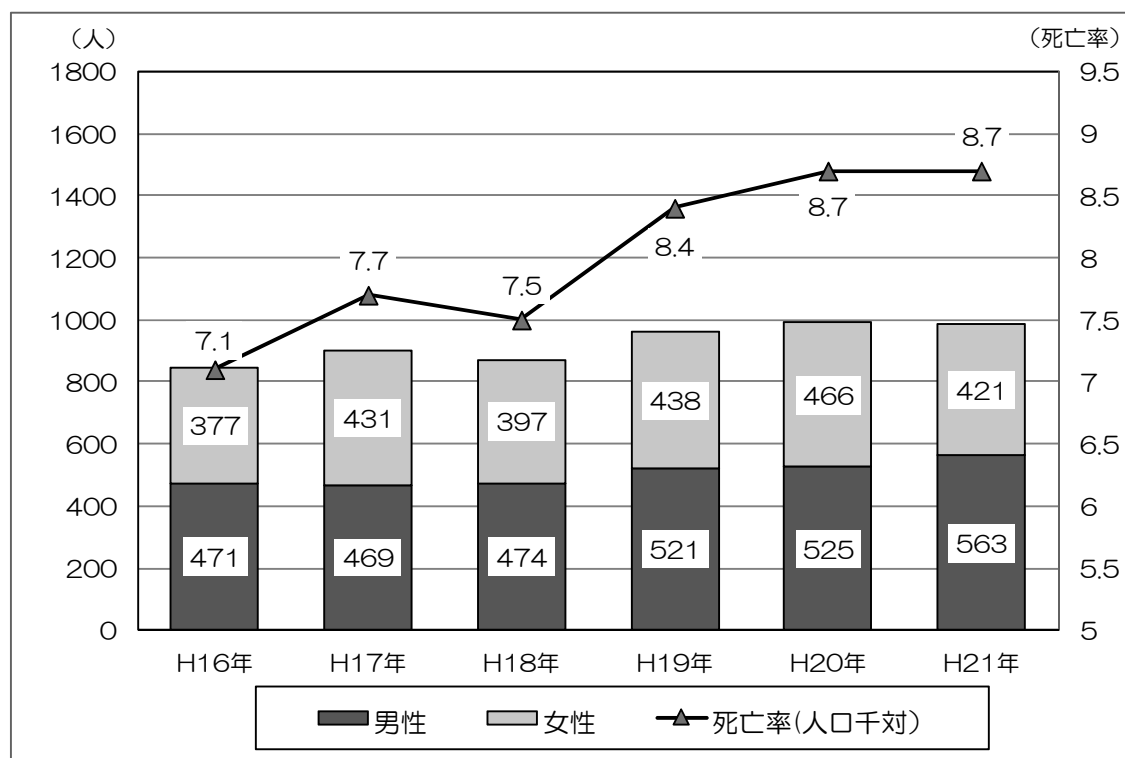
(1) 総死亡数の推移・上位死因別死亡数の推移

本市の総死亡数の推移をみると、「男性」、「女性」とも人口高齢化に伴い、上昇がみられます。

上位死因別死亡数の悪性新生物による死亡数の推移は、性別でみると「女性」より「男性」の値が上回っています。

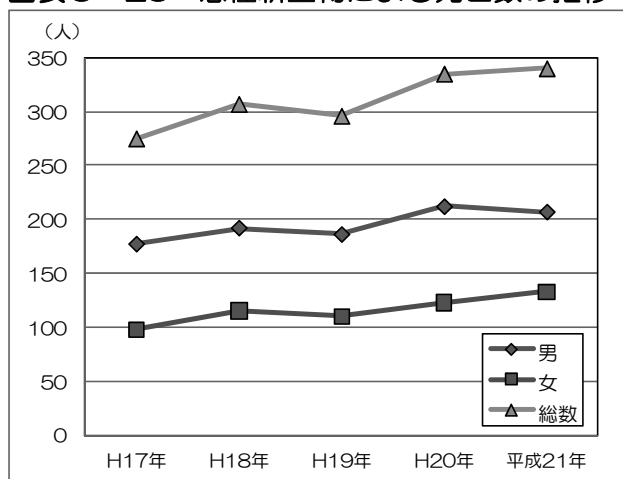
心疾患による死亡数は平成 19 年以降「男性」は上昇していますが、「女性」は減少しています。肺炎による死亡数の推移は、性別でみると「男性」、「女性」の値の差は少ないですが、平成 19 年以降は「男性」の値が上回っています。脳血管疾患による死亡数の推移は、性別でみると平成 20 年までは「男性」より「女性」の値が上回っていましたが、平成 21 年には「男性」の値が上回っています。

図表3-22 総死亡数と死亡率の推移



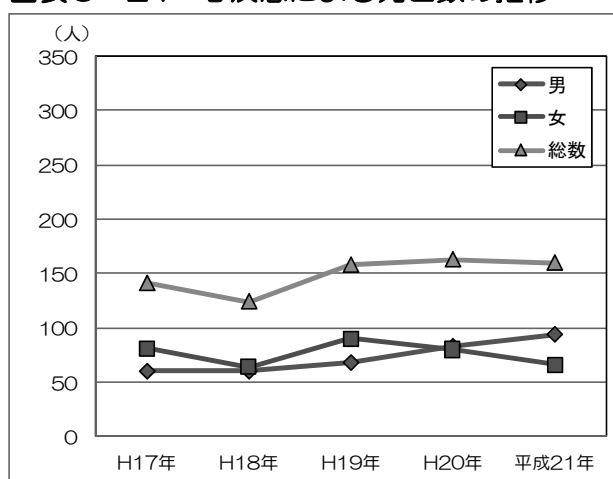
資料：河内長野市統計書

図表3-23 悪性新生物による死亡数の推移



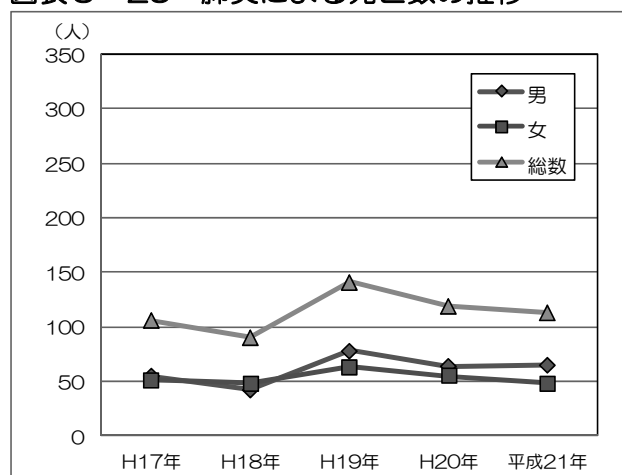
資料：大阪府 HP 人口動態統計

図表3-24 心疾患による死亡数の推移



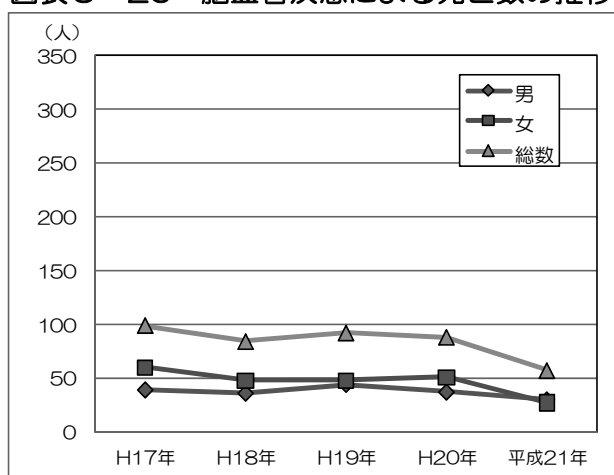
資料：大阪府 HP 人口動態統計

図表 3-25 肺炎による死亡数の推移



資料：大阪府 HP 人口動態統計

図表 3-26 脳血管疾患による死亡数の推移



資料：大阪府 HP 人口動態統計

(2) 主要死因別死亡数平均と死亡総数に占める割合

本市の主要死因別死亡数の平均と死亡総数に占める割合をみると、第 1 位「悪性新生物」、第 2 位「心疾患」、第 3 位「肺炎」、第 4 位「脳血管疾患」の順となっています。また、「悪性新生物」の中では、男性は第 1 位「気管、気管支及び肺」、第 2 位「胃」、第 3 位「肝及び肝内胆管」、女性は第 1 位「胃」、第 2 位「気管、気管支及び肺」、第 3 位「結腸」の順位となっています。

図表 3-27 主要死因別死亡数平均と死亡総数に占める割合（平成 17～21 年平均）

	総数		男性		女性	
	死亡数 平均(人)	死亡総数に 占める割合 (%)	死亡数 平均(人)	死亡総数に 占める割合 (%)	死亡数 平均(人)	死亡総数に 占める割合 (%)
全死因	941.0	100.0	510.4	100.0	430.6	100.0
結核	2.8	0.3	1.6	0.3	1.2	0.3
悪性新生物	310.6	33.0	194.8	38.2	115.8	26.9
食道	10.0	1.1	9.0	1.8	1.0	0.2
胃	47.2	5.0	30.8	6.0	16.4	3.8
結腸	21.0	2.2	11.0	2.2	10.0	2.3
直腸のS状結腸移行部及び直腸	11.8	1.3	7.6	1.5	4.2	1.0
肝及び肝内胆管	34.0	3.6	24.6	4.8	9.4	2.2
気管、気管支及び肺	64.0	6.8	48.2	9.4	15.8	3.7
乳房	9.2	-	-	-	9.2	2.1
子宮	5.4	-	-	-	5.4	1.3
糖尿病	8.6	0.9	3.8	0.7	4.8	1.1
高血圧性疾患	5.4	0.6	1.0	0.2	4.4	1.0
心疾患（高血圧性を除く）	149.2	15.9	73.0	14.3	76.2	17.7
急性心筋梗塞	33.8	3.6	21.6	4.2	12.2	2.8
その他の虚血性心疾患	66.2	7.0	33.6	6.6	32.6	7.6
脳血管疾患	84.0	8.9	37.2	7.3	46.8	10.9
くも膜下出血	5.6	0.6	1.6	0.3	4.0	0.9
脳内出血	19.2	2.0	10.6	2.1	8.6	2.0
脳梗塞	55.6	5.9	23.4	4.6	32.2	7.5
肺炎	113.8	12.1	60.8	11.9	53.0	12.3
肝疾患	12.0	1.3	7.6	1.5	4.4	1.0
腎不全	19.4	2.1	10.2	2.0	9.2	2.1
不慮の事故	27.2	2.9	16.8	3.3	10.4	2.4
自殺	28.6	3.0	20.0	3.9	8.6	2.0

資料：大阪府 HP 人口動態統計

(3) 年齢調整死亡率

平成 21 年度までの年齢調整死亡率では、「悪性新生物」が最も高く、次いで「心疾患」、「肺炎」、「腎不全」、「脳血管疾患」となっています。女性の順位は同様ですが、男性の順位を見ると、「悪性新生物」に次いで「肺炎」が高く、「心疾患」、「脳血管疾患」、「腎不全」と続き、順位が異なっています。平成 18 年度からの年次推移をみると、胃がんの死亡率が女性において年々減少していること、脳血管疾患の死亡率が男性において年々減少していることがわかります。

図表 3-28 年齢調整死亡率

		悪性新生物	再掲						心疾患	脳血管疾患	肺炎	腎不全
			胃	結腸	肝及び肝内胆管	気管・気管支及び肺	乳房	子宮				
H18 年	計	84.69	21.07	7.80	18.10	25.15	5.60	3.72	60.83	23.43	59.90	7.64
	男性	115.42	25.46	11.68	28.81	45.64	—	—	75.23	26.94	86.32	7.38
	女性	63.65	17.47	5.41	9.08	11.07	5.60	3.72	48.65	18.10	40.33	8.54
H19 年	計	91.84	19.73	14.39	17.74	25.01	1.30	4.53	64.91	19.04	71.40	8.72
	男性	143.98	26.02	18.08	22.89	52.97	—	—	80.44	24.59	120.93	15.67
	女性	51.06	14.37	11.38	13.42	4.01	1.30	4.53	51.49	15.01	43.79	4.46
H20 年	計	100.96	17.07	8.56	18.36	35.93	5.48	5.94	68.95	20.44	58.93	10.35
	男性	151.16	28.47	10.97	26.96	61.36	—	—	93.43	19.59	95.45	12.06
	女性	61.21	7.66	6.45	11.66	16.01	5.48	5.94	47.61	21.31	35.81	8.31
H21 年	計	86.12	13.01	10.31	18.72	20.35	7.42	2.77	52.34	9.73	48.66	9.84
	男性	127.12	20.92	16.67	26.27	33.82	—	—	74.63	14.73	84.24	10.91
	女性	54.45	6.77	4.59	12.97	10.71	7.42	2.77	35.83	5.85	28.03	9.30

※「乳房」「子宮」については女性のみとなります

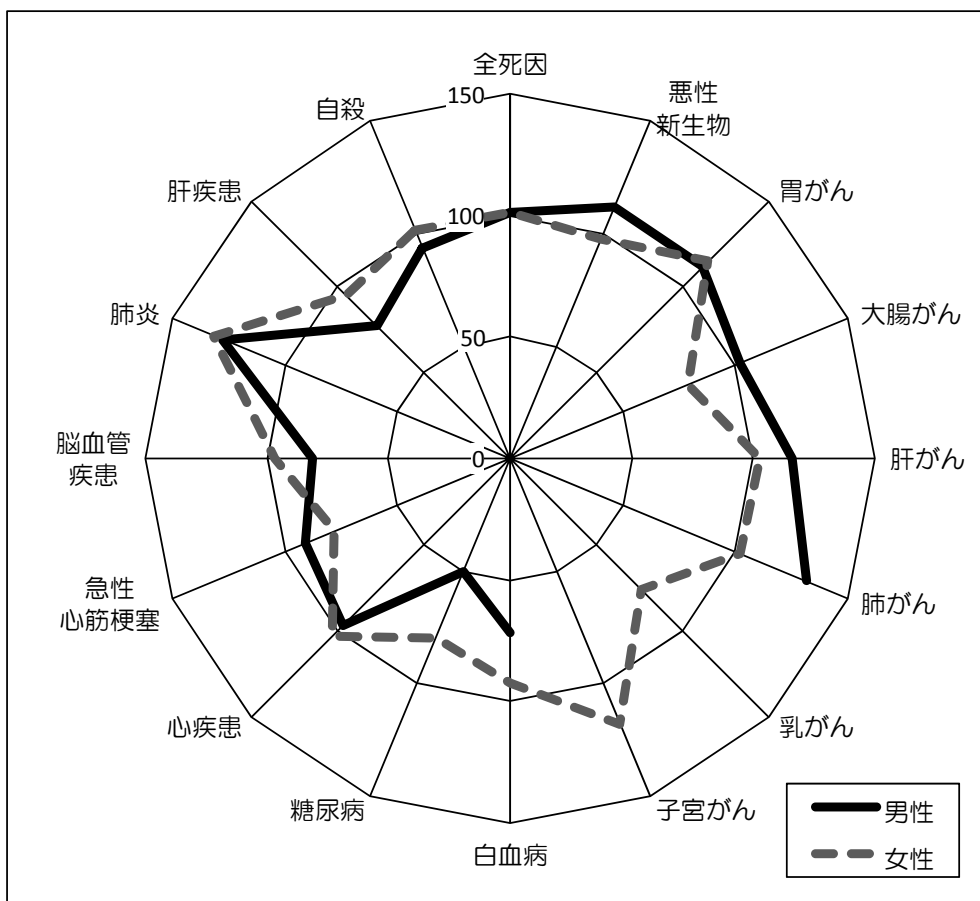
資料：河内長野市健康推進課死亡票より算出

(4) 標準化死亡比

全死因の平成 16 年から平成 20 年までの平均の標準化死亡比の性別をみると、男性は「肺がん」、女性は「肺炎」が最も高くなっています。

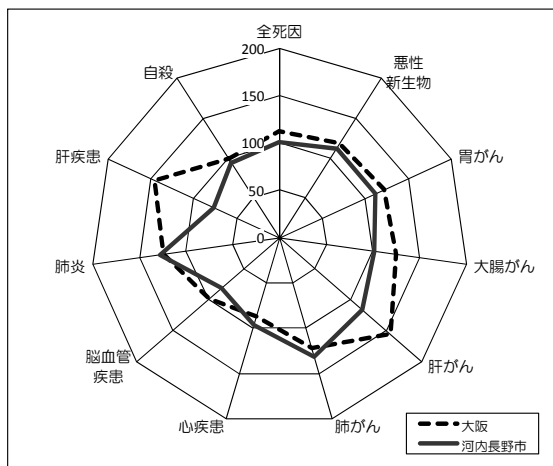
性別で死因別にみると、男性は「肺炎」、「肺がん」、「肝がん」、「胃がん」が 100 以上となっています。また、「肺炎」、「肺がん」、「心疾患」の数値が大阪府より上回っています。女性は「肺炎」、「胃がん」、「心疾患」、「肺がん」、「肝がん」、「自殺」が 100 以上となっています。また、「肺炎」、「心疾患」、「自殺」の数値が大阪府より上回っています。

図表 3-29 標準化死亡比 (H16~20 年)



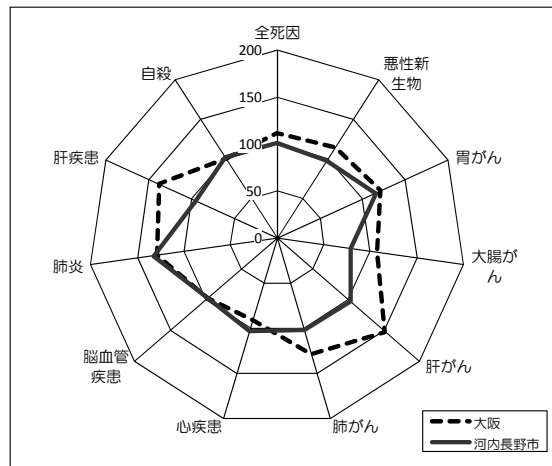
資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向

図表 3-30 標準化死亡比・男性 (H16~20 年)



資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向

図表 3-31 標準化死亡比・女性 (H16~20 年)



資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向

(5) 新生児死亡、乳児死亡、周産期死亡、死産率

新生児死亡、乳児死亡、周産期死亡、死産は、母子保健の水準を示す指標であるとともに、地域の衛生状態や経済、教育等を含めた社会全体の健康水準を表す指標です。

本市の新生児死亡数（生後 4 週間未満の死亡）は平成 21 年で 1、同年の乳児死亡数（生後 1 年未満の死亡）も 1 となっています。また、平成 16 年から平成 21 年までの 6 年間の新生児死亡数は 4（新生児死亡率 0.8 出生千対）、乳児死亡数は 10（乳児死亡率 2.1 出生千対）で、大阪府、全国の値と比較すると、やや下回っています。

また、周産期死亡数（妊娠 22 週以降の死産と生後 1 週未満の早期新生児死亡の合計）は平成 21 年で 5（周産期死亡率 7.2）となっています。平成 16 年から平成 21 年までの 6 年間の周産期死亡数は 18（周産期死亡率 3.9）、妊娠満 22 週以後の死産数 16（妊娠満 22 週以後の死産率 3.4）、早期新生児死亡数 2（早期新生児死亡率 0.4）で大阪府、全国と同様の値になっています。

死産（妊娠満 12 週以降の死児の出産）は自然死産と人工死産に分けられます。平成 21 年の死産数は、16（死産率 22.6）です。また、同年の自然死産率は 12.7、人工死産率は 9.9 です。平成 16 年から平成 21 年までの 6 年間の死産数は 114（死産率 24.1）、自然死産数 51（自然死産率 10.9）、人工死産数 63（人工死産率 13.5）で大阪府、全国と同様の値になっています。

図表 3-32 新生児死亡（生後 4 週未満）、乳児死亡の年次推移

			H16 年	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年	H21 年
新生児死亡	実数(人)	河内長野市	2	0	0	1	0	1
	出生 千対率	河内長野市	2.3	0.0	0.0	1.4	0.0	1.4
		大阪府	1.7	1.4	1.2	1.1	1.4	1.1
		全国	1.5	1.4	1.3	1.2	1.2	1.2
乳児死亡	実数(人)	河内長野市	4	1	1	3	0	1
	出生 千対率	河内長野市	4.7	1.3	1.3	4.2	0.0	1.4
		大阪府	3.1	2.6	2.6	2.3	2.8	2.3
		全国	2.8	2.8	2.6	2.4	2.6	2.4

注：死亡数・死亡率は各年 1 月 1 日～1 2 月 31 日の 1 年間の値

資料：大阪府人口動態統計

図表 3-33 周産期死亡、死産の年次推移

				H16 年	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年	H21 年
周産期死亡	総数	実数(人)	河内長野市	4	3	0	5	1	5
		出生 千対率	河内長野市	4.6	3.8	0.0	7.0	1.3	7.2
			大阪府	4.8	4.5	3.9	4.2	4.0	3.9
			全国	5.0	4.8	4.2	4.5	4.3	4.2
	妊娠満 22 週以後の死産	実数(人)	河内長野市	3	3	0	5	1	4
		出生 千対率	河内長野市	3.5	3.8	0.0	7.0	1.3	5.7
			大阪府	3.5	3.4	3.2	3.4	3.1	3.2
			全国	3.9	3.8	3.4	3.5	3.4	3.4
	早期新生児死亡	実数(人)	河内長野市	1	0	0	0	0	1
		出生 千対率	河内長野市	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
			大阪府	1.3	1.0	0.6	0.9	0.9	0.6
			全国	1.1	1.0	0.8	1.0	0.9	0.8
死産	総数	実数(人)	河内長野市	20	21	17	27	13	16
		出生 千対率	河内長野市	22.7	25.8	21.4	36.8	16.6	22.6
			大阪府	30.0	28.3	24.5	26.7	23.4	24.5
			全国	30.0	29.1	24.6	26.2	25.2	24.6
	自然死産	実数(人)	河内長野市	7	10	7	14	4	9
		出生 千対率	河内長野市	8.0	12.3	8.8	19.1	5.1	12.7
			大阪府	11.5	10.8	10.5	10.9	9.7	10.5
			全国	12.5	12.3	11.1	11.7	11.3	11.1
	人工死産	実数(人)	河内長野市	13	11	10	13	9	7
		出生 千対率	河内長野市	14.8	13.5	12.6	17.7	11.5	9.9
			大阪府	18.5	17.5	14.0	15.8	13.7	14.0
			全国	17.5	16.7	13.5	14.5	13.9	13.5

注：死亡（死産）数・死亡（死産）率は各年 1 月 1 日～1 2 月 31 日の 1 年間の値

資料：大阪府人口動態統計

3) 国民健康保険被保険者の疾病構造

①国民健康保険加入状況

市町村国保レセプト（市町村の国民健康保険による診療報酬明細書）は、地域の疾病構造を簡易に把握する基礎資料として用いられます。平成 20 年度末現在、本市の国保加入率は 27.1%です。

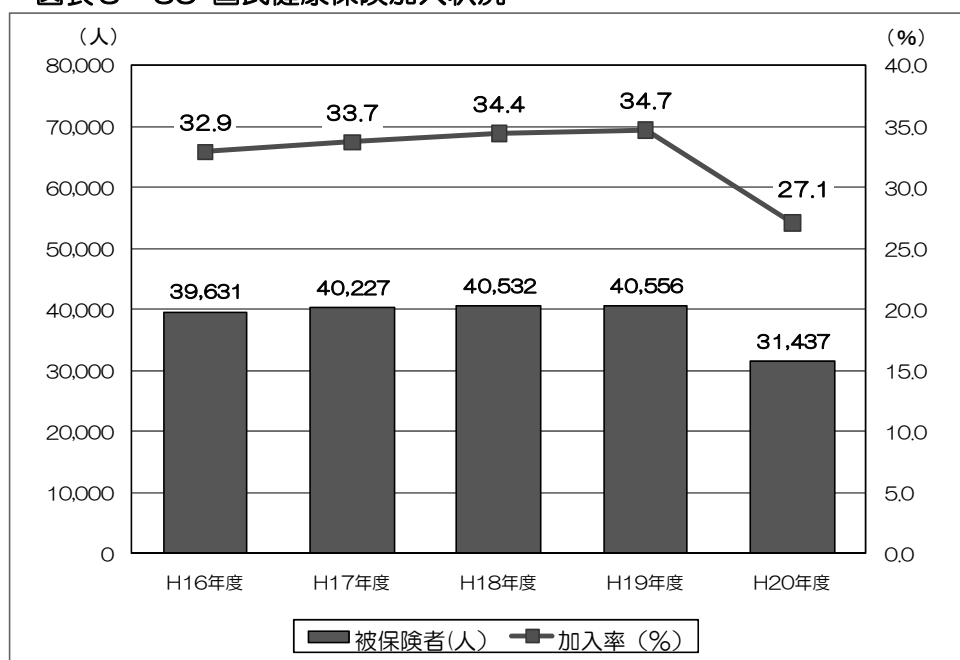
図表 3—34 国民健康保険加入状況

各年度末現在

	世 帯	人 口(人)	被保険者		加入率(%)	
			加入世帯	加入者(人)	加入世帯	加入者
H16 年度	44,558	120,549	20,540	39,631	46.1	32.9
H17 年度	44,783	119,425	21,120	40,227	47.2	33.7
H18 年度	45,007	117,846	21,598	40,532	48.0	34.4
H19 年度	45,396	116,966	21,914	40,556	48.3	34.7
H20 年度	45,818	116,112	17,278	31,437	37.7	27.1

資料：河内長野市統計書

図表 3—35 国民健康保険加入状況



資料：河内長野市統計書

②レセプトから見た疾病構造と受診状況

図表 3-36より、疾病大分類別 100 分率（1 ヶ月間の受療者の中での疾病別受療割合）をみると、入院では平成 21 年において「新生物」（18.9%）が最も高く、次いで「精神障がい」（16.9%）、「循環器系」（16.0%）の順となっています。外来では、平成 21 年において「循環器系」（20.6%）が最も高く、次いで「内分泌」（12.6%）、「眼」（12.4%）の順となっています。

平成 13 年と平成 21 年を比較すると、入院で上昇しているのは、「精神障がい」、「新生物」であり、減少しているのは「循環器系」、「内分泌」です。また、外来で上昇しているのは「内分泌」、「精神障がい」であり、減少しているのは「循環器系」、「消化器系」です。

図表3—36 疾病大分類別件数及び件数 100 分率

平成 21 年 6 月審査分

	入院				外来			
	河内長野市		大阪府		河内長野市		大阪府	
	件	%	件	%	件	%	件	%
感染症	16	2.8	1,294	2.7	780	3.4	72,953	3.9
新生物	107	18.9	8,566	18.0	995	4.4	71,509	3.9
血液	0	0.0	379	0.8	84	0.4	6,817	0.4
内分泌	26	4.6	1,948	4.1	2,881	12.6	207,305	11.2
精神障害	96	16.9	7,671	16.2	963	4.2	83,395	4.5
神経系	26	4.6	2,363	5.0	542	2.4	40,647	2.2
眼	14	2.5	1,326	2.8	2,819	12.4	183,468	9.9
耳	5	0.9	282	0.6	305	1.3	33,731	1.8
循環器系	91	16.0	6,826	14.4	4,698	20.6	357,552	19.3
呼吸器系	32	5.6	2,436	5.1	2,212	9.7	221,381	12.0
消化器系	55	9.7	4,271	9.0	1,583	6.9	125,366	6.8
皮膚	6	1.1	371	0.8	1,068	4.7	106,298	5.7
筋骨格系	36	6.3	2,337	4.9	1,973	8.7	183,446	9.9
尿路性器系	12	2.1	1,918	4.0	870	3.8	65,882	3.6
妊娠分娩	6	1.1	1,036	2.2	28	0.1	3,792	0.2
周産期	4	0.7	597	1.3	8	0.0	1,083	0.1
先天奇形	0	0.0	245	0.5	43	0.2	4,174	0.2
分類不明	5	0.9	778	1.6	324	1.4	31,626	1.7
損傷・中毒	30	5.3	2,844	6.0	604	2.7	51,816	2.8
計	567	100.0	47,488	100.0	22,780	100.0	1,852,241	100.0

資料：大阪府国民健康保険疾病統計

図表3-37 疾病大分類別件数及び件数 100 分率

各年 6 月審査分

	入院				外来			
	平成 13 年		平成 21 年		平成 13 年		平成 21 年	
	件	%	件	%	件	%	件	%
感染症	36	3.5	16	2.8	993	3.5	780	3.4
新生物	148	14.2	107	18.9	1,078	3.8	995	4.4
血液	6	0.6	0	0.0	104	0.4	84	0.4
内分泌	75	7.2	26	4.6	2,403	8.4	2,881	12.6
精神障害	109	10.5	96	16.9	934	3.3	963	4.2
神経系	36	3.5	26	4.6	372	1.3	542	2.4
眼	33	3.2	14	2.5	3,666	12.9	2,819	12.4
耳	0	0.0	5	0.9	332	1.2	305	1.3
循環器系	280	26.8	91	16.0	6,549	23.0	4,698	20.6
呼吸器系	47	4.5	32	5.6	2,680	9.4	2,212	9.7
消化器系	70	6.7	55	9.7	2,658	9.3	1,583	6.9
皮膚	8	0.8	6	1.1	1,235	4.3	1,068	4.7
筋骨格系	56	5.4	36	6.3	2,824	9.9	1,973	8.7
尿路性器系	42	4.0	12	2.1	1,282	4.5	870	3.8
妊娠分娩	15	1.4	6	1.1	28	0.1	28	0.1
周産期	4	0.4	4	0.7	4	0.0	8	0.0
先天奇形	1	0.1	0	0.0	41	0.1	43	0.2
分類不明	3	0.3	5	0.9	533	1.9	324	1.4
損傷・中毒	74	7.1	30	5.3	750	2.6	604	2.7
計	1,043	100.0	567	100.0	28,466	100.0	22,780	100.0

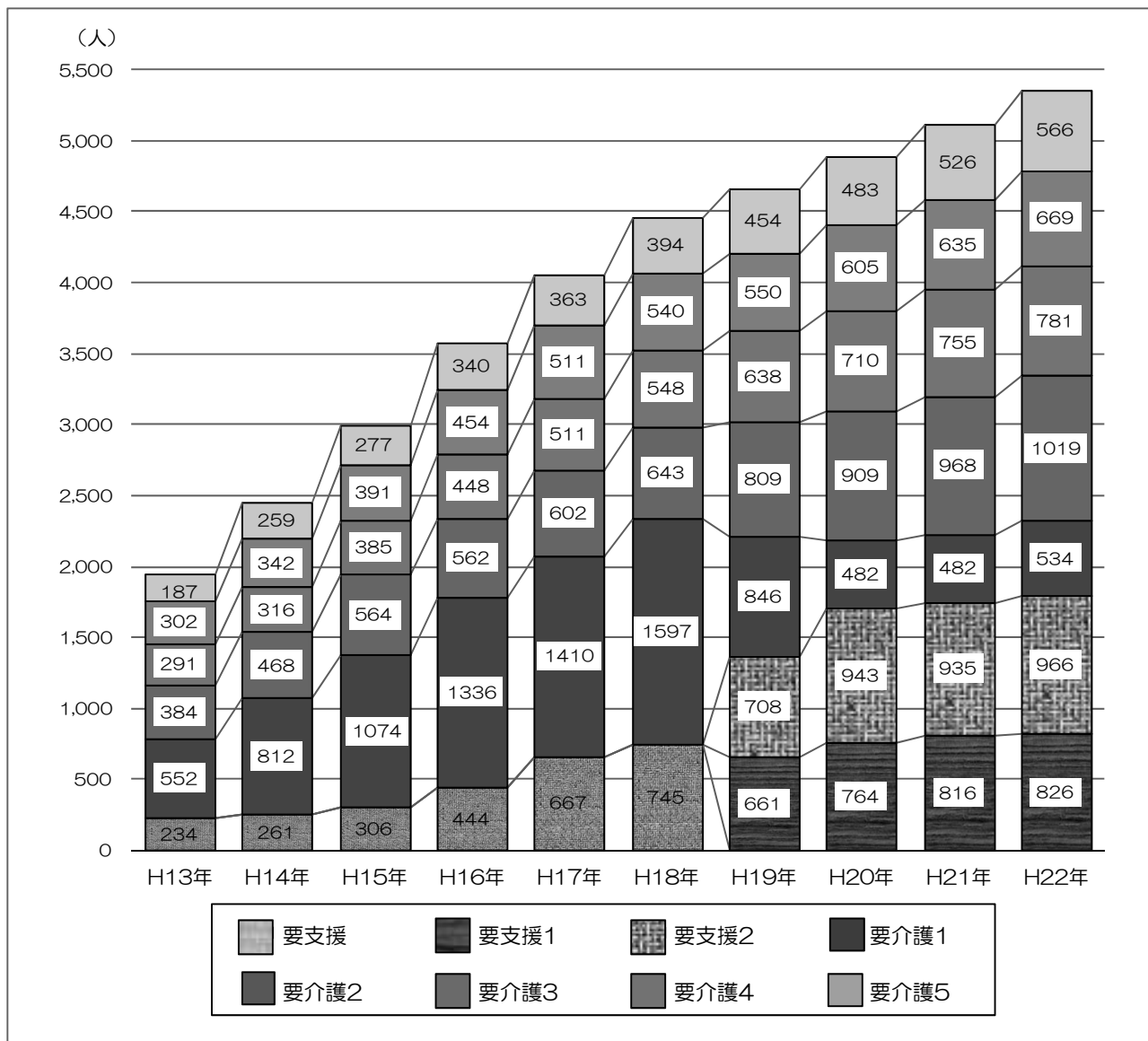
資料：大阪府国民健康保険疾病統計

4) 介護保険における要支援・要介護認定者数の推移

要支援・要介護認定者数の推移を見ると介護保険制度が始まった平成 12 年度から平成 17 年度にかけては上昇傾向で推移しています。介護保険法の改正が行われた平成 18 年度以降は要介護 1 が減少し要支援 1 が増加傾向、要支援 2 が横ばいとなっています。

図表 3—38 要支援・要介護認定者数の推移

各年 3 月末現在



資料：平成 21 年までは河内長野市統計書、平成 22 年は介護高齢課

3. 保健医療と社会福祉

1) 保健医療の社会資源

(1) 市立保健センター

市立保健センターでは、健康相談、健康教育、健康診査等の各種事業を行っています。

図表3-39 市立保健センター利用状況（利用者数）

単位：人

	健康相談	健康教育	健康診査	その他
H17年度	1,743	4,646	5,458	2,234
H18年度	1,449	4,033	3,629	1,433
H19年度	1,724	4,204	4,474	1,533
H20年度	101	2,923	2,467	1,349
H21年度	231	3,313	2,487	1,802

(2) 大阪府保健所

大阪府保健所では、地域保健に関する企画、調整、指導並びに地域住民の健康保持及び増進を図るための事業を実施するとともに、地域保健の中核機関として広域的・専門的・技術的拠点としての役割を担っています。

保健所の主な業務は、

- ・地域住民の健康保持及び増進に関すること
 - ・医事に関すること
 - ・人口動態統計、その他地域保健に係る統計に関すること
 - ・栄養改善及び食品衛生、環境衛生に関すること
 - ・母子保健、高齢者保健、精神保健福祉に関すること
 - ・エイズ、結核、感染症、特定疾患に関すること
- などです。

(3) 市立健康支援センター

市民自らが取り組む健康づくり活動の場を提供し、健康づくりの支援を目的としてプール、ジム、フィットネススタジオを備えた市立健康支援センターが平成17年7月に設置され、利用会員数は年々増えています。

図表3-40 市立健康支援センター利用状況

各年3月末現在 単位：人

	会員数	延べ利用人数
H17年度	5,213	72,623
H18年度	7,579	107,148
H19年度	9,277	103,895
H20年度	10,675	104,721
H21年度	11,915	105,121

（４）医療施設

平成 21 年 9 月 30 日現在、市内には病院が 8 か所、一般診療所が 79 か所、歯科診療所が 65 か所となっています。

図表 3-4 1 医療施設の状況 各年 9 月 30 日現在

	医 療 施 設 数			
	病 院		一般診療所 (か所)	歯科診療所 (か所)
	施設(か所)	病床(床)		
H17 年	8	1,499	79	63
H18 年	8	1,499	81	64
H19 年	8	1,499	81	62
H20 年	8	1,499	79	64
H21 年	8	1,469	79	65

資料：河内長野市統計書

（５）休日急病診療所

医療機関の通常の診療日及び時間外において、医療を必要とする急病患者に診療を行うため、医師会・歯科医師会・薬剤師会の協力を得て、休日・土曜日（準夜間）・年末年始における急病患者の内科・歯科診療を行っています。

図表 3-4 2 休日急病診療事業の状況

	診療科目		内科		小児科		歯科		その他	
	診療日		日曜日・祝日・休日 年末年始・土曜日		日曜日・祝日・休日 年末年始・土曜日		日曜日・祝日・休日 年末年始		日曜日・祝日・休日 年末年始・土曜日	
	日数 (日)	総患者数 (人)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
H17 年度	121	4,146	1,240	29.9	2,645	29.9	249	6.0	12	0.3
H18 年度	120	1,251	1,034	82.7			209	16.7	8	0.6
H19 年度	122	1,318	1,085	82.3			222	16.8	11	0.9
H20 年度	121	1,411	1,227	87.0			176	12.5	8	0.5
H21 年度	123	1,981	1,788	90.3			186	9.4	7	0.3

（６）小児救急医療システム

平成 18 年度から南河内医療圏では、各市の休日急病診療所小児科を集約して、富田林病院に休日昼間の広域小児急病診療体制を整備しています。夜間については、それまでの富田林市（町村含）・河内長野市夜間病院輪番診療体制と大阪狭山市・美原町夜間病院輪番診療体制を集約して、固定輪番制による夜間診療を整備しています。

図表 3-4 3 南河内南部広域小児急病診療体制（中学生まで）

	休日診療	夜間・早朝診療
診療病院	富田林病院	当番病院
診療日	日曜日・祝日・休日 年末年始（12/29～1/3）	毎日
受付時間	午前 9 時～11 時 30 分 午後 1 時～3 時 30 分	
診療時間	午前 9 時～12 時 午後 1 時～4 時	午後 8 時～翌朝 8 時
受診方法	直接病院へ 富田林市向陽台 1-3-36 Tel0721-29-1121	消防署(Tel0721-62-0119)へ必ず連絡してください。 （紹介・又は、救急車で搬送） 指定病院への直接連絡・直行は避けてください。

2) 社会福祉などの状況

(1) 社会福祉施設の状況

市内には図表に示した福祉施設が 29 か所あります。内訳は、高齢者施設が 7 か所、保育所 14 か所、障がい児・者の施設が 8 か所となっています。

図表 3-44

平成 21 年 10 月 1 日現在

種別	施設数
養護老人ホーム	1(1)
特別養護老人ホーム	5(5)
老人福祉センター	1(-)
保 育 所	14(12)
知的障がい児通園施設	1(1)
障がい者福祉センター	1(0)
肢体不自由児通園施設	1(1)
知的障がい者通所授産施設	2(2)
身体障がい者通所授産施設	2(1)
知的障がい者入所更正施設	1(1)

注：各施設とも公営・民営の合計数、民営については（ ）内に再掲

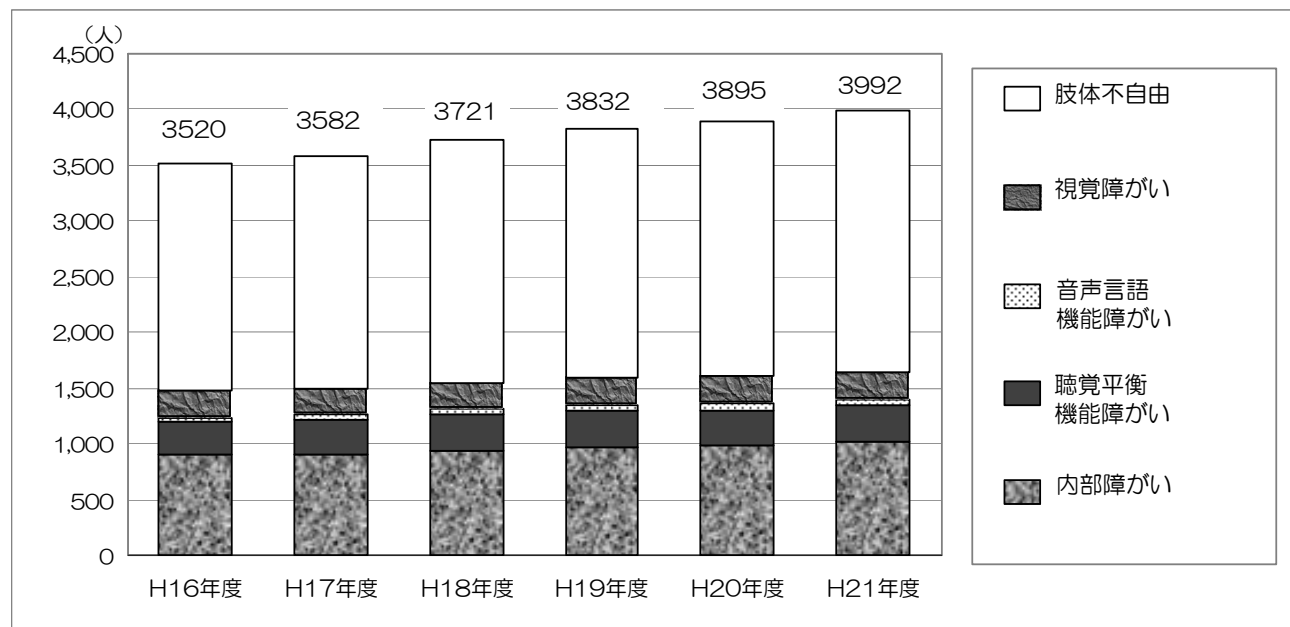
資料：河内長野市統計書

(2) 身体障がい者手帳交付状況・療育手帳所持状況

身体障がい者手帳交付状況、療育手帳所持状況は、年々上昇傾向で推移しています。平成 21 年の身体障がい者手帳交付総数は 3,992 件で肢体不自由が最も多く、次が内部障がいとなっています。平成 21 年度の療育手帳保持者は 650 人となっています。

図表 3-45 身体障がい者手帳の障がい別交付状況

各年度末現在



資料：平成 20 年度までは河内長野市統計書、平成 21 年度は障がい福祉課

図表3-46 療育手帳所持者数

各年度末現在 単位：人

	A (重度)	B 1 (中度)	B 2 (軽度)	総数
H 1 7 年度	305	146	103	554
H 1 8 年度	313	146	111	570
H 1 9 年度	326	156	119	601
H 2 0 年度	332	163	134	629
H 2 1 年度	342	159	149	650

資料：障がい福祉課

(3) 生活保護による保護状況

生活保護率は大阪府と比べると低いですが全国より高く、年々上昇しています。

図表3-47 生活保護率 (人口千対)

	河内長野市	大阪府	全国
H 1 6 年度	10.4	15.8	11.1
H 1 7 年度	11.5	16.6	11.6
H 1 8 年度	12.0	17.0	11.8
H 1 9 年度	12.7	17.3	12.1
H 2 0 年度	13.6	17.7	12.5

資料：河内長野市統計書、富田林保健所管内の公衆衛生の動向
大阪府 HP 生活保護統計

(4) 保育所の状況

保育所は、平成 21 年度 14 か所、入所児童数は 3 歳以上が 787 人、3 歳未満が 577 人となっています。

図表3-48 保育所の状況 各年度 10 月 1 日現在

	保育所数 (か所)	入所児童数 (人)		
		総数	3 歳以上	3 歳未満
H 1 7 年度	15	1,366	822	544
H 1 8 年度	15	1,389	848	541
H 1 9 年度	15	1,357	821	536
H 2 0 年度	14	1,329	780	549
H 2 1 年度	14	1,364	787	577

資料：河内長野市統計書

(5) 幼稚園の状況

幼稚園は、公立園 1 か所、私立園 10 か所となっています。

図表3-49 幼稚園の状況

各年度 5 月 1 日現在

	園数	園児数 (人)
		総数
H 1 7 年度	11	2,183
H 1 8 年度	11	2,023
H 1 9 年度	11	1,929
H 2 0 年度	11	1,812
H 2 1 年度	11	1,665

資料：河内長野市統計書

4. 保健事業の現状

1) 母子保健事業の現状

(1) 母子健康手帳の交付

(内容)

母子健康手帳は妊娠届出時に市立保健センターと市役所市民窓口課の2か所で交付しています。
母子健康手帳交付時に父子手帳と子育ての支援に関する情報を配付しています。
また、ハイリスク妊婦には必要に応じ個別支援を行っています。

図表 3—50 妊娠届出数の状況

	妊娠届出数 (人)
H17 年度	814
H18 年度	785
H19 年度	829
H20 年度	770
H21 年度	766

図表 3—51 ハイリスク妊婦の数の推移

単位：人（延べ）

	実人数	ハイリスク妊婦の内訳			
		19 歳以下	35 歳以上 (初妊婦)	40 歳以上	妊娠 22 週 以降の届出
H17 年度	63	11	31	15	6
H18 年度	56	21	23	8	4
H19 年度	91	17	45	23	15
H20 年度	79	15	45	11	12
H21 年度	85	12	50	20	8

(2) 健康診査

① 妊婦健康診査（B 型肝炎母子感染防止事業も含む）

(内容)

妊娠中毒症や糖尿病、貧血やその他の合併疾患の有無を調べ、流産・死産・未熟児出生等を予防するため、医療機関委託による個別方式で実施しています。医療機関からの結果通知を受け、必要に応じて支援を行っています。

図表 3—52 妊婦健康診査の状況

	妊娠届出数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	HBs 抗原 検査陽性 者数(人)
H17 年度	814	753	92.5	4
H18 年度	785	721	91.8	4
H19 年度	829	1,371		3
H20 年度	770	3,484		4
H21 年度	766	8,436		2

注1：平成 19 年6月から2回、平成 20 年から5回、平成 21 年度から 14 回助成となる

注2：平成 21 年度から府外受診の助成分を含む

②乳児健康診査

(内容)

乳児の疾病の予防や早期発見・早期治療を図るため、1歳未満の乳児を対象に医療機関委託による個別方式で実施しています。医療機関からの結果通知を受け、必要に応じて支援を行っています。

図表 3—53 乳児健康診査の状況

	出生数 (人)	受診児数 (人)	受診率 (%)
H17 年度	794	707	89.0
H18 年度	776	650	83.8
H19 年度	707	623	88.1
H20 年度	771	673	87.3
H21 年度	693	640	92.4

注：出生数は各年中、受診数は各年度中の数

③4か月児健康診査

(内容)

疾病の予防や早期発見・早期治療を図るため、4か月児（満3か月から6か月未満の乳児）を対象に医師の診察、身体計測、保健師・管理栄養士・歯科衛生士による集団指導及び個別相談を行っています。

図表 3—54 4か月児健康診査の状況

	対象児数 (人)	受診児数 (人)	受診率 (%)	受診結果			
				異常なし		経過観察	
				(人)	(%)	(人)	(%)
H17 年度	815	794	97.4	544	68.5	250	31.5
H18 年度	754	735	97.5	489	66.5	246	33.5
H19 年度	740	718	97.0	497	69.2	221	30.8
H20 年度	776	761	98.1	519	68.2	242	31.8
H21 年度	723	701	97.0	498	71.0	203	29.0

図表 3—55 4か月児健康診査経過観察機関の内訳

単位：人

	対象児数	市立保健センター	医療機関
H17 年度	250	132	118
H18 年度	246	128	118
H19 年度	221	129	92
H20 年度	242	152	90
H21 年度	203	119	84

注：重複あり

④乳児後期健康診査

(内容)

運動発達や精神発達機能に著しい変化がみられる乳児後期の成長発達の確認を行うため、10 か月児（満9 か月から1 歳未満の乳児）を対象に、医療機関委託による個別方式で、医師の診察、指導、身体計測等を行っています。医療機関からの結果通知を受け、必要に応じて支援を行っています。

図表 3—56 乳児後期健康診査の状況

	受診券 配布枚数 (人)	受診児数 (人)	受診率 (%)	受診結果			
				異常なし		経過観察	
				(人)	(%)	(人)	(%)
H17 年度	816	754	92.4	542	71.9	212	28.1
H18 年度	789	728	92.3	556	76.4	172	23.6
H19 年度	731	648	88.6	476	73.5	172	26.5
H20 年度	777	707	91.0	518	73.3	189	26.7
H21 年度	755	691	91.5	622	90.0	69	10.0

注：H20 から医師の判定を基準としている。

⑤1 歳7 か月児健康診査

(内容)

身体発育、運動及び精神発達、視聴覚等の異常の早期発見・早期治療とともに、幼児の健康の保持・増進を図るため、1 歳7 か月児（満1 歳6 か月から2 歳未満の幼児）を対象に実施しています。

医師による診察、歯科医師による口腔診査、カリオスタット検査、身体計測、心理相談員による相談（必要児のみ）、保健師・管理栄養士・歯科衛生士による集団指導及び個別相談を行っています。

平成20 年度からは、保護者の歯科健康診査も希望者に行っています。

図表 3—57 1 歳7 か月児健康診査の状況

	対象児数 (人)	受診児数 (人)	受診率 (%)	受診結果			
				異常なし		経過観察	
				(人)	(%)	(人)	(%)
H17 年度	883	843	95.5	589	69.9	254	30.1
H18 年度	823	786	95.5	525	66.8	261	33.2
H19 年度	774	749	96.8	507	67.7	242	32.3
H20 年度	746	707	94.8	410	58.0	297	42.0
H21 年度	818	785	96.0	423	54.0	362	46.0

図表 3—58 1 歳7 か月児健康診査経過観察の状況

	経過観察 児数 (人)	経過観察の内容						経過観察機関の内訳	
		身体面		精神面		育児面など		保健 センター	医療 機関
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)		
H17 年度	254	92	36.2	140	55.1	39	15.3	194	60
H18 年度	261	112	42.9	143	54.8	26	10.0	202	59
H19 年度	242	84	34.7	158	65.3	24	10.0	192	50
H20 年度	297	100	33.7	219	73.7	24	8.1	236	61
H21 年度	362	117	32.3	276	76.2	25	6.9	293	69

注1：経過観察内容、経過観察機関は重複あり

注2：経過観察の内容の構成比(%)は小数点第二位で四捨五入のため、その合計は必ずしも100.0%にならない

図表 3—59 1 歳 7 か月児歯科健康診査の状況

	対象児数 (人)	受診児数 (人)	受診率 (%)	受診結果					
				う歯(むし歯)あり		軟組織異常		不正咬合	
				(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
H17 年度	883	844	95.6	24	2.8	81	9.6	93	11.0
H18 年度	823	786	95.5	9	1.1	64	8.1	80	10.1
H19 年度	774	749	96.8	11	1.5	50	6.7	75	10.0
H20 年度	746	707	94.8	17	2.4	69	9.8	59	8.3
H21 年度	818	787	96.2	21	2.7	50	6.4	71	9.0

注 1：受診結果の内容は重複あり

注 2：図表 3—5 6 の 1 歳 7 か月児健康診査で内科診察は受けずに歯科診察のみ受けた人を含む

⑥ 3 歳 6 か月児健康診査

(内容)

疾病の予防や早期発見、早期治療及び幼児の健康の保持・増進のため、身体発育の面から重要な時期である 3 歳 6 か月児（満 3 歳から 4 歳未満の幼児）を対象に実施しています。

医師による診察、歯科医師による口腔診査、カリオスタット検査、身体計測、視聴覚検査、尿タンパク検査、心理相談員・言語聴覚士・視能訓練士による相談（必要児のみ）、保健師・管理栄養士・歯科衛生士・保育士による集団指導及び個別相談を行っています。

図表 3—60 3 歳 6 か月児健康診査の状況

	対象児数 (人)	受診児数 (人)	受診率 (%)	受診結果			
				異常なし		経過観察	
				(人)	(%)	(人)	(%)
H17 年度	1,053	891	84.6	728	81.7	163	18.3
H18 年度	918	807	87.9	639	79.2	168	20.8
H19 年度	870	778	89.4	635	81.6	143	18.4
H20 年度	831	739	88.9	578	78.2	161	21.8
H21 年度	809	731	90.4	573	78.4	158	21.6

図表 3—61 3 歳 6 か月児健康診査経過観察の状況

	経過観察 児数 (人)	経過観察の内容						経過観察機関の内訳	
		身体面		精神面		育児面など		保健センター (人)	医療機関 (人)
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)		
H17 年度	163	61	37.4	101	62.0	18	11.0	130	33
H18 年度	168	50	29.8	94	56.0	21	12.5	124	44
H19 年度	143	64	44.8	75	52.4	14	9.8	104	39
H20 年度	161	76	47.2	88	54.7	24	14.9	113	48
H21 年度	158	54	34.2	90	57.0	21	13.3	125	33

注：経過観察機関は重複あり

図表 3—62 3歳6か月児視聴覚検査の状況

		問診表 発送数	返信数		要精検 児数 (人)	精検率 (%)	精 検 受診児数 (人)	受診率 (%)	精検受診結果	
			(人)	返信率 (%)					異常 なし (人)	異常 あり (人)
H17 年度	視力検査	1,053	904	85.8	44	4.9	30	68.2	5	25
	聴覚検査	1,053	905	85.9	2	0.2	2	100.0	0	2
H18 年度	視力検査	918	816	88.9	37	4.5	27	73.0	0	27
	聴覚検査	918	816	88.9	4	0.5	2	50.0	0	2
H19 年度	視力検査	870	784	90.1	27	3.4	27	100.0	0	27
	聴覚検査	870	784	90.1	1	0.1	1	100.0	0	1
H20 年度	視力検査	831	744	89.5	34	4.6	31	91.2	2	29
	聴覚検査	831	744	89.5	5	0.7	2	40.0	0	2
H21 年度	視力検査	809	732	90.5	26	3.6	24	92.3	0	24
	聴覚検査	809	732	90.5	2	0.3	2	100.0	1	1

図表 3—63 3歳6か月児歯科健康診査の状況

	対象児数 (人)	受診児数 (人)	受診率 (%)	受診結果					
				う歯(むし歯)あり		軟組織異常		不正咬合	
				(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
H17 年度	1,053	891	84.6	219	24.6	18	2.0	124	13.9
H18 年度	918	805	87.7	205	25.5	18	2.2	134	16.6
H19 年度	870	778	89.4	211	27.1	17	2.2	114	14.7
H20 年度	831	739	88.9	182	24.6	30	4.1	109	14.8
H21 年度	809	730	90.2	180	24.7	22	3.0	103	14.1

注：図表 3—60 の 3 歳 6 か月児健康診査受診者のうち歯科診察を受診した人

⑦経過観察健診・発達相談

(内容)

各乳幼児健康診査、保健師の訪問、健康相談の結果等により、経過観察を必要とする乳幼児を対象に、専門医師による経過観察健診を行い、異常の早期発見に努めるとともに、乳幼児の健全な育成を図っています。

医師の診察〔約束クリニック（小児科医）、専門クリニック（小児整形外科医、小児神経科医）〕、身体計測、保健師・管理栄養士・歯科衛生士による個別相談を行っています。

図表 3—64 経過観察健診の状況

		回 数 (回)	受診児数 (人)	受診結果				他機関紹介 (人)
				異常なし		経過観察		
				(人)	(%)	(人)	(%)	
H17 年度	約束クリニック	12	223	79	35.4	144	64.6	13
	専門クリニック	18	80	26	32.5	54	67.5	0
H18 年度	約束クリニック	12	218	96	44.0	122	56.0	15
	専門クリニック	18	90	37	41.1	53	58.9	0
H19 年度	約束クリニック	12	170	92	54.1	78	45.9	19
	専門クリニック	18	72	26	36.1	46	63.9	0
H20 年度	約束クリニック	12	198	66	33.3	132	66.7	11
	専門クリニック	18	87	53	60.9	34	39.1	10
H21 年度	約束クリニック	12	168	63	37.5	105	62.5	2
	専門クリニック	18	70	31	44.3	39	55.7	3

図表 3—65 発達相談の状況

	回 数 (回)	相談児数 (人)	受診結果				他機関紹介 (人)
			異常なし		経過観察		
			(人)	(%)	(人)	(%)	
H17 年度	95	244	31	12.7	213	87.3	0
H18 年度	96	201	20	10.0	181	90.0	1
H19 年度	96	205	17	8.3	188	91.7	2
H20 年度	78	195	29	14.9	166	85.1	1
H21 年度	78	214	29	13.6	185	86.4	1

(3) 歯科疾患予防事業

① 2歳6か月児歯科健康診査

(内容)

う歯（むし歯）の急増期である2歳6か月児（満2歳から3歳未満の幼児）を対象に、歯科医師による口腔診査、カリオスタット検査、フッ素塗布（希望者のみ）、歯科衛生士・管理栄養士・保健師・心理相談員（必要児のみ）による個別相談を行っています。

図表 3—66 2歳6か月児歯科健康診査の状況

	対象児数 (人)	受診児数 (人)	受診率 (%)	受診結果					
				う歯(むし歯)あり		軟組織異常		不正咬合	
				(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
H17 年度	922	822	89.2	86	10.5	42	5.1	145	17.6
H18 年度	876	803	91.7	85	10.6	34	4.2	141	17.6
H19 年度	811	731	90.1	82	11.2	24	3.3	95	13.0
H20 年度	794	718	90.4	79	11.0	44	6.1	109	15.2
H21 年度	754	670	88.9	65	9.7	29	4.3	113	16.9

注：受診結果は重複あり

② 歯科フォロー健康診査

(内容)

1歳7か月児健康診査、2歳6か月児歯科健康診査、3歳6か月児健康診査において実施したカリオスタット検査により、要注意と判定された幼児とう歯（むし歯）が認められる児を対象に各健康診査日の約1か月後に行っています。

歯科医師の診察、フッ素塗布(1歳8か月児・3歳7か月児の希望者)、歯科衛生士による集団指導及び歯科衛生士・管理栄養士の個別相談を行っています。

図表 3—67 歯科フォロー健康診査の年度別推移

	1歳8か月児			2歳7か月児			3歳7か月児		
	対象児数 (人)	受診児数 (人)	受診率 (%)	対象児数 (人)	受診児数 (人)	受診率 (%)	対象児数 (人)	受診児数 (人)	受診率 (%)
H17 年度	239	150	62.8	291	102	35.1	302	96	31.8
H18 年度	207	142	68.6	286	115	40.2	237	94	39.7
H19 年度	214	133	62.1	258	101	39.1	250	79	31.6
H20 年度	181	110	60.8	236	89	37.7	258	89	34.5
H21 年度	207	118	57.0	225	100	44.4	224	62	27.7

（４）教室・相談

① 両親教室（ママパパ教室）

（内容）

妊婦やその配偶者を対象に、医師・保健師・助産師・管理栄養士・歯科衛生士による、妊娠、出産、育児及び歯科保健に関する知識の伝達とともに沐浴実習や先輩ママとの交流を通して親準備性を高めるために行っています。また、出産後の孤立化を防ぐためグループワークによる仲間づくりを進めています。

図表 3—68 両親教室（ママパパ教室）の状況

	コース数	開催回数 (回)	受講者延べ数(人)	
				夫再掲
H17 年度	4	18(2)	289	64
H18 年度	6	18(2)	258	55
H19 年度	6	18(2)	303	44
H20 年度	6	18(2)	278	42
H21 年度	8	16(4)	246	49

注1：4回1コース、H21 年度より3回1コース

注2：開催回数の土曜日実施分再掲

② ことば相談

（内容）

発音不明瞭、吃音、ことばの遅れ等の相談に対して、保護者の不安を解消するとともに、幼児のことばの発達を促すために言語聴覚士による個別相談を行っています。

図表 3—69 ことば相談の状況

	開催回数 (回)	実人数 (人)	延べ人数 (人)	相談内容
H17 年度	11	21	27	・構音の問題
H18 年度	11	21	25	・発音不明瞭
H19 年度	11	25	30	・吃音
H20 年度	11	18	21	・発達（言葉の遅れ）
H21 年度	11	21	26	・音の置換

③ 乳幼児相談

（内容）

乳幼児期から子どもの正しい食習慣の形成と保護者の不安の軽減を目的に、栄養士による個別相談を主な内容に取り入れた「すくすく子育てサロン」を平成19年まで行いました。

また、幼児の健全な口腔の育成と摂食機能の発達に合わせた育児支援を行い、保護者の不安軽減を図るため、歯科衛生士による個別歯科相談を行っています。

図表 3—70 乳幼児相談（すくすく子育てサロン）の状況

【栄養相談】

	開催場所	開催回数 (回)	栄養相談 延べ数 (人)
H17 年度	市立乳幼児センター	6	108
H18 年度	市立乳幼児センター	6	109
H19 年度	市立保健センター	10	23

注1：H19年度は管理栄養士単独の相談

注2：H20年度から定例の栄養相談で対応

図表 3-71 乳幼児相談（すくすく歯科相談）の状況

【歯科相談】

	開催場所	開催回数 (回)	歯科相談 延べ数(人)
H17 年度	市立乳幼児センター	6	92
H18 年度	市立乳幼児センター	6	91
H19 年度	市立保健センター	7	19
	子育て支援センター	5	67
	地域集会所	1	10
	(集団) 子育て支援センター	1	9
H20 年度	(集団) 子育て支援センター	2	13
	(個別) 子育て支援センター等	7	71
H21 年度	(個別) 子育て支援センター	6	66
	地域集会所	2	7

(5) 訪問指導

① 妊産婦訪問指導

(内容)

妊婦及び産後 1 年以内の産婦を対象に、助産師や保健師による家庭訪問を行い、妊娠中毒症や 未熟児出生の予防、産後の保健管理や相談を行うとともに、日常生活面での支援を行っています。

図表 3-72 妊産婦訪問指導の状況

単位：人

		妊 婦		産 婦	
		実人数	延べ人数	実人数	延べ人数
H17 年度	保健師	11	16	103	136
	助産師	0	0	184	237
H18 年度	保健師	9	12	62	88
	助産師	0	0	211	233
H19 年度	保健師	9	22	74	92
	助産師	0	0	324	349
H20 年度	保健師	8	14	373	436
	助産師	1	1	199	224
H21 年度	保健師	20	32	416	487
	助産師	1	1	163	181

② 新生児・乳幼児訪問指導

(内容)

新生児期は、疾病にかかりやすく、保護者も養育上多くの不安を抱いていることから、生後 28 日以内の新生児に、保健師・助産師が家庭訪問を行っています。また、乳幼児健康診査後のフォローや関係機関からの訪問依頼、保護者からの相談等により、主に保健師、必要に応じて他の専門スタッフとの同伴で家庭訪問を行っています。平成 18 年度は、第 1 子の全数訪問を目標としました。

図表 3—73 新生児・乳幼児訪問指導の状況

単位：人

		新生児		乳 児 (新生児を除く)		幼 児	
		実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数
H17 年度	保健師	45	46	112	166	226	308
	助産師	187	242	0	0	0	0
H18 年度	保健師	24	29	126	168	172	302
	助産師	69	75	154	170	0	0
H19 年度	保健師	21	25	156	216	146	234
	助産師	75	79	254	274	0	0
H20 年度	保健師	71	91	398	603	195	309
	助産師	24	24	176	202	0	0
H21 年度	保健師	63	79	445	621	194	318
	助産師	28	30	138	154	0	0

③ こんにちは赤ちゃん訪問

(内容)

平成19年度から虐待予防の視点から全数把握を目指しこんにちは赤ちゃん訪問事業が開始になっています。

図表 3—74 こんにちは赤ちゃん訪問の状況

	対象児 (人)	訪問実人数 (人)	実施割合 (%)	把握率 (%)
H19 年度	724	385	53.2	90.0
H20 年度	738	525	71.1	93.4
H21 年度	729	538	73.8	93.7

(6) 栄養改善指導

① 栄養指導

(内容)

乳幼児健康診査などにおいて、栄養改善に関する必要な指導と正しい知識の普及を行うため、個別での栄養指導を行っています。

図表 3—75 栄養指導の状況

単位：人

	内容	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度
4か月児健康診査	離乳食の進め方	228	192	159	150	114
1歳7か月児健康診査	離乳食完了後の基本的な食事のあり方	249	226	237	191	260
2歳6か月児歯科健康診査	おやつとの与え方	191	169	150	182	172
3歳6か月児健康診査	幼児期の望ましい食事のあり方	151	129	122	109	147
経過観察健診 (約束クリニック)	月齢や年齢に応じた食事形態や食事量	47	47	21	57	41
歯科フォロー健康診査	各健康診査で指導した児のフォロー	93	51	48	46	43
乳幼児相談 (すくすく子育てサロン)	離乳食についての相談指導	108	109	23		
栄養相談	個別の栄養相談	84	88	85	95	81
合 計		1,151	1,011	845	830	858

② 離乳食講習会（もぐもぐ教室・かみかみ教室）

（内容）

管理栄養士による集団指導（実演講習）及び個別指導を行い、離乳食の正しい知識の啓発を行っています。

もぐもぐ教室は5～8か月頃の離乳食、かみかみ教室は9～18か月頃の離乳食についての講習を行っています。かみかみ教室は平成18年度より歯科衛生士による集団教育（乳歯のケアについて）を実施しています。また、かみかみ教室は参加希望者が多く定員を超えることがあったため、平成21年度より、4回から6回に年間の実施回数を増やしています。

図表 3-76 離乳食講習会
（もぐもぐ教室）の状況

	回 数 (回)	受講者数 (人)
H17 年度	11	158
H18 年度	11	137
H19 年度	11	135
H20 年度	11	149
H21 年度	11	139

図表 3-77 離乳食講習会
（かみかみ教室）の状況

	回 数 (回)	受講者数 (人)
H17 年度	4	64
H18 年度	4	67
H19 年度	4	53
H20 年度	4	61
H21 年度	6	82

（7）その他（母子栄養強化事業）

（内容）

特に栄養の強化を必要とする妊産婦及び乳児に対して、医師の診察等により粉ミルク、牛乳の栄養食品の支給を行っています（支給期間は1年間、所得による受給資格制限あり）。

図表 3-78 栄養食品支給状況

	妊 婦		乳 児	
	実人数 (人)	延べ数 (本)	実人数 (人)	延べ数 (缶)
H17 年度	5	611	1	18
H18 年度	1	115	1	18
H19 年度	1	30	1	4
H20 年度	1	47	5	60
H21 年度	0	0	5	42

（8）マタニティマーク「マタニティマークボールチェーンマスコット」の配付

（内容）

平成21年8月よりマタニティマークボールチェーンマスコットを母子健康手帳と同時に配付して妊婦に優しい環境づくりを推進しています。

図表 3-79 マタニティマーク
「マタニティマークボールチェーンマスコット」配付の状況

単位：人

	配付人数	内 訳	
		妊娠届出時 (H21.8～H23.3)	希望者
H21 年度	556	529	27

（９）ブックスタート事業

（内容）

平成１５年８月から親子のふれあいを育むきっかけとしてブックスタート事業を開始し、絵本を配付し図書館司書やボランティアによる読み聞かせを行っています。

図表 3-80 ブックスタート事業の状況

	回数（回）	配付絵本（冊）
H17 年度	24	792
H18 年度	24	747
H19 年度	24	733
H20 年度	24	771
H21 年度	18	712

（１０）児童ふれあい交流促進事業

（内容）

平成１７年度から２０年度まで、市立保健センター、市立乳幼児センターや市立小学校でいのちのふれあい教室を開催し、親子で命の大切さを考え、乳児とふれあう機会を設けました。

図表 3-81 児童ふれあい交流促進事業

	参加者数 （人）	参加者の内訳			
		児童 （人）	保護者 （人）	兄弟 （人）	妊婦など （人）
H17 年度	24	12	10	2	
H18 年度	111	97	7	2	5
H19 年度	22	10	10	2	
H20 年度	25	10	10	5	

注：H18 年度は小学校で実施した分を含む

（１１）児童虐待に関する現状

（内容）

児童虐待の把握数は、年々増加しています。虐待のなかでは、ネグレクトが最も多く、平成 21 年度は把握数全体の約 6 割を占めています。児童虐待への対応として、要保護児童対策地域協議会が活動しています。また、児童虐待の通告数も増えてきています。

図表 3-82 児童虐待把握数 単位：件 （各年度末）

	把握数	虐待種類別内訳（重複あり）				
		身体	ネグレクト	心理的	性的	疑い
H17 年度	65	19	36	2	0	8
H18 年度	88	27	43	4	2	17
H19 年度	109	25	46	3	0	35
H20 年度	131	28	71	25	0	7
H21 年度	106	27	67	26	0	5

資料：子育て支援課

図表 3-83 要保護児童対策地域協議会の開催状況

	開催回数		
	代表者会議	実務者会議	事例検討会議
H17 年度		4	10
H18 年度	1	4	33
H19 年度	1	6	23
H20 年度	1	6	38
H21 年度	1	5	40

資料：子育て支援課

図表 3-84 通告機関別児童虐待通告数

単位：件

	通告総数	通告機関別															
		近隣・知人	医療機関	他市（転入）	家庭センター	子ども保健所	家庭児童相談室	保育所・園	学校等	生活福祉課	障がい福祉課	子育て支援課	健康推進課	幼稚園	家族	警察等	その他
H17 年度	32	2		3	2		4	6	6	4			5				
H18 年度	32		2	2	4		3	4	10			1	5		1		
H19 年度	53	9		7	4		3	7	8	1	1	7	4		2		
H20 年度	52	14	2	6	2	1		9	7		3		4	2			2
H21 年度	53	8	2	10	9	1	3	8	3				5	1	2	1	

資料：子育て支援課

（１２）大阪府保健所で実施している母子保健事業の現状

（内容）

大阪府保健所では未熟児、身体障がい児、長期療養児など疾病や障がいをもつ子どもたちへの個別援助や集団援助を行っています。個別援助としては訪問指導や療育相談を、集団援助としては未熟児や障がい児を対象とした教室が交流や相談を目的に実施されています。また、被虐待児又はその疑いがある事例への援助や不妊治療の申請も受け付けています。

図表 3-85 未熟児、身体障がい児、長期療養児の訪問指導（平成 21 年度）

単位：人

	未熟児		身体障がい児		長期療養児	
	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
富田林市	62	117	15	47	7	27
河内長野市	33	60	10	26	7	19
大阪狭山市	34	38	5	13	5	24
太子町・河南町・千早赤阪村	17	53	1	6	1	3
合 計	146	268	31	92	20	73

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向（富田林保健所管内）

図表 3-86 未熟児保健推進事業

（平成 21 年度）

名 称	開催回数（回）	参加実人数（人）	参加延人数（人）	内容
びよびよ教室	4	23	23	交流と相談

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向（富田林保健所管内）

図表 3—87 療育相談 (平成 21 年度)

開催回数 (回)	受診実人数 (人)	医療相談	
		延人員 (人)	要医療者数 (人)
21	108	157	12

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向（富田林保健所管内）

図表 3—88 集団援助 (平成 21 年度)

名 称	開催回数 (回)	参加実人数 (人)	参加延人数 (人)	内 容
わいわい広場	6	12	48	学習会・交流会 個別相談

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向（富田林保健所管内）

図表 3—89 被虐待児又はその疑いのある事例に対する援助件数

(平成 21 年度)

区 分		富田林保健所
実支援件数		26
延訪問件数		76
他機関との連絡、検討会議等	開催回数	53
	参加者延数	62

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向（富田林保健所管内）

図表 3—90 特定不妊治療費助成制度申請数

単位：件

	河内長野市 申請数
H19 年度	45
H20 年度	58
H21 年度	35

資料：富田林保健所

2) 学校保健の現状

(1) 学校保健統計

学校保健は、学校における保健管理及び安全管理に関し必要な事項を定め、児童、生徒、並びに職員の健康の保持増進を図り、もって学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資することとされています。

①発育の状況（平成21年度）

図表 3—91 身長

単位：cm

			小学校						中学校		
			6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳
男子	河内長野市	H21年度	116.3	122.5	128.7	133.3	138.7	144.9	151.0	159.7	165.4
	大阪府	H21年度	116.8	122.6	128.3	133.6	138.3	145.5	151.8	159.4	164.8
	全 国	H21年度	116.7	122.6	128.3	133.6	138.9	145.1	152.5	159.7	165.2
女子	河内長野市	H21年度	116.0	121.5	128.7	133.1	140.1	146.4	151.6	154.9	157.4
	大阪府	H21年度	115.6	121.4	127.7	133.6	139.8	147.1	151.8	155.1	156.7
	全 国	H21年度	115.8	121.7	127.5	133.5	140.3	146.9	151.9	154.9	156.7

資料：本市は河内長野市立小・中学校、大阪府、全国は学校保健統計調査報告

図表 3—92 体重

単位：kg

			小 学 校						中 学 校		
			6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳
男子	河内長野市	H21年度	21.2	23.7	26.8	29.8	33.1	37.9	42.1	48.3	54.0
	大阪府	H21年度	21.4	24.1	26.8	30.5	33.6	39.0	43.7	48.9	54.0
	全 国	H21年度	21.5	24.1	27.2	30.6	34.2	38.4	44.2	49.1	54.3
女子	河内長野市	H21年度	20.7	23.2	26.8	29.8	33.6	38.0	41.9	46.5	50.2
	大阪府	H21年度	20.7	23.4	26.5	29.8	33.8	38.6	43.6	47.7	50.3
	全 国	H21年度	21.0	23.5	26.5	30.0	34.1	39.0	43.8	47.3	50.2

資料：本市は河内長野市立小・中学校、大阪府、全国は学校保健統計調査報告

図表 3—93 栄養状態

<男子>

単位：%

		小 学 校							中 学 校			
		計	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	計	12歳	13歳	14歳
肥 満		2.6	1.4	1.8	1.6	3.6	2.9	3.8	4.3	3.4	4.9	4.5
瘦 身		1.3	0.0	0.9	0.6	1.2	2.3	2.5	2.2	3.9	1.2	1.5

<女子>

単位：%

		小 学 校							中 学 校			
		計	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	計	12歳	13歳	14歳
肥 満		2.3	0.6	2.4	2.0	3.1	2.4	2.8	2.8	1.8	3.0	3.6
瘦 身		1.5	0.6	0.0	1.0	1.4	2.7	2.7	4.0	6.3	2.7	2.7

注：肥満は標準体重の+30%以上の人、痩身は標準体重の-20%以下の人

資料：河内長野市立小・中学校

②年齢別各種検査結果の状況（平成21年度）

図表 3—94 視力検査結果

単位：％

		視 力			
		1.0未満 合 計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満
小 学 校	計	18.1	6.6	9.4	2.1
	6歳	7.3	3.8	3.3	0.2
	7歳	12.4	4.8	6.4	1.2
	8歳	16.9	7.3	8.0	1.6
	9歳	21.0	6.7	11.1	3.2
	10歳	23.5	9.2	11.8	2.5
	11歳	27.5	8.2	15.6	3.7
中 学 校	計	30.1	11.8	15.2	3.1
	12歳	27.9	11.7	14.1	2.1
	13歳	30.7	10.5	16.7	3.5
	14歳	31.8	13.3	14.9	3.6

注：左右いずれか一方でも1.0未満の人を計上 資料：河内長野市立小・中学校

図表 3—95 歯・口腔検査結果①

単位：％

	う歯・処置歯 のある児	未処置歯（経過観察中含む） のある児		う歯（むし歯）の処置した 歯がある児	
	H13年度	H21 乳歯	H21 永久歯	H21 乳歯	H21 永久歯
6歳	45.9	32.1	7.5	27.5	10.1
7歳	46.1	28.7	8.4	33.3	10.2
8歳	38.3	23.1	8.9	42.5	15.5
9歳	40.4	27.6	13.1	45.7	15.5
10歳	31.2	21.9	11.4	38.2	17.6
12歳	22.6	5.5	21.3	6.9	28.9
13歳	25.1	3.5	17.8	2.2	29.3

注：1本以上ある児に関する

資料：河内長野市立小・中学校

図表 3—96 歯・口腔検査結果②

単位：％

治療状況	H13年度	H21年度		
	その他の 異常	歯列・咬合の 異常	歯肉の状態 不良	その他の 異常
6歳	8.4	2.5	3.2	0.0
7歳	8.6	6.7	4.4	0.1
8歳	10.8	6.2	4.0	0.6
9歳	12.0	7.2	5.5	0.0
10歳	19.1	8.1	8.0	0.3
12歳	42.1	4.6	6.3	0.7
13歳	35.4	4.8	7.8	0.4

資料：河内長野市立小・中学校

図表 3—97 心臓検査結果

単位：％

	小 学 校							中 学 校			
	計	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	計	12歳	13歳	14歳
心電図異常	1.2	2.8	0.2	0.1	2.4	1.0	0.8	1.5	2.2	1.4	0.7
心臓の疾患・異常	2.2	1.6	1.4	2.2	2.9	2.5	2.4	3.6	3.2	5.1	2.2

資料：河内長野市立小・中学校

3) 成人・高齢者保健事業の現状

(1) 健康手帳の交付

(内容)

40 歳から64歳の市民（平成20年度までは40歳以上の市民）を対象に、健康診査の結果や機能訓練・健康教育時の記録等に活用し、個人の健康管理をするために市立保健センターや医療機関などで交付を行っています。

図表 3—98 健康手帳の交付の状況

	総数（人）
H17 年度	4,118
H18 年度	5,277
H19 年度	4,580
H20 年度	2,655
H21 年度	3,200

注1：40歳以上の市民に配付

注2：H21年度から40～64歳の市民に配付

(2) 健康づくり手帳の交付

(内容)

平成21年度より、65歳以上の市民を対象に、介護予防に関する知識・情報や介護予防事業の記録などに活用し、介護予防の意識及び介護予防事業への参加の向上を図ることを目的に、市立保健センターや医療機関などで交付しています。

表 3—99 健康づくり手帳の交付の状況

	総数（人）
H21 年度	3,915

(3) 青年・成人健康診査

(内容)

生活習慣病予防を目的として、15歳から39歳までの青年・成人を対象に、市立保健センターをはじめ、市内5か所で健康診査を行っています。

図表 3—100

	受診者数 （人）
H17 年度	647
H18 年度	714
H19 年度	650
H20 年度	449
H21 年度	413

(4) 特定健康診査・特定保健指導

(内容)

平成19年度まで基本健康診査を実施し、平成20年度からは医療制度改革により、40歳から74歳を対象に、メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査を実施しています。また生活習慣改善が必要な市民を対象に特定保健指導を行っています。

図表3—101 基本健康診査の状況

	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	指導区分別実人員					
				異常認めず		要指導		要医療	
				(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
H17年度	26,694	14,629	54.8	2,246	15.4	6,217	42.5	6,166	42.1
H18年度	27,611	15,317	55.5	2,882	18.8	4,998	32.6	7,437	48.6
H19年度	27,780	16,210	58.4	3,038	18.7	5,379	33.2	7,793	48.1

図表3—102 特定健康診査の状況

	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)
H20年度	20,815	6,613	31.8
H21年度	21,029	6,819	32.4

図表3—103 特定保健指導の状況

	対象者数 (人)	指導終了者数 (人)	指導率 (%)
H20年度	791	120	15.2
H21年度	766	137	17.9

(5) 一般健康診査事業・胸部X線心電図事業

(内容)

40歳以上で各保険者が実施する特定健康診査の対象とならない市民を対象に、心臓病・脳卒中等の生活習慣病予防のため、一般健康診査を実施しています。また、特定保健指導と同一の基準により選考した対象者に保健指導を実施しています。

特定健康診査に併せて、40歳以上を対象に胸部X線・心電図検査を行っています。

図表3—104 一般健康診査の状況

	受診者数 (人)	積極的 支援 (人)	動機付け 支援 (人)	情報提供 (人)
H20年度	271	7	12	252
H21年度	122	4	10	108

図表3—105 胸部X線・心電図検査の状況

	胸部X線検査 (人)	心電図検査 (人)
H20年度	11,160	10,366
H21年度	11,918	10,946

(6) がん検診

(内容)

がんを早期に発見し、早期治療に結びつけることを目的に、下記の内容で行っています。

図表3—106 検診内容(平成21年度)

検診名	対象者	実施日	内容	実施場所
胃がん検診	40歳以上の市民	集団H21年5月～H21年12月 個別H21年4月～H22年3月	問診・胃部X線撮影	集団 保健センター 個別 各取扱医療機関
大腸がん検診		集団H21年5月～H21年12月 個別H21年4月～H22年3月	問診・便潜血反応検査	集団 保健センター 個別 各取扱医療機関
肺がん検診		集団H21年5月～H21年12月	問診・胸部X線撮影・ 喀痰細胞診	集団 保健センター
乳がん検診	40歳以上の女性市民	集団H21年5月～H21年12月 個別H21年4月～H22年3月	問診・視触診・乳房X線撮影	集団 保健センター 個別 各取扱医療機関
子宮頸がん検診	20歳以上の女性市民	個別H21年4月～H22年3月	問診・視診・細胞診・内診	個別 各取扱医療機関

図表 3—107 がん検診の状況

		対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	要精密 検査者 (人)	精密 検査 受診 者数 (人)	精密検査結果			
							異常 認めず (人)	がんの 人 (人)	がんの 疑い (人)	がん 以外 (人)
胃がん	H17 年度	39,577	8,635	21.8	1,029	863	142	20	3	698
	H18 年度	40,851	9,378	23.0	1,047	814	90	15	1	708
	H19 年度	41,010	9,786	23.9	1,028	877	75	30	3	769
	H20 年度	42,277	6,294	14.9	648	559	33	10	5	511
	H21 年度	42,636	6,196	14.5	632	535	29	20	2	484
大腸がん	H17 年度	39,577	9,490	24.0	845	479	188	25	2	264
	H18 年度	41,932	11,475	27.4	966	432	101	48	1	282
	H19 年度	42,111	12,276	29.2	969	409	75	47	1	286
	H20 年度	43,597	7,524	17.3	603	283	75	24	0	184
	H21 年度	44,020	7,704	17.5	616	272	57	18	3	194
肺がん	H17 年度	41,882	2,662	6.4	31	31	16	1	0	14
	H18 年度	41,829	2,021	4.8	32	29	16	0	0	13
	H19 年度	41,985	2,163	5.2	103	92	24	2	0	66
	H20 年度	43,336	1,299	3.0	10	10	1	1	0	8
	H21 年度	43,723	1,220	2.8	3	3	1	1	0	1
子宮頸がん	H17 年度	40,535	2,646	6.5	19	17	5	1	0	11
	H18 年度	33,940	2,328	6.9	22	20	3	7	0	10
	H19 年度	33,743	2,775	8.2	30	29	9	5	1	14
	H20 年度	34,223	2,171	6.3	18	18	3	3	0	12
	H21 年度	34,132	2,926	8.6	28	21	7	2	1	11
乳がん	H17 年度	30,161	3,209	10.6	520	472	271	15	6	180
	H18 年度	24,214	3,359	13.9	624	563	292	11	8	252
	H19 年度	24,267	3,871	16.0	578	504	292	14	1	197
	H20 年度	25,098	3,096	12.3	426	387	253	12	3	119
	H21 年度	25,367	3,602	14.2	449	429	274	14	0	141

注：平成 21 年度の精密検査受診者数及び結果については H22 年 12 月 1 日現在の状況

(7) B 型・C 型肝炎ウイルス検査

(内容)

40 歳以上の市民を対象に、早期に感染の有無を確認し、感染者に対し適切な治療につなぐことを目的に各取扱医療機関において行っています。

図表 3—108 B 型・C 型肝炎ウイルス検査の状況

単位：人

	B 型肝炎ウイルス検査		C 型肝炎ウイルス検査	
	受診者数	陽性者数	受診者数	陽性者数
H17 年度	2,218	29	2,238	27
H18 年度	2,394	29	2,400	20
H19 年度	1,424	17	1,421	10
H20 年度	247	3	247	3
H21 年度	229	1	229	2

注 1：平成 18 年度までは、40 歳以上で、過去に肝炎ウイルス検査を受診したことがない人、

健康診査において肝機能異常を指摘された人を対象

注 2：平成 19 年度から 40 歳以上で過去に市の肝炎ウイルス検査を受診していない人・肝機能異常と判定された人を対象

(8) 骨粗しょう症検診

(内容)

満 40・45・50・55・60・65・70 歳になる女性市民を対象に、骨粗しょう症を予防することを目的に各取扱医療機関において行っています。

図表 3—109 骨粗しょう症検診の状況

	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	異常なし (人)	要指導者 (人)	要精密 検査者数 (人)
H17 年度	2,360	596	25.3	473	82	41
H18 年度	5,720	1,817	31.8	1,240	402	175
H19 年度	5,926	1,883	31.8	1,280	419	184
H20 年度	6,125	1,530	25.0	1,012	347	171
H21 年度	6,012	1,464	24.4	1,017	319	128

注：平成 17 年度までは 40 歳、50 歳、60 歳の女性が対象

(9) 歯周病疾患検診

(内容)

満 40・50・60・70 歳になる市民を対象に、高齢期になっても自分の歯で食べることができるように歯の喪失を予防することを目的に各取扱歯科医療機関において行っています。

図表 3—110 歯周疾患検診の状況

	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)
H17 年度	5,811	936	16.1
H18 年度	5,790	948	16.4
H19 年度	6,876	1,090	15.9
H20 年度	6,804	1,047	15.4
H21 年度	6,698	1,112	16.6

(10) 在宅寝たきり老人等訪問歯科健康診査

(内容)

家庭で寝たきりやそれに近い状態にあり、歯科医療機関へ受診できない 40 歳以上の市民を対象に、う歯（むし歯）の有無・歯周疾患の有無・入れ歯の具合についての診査、歯科治療の必要性についての診査を歯科医師が家庭を訪問して行う歯科健康診査事業を平成 12 年度から行っています。

図表 3—111 在宅寝たきり老人等訪問歯科健康診査の状況

	受診者数 (人)	健康診査結果					
		異常なし		要指導		要治療	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
H17 年度	21	0	0.0	1	4.8	20	95.2
H18 年度	21	0	0.0	1	4.8	20	95.2
H19 年度	19	0	0.0	3	15.8	16	84.2
H20 年度	10	0	0.0	0	0.0	10	100.0
H21 年度	13	0	0.0	3	23.1	10	77.0

(1 1) 健康教育

① 集団健康教育

(内容)

受講者の行動変容に有効とされるグループワークを積極的に取り入れ受講者主体の健康教室を実施しています。

【健康教室】(平成21年度)

- ・成人期健康教育(乳がん予防・歯科)
- ・生活習慣病予防教室
- ・健康診査時教育(乳がん予防)
- ・地域健康教育(8か所)
- ・特定保健指導者教室
- ・出前講座
- ・ブラッシングセミナー(歯周病予防教育)
- ・ブラッシングフォローセミナー(歯科相談後の歯周病予防教育)
- ・手話サークルへのブラッシングセミナー
- ・骨粗しょう症教室
- ・機能訓練時教育(歯科・栄養・運動・睡眠)
- ・ウォーキング教室(ツール・ド・大阪)
- ・介護予防教室

図表 3—112 集団健康教育の状況

	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度
開催回数(回)	140	153	131	118	106
受講者延べ人数(人)	4,610	3,997	4,171	2,909	3,313

(1 2) 健康相談

(内容)

40 歳以上の市民を対象に保健師・管理栄養士・歯科衛生士により行っています。

疾病別の重点的課題等について行う重点健康相談と心身の健康に関する一般的事項について行う総合健康相談があります。

図表 3—113 健康相談の状況

	重点健康相談		総合健康相談		介護家族健康相談	
	回数 (回)	延べ人数 (人)	回数 (回)	延べ人数 (人)	回数 (回)	延べ人数 (人)
H17 年度	181	1,661	13	80	1	2
H18 年度	150	1,429	17	20		
H19 年度	115	1,719	5	5		
H20 年度	57	63	9	38		
H21 年度	111	157	18	74		

注：介護家族健康相談は H18 年度から介護保険法の地域支援事業で実施

図表 3—114 重点健康相談の状況

	総 数		高血圧		高脂血症		糖尿病	
	回 数 (回)	延べ人数 (人)	回 数 (回)	延べ人数 (人)	回 数 (回)	延べ人数 (人)	回 数 (回)	延べ人数 (人)
H17 年度	181	1,661	15	136	32	523	37	165
H18 年度	150	1,429	26	222	43	357	12	102
H19 年度	115	1,719	6	114	17	412	16	195
H20 年度	57	63	2	2	10	10	17	18
H21 年度	111	157	2	2	15	16	50	56

	骨粗鬆症		歯周疾患		病態別	
	回 数 (回)	延べ人数 (人)	回 数 (回)	延べ人数 (人)	回 数 (回)	延べ人数 (人)
H17 年度	1	2	55	557	41	278
H18 年度	0	0	40	495	29	253
H19 年度	1	3	56	739	19	256
H20 年度	1	1	19	24	8	8
H21 年度	0	0	18	57	26	26

注：H19年度で集団健康診査が終了したため相談件数が減少

(13) 機能訓練

(内容)

満40から64歳までの要介護認定をうけていない人を対象に、筋力アップを目指して市立保健センターで行っています。

地域においては、平成20年度まで、心身機能の低下により生じる閉じこもりや孤立等の社会的障がいへの回復または予防に重点をおき、地域の自治会館、老人会館等で訓練を集団で行いました。平成21年度からは、介護予防事業と統合して行っています。

図表 3—115 機能訓練の状況

[総数]

	実 施 施設数 (か所)	実 施 回 数 (回)	被 指 導 人 数			
			実人数 (人)	延べ人数 (人)		
				総数	40 歳～64 歳	65 歳以上
H17 年度	31	110	1,272	2,624		
H18 年度	34	106	1,169	2,567	563	2,004
H19 年度	30	98	1,342	2,488	433	2,055
H20 年度	34	125	1,170	2,631	1,121	1,510

図表 3—116 機能訓練（市立保健センター実施）の状況

	実 施 施設数 (か所)	実 施 回 数 (回)	被 指 導 人 数					
			実人数 (人)			延べ人数 (人)		
			総数	40 歳～ 64 歳	65 歳 以上	総数	40 歳～ 64 歳	65 歳 以上
H17 年度	1	48	38	14	24	774	285	489
H18 年度	1	48	40	20	20	901	443	458
H19 年度	1	46	48	22	26	896	423	473
H20 年度	1	48	47	47	0	844	844	0
H21 年度	1	48	49	49	0	891	891	0

注：H20年度から65歳未満を対象に実施

図表 3—117 機能訓練（地域の集会所等で実施）の状況

	実 施 施設数 (か所)	実 施 回 数 (回)	被 指 導 人 数			
			実人数 (人)	延べ人数 (人)		
				総数	40 歳～ 64 歳	65 歳以上
H17 年度	30	62	1,234	1,850		
H18 年度	33	58	1,129	1,666	120	1,546
H19 年度	29	52	1,294	1,592	10	1,582
H20 年度	33	77	1,123	1,787	277	1,510

注：H21 年度から機能訓練と介護予防事業を統合して実施

（１４）介護予防事業

（内容）

65歳以上の市民を対象に、介護が必要な状態にならないようにすることを目的に市立保健センターや地域の自治会館などで介護予防教室を行っています。また、地域での取り組みが期待される地区福祉委員や地区住民を対象に、介護予防のリーダーを養成するための講座（ボランティア養成講座）を実施しています。

図表 3—118 介護予防教室（地域で実施）の状況 H21 年度

小学校区	地区数	回数	実人数	延べ人数
	(地区)	(回)	(人)	(人)
楠小学校区	4	16	106	274
千代田小学校区	2	8	105	206
小山田小学校区	5	20	210	445
天野小学校区	4	12	236	420
三日市小学校区	3	15	72	239
南花台（東・西） 小学校区	1	3	30	44
加賀田小学校区	1	6	27	131
石仏小学校区	3	18	93	329
天見小学校区	3	8	83	160
川上小学校区	3	15	80	286
美加の台小学校区	4	24	110	436
合 計	33	145	1,152	2,970

図表 3—119 介護予防教室（市立保健センターで実施）の状況 H21 年度

教室名	回数(回)	コース数	参加者数	
			実人数 (人)	延べ人数 (人)
いきいき健康アップ教室（総合プログラム）	13	3	70	739
こころリフレッシュ教室（うつ予防）	4	2	26	93
脳げんき教室（認知症予防）	6	2	52	232

注：運動・栄養・口腔などを包括的に取り入れたものが総合プログラムです。

図表 3—120 ボランティア養成講座 H21 年度

	回数 (回)	コース数	参加者数	
			実人数 (人)	延べ人数 (人)
年度合計	6	2	33	148

（１５）訪問指導（訪問指導・訪問口腔指導・訪問栄養指導）

（内容）

疾病、負傷等により家庭において寝たきりの状態にある人、または各健康診査の結果で要指導及び要医療と判断された人に対して必要に応じ、保健師・管理栄養士・歯科衛生士等が訪問し、本人、家族に療養生活や生活習慣改善についての支援を行っています。

図表 3—121 訪問指導の状況

	実人数 (人)	延人数 (人)
H17 年度	104	287
H18 年度	49	100
H19 年度	82	132
H20 年度	51	82
H21 年度	50	72

（１６）自殺対策緊急強化事業

（内容）

自殺者が増加している現状や自殺防止対策の必要性について、チラシの配布や街頭キャンペーンなどを行い、普及啓発を行っています。また、自殺と関連が深いうつ病対策としてこころの相談会を行っています。

図表 3—122 こころの相談会の状況

	相談者数(人)
H21 年度	3

（１７）予防啓発活動

（内容）

フォレスト三日市市民ホール及び市立乳幼児センターを会場に、歯科医師会、薬剤師会を中心とした実行委員会方式で、11 月第 2 日曜日の「河内長野市健康の日」に、健康に関する正しい知識の普及・啓発や健康づくりに関する情報提供等を目的にいきいき健康展を行いました。

図表 3—123 いきいき健康展の状況

	来場者数 (人)
H19 年度	約 650
H20 年度	約 800
H21 年度	約 650

(18) 市民組織の活動状況

(内容)

保健事業に関わる市民組織の活動状況は以下の通りです。

①健康づくり推進員活動（H22 年 4 月現在 18 人）

- ・ 推進委員会開催 5 回／年
- ・ 健康づくり教室の開催 4 回／年
- ・ 健康ウォーキングの開催 1 回／年 ちょこっとハイク 5 回／年
- ・ ふれあいミュージック 2 回／年
- ・ 市民健康フェア参加
- ・ 随時市立保健センター事業への協力

②食生活改善推進員活動（H22 年 4 月現在 18 人）

- ・ 例会：毎月第3木曜日
- ・ 熟年男性への料理指導（にこにこ料理教室）：毎月第4水曜日
- ・ 市民まつりに参加
- ・ 市民健康フェアに参加（食生活改善コーナーで展示）
- ・ 親子クッキング教室の開催
- ・ 大阪府食生活改善連絡協議会理事会、総会、研修会、地区推進会議に出席など

③はつらつ出前ボランティア（H22 年 4 月現在 7 人）

- ・ 定例会：6 回
- ・ 機能訓練や介護予防事業終了後の自主グループを対象に筋力トレーニングやストレッチを実施
- ・ 生涯学習見本市などで、市民を対象に体操や歌体操、レクリエーションを実施
- ・ 福祉センター錦溪苑で、毎月ストレッチなどを実施
- ・ 地域で行っている介護予防事業に体操ボランティアとして協力

④その他の市民組織

- ・ 民生委員・児童委員・老人クラブ・地区福祉委員など

4) 精神保健対策の現状

(1) 患者の現状

図表 3—124 手帳所持者数の状況

単位：人

	河内長野市 精神保健福祉手帳所持者数
H17 年度	420
H18 年度	445
H19 年度	527
H20 年度	552
H21 年度	582

資料：障がい福祉課

(2) 精神保健福祉対策の現状

図表 3—125 個別相談状況の年齢別区分（実数）

(H21 年度) 単位：人

	件数
0～19 歳	7
20～39 歳	78
40～64 歳	55
65 歳～	22
合 計	162

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向（富田林保健所管内）

図表 3—126 援助別区分（延数）

(H21 年度) 単位：人

	件数
受療支援	492
治療継続支援	403
診断・判定	54
心理相談	124
障がい受容	50
就労支援	109
社会復帰	157
その他	176
合 計	1,565

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向（富田林保健所管内）

図表 3—127 集団援助・講演会・研修等・ネットワーク会議

(H21 年度)

	事業名	開催数	対 象	参加者数
集団援助	精神保健福祉家族教室	4 回	精神障がい者を抱える家族	125 名
	社会的ひきこもり家族の集い	9 回	ひきこもりを抱える家族	25 名
ネットワーク会議	自立支援促進会議 (ワーキンググループ会議含む)	11 回	関係機関職員	218 名
講演会・研修等	精神障がい者理解促進事業 ・当事者と家族相互理解に基づく関係	1 回	関係者・市民	34 名
	精神障がい者理解促進事業 ・精神障がい者の成年後見制度	1 回	関係者・市民	60 名
	関係機関職員研修会 ・地域活動支援センターの活動に学ぶ	1 回	関係機関職員	12 名
	精神障がい者理解促進事業 ・精神保健福祉の現状	3 回	民生委員・福祉委員	72 名

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向（富田林保健所管内）

図表 3—128 自立支援医療（精神通院）制度利用者数

単位：人

	利用者数
H17年度	1,213
H18年度	1,108
H19年度	1,069
H20年度	1,375
H21年度	1,238

注：H17年度は精神保健福祉法通院医療費公費負担制度対象者数

資料：障がい福祉課

図表 3—129 グループワーク活動の状況

	実施回数 (回)
H17年度	
H18年度	29
H19年度	44
H20年度	48
H21年度	47

資料：障がい福祉課

5) 感染症対策の現状

(1) 結核統計

①結核患者管理

図表 3—130 活動性分類

単位：人

	活動性結核					不活動性結核	活動性不明	計	潜在性結核感染症患者
	肺結核活動性				肺外結核活動性				
	登録時喀痰塗抹陽性		登録時 その他の 菌陽性	登録時 菌陰性 ・ その他					
	初回治療	再治療							
H16 年度	14	2	6	9	7	51	4	93	13
H17 年度	15	7	6	13	5	42	13	101	6
H18 年度	8	1	11	6	6	60	4	96	5
H19 年度	5	2	1	2	2	63	1	76	8
H20 年度	7	2	10	7	3	43	9	81	6
計	49	14	34	37	23	259	31	447	38

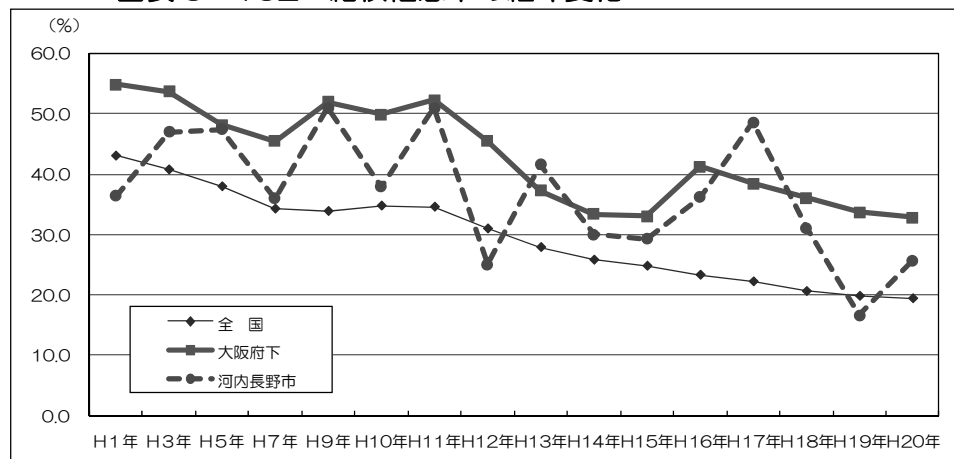
資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向（河内長野市）

図表 3—131 結核罹患率（人口 10 万対）

	全 国	大阪府下	河内長野市
H1年	43.1	54.8	36.4
H3年	40.8	53.7	47.0
H5年	38.0	48.2	47.4
H7年	34.3	45.5	35.9
H9年	33.9	51.9	51.0
H10年	34.8	49.9	37.9
H11年	34.6	52.3	51.0
H12年	31.0	45.4	25.1
H13年	27.9	37.2	41.6
H14年	25.8	33.4	30.0
H15年	24.8	33.0	29.3
H16年	23.3	41.2	36.2
H17年	22.2	38.4	48.6
H18年	20.6	36.1	31.1
H19年	19.8	33.7	16.6
H20年	19.4	32.8	25.7

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向

図表 3—132 結核罹患率の経年変化



資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向

(2) その他の感染症対策事業の現状

① 予防接種

図表 3—133 予防接種の状況（H21年度）

種 別		接種年齢	回数	実施日数 (日)	接種者数 (人)
急性灰白髄炎（ポリオ）		生後3か月～7歳6か月未満	2回	28	1,341
三種混合 1期 (ジフテリア) (百日せき) (破傷風)	初回	生後3か月～7歳6か月未満	3回	通年	3,099
	追加（初回終了から1年後）	生後3か月～7歳6か月未満	1回		
	生後3か月～7歳6か月未満				
二種混合 1期 (ジフテリア) (破傷風)	初回	生後3か月～7歳6か月未満	2回	通年	0
	初回	生後3か月～7歳6か月未満	1回		
	生後3か月～7歳6か月未満				
二種混合 2期 (ジフテリア) (破傷風)		小学6年生（～13歳未満） (三・二種混合 1期完了の人)	1回	通年	872
1期	麻しん風しん	1歳～2歳未満	1回	通年	740
	麻 し ん				4
	風 し ん				0
2期	麻しん風しん	平成15年4月2日～平成16年4月1日生 (小学校入学前の保育所・幼稚園の年長児の年齢に当る幼児)	1回	通年	842
	麻 し ん				0
	風 し ん				0
1期救済	麻しん風しん	2歳～6歳未満（2期対象者を除く） * 1期を受けられなかった人	1回	通年	7
	麻 し ん				1
	風 し ん				0
2期救済	麻しん風しん	小学1年生（H14.4.2～H15.4.1生） * 2期を受けられなかった人	1回	通年	9
	麻 し ん				0
	風 し ん				0
3期	麻しん風しん	平成8年4月2日～平成9年4月1日生 (中学1年生の年齢に当り、2期を受けていない人)	1回	通年	1,049
	麻 し ん				0
	風 し ん				1
4期	麻しん風しん	平成3年4月2日～平成4年4月1日生 (高校3年生の年齢に当り、2期・3期を受けていない人)	1回	通年	903
	麻 し ん				3
	風 し ん				7
日本脳炎	1期	初回 3歳～7歳6か月未満	2回	通年	966
		追加（初回終了から概ね1年後） 3歳～7歳6か月未満	1回		
	2期	小学4年生（～13歳未満）	1回	通年	16
インフルエンザ		満65歳以上 60歳以上65歳未満の者であって、厚生労働省令の要件を満たす人	1回	10月1日～ 翌1月30日	14,144
BCG		生後3か月～生後6か月未満	1回	通年	712
BCG救済		生後6か月～1歳未満	1回	通年	6
合 計					24,722

図表 3—134 感染症発生件数 (H21 年)

単位：件

分 類		富田林保健所
1 類感染症		0
2 類感染症（結核除く）		0
3 類感染症	細菌性赤痢	0
	コレラ	0
	腸チフス・パラチフス	0
	腸管出血性大腸菌感染症	3
4 類感染症	レジオネラ	9
	デング熱	2
5 類感染症	アメーバー赤痢	1
	梅毒	2
	麻疹	1

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向（富田林保健所管内）

（２）エイズ予防事業の現状

① ＨＩＶ相談事業

図表 3—135 ＨＩＶ相談・検査件数 (H21 年度)

単位：件

区 分		富田林保健所
相 談（延件数）	電話	21
	来所	326
抗 体 検 査	件数	183

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向（富田林保健所管内）

６）難病対策の現状

（１）難病及び難病対策事業の現状

①難病患者数の推移

図表 3—136

特定疾患患者承認者数

単位：人

番号	疾患名	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度
1	パーチェット病	11	14	12	12	11
2	多発性硬化症	11	9	10	8	9
3	重症筋無力症	16	18	16	17	18
4	全身性エリテマトーデス	61	62	62	64	64
5	スモン	2	2	2	2	2
6	再生不良性貧血	11	9	8	10	10
7	サルコイドーシス	19	17	18	21	25
8	筋萎縮性側索硬化症	6	5	5	8	5
9	強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎	44	50	47	50	50
10	突発性血小板減少性紫斑病	33	26	27	32	32
11	結節性動脈周囲炎	6	6	5	6	5
12	潰瘍性大腸炎	112	113	130	142	147
13	大動脈炎症候群	8	7	8	7	6
14	ピュルガー病	8	8	9	7	8
15	天疱瘡	2	2	1	1	2
16	脊髄小脳変性症	21	22	21	24	24
17	クローン病	20	22	25	26	30
18	難治性肝炎のうち劇症肝炎	2	0	0	0	0
19	悪性関節リウマチ	1	2	2	3	4
20	パーキンソン病関連疾患	84	85	102	109	104
21	アミロイドーシス	0	0	0	0	0
22	後縦靱帯骨化症	33	31	34	34	33
23	ハンチントン病	0	1	1	1	1
24	モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	6	6	7	8	8
25	ウェゲナー肉芽腫症	3	3	3	3	3
26	突発性拡張型（うっ血型）心筋症	16	18	17	15	14
27	多系統萎縮症	8	10	9	12	11
28	表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	0	0	0	0	0
29	膿疱性乾癬	1	0	0	0	0
30	広範腎柱管狭窄症	4	4	3	3	3
31	原発性胆汁性肝硬変（症候性）	19	21	21	20	19
32	重症急性膵炎	1	2	2	0	0
33	特発性大腿骨頭壊死症	15	16	13	16	15
34	混合性結合組織病	13	14	13	13	13
35	原発性免疫不全症候群	2	2	2	2	2
36	特発性間質性肺炎	6	7	10	12	16
37	網膜色素変性症	22	25	28	27	28
38	プリオン病	1	0	0	0	0
39	原発性肺高血圧症	3	3	1	1	1
40	神経線維腫症	3	0	4	4	4
41	亜急性硬化性全脳炎	0	0	0	0	0
42	バッド・キアリ(Budd-Chiri) 症候群	0	0	0	0	0
43	特発性慢性肺血栓塞栓症（肺高血圧型）	0	0	0	0	0
44	ライソゾーム病（ファブリー[Fabry]病含む）	0	0	0	0	0
45	副腎白質ジストロフィー	0	0	0	0	0
46	家族性高コレステロール血症（ホモ結合体）	0	0	0	0	0
47	脊髄性筋萎縮症	0	0	0	0	0
48	球脊髄性筋萎縮症	0	0	0	0	0
49	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0	0	0	0	1
50	肥大型心筋症	0	0	0	0	0
51	拘束型心筋症	0	0	0	0	0
52	ミトコンドリア病	0	0	0	0	0
53	リンパ管筋腫症（LAM）	0	0	0	0	0
54	重症多形滲出性紅斑（急性期）	0	0	0	0	0
55	黄色靱帯骨化症	0	0	0	0	0
56	間脳下垂体機能障害	0	0	0	0	5
	平成 21 年度					733
	平成 20 年度				720	720
	平成 19 年度			678	678	678
	平成 18 年度		644	644	644	644
	平成 17 年度	634	634	634	634	634

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向（河内長野市）

② 在宅難病患者訪問指導事業の現状

ア) 個別援助活動

図表 3—137 対象疾患群別訪問実施状況

(H21 年度) 単位：人

対象疾患群		神経・筋	膠原病	消化器	心 血管系	骨関節	呼吸器	その他	計
訪問 保健所 全体	訪問実数	123	5	2	6	1	5	3	145
	訪問延数	434	5	6	8	1	5	4	463
河内長野市	訪問実数	51	1	0	2	0	3	1	58
	訪問延数	180	1	0	3	0	3	1	188

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向

図表 3—138 患者把握数及び個別援助活動

(H21 年度) 単位：人

番号	疾患名	相談件数		訪問件数内訳	
		電話	面接	実数	延数
1	パーチェット病		43	0	0
2	多発性硬化症		35	0	0
3	重症筋無力症		58	0	0
4	全身性エリテマトーデス		163	1	1
5	スモン		5	0	0
6	再生不良性貧血		33	0	0
7	サルコイドーシス		58	1	1
8	筋萎縮性側索硬化症		37	13	105
9	強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎		140	0	0
10	突発性血小板減少性紫斑病		84	0	0
11	結節性動脈周囲炎		20	0	0
12	潰瘍性大腸炎		370	0	0
13	大動脈炎症候群		22	0	0
14	ピュルガー病		27	1	1
15	天疱瘡		14	0	0
16	脊髄小脳変性症		66	7	15
17	クローン病		93	0	0
18	難治性肝炎のうち劇症肝炎		2	0	0
19	悪性関節リウマチ		13	0	0
20	パーキンソン病関連疾患		316	24	41
21	アミロイドーシス		3	0	0
22	後縦靱帯骨化症		93	0	0
23	ハンチントン病		3	0	0
24	モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）		33	0	0
25	ウェグナー肉芽腫症		7	0	0
26	突発性拡張型（うっ血型）心筋症		54	1	2
27	多系統萎縮症		22	7	19
28	表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）		2	0	0
29	膿疱性乾癬		6	0	0
30	広範脊柱管狭窄症		10	0	0
31	原発性胆汁性肝硬変（症候性）		44	0	0
32	重症急性膵炎		24	0	0
33	特発性大腿骨頭壊死症		44	0	0
34	混合性結合組織病		34	0	0
35	原発性免疫不全症候群		4	0	0
36	特発性間質性肺炎		39	2	2
37	網膜色素変性症		69	1	1
39	原発性肺高血圧症		1	0	0
40	神経線維腫症		9	0	0
46	家族性高コレステロール血症（ホモ結合体）		1	0	0
48	球脊髄性筋萎縮症		1	0	0
49	慢性炎症性脱髄性多発神経炎		2	0	0
52	ミトコンドリア病		1	0	0
56	間脳下垂体機能障害		26	0	0
計		663	2,131	58	188

資料：富田林保健所管内の公衆衛生の動向（相談件数は富田林保健所管内 訪問件数内訳は河内長野市）

第4章 第2次保健計画等の評価

1. 評価の方法

「河内長野市第2次保健計画及び健康かわちながの21計画」は平成15年度から平成22年度までの8年間の計画で、中間年度にあたる平成18年度に中間評価を行い、健康かわちながの21計画の9つの分野について、取り組み状況を整理し目標値の達成状況をまとめました。

今回は、「河内長野市第2次母子保健計画」も合わせて、ライフステージ別に評価を行いました。妊産婦期から乳幼児期、学童期・思春期までは、母子保健事業の取組状況を中心に現状を分析し、青年期・成人期、中高年期、高齢期については、「健康かわちながの21計画」の9つの分野毎に各期を一体的に分析し評価しました。

なお、具体的な評価手順については、下記のとおりです。

- (1) 保健事業の実施状況や市民へのアンケート調査、統計資料などを通して現状を分析しました。
- (2) 第2次計画策定時の数値と現状地の数値を比較し、今後の取り組みの課題を検討しました。評価指標については、健やか親子21と健康かわちながの21の指標を用いました。目標値を達成したものには◎、数値等の改善がみられたものには○、数値の改善がみられなかったものには×としました。
- (3) 評価指標の項目数から算出した目標の達成状況について数量化しました。

上記の手順で総合評価することにより、ライフステージ別の課題と今後の方向性をまとめました。

2. 現状の分析と評価

1) ライフステージ別

(1) 妊産婦期（妊娠から出産）

<評価指標>

※達成状況（平成 17 年度と現状の比較）

◎は目標を達成しているもの

○は改善しているもの

×は悪化しているもの

妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援

項 目	平成 17 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目 標 平成 22 年度
妊産婦死亡率 妊産婦死亡数	0 人 (H14 年大阪府衛生年報)	0 人 (H21 年大阪府衛生年報)	◎	維持
妊娠・出産について 満足している者の割合 現状 — 「妊娠がわかったときにうれしかった人の割合」	79.0% (H16 年河内長野市次世代育成 支援に関わるニーズ調査)	92.0% (H22 年妊娠届出時アンケート)	○	100%
妊娠 11 週以下での妊娠届出率	84.3% (H15 年河内長野市 母子保健統計)	92.4% (H21 年河内長野市 母子保健統計)	○	100%

主な取り組み

ア) 妊娠届出時からの継続したサポート体制の充実

- 妊婦の健康管理の充実及び負担の軽減のため、妊婦健康診査の助成を平成 19 年度 6 月から 2 回、平成 20 年度から 5 回、平成 21 年度から 14 回へ拡充し府外受診者の助成も行いました。1 人の妊婦の受診回数は平成 20 年 4.5 回、平成 21 年は 11.3 回といずれも助成回数より低くなっています。
- 両親教室では、妊婦同士が交流できるようグループをつくり、出産後も同窓会を行い子育ての孤立化を防ぐために友達づくりを行いました。
- 母子健康手帳交付時に子育ての支援に関する情報や父子手帳を配付しています。妊婦のほとんどが市役所で妊娠届出を提出しているため、市立保健センターでの妊婦面接は 5%に留まっています。

イ) ハイリスク妊婦への早期からの関わり

- 支援が必要な妊婦には、保健師が個別支援を行っています。妊娠届出件数は減少傾向ですが、35 歳以上の妊婦などハイリスク妊婦が増加しています。

ウ) 就労している妊婦への相談体制の充実

- 就労している妊婦、父親が参加しやすいよう土曜日に両親教室を開催しました（年 4 回）。平成 21 年度の平日・土曜日に開催した両親教室受講妊婦の 59.0%が夫・パートナーと一緒に受講しており、そのうち 91.3%の夫・パートナーが土曜日に受講しました。

工) 禁煙についての啓発及び支援

- 妊婦健康診査の問診票に喫煙の項目を追加し、喫煙状況を把握しました。妊娠中の喫煙率は2.8%で全国の5.5%（健やか親子第2回中間評価）より低くなっています。

統計資料やアンケート結果からの現状分析

- 周産期死亡は、平成16年から平成21年までの6年間で18人、周産期死亡率（出生千対）は3.9となり、全国（平成21年）の4.2より低くなっています。
なかでも早期新生児死亡は6年間で2名です。
- 死産は自然死産、人工死産あわせて、平成16年から平成21年までの6年間で114件、死産率（出生千対）は24.1となり、大阪府（平成21年）の24.5、全国（平成21年）の24.6よりやや低くなっています。自然死産と人工死産では、自然死産は平成16年から平成21年までの6年間で51件、11.0、人工死産は63件、13.3であり、人工死産率は大阪府、全国の平成21年より低くなっています。
- 妊婦アンケートによると、妊娠がわかったときの気持ちでは、予想外の妊娠と感じた妊婦が35.5%、また、心配なことがあると答えた人は約半数の48.4%でした。子育てに関する不安などへの相談体制の整備が必要です。

<評価>

- 妊産婦の死亡数は0人で、目標を達成できました。
- 妊娠・出産について満足している人の割合は、92.0%で平成17年度に比べると高くなっていますが、目標の100%を達成することはできませんでした。
- 妊娠届は92.4%が妊娠11週までに提出され平成17年に比べると高くなっていますが、目標の100%を達成することはできませんでした。
- 妊娠中の喫煙率は平成17年度より低くなっていますが、妊娠中の飲酒率は平成17年度より高くなっており、ともに目標を達成できませんでした。



(2) 乳幼児期（出生から5歳）

<評価指標>

小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備

項 目	平成 17 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目 標 平成 22 年度
周産期死亡率 (出生千対)	8 人 (H14 年大阪府衛生年報)	周産期死亡数 5 人 周産期死亡率 7.2 (H21 年大阪府衛生年報)	○	減少
全出生数中の低出生体重児の割合	8.8% (H15 年大阪府富田林保健所事務概要書)	9.2% (H21 年富田林保健所管内の公衆衛生の動向)	×	減少
新生児死亡率 (出生千対)	1.1 (H15 年大阪府衛生年報)	1.0 (H21 年大阪府衛生年報)	◎	減少
乳児（1 歳未満）の死亡率 (出生千対)	3.3 (H15 年大阪府衛生年報)	1.0 (H21 年大阪府衛生年報)	◎	減少
幼児（1 歳～4 歳）死亡率 (人口 10 万対)	—	2 人 1.8 (H20 年死亡票)		減少
不慮の事故死亡率 不慮の事故死亡数	—	0～5 歳 0 人 6～18 歳 2 人 (H18 年死亡票)		維持 減少
う歯のない3歳児の割合	75.4% (H17 年度3歳6か月児健康診査受診結果)	75.3% (H21 年度3歳6か月児健康診査受診結果)	×	80%以上
妊娠中の喫煙率	7.7% (H16 年河内長野市次世代育成支援に関するニーズ調査)	2.8% (H21 年妊婦健診受診票)	○	なくす
妊娠中の飲酒率	11.2% (H16 年河内長野市次世代育成支援に関するニーズ調査)	13.0% (H21 年妊婦健診受診票)	×	なくす
かかりつけの小児科医を持つ親の割合 H17 年度—「かかりつけ医がいる」 現状—「かかりつけ医をもつ幼児の割合」	81.9% (H16 年河内長野市次世代育成支援に関するニーズ調査)	92.6% (H22 年1歳7か月、2歳6か月、3歳6か月児健康診査受診児の保護者向けアンケート)	○	100%

項 目	平成 17 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目 標 平成 22 年度
事故防止対策を実施している 家庭の割合	—	97.2% (H22 年 4 か月、1 歳 7 か月、 2 歳 6 か月、3 歳 6 か月児健康 診査受診児の保護者向けアンケート)		100%
1 歳までに BCG 接種を 終了している者の割合	—	98.0% (H21 年河内長野市 母子保健統計)	◎	95%
1 歳 6 か月までに三種混合・ 麻疹の予防接種を終了している 者の割合 現状一麻疹第 1 期(7才)接種率	—	91.9% (H18～H21 年 河内長野市母子保健統計)		100%

子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減

項 目	平成 17 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目 標 平成 22 年度
子どもを虐待していると思う 親の割合 現状一子どもを虐待していると思うこと がある親の割合	23.2% (H16 年河内長野市次世代育成 支援に関するニーズ調査)	17.6% (H21 年河内長野市次世代育成 支援に関するニーズ調査)	○	減少傾向へ
ゆったりとした気分で子どもと 過ごせる時間がある母親の割合 現状一「お母さんはゆったりとした気分 で子どもと過ごす時間がありま すか」の設問に対し「はい」と 回答した親の割合	67.6% (H16 年河内長野市次世代育成 支援に関するニーズ調査)	84.8% (H21 年 1 歳 7 か月児健診、 3 歳 6 か月児健診問診票)	○	増加傾向へ
育児について相談相手のいる 母親の割合	91.9% (H16 年河内長野市次世代育成 支援に関するニーズ調査)	95.3% (H21 年河内長野市次世代育成 支援に関するニーズ調査)	○	増加傾向へ
乳幼児の健康診査に 満足している者の割合 H17 年度一「医師や保健師の話が勉強に なった」と回答した親の割合 現状一 乳幼児健診受診者で健診受 診後「とても満足」「満足」 と回答した親の割合	24.5% (H16 年河内長野市次世代育成 支援に関するニーズ調査)	75.9% (H22 年 4 か月、1 歳 7 か月、 2 歳 6 か月、3 歳 6 か月児健康 診査受診児の保護者向けアンケート)	○	増加傾向へ

主な取り組み

ア) 保健事業を通しての子育て支援の充実

- 平成19年度から、こんにちは赤ちゃん訪問事業で、生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供などを行い、様々な不安や悩みを解消できるように努めました。
- 4か月児健康診査時にブックスタート事業を実施しています。その際、図書館司書や読み聞かせボランティアなどによる読み聞かせをしました。
また、子育て支援センターの保育士による子育て支援センターの事業案内を行いました。

イ) 事故予防についての啓発、推進

- 両親教室の同窓会や4か月児健康診査で、事故予防に関する教育を実施しました。
- 乳児後期健康診査受診票発送時に事故予防の啓発チラシを同封しました。
- 市立乳幼児健診センターに事故予防に関するグッズやパネルの展示を行いました。

ウ) 保護者への積極的な健康情報の提供

- 乳幼児健康診査で保護者に女性のがん検診や禁煙啓発、虐待防止のチラシ、各年齢に応じた、育児・発達・子どもの健康に関する情報のパンフレットを配布しました。また、家族喫煙者に対する禁煙指導を行いました。
- 平成20年度から、1歳7か月児健康診査で保護者の歯科検診を実施（平成21年度の実施率50.4%）しました。
- 平成19年度から子育て支援センターと共催で、就学前の子どもを母親を対象に口腔衛生教育（実習あり）と乳がん自己触診実習を取り入れた教室を行いました。

エ) 健康診査未受診者の状況把握及び受診勧奨

- 乳幼児健康診査の受診率は、いずれの健康診査でも90%前後で推移しており、大阪府や全国の平均を上回っていますが、乳幼児健康診査は発育の節目に実施し、育児支援の貴重な機会となるため、電話・訪問などで個別に勧奨し、未受診者の状況を把握できるように努めました。

オ) 虐待予防を視野に入れた保健事業の展開

- 乳幼児健康診査未受診家庭には、受診勧奨を行い必要時家庭訪問を実施しています。訪問しても不在の場合は、子育て支援課と連携しています。
- こんにちは赤ちゃん事業の訪問では、「エジンバラ産後うつ病質問票」を用い、母親の育児不安や精神面・身体面への多面的な継続支援を行いました。訪問でエジンバラが実施できた512事例中9点以上のハイリスク者は10.9%で、エジンバラ以外でも約13.5%が継続フォローとなっています。
- 訪問、健康診査などで虐待を疑う場合は、「乳幼児虐待リスクアセスメント」指標を使用して情報の整理を行い、虐待予防のための個別支援を行いました。また、虐待のリスクがあれば子育て支援課に通告しています。
- 要保護児童対策地域協議会で情報の共有を行い、関係機関との連携を図りました。

カ) フォローの必要な児へのサポート体制の充実

- 経過観察健康診査、専門クリニック、発達相談、ことば相談などの二次健康診査を行いました。経過観察健診では受診者の約 5 割以上が、発達相談では受診者の 8 割以上が更に経過観察が必要となっています。必要に応じて子育て支援課が行っている幼児健全発達支援事業なども紹介しました。
- 地区担当保健師が家庭訪問や電話などにより状況を把握し、情報提供や自閉症児支援センター SUN・聖徳園・医療機関関係機関などとの連携で発達障がい児の支援を行いました。
- 就学相談委員会に委員として参加し、小学校入学に向けて関係機関との連携を図りました。

キ) 食育の推進

- 地域の保育園や子育てサークルなどでの健康教育や、訪問や電話での栄養相談などを通じて食生活に関する正しい知識の普及に努めるなど、食育の推進に取り組みました。
- 離乳食講習会において、平成 16 年より 5～8 か月頃の離乳食（もぐもぐ教室）と 9～18 か月頃の離乳食（かみかみ教室）に教室を分け、参加者のニーズに応じられるよう努めました。

統計資料やアンケート結果からの現状分析

- 出生数は減少傾向、平成 20 年にやや増加しましたが、出生率、合計特殊出生率は大阪府、全国と比べても低くなっています。0-14 歳の年少人口も減少しています。
- 母親の年齢別出生数では、平成 21 年は 19 歳以下が全体の 0.9%であり、大阪府、全国と比べて低くなっています。35 歳以上は増加傾向にあり、平成 21 年は 24.7%となり大阪府、全国と比べて多くなっています。
- 出生時の体重が 2500 ㌔未満の低出生体重児の割合は、平成 21 年は 9.2%で、大阪府、全国と比べてやや低くなっています。
- 出生順位別では、平成 21 年は第 1 子が 41.0%、第 2 子以降が 59.0%と大阪府に比べて第 2 子、第 3 子以降が占める割合が高いです。
- 歯の健康については、3歳6か月児健診のう歯（むし歯）のない幼児の割合は 75.3%で大阪府（平成 21 年）76.3%を下回っています。

※4か月児健康診査問診票（平成 21 年度）より分析を行いました。

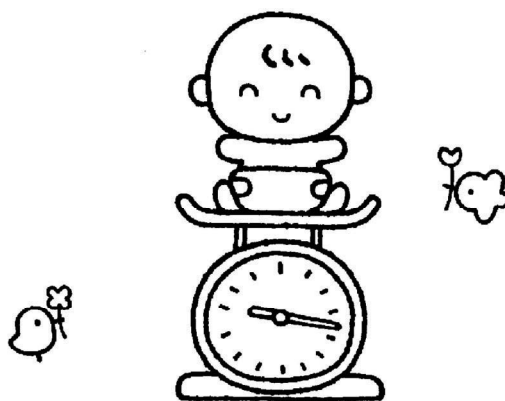
- 第 1 子・第 2 子ともに 85%近い母親が育児不安を抱いており、出生順位での相違はありませんでした。

※3歳6か月児健康診査で「食生活のアンケート」を実施しました。（平成 22 年度）

- <朝食を欠食することがある子ども>は 2.3%となっています。
- <野菜>については「ほぼ毎食食べる」が最も多く 44.6%となっていますが、反対に野菜をほとんど食べない子どもが 3.4%と少ないながらもいます。
- <保護者の「食育」という言葉の認知度>は「言葉も意味も知っていた」が 56.6%、「言葉だけ知っていた」が 36.0%、「言葉も意味も知らなかった」が 5.7%となっています。
- <食育に関心があるか>については「関心がある」が 39.4%、「どちらかといえば関心がある」が 46.9%となっています。

<評価>

- 新生児死亡率及び乳児死亡率はともに0で、目標を達成できました。
- かかりつけの小児科医を持つ親の割合は 92.6%で平成 17 年度より高くなっていますが、目標の 100%を達成することはできませんでした。
- BCG を終了している者は 98.0%、三種混合・麻疹の予防接種を終了している者の割合は 91.9%で、ともに 90%を超えていますが、目標の 100%を達成できませんでした。
- 事故防止対策を実施している家庭の割合は 97.2%で、目標の 100%を達成することはできませんでした。
- 子どもを虐待していると思う親子の割合、ゆったりした気分で子ども過ごせる時間がある母親の割合、育児について相談相手のいる母の割合、乳幼児の健康診査に満足している者の割合は、平成 17 年度と比べると改善がみられました。



(3) 学童期・思春期（6歳から18歳）

<評価指標>

思春期の保健対策の強化と健康教育の推進

項 目	平成 17 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目 標 平成 22 年度
十代の自殺率 十代の自殺者数	—	自殺者数 1 人 (H18 年～H21 年)		減少傾向へ
児童生徒における肥満児の割合	—	3.0% (H21 年度学校保健統計調査)		減少傾向へ
薬物乱用の有害性について 正確に知っている小・中・ 高校生の割合 薬物に対する認知度（急性中毒） ★中学生 ★高校生	53.7%（中学2年生） 71.2%（高校2年生） (H16 青少年の次世代育成など に関わる実態と意向調査)	77.9%（中学3年生） 85.6%（17・18 歳） (H22 年市民アンケート)	○ ○	100% 100%
薬物に対する認知度（依存症） ★中学生 ★高校生	70.7%（中学2年生） 88.5%（高校2年生） (H16 青少年の次世代育成等 に関わる実態と意向調査)	94.4%（中学3年生） 95.4%（17・18 歳） (H22 年市民アンケート)	○ ○	100% 100%
十代の喫煙率 ★中学生 ★高校生 H17 年度—「1 カ月間での喫煙有」 現状 —「吸ったことがある・吸っている」	1.3%（中学2年生） 5.8%（高校2年生） (H16 青少年の次世代育成等 に関わる実態と意向調査)	1.9%（中学3年生） 11.6%（17・18 歳） (H22 年市民アンケート)	× ×	なくす なくす
十代の飲酒率 ★中学生 ★高校生 H17 年度—「1 カ月間での飲酒有」 現状 —「飲んだことがある・飲んでいる」	9.2%（中学2年生） 29.5%（高校2年生） (H16 青少年の次世代育成等 に関わる実態と意向調査)	32.2%（中学3年生） 49.3%（17・18 歳） (H22 年市民アンケート)	× ×	なくす なくす

項 目	平成 17 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目 標 平成 22 年度
性行動による性感染症等の 身体的影響について知識のある 高校生の割合 「性行動は、相手のことや 身体を傷つける可能性がある と思う」	—	94.2%（17・18 歳）		100%
「自分の身体を大切にしている 人の割合」	—	91.8%（17・18 歳） （H22 年市民アンケート）		100%
スクール・カウンセラーを 配置している中学校の割合	—	100% （H22 年市立中学校）		維持

主な取り組み

ア) 健康教育の充実

- 平成 21 年度から中学校区で開催の「バラエティーフェスタ」に参加し、小中学生や保護者に、喫煙による健康への影響について啓発活動を行いました。

イ) 保護者への積極的な健康情報の提供

- 平成 17 年度から 20 年度まで児童ふれあい交流促進事業（いのちのふれあい教室）を実施しました。その際保護者同伴での参加とし、親子で命の大切さを考える機会を設けました。

ウ) 思春期保健の充実

- 小学校をはじめ地域からの依頼に応じて、沐浴人形や胎児模型、胎盤の模型などの貸し出しを行いました。

エ) 児童・生徒の悩みの相談体制の充実

- 保護者から児童・生徒に関する相談があれば、内容に応じ相談機関を紹介しました。
- 18 歳までの子どもに関わる問題や悩みの電話相談及び来室相談を家庭児童相談員が実施しました（子育て支援課）。

オ) 安全な生活環境づくり

- 本市他 2 市 2 町 1 村が共同で医師の確保を行い、数少ない小児科医の協力のもと日曜日・祝日、夜間・早朝（午後 8 時から翌朝 8 時）などの小児急病診療体制を確立しました。

力) 学校保健と地域保健の連携

- 児童ふれあい交流促進事業（いのちのふれあい教室）の実施にあたり、担当地区の学校の養護教諭と連携を図りました。

統計資料やアンケート結果からの現状分析

- 児童生徒における肥満児の割合が、全国 10.4%と比較し、本市では 3.0%と非常に低くなっています。ローレル指数で「やせすぎ」の子どもは中学校 3 年生で 6.0%。全国中学生では 2.7%(総務省「小児医療に関する行政評価・監視結果」報告書)であることから、「やせすぎ」の子どもが多くなっています。「やせぎみ」も本市 34.1%で、全国 27.1%と比較して多くなっています。
- 薬物乱用について正確に知っている小・中・高校生の割合は、平成 16 年の調査時より高くなっており、全国平均と比較しても高くなっています。
- 喫煙経験率は、中学 3 年生 1.9%、17・18 歳男女 11.6% です。
- 未成年者の喫煙は、「法律で禁止されているからいけない」と思っている小学 6 年生の割合は 86.4%ですが、年齢が高くなるにつれその割合が低くなり、反対に「本人の考えにまかせればいい」が年齢とともに高くなり、17・18 歳では 42.2%となっています。
- 飲酒経験は、中学 3 年生 32.2%、高校 3 年生 49.3%です。飲酒のきっかけは「好奇心」が中学 3 年生 48.7%、17.18 歳 47.6%と最も多く、次いで「大人にすすめられて」が中学 3 年生 20.2%、17.18 歳 19.3%と多くなっています。
- 性行動による性感染症などの身体的影響などについて、知識のある高校生の割合は 94.2%で、全国の 66.3%と比較して高くなっています。また自分の身体を大切にしている割合も全国に比べて高くなっています。
- 朝食は、ほぼ毎日食べる人が小学校 3 年生では 97.1%ですが、年齢が上がるにつれて減少し、17.18 歳では 85.4%です。
- 悩み事の相談相手について、小学生は「親」が最も多く、中学生、17.18 歳は「友達」が最も多くなっています。小学 6 年生、中学 3 年生に「いない」と答えた人が多く、それぞれ 16.7%、15.4%で平成 13 年と比較すると改善しています。
- フッ素入り歯磨剤を使用している割合が高く、歯磨きの習慣が定着しています。

<評価>

- 薬物に対する認知度では、中学生・高校生ともに平成 17 年度に比べて高くなっていますが、目標の 100%を達成できませんでした。
- 十代の禁煙率・飲酒率は、平成 17 年度に比べて高くなっており目標を達成できませんでした。

(4) 青年期・成人期(19歳から39歳)から高齢期(65歳以上)まで

たばこ

※達成状況(平成13年度と現状の比較)

◎は目標値を達成しているもの

○は改善しているもの

×は悪化しているもの

<評価指標>

項 目	平成13年度	平成18年度	現 状 平成22年度	達成 状況	目標値 (平成22年度)
喫煙している人の減少					
★男性	41.9%	29.8%	25.3%	◎	30%以下
★女性	12.4%	5.1%	11.6%	○	5%以下
	(H13年市民アンケート)	(H18年市民アンケート)	(H22年市民アンケート)		
未成年者の喫煙をなくす					
★男性(高校3年)	13.4%	—	7.3%	○	0%
★女性(高校3年)	9.9%	—	3.5%	○	0%
	(H13年市民アンケート)		(H22年市民アンケート)		
喫煙が及ぼす健康影響について知っている人の増加					
★肺がん	93.9%	94.2%	94.9%	○	100%
★喘息	55.1%	60.6%	60.2%	○	100%
★気管支炎	62.2%	67.0%	67.8%	○	100%
★心臓病	40.7%	43.9%	49.3%	○	100%
★脳卒中	29.5%	45.3%	46.9%	○	100%
★胃潰瘍	25.2%	23.4%	25.4%	○	100%
★妊娠に関連した異常	37.2%	41.0%	36.3%	×	100%
★歯周病	13.8%	23.1%	24.6%	○	100%
	(H13年市民アンケート)	(H18年市民アンケート)	(H22年市民アンケート)		
職場における分煙の推進					
★職場における分煙の割合	54.7%	—	73.5%	○	100%
	(H13年市民アンケート)		(H22年市民アンケート)		

主な取り組み

- 主な取り組みとして、さまざまな機会に、喫煙による健康への害（受動喫煙含む）を啓発することや禁煙希望者への禁煙サポートを中心に取り組んできました。特に青年期・成人期の若い人への啓発として、健康づくり推進員により、市内全ての幼稚園・保育園に禁煙啓発用のティッシュを配布し、子どもを通じて親世代への啓発を行いました。職域については、市内4か所の企業にたばこ相談の啓発のため、市立保健センターの事業案内や、禁煙のパンフレットを提供しました。また中小企業にも働きかけるため、商工会で実施する健康診断時に配布できるように、禁煙チラシを提供しました。

統計資料やアンケート結果からの現状分析

- 全国の20歳以上の喫煙率は平成21年では男性38.9%、女性11.9%（日本たばこ産業株式会社調べ）で、本市の喫煙率は17.9%（男性25.3%、女性11.6%）となっており、全国と比較すると喫煙率は低くなっています。
- たばこを吸い始めた年齢は、20歳が37.4%と最も多くなっていますが、20歳未満で吸い始めた人も27.1%となっています。
- 喫煙者のうち、男性の64.4%、女性の77.8%が禁煙を希望しています。男性では、青年期・成人期、中高年期、高齢期ともに約6割が禁煙を希望しており、女性では、青年期・成人期で約9割と高くなっています。
- 喫煙が健康に及ぼす影響の認知率は、肺がん、ぜんそく、気管支炎については半数以上の人が認知していますが、心臓病、脳卒中、胃潰瘍、早産、低体重児出産、歯周病については半数以下となっています。早産、低体重児出産について、女性は認知度が50%を超えていますが、男性は10%台で低くなっています。
- 職場における禁煙、分煙の割合は73.5%であり、そのうち4.2%が守られていないと回答しています。

評価

- 喫煙率は17.9%（男性25.3%、女性11.6%）で、男性の喫煙率は、目標値の30%以下を達成しました。
- その他の項目については、目標を達成できたのは少なかったのですが、平成13年度に比べ改善した項目が多く、禁煙に関する時代の流れもその一因であったと思われます。
- 喫煙が及ぼす健康影響について知っている人の割合は、肺がん、心臓病、脳卒中、歯周病で平成13年度より増えています。
- 職場における分煙の割合は73.5%で目標の100%には達成しませんでした。平成13年度に比べると20%近く高くなっています。

糖尿病

<評価指標>

項 目	平成 13 年度	平成 18 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目標値 (平成 22 年度)
基本健康診査で糖尿病 医療の増加を抑える ★男性 ★女性 現状は空腹時血糖が 126mg / d l 以上または HbA1c が 6.1%以上の 者	6.0% 2.6% (H13 年度 老人保健事業データ)	13.7% 7.3% (H17 年度 老人保健事業データ)	13.6% 7.2% (H21 年度 河内長野市特定健康 診査結果)	× ×	8.0%以下 4.6%以下
基本健康診査における 血糖値（グルコース）異常 所見者の事後指導受診率 ★男女合計 ★男性 ★女性	43.3% — — (H13 年度 老人保健事業データ)	54.0% — — (H17 年度 老人保健事業データ)	— — —		80%以上 — —
成人の肥満者の減少 ★20～60歳代男性の 肥満型（BMI 25.0 以上） ★40～60歳代女性の 肥満型（BMI 25.0 以上）	21.9% 16.9% (H13 年市民アンケート)	28.4% ※40～60 歳代 18.2% (H17 年度 老人保健事業データ)	25.8% 12.4% (H22 年市民アンケート)	× ◎	15%以下 15%以下
質・量ともにバランスの とれた食事をする人の増加 ★成人 ※1 日最低 1 食は、家族あるいは 友人と食事をともにしており、 かつ 1 日最低 1 食は 30 分以上 かけて食事をしている人の割合	34.1% (H13 年市民アンケート)	78.7% (H18 年市民アンケート)	29.5% (H22 年市民アンケート)	×	60%以上
糖尿病検診の受診の促進 ★健康診査を受ける人の割合 ※健康診査・人間ドックを受けた人の 割合	61.0% (H13 年市民アンケート)	—	63.4% (H22 年市民アンケート)	○	70%以上
★基本健康診査受診率 ※現状は河内長野市国民健康保険 特定健診受診率	34.8% (H13 年度 老人保健事業データ)	54.8% (H17 年度 老人保健事業データ)	32.4% (H21 年度法定報告)	×	50%以上

主な取り組み

- 主な取り組みとして、糖尿病のハイリスク者に対し個別の糖尿病予防相談を実施し、特定保健指導の中でも糖尿病予防のための栄養指導や運動教室を実施しました。また糖尿病予防について広く啓発するため、地域で開催する健康教室や生活習慣病予防教室などで食生活や運動について情報提供するとともに健康診査の受診勧奨を行いました。楽しく運動に取り組むきっかけづくりとして、ウォーキング教室を実施しました。

統計資料やアンケート結果からの現状分析

- 本市の国民健康保険のレセプト（平成 21）から内分泌系の受診状況をみると、入院では 7 番目の 4.6%ですが、外来では循環器系の 20.6%に次いで 2 番目の 12.6%となっています。内分泌系の受診状況の内訳をみると糖尿病は入院では 84.6%、外来では 49.4%を占めており、大阪府の入院 76.1%、外来 46.7%と大差はありません。糖尿病が全体の医療費に占める割合は、入院では 3.4%、外来では 7.9%となっており、大阪府の入院で 2.7%、外来で 7.1%と比べると本市は大阪府より若干高くなっています。
- 糖尿病の合併症として関連が深い腎不全による年齢調整死亡率（人口 10 万対）をみると、平成 21 年は 9.8（男性 10.9、女性 9.3）で、平成 18 年の 7.6（男性 7.4、女性 8.5）より高くなっています。
- 平成 21 年度の特定健康診査の結果、糖尿病の受診勧奨域であった人は、男性 13.6%、女性 7.2%で平成 13 年度と比べ倍増しています。
- 全国の調査（平成 19 年国民健康・栄養調査）では、30 歳代より糖尿病のハイリスク者が増加し、40 歳代では 1 割以上、50 歳代では 3 割以上、60 歳代では男性が 4 割弱、女性が 3 割強、70 歳代では男性が 4 割強、女性が 3 割強となっています。

評価

- 40～60 歳代女性の肥満型は 12.4%で、目標の 15%を達成できました。
- 健康診査で糖尿病医療の人は男性が 13.6%で、平成 13 年度の 6.0%から倍増し、目標の 8%を達成できませんでした。また、女性においても糖尿病医療の人は 7.2%で、目標の 4.6%を達成できませんでした。
- 健康診査の受診率は 63.4%で目標の 70%を達成できませんでした。

休養・こころの健康づくり

<評価指標>

項 目	平成 13 年度	平成 18 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目標値 (平成 22 年度)
自分が打ち込んでやりがいや 充実感を得られるものを もっている人の増加 ★もっている人の割合 (もっている・まあまあもって いる)	61.5% (H13 年市民アンケート)	—	60.3% (H22 年市民アンケート)	×	70%以上
悩みごと等必要なときに相談 できる相手がいない人の減少 ★成人 ★17・18 歳 ★中学生 (中学 3 年生) ★小学生 (小学 6 年生)	10.2% 11.8% 26.4% 23.3% (H13 年市民アンケート)	— — — —	14.9% 10.9% 15.4% 16.7% (H22 年市民アンケート)	×	8%以下 8%以下 20%以下 20%以下
こころが疲れたとき相談 できる専門機関を知っている 人の増加 ★知っている人の割合	38.0% (H13 年市民アンケート)	—	47.9% (H22 年市民アンケート)	○	57%以上
ストレスを感じた人の減少	68.4% (H13 年市民アンケート)	71.1% (H18 年市民アンケート)	67.7% (H22 年市民アンケート)	○	62%以下
ストレスを解消できている 人の増加	55.8% (H13 年市民アンケート)	64.3% (H18 年市民アンケート)	54.7% (H22 年市民アンケート)	×	60%以上
睡眠による休養を 十分とれていない人の減少	24.8% (H13 年市民アンケート)	20.4% (H18 年市民アンケート)	23.9% (H22 年市民アンケート)	○	22%以下
睡眠確保のために睡眠補助品 を使用する人の減少	17.3% (H13 年市民アンケート)	—	21.9% (H22 年市民アンケート)	×	16%以下
自殺者の減少	24 人 (H12 年大阪府 衛生年報)	26 人 (H16 年大阪府 衛生年報)	37 人 (H21 年大阪府 衛生年報)	×	10 人以下

主な取り組み

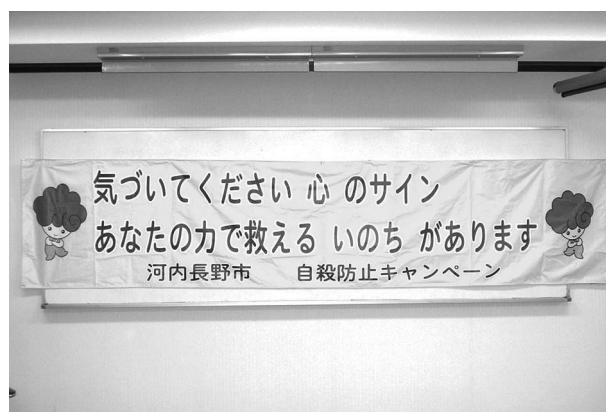
- 主な取り組みとして、こころの健康教室や睡眠セミナー、高齢者健康づくり事業としてうつ予防の教室を実施しました。平成 21 度からは自殺対策として、市内主要駅前でポケットティッシュやボールペンなど啓発グッズの配布、リーフレットの折込配布、パンフレット作成、ストレスチェック、こころの相談会などを実施しました。

統計資料やアンケート結果からの現状分析

- 全国の死因順位で自殺は 7 位であり、平成 10 年以降 3 万人を超えて推移しています。平成 21 年の自殺の死亡率（人口 10 万対）は 25.8 で、50 歳代から 60 歳代がもっとも多く、男性が女性の 2～3 倍となっています。また、青年期・成人期の死因順位の 1 位となっています。
- 本市の自殺の死亡率（人口 10 万対）は、平成 19 年は 27.1、平成 20 年は 17.6、平成 21 年は 32.8 で、平成 19 年から平成 21 年の平均は 25.8 であり、全国とほぼ同程度となっています。
- 普段の睡眠で休養がとれていない人は 23.9%であり、青年期・成人期は、中高年期・高齢期より高くなっています。
- 普段の生活でストレスを感じることのある人は 67.7%で、青年期・成人期では 83.2%となっており、中高年期や高齢期より高くなっています。43.4%の人がストレスをうまく解消できないと回答しています。
- 睡眠補助品などを使用する人の割合は、男性 25.1%、女性 19.3%と、男性が女性より高くなっています。また、年齢が上がるにつれて、常時使用する人が増加しています。
- こころの相談ができる専門機関を知らない人は 52.0%となっています。

評価

- 相談できる専門機関を知っている人は 47.9%で、目標には達していませんが、平成 13 年度に比べると高くなっています。
- ストレスを感じた人の割合、ストレスを解消できている人の割合、睡眠による休養を十分とれていない人の割合、睡眠確保のために睡眠補助剤を使用する人の割合では、平成 13 年度とほとんど変化なく、目標を達成できませんでした。
- 自殺者は年間 20 人から 30 人で経過しており、目標の 10 人以下を達成できませんでした。



身体活動・運動

<評価指標>

項 目	平成 13 年度	平成 18 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目標値 (平成 22 年度)
外で体を使って遊んだり、 運動をしている児童・生徒の 増加 ★小学生（小学 6 年生） ★中学生（中学 3 年生）	76.2% 48.6% （H13 年市民アンケート）	— —	82.3% 74.5% （H22 年市民アンケート）	◎ ◎	80%以上 60%以上
意識的に運動を心がけている 人の増加 ★男性 ★女性	53.5% 51.8% （H13 年市民アンケート）	60.3% 57.2% （H18 年市民アンケート）	59.0% 54.7% （H22 年市民アンケート）	○ ○	63%以上 63%以上
運動習慣者の増加 ★男性 ★女性 ※運動習慣者 1 回 30 分以上の運動を、 週 2 回以上実施し、1 年間以上 持続している人	21.5% 19.2% （H13 年市民アンケート）	33.4% 31.5% （H18 年市民アンケート）	27.3% 20.0% （H22 年市民アンケート）	○ ○	30%以上 30%以上
外出について積極的な態度を 持つ人の増加 ★男性（65 歳以上） ★女性（65 歳以上） ★80 歳以上（全体）	64.7% 54.5% 41.0% （H13 年要介護等 実態調査報告書）	72.5% （男女合計） — （H16 年要介護等 実態調査報告書）	— — —		75%以上 65%以上 50%以上
何らかの地域活動を実施して いる人の増加 ★男性（60 歳以上） ★女性（60 歳以上）	34.5% 32.2% （H13 年市民アンケート）	— —	27.4% 27.0% （H22 年市民アンケート）	× ×	45%以上 40%以上

主な取り組み

- 主な取り組みとして、運動を中心とした生活習慣病予防教室や身体機能の低下した人を対象とした機能訓練教室、高齢者を対象とした元気アップ教室などを実施しました。健康づくり推進員によるウォーキング、はつらつ出前ボランティアによる地域での体操を実施しました。また、平成 21 年度には、ツール・ド・大阪としてロングコース及びショートコースのウォーキングコースを整備し、コース開きとしてウォーキングのイベントを実施しました。

統計資料やアンケート結果からの現状分析

- 意識的に運動をしている人は、青年期・成人期は 45.3%、中高年期は 53.4%、高齢期は 66.4%となっています。
- 運動習慣（1 回 30 分以上の運動を週 2 回、1 年以上）がある人は、全体で 23.3%、青年期・成人期は 17.2%（男性 24.7%・女性 12.3%）、中高年期は 19.9%（男性 20.7%、女性 19.3%）、高齢期は 30.3%（男性 33.5%、女性 26.5%）となっています。大阪府の運動習慣のある人は 34.1%で、本市はすべての年齢において低くなっています。特に青年期・成人期は中高年期や高齢期に比べると運動習慣のある人は低くなっています。また、すべての年齢層において女性が男性よりも低くなっています。
- 運動不足を感じている人は、青年期・成人期は 77.3%、中高年期は 70.2%、高齢期は 60.0%となっています。青年期・成人期は中高年期や高齢期に比べると高くなっています。
- 60 歳以上で老人会、町内会、ボランティアなど何らかの地域活動を実践している人は男性 27.4%、女性 27.0%となっています。

評価

- 意識的に運動を心がけている人の割合や運動習慣者の割合は、平成 13 年度より改善していますが、目標を達成しませんでした。
- 60 歳以上で何らかの地域活動を実施している人の割合は男女とも平成 13 年度より低くなっており、目標を達成しませんでした。



<評価指標>

項 目	平成 13 年度	平成 18 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目標値 (平成 22 年度)
適正体重を維持している人の増加					
★児童・生徒の肥満児	3.4% (H13 年学校保健統計)	—	3.0% (H21 年学校保健統計)	◎	現状維持
★20 歳女性のやせ型 (BMI18.5 未満)	23.6%		35.0%	×	15%以下
★20～60 歳代男性の肥満型 (BMI25.0 以上)	22.6%	28.4%	25.2%	×	15%以下
★40～60 歳代女性の肥満型 (BMI25.0 以上)	17.2% (H13 年市民アンケート)	18.2% ※40～60 歳代 (H17 年度 老人保健事業データ)	12.2% (H22 年市民アンケート)	◎	15%以下
脂肪の少ない食事をとっている人の増加					
★男性	33.9% (H13 年市民アンケート)	35.9% (H18 年市民アンケート)	32.8% (H22 年市民アンケート)	×	50%以上
★女性	46.3% (H13 年市民アンケート)	48.1% (H18 年市民アンケート)	40.3% (H22 年市民アンケート)	×	60%以上
薄味にしている人の増加					
★男性	34.6% (H13 年市民アンケート)	41.5% (H18 年市民アンケート)	32.8% (H22 年市民アンケート)	×	50%以上
★女性	49.8% (H13 年市民アンケート)	54.3% (H18 年市民アンケート)	47.4% (H22 年市民アンケート)	×	60%以上
牛乳や乳製品をほぼ毎日 とっている人の増加					
★男性	51.6% (H13 年市民アンケート)	—	47.5% (H22 年市民アンケート)	×	60%以上
★女性	67.2% (H13 年市民アンケート)	—	60.1% (H22 年市民アンケート)	×	70%以上
豆類や大豆製品をほぼ毎日 とっている人の増加					
★男性	37.5% (H13 年市民アンケート)	—	36.0% (H22 年市民アンケート)	×	50%以上
★女性	49.9% (H13 年市民アンケート)	—	44.6% (H22 年市民アンケート)	×	60%以上

項 目	平成 13 年度	平成 18 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目標値 (平成 22 年度)
自分の食生活に問題があると思う人のうち、食生活の改善意欲のある人の増加					
★成人男性	61.3%	—	62.7%	○	80%以上
★成人女性	74.6%	—	84.7%	◎	80%以上
	(H13 年市民アンケート)		(H22 年市民アンケート)		

主な取り組み

- 主な取り組みとして、集団健康診査実施時や生活習慣病予防教室、地域で行う健康教室、栄養相談などで食に関する正しい知識を普及し、必要に応じて個別支援を行いました。
- 平成 20 年度からは特定保健指導の個別相談や集団の栄養運動教室で、メタボリックシンドローム解消のための食生活改善について個別支援しました。
- 健康展や市民まつりでは、食生活改善推進員を中心に、楽しく学習できるよう工夫し、バランス食などについて啓発しました。

統計資料やアンケート結果からの現状分析

- 肥満型（BMI25 以上）は男性が 24.3%で、女性 10.9%の約 2 倍であり、特に男性の中高年期では 29.6%が肥満型となっています。やせ型（BMI18.5 未満）は男性 3.3%、女性 14.4%と女性に多くなっています。特に 20 歳代女性のやせ型は 35.0%と目標値 15%以下の倍となっており、全国 22.5%を上回っています。学齢期からのダイエット志向の影響が考えられます。
- 食生活について問題を感じている人は 40.1%で、高齢期では 30.0%と他の世代に比べて少なくなっています。本当に問題がないのか、問題はあるが問題視できていないのかを明らかにし、食生活に対するアプローチの方法を考えることが必要です。
- 健康維持のために、食事の内容や量のコントロールに努めている人は 67.6%で年齢層が高くなるほど増加し、65 歳以上では 77.9%と最も食生活に気をかけている人の割合が高くなっています。
- 朝食の欠食率は青年期・成人期が 25.6%で中高年期や高齢期と比べ最も高く、男女とも 20～30 歳代が高いという全国と同様の傾向にあります。
- 食育については 63.8%の人が関心を持ち、若い世代ほど関心がある人の割合が高くなっています。その理由として「生活習慣病の増加の問題視」をあげている人が 70.1%と最も多くなっています。メタボリックシンドロームに対する認知度は 75.2%、青年期・成人期と中高年期では 8 割を超えており、若い世代ほど認知度が高くなっています。
- 「食事バランスガイド」の認知度については青年期・成人期が 67.0%と最も高かったにもかかわらず、「食事バランスガイド」を参考にしている人の割合は 22.2%と低くなっています。

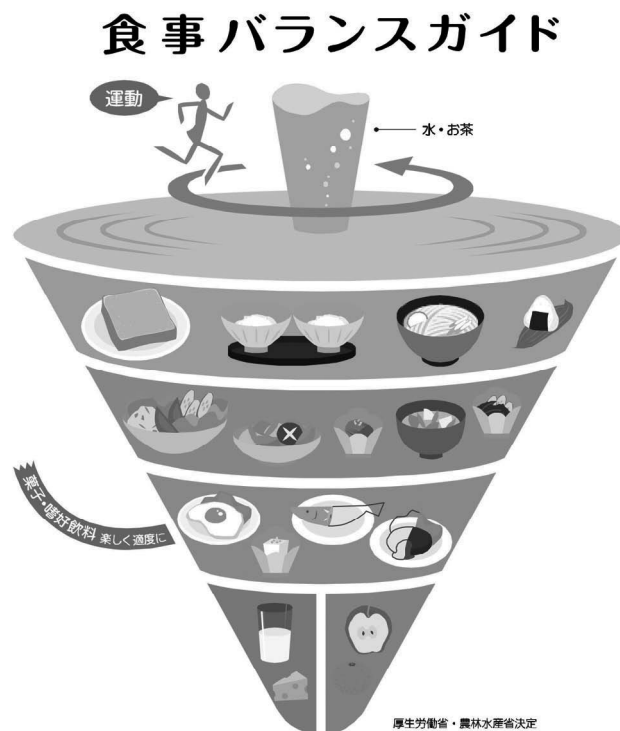
評価

- 40～60 歳代女性の肥満型の割合は 12.2%で、目標の 15%以下を達成できました。
- 薄味にしている人の割合、牛乳などの乳製品や豆類、緑黄色野菜をほぼ毎日とっている人の割合は、いずれも平成 13 年度より低くなっており、目標を達成できませんでした。
- 朝食を欠食する人は 20 歳代男性では平成 13 年度より低くなっていますが、30 歳代男性及び 20 歳代女性では、欠食率が高くなっており目標の 15%以下を達成できませんでした。

＜食事バランスガイドとは＞

望ましい食生活についてのメッセージを示した「食生活指針」を具体的な行動に結びつけるものとして、1 日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかの目安を分かりやすくイラストで示したものです。

厚生労働省と農林水産省の共同により平成 17 年 6 月に策定されました。



＜食事バランスガイドの詳細＞

<http://www.j-balanceguide.com/>

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou-shokuji.html>

アルコール

<評価指標>

項 目	平成 13 年度	平成 18 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目標値 (平成 22 年度)
多量に飲酒する人の減少					
★男性	4.0%	—	7.8%	×	3.2%以下
★女性	0.5%	—	3.9%	×	0.2%以下
※毎日 3 合以上飲酒する人 ※現状—1 回 3 合以上飲酒する人	(H13 年市民アンケート)		(H22 年市民アンケート)		
未成年者の飲酒をなくす					
★男性（高校 3 年）	19.0%	—	8.9%	○	0%
★女性（高校 3 年）	19.3%	—	10.1%	○	0%
	(H13 年市民アンケート)		(H22 年市民アンケート)		
「節度ある適切な飲酒」について 知っている人の増加					
★成人男性	58.8%	—	—		100%
★成人女性	42.8%	—	—		100%
	(H13 年市民アンケート)				

主な取り組み

- 主な取り組みとして、健康教室、集団がん検診でアルコールの適正量について情報提供しました。特定保健指導や健康相談で、飲酒による肝機能障害の指導を実施しました。また、健康展では断酒会が中心となり、酒害について情報提供するとともにアルコールに関する相談事業を実施しました。

統計資料やアンケート結果からの現状分析

- 飲酒率は青年期・成人期は 52.7%、中高年期は、53.8%、高齢期は 37.9%となっています。
- 飲酒する人のうち、1 回 2 合以上飲酒する人は青年期・成人期は 15.9%、中高年期は 22.0%、高齢期は 14.4%となっています。1 回 2 合以上飲酒する率は、中高年期が最も高くなっています。
- 青年期・成人期及び中高年期において、飲酒率及び 1 回 2 合以上の飲酒率が高くなっています。また、すべての年齢層において男性の飲酒率が女性を上回っています。

評価

- アルコールについては、今回設問内容に変化があったため厳密には比較できませんが、多量に飲酒する人の割合が平成 13 年度より高くなっており、目標を達成できませんでした。

歯の健康

<評価指標>

項 目	平成 13 年度	平成 18 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目標値 (平成 22 年度)
★う歯（むし歯）のない 幼児の増加（3 歳）	67.2% (H13 年度 3 歳 6 か月児健康診査)	75.4% (H17 年度 3 歳 6 か月児健康診査)	75.3% (H21 年度 3 歳 6 か月児健康診査)	○	80%以上
フッ化物配合剤を 使用している人の増加 ★小学 6 年生 ★中学 3 年生	26.0% 17.7% (H13 年市民アンケート)	— —	85.5% 87.8% (H22 年市民アンケート)	◎ ◎	70%以上 60%以上
歯周疾患検診の要精検者の 減少 ★40 歳 ★50 歳	82.6% 79.1% (H13 年度歯周疾患検診)	86.4% 84.4% (H17 年度歯周疾患検診)	80.9% 77.1% (H21 年度歯周疾患検診)	○ ○	70%以下 70%以下
歯間部清掃器具の使用する 人の増加 ★40 歳（35～44 歳） ★50 歳（45～54 歳）	45.4% 40.9% (H13 年市民アンケート)	47.3% 44.3% (H17 年度歯周疾患検診)	54.8% 42.0% (H22 年市民アンケート)	◎ ○	50%以上 50%以上
★喫煙が及ぼす健康 影 響についての十分な知識 の普及	(たばこの項参照) P111				
80 歳で 20 歯以上、60 歳で 24 歯以上の自分の 歯を有する人の増加 ★80 歳（75～84 歳）で 20 歯以上 ★60 歳（55～64 歳）で 24 歯以上 ※75 歳以上で 20 歯以上	18.4% 37.7% (H13 年市民アンケート)	20.0% 47.4% (H18 年市民アンケート)	20.3% 40.7% (H22 年市民アンケート)	○ ○	23%以上 43%以上
定期的な歯石除去や歯面 清掃を受ける人の増加 過去 1 年間に歯石除去や 歯面清掃を受けた人 ★60 歳（55～64 歳）	28.8% (H13 年市民アンケート)	33.9% (H17 年度歯周疾患検診)	42.7% (H22 年市民アンケート)	◎	40%以上

項 目	平成 13 年度	平成 18 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目標値 (平成 22 年度)
定期的な歯科検診の受診者の増加 過去 1 年間に定期的な 歯科検診を受けた人 ★60 歳（55～64 歳）	28.6% (H13 年市民アンケート)	33.9% (H17 年度歯周疾患検診)	42.7% (H22 年市民アンケート)	◎	40%以上

主な取り組み

- 主な取り組みとして、歯科相談やブラッシングセミナー、高齢者健康づくり事業で口腔ケアの方法や定期検診の必要性などを啓発しました。歯の健康に対し特に関心の低い青年期・成人期に対し、平成 19 年度からは、子育て支援センターに出向き、ママのための健康教室（歯みがき指導）を実施し、平成 20 年度から青年・成人健康診査において唾液潜血テストを希望者に実施しました。

統計資料やアンケート結果からの現状分析

- 定期的に歯科検診を受けている人は 35.6%で、青年期・成人期では 28.1%と他の年齢層と比較して最も低くなっています。高齢期の受診率は 41.2%で最も高くなっています。
- 歯ブラシ以外の補助用具を使用する人は 47.6%で、女性（57.0%）の方が男性（36.5%）より高くなっています。定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける人は 31.6%で女性（34.8%）の方が男性（28.0%）より高くなっています。
- 食事中噛むことを意識している人は 46.0%で、青年期・成人期では 35.5%、中高年期では 37.0%、高齢期では 60.3%と年齢があがるにつれ意識する人が高くなっています。
- 歯周疾患検診（40 歳、50 歳、60 歳、70 歳の人を対象に無料で実施）の受診率は、大阪府内の 3 番目ではありますが 16.6%と低く、検診受診者の約 8 割が要精検となっており、今後歯周疾患の増加が懸念されます。
- 肺炎は本市の死因順位の 3 位となっており、高齢者が大多数を占めています。高齢期において、ごえんせい誤嚥性肺炎の予防のための口腔ケアに重点的に取り組んでいく必要があります。

評価

- 60 歳で過去 1 年間に定期的な歯科検診を受けた人及び過去 1 年間に定期的な歯石除去や歯面清掃を受けた人は、いずれも 40%を超えており目標を達成できました。
- 40 歳で歯間部清掃器具を使用する人の割合も目標を達成できました。50 歳は目標を達成できませんでした。
- 80 歳で 20 本以上の歯を保有している人の割合、60 歳で 24 本以上の歯を保有している人の割合は平成 13 年度より高くなっていますが、目標を達成することはできませんでした。
- フッ化配合剤を使用している人の割合は、小学 6 年生、中学 3 年生とも目標を達成できました。

循環器病

＜評価指標＞

項 目	平成 13 年度	平成 18 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目標値 (平成 22 年度)
心疾患の死亡率の減少 (人口 10 万対) ★心疾患	92.2 (H8～12 年大阪府 衛生年報死因別死亡数)	95.1 (H13～16 年大阪府 衛生年報死因別死亡数)	130.0 (H17～21 年大阪府 衛生年報死因別死亡数)	×	現状以下
脳血管疾患の死亡率の減少 (人口 10 万対) ★脳血管疾患	80.4 (H8～12 年大阪府 衛生年報死因別死亡数)	76.3 (H13～16 年大阪府 衛生年報死因別死亡数)	73.0 (H17～21 年大阪府 衛生年報死因別死亡数)	◎	現状以下
高血圧の改善 ★基本健康診査で血圧値の 要指導＋要医療者の割合 ※現状は収縮期血圧 130mmHg 以上・ 拡張期血圧 85mmHg 以上	34.2% (H13 年度 老人保健事業データ)	32.7% (H17 年度 老人保健事業データ)	39.7% (H21 年度河内長野市 特定健康診査結果)	×	29.5%以下
高脂血症の減少 ★男性 ★女性 ※血清総コレステロール値 240mg/dl 以上 現状は LDL コレステロールが 140mg/dl 以上	14.5% (H13 年度 老人保健事業データ)	14.8% (H17 年度 老人保健事業データ)	24.6% (H21 年度河内長野市 特定健康診査結果)	×	7.2%以下
現状は LDL コレステロールが 140mg/dl 以上 ★基本健康診査での総コレステロール値 の要指導＋要医療者の割合 現状は LDL コレステロールが 120mg/dl 以上	14.2% (H13 年度 老人保健事業データ)	27.1% (H17 年度 老人保健事業データ)	33.3% (H21 年度河内長野市 特定健康診査結果)	×	7.1%以下
★基本健康診査での総コレステロール値 の要指導＋要医療者の割合 現状は LDL コレステロールが 120mg/dl 以上	53.0% (H13 年度 老人保健事業データ)	51.2% (H17 年度 老人保健事業データ)	56.0% (H21 年度河内長野市 特定健康診査結果)	×	37.1%以下
薄味にしている人の増加	(栄養・食生活参照) P119				
成人の肥満者の減少	(糖尿病参照) P113				
運動習慣者の増加	(身体活動・運動参照) P117				
たばこ対策の充実	(たばこ参照) P111				
飲酒対策の充実	(アルコール参照) P123				
健康診断を受ける人の増加 ★健康診断を受ける人の割合 ※健康診査・人間ドックを受けた人の 割合	61.0% (H13 年市民アンケート)	—	63.4% (H22 年市民アンケート)	○	70%以上
★基本健康診査受診率 現状は河内長野市国民健康保険特定健 診受診率	34.8% (H13 年度 老人保健事業データ)	54.8% (H17 年度 老人保健事業データ)	32.4% (H21 年度法定報告)	×	50%以上

主な取り組み

- 主な取り組みとして、若い時期からの生活習慣病予防のために成人期健康教室を実施し、また平成20年度からは、青年・成人健康診査で健康相談を実施しました。中高年期・高齢期には、健康診査の後の個別栄養相談やメタボリックシンドロームに着目した生活習慣改善教室などを実施しました。

統計資料やアンケート結果からの現状分析

- 本市の心疾患の死亡率（人口10万対）（平成17～平成21年）は130.0、脳血管疾患の死亡率は73.0となっており、全国の死亡率（平成21年）の心疾患143.7、脳血管疾患97.2を下回っています。
- 本市のレセプト（平成21年）から循環器系の受診状況を見ると、入院では新生物、精神疾患に次ぎ3番目で6.0%を占めています。外来では最も多く1番目で20.6%となっています。
- 健康診査・人間ドックを受けている人は青年期・成人期は58.1%（男性60.5%、女性56.6%）、中高年期は67.1%（男性70.4%、女性64.7%）、高齢期は63.3%（男性62.6%、女性64.2%）となっており、青年期・成人期が最も低くなっています。市で行っている15～39歳の市民を対象にした青年・成人健康診査の認知、利用度も29.2%と低くなっています。健康診査未受診の理由として「どうすれば受けられるか知らない」が青年期・成人期で21.4%となっており、中高年期（8.7%）や高齢期（7.7%）より高く、健康診査の必要性とともに受診方法の周知を進める必要があります。

評価

- 脳血管疾患の死亡率は平成13年度と比べ低くなっていますが、心疾患の死亡率は平成13年度より高くなっており、目標を達成できませんでした。
- 健康診査の結果、高血圧や高脂血症であった者の割合はともに平成13年度より高くなっており、目標を達成できませんでした。

がん

<評価指標>

項 目	平成 13 年度	平成 18 年度	現 状 平成 22 年度	達成 状況	目標値 (平成 22 年度)
がんの年齢調整死亡率の減少 (人口 10 万対)					
★肺がん	27.5	28.0	26.6	◎	現状維持
★胃がん	33.0	22.5	17.7	◎	現状以下
★肝がん	24.2	19.0	18.2	◎	現状維持
★乳がん(女性のみ)	10.3	10.9	5.0	◎	現状以下
	(H7～11 年大阪府 衛生年報)	(H12～16 年大阪府 衛生年報)	(H18～21 年大阪府 衛生年報推計値)		
がん検診受診者(率)の増加					
★肺がん(40 歳以上)	6.1%	6.4%	2.8%	×	18%以上
★胃がん(40 歳以上)	14.2%	21.8%	14.5%	○	25%以上
★大腸がん(40 歳以上)	15.4%	24.0%	17.5%	○	25%以上
★乳がん(女性のみ)	13.8%	10.6%	14.2%	○	25%以上
★子宮頸がん(女性のみ)	8.1%	7.2%	8.6%	○	14%以上
※乳がん H13 年度 — 30 歳以上 現状 — 40 歳以上 ※子宮頸がん H13 年度 — 30 歳以上 現状 — 20 歳以上	(H13 年 老人保健事業データ)	(H17 年 老人保健事業データ)	(H21 年 健康増進事業データ)		
たばこ対策の充実	(たばこ参照) P111				
薄味にしている人の増加	(栄養・食生活参照) P119				
緑黄色野菜(ほうれん草・人参 等)をほぼ毎日とっている人の 増加	(栄養・食生活参照) P120				
飲酒対策の充実	(アルコール参照) P123				
脂肪の少ない食事をとっている 人の増加	(栄養・食生活参照) P119				
毎日果物を摂取している人の 増加	47.4%	—	38.5%	×	60%以上
	(H13 年市民アンケート)		(H22 年市民アンケート)		

主な取り組み

- 主な取り組みとして、がん検診の受診率向上のため、広報紙で特集号を掲載、医療機関でのポスター掲示、健康教室や高齢者健康づくり事業、健康展などでがん検診の必要性や有効性、受診方法などについて啓発しました。
- 青年期・成人期へのアプローチとして、平成19年度からは、子育て支援センターに出向き、ママの健康教室（乳がんの自己触診法の実習）を実施しました。母子保健事業において、子宮頸がん検診や喫煙防止に関する啓発を行ないました。

統計資料やアンケート結果からの現状分析

- 本市のがん年齢調整死亡率（人口10万対）（平成18～平成21年）の推計値は、肺がん26.6、胃がん17.7、肝がん18.2、乳がん（女性のみ）5.0となっています。2次計画の策定時（平成7～平成11年）は肺がん27.5、胃がん33.0、肝がん24.2、乳がん（女性のみ）10.3となっており、すべて低くなっています。
- レセプト（H21）から受診状況をみると、入院では新生物が18.9%が最も多く1番となっています。
- 全国のがん検診の受診率はどの検診も受診率20%を超えているのに対して、本市は全てのがん検診の受診率が低くなっています。特に肺がんは、全国は男性25.7%女性21.1%に対し、本市は男性2.0%、女性3.3%と低く、さらに死亡率も高いことから早急な対策が必要です。
- がん検診を知っている、もしくは利用したことがある人は約4割（胃がんのみ約5割）であり、青年期・成人期は中高年期や高齢期よりも認知度が低くなっています。がん検診の対象年齢がおおむね40歳以上であり、受診の対象ではないことから関心や認知度が低いと考えられます。適切な生活習慣を身につけるなどの一次予防が重要です。

評価

- 全てのがん検診の受診率が低く目標を達成することができませんでした。
- 年齢調整死亡率については、肺がん、胃がん、肝がん、乳がんのいずれも平成13年度より低くなっており、現状維持または現状以下の目標を達成できました。

3. 目標の達成状況

1) 妊産婦期から乳幼児期、学童期・思春期

妊産婦期から乳幼児期、学童期・思春期までは、健やか親子 21 の評価指標を用いて達成状況を検討しました。達成状況の算出方法については、健やか親子 21 の4つの課題毎に数値等で評価できる指標を用いて、平成 17 年度と現状を比較し、数値等の改善がみられたものは「改善あり」、数値等の改善がみられなかったものは「改善なし」としました。

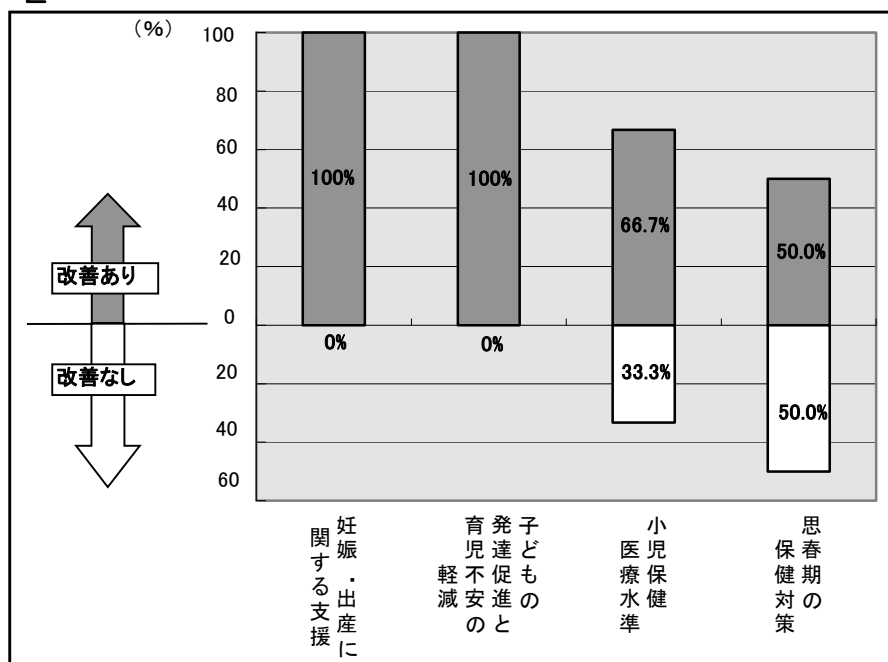
妊産婦死亡率、新生児死亡率や乳児死亡率については、件数が少なく年ごとの差異が大きいので、今後も推移を追っていく必要があります。保健医療水準については、全国的な動向の影響も大きく受けることが予想されますが、本市における取り組み内容について、今後も検討していきます。思春期保健対策については、学校保健とのより充実した連携が必要と考えます。

図表4-1

課題 \ 状況	改善あり		改善なし		合計	
	項目数	%	項目数	%	項目数	%
妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 (P101)	3	100.0	0	0.0	3	100.0
子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減 (P104)	4	100.0	0	0.0	4	100.0
小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備 (P103)	6	66.7	3	33.3	9	100.0
思春期の保健対策の強化と健康教育の推進 (P108)	4	50.0	4	50.0	8	100.0

注：％は合計の項目数に占めるそれぞれの状況の項目数の割合です。

図表4-2



2) 青年期・成人期から中高年期、高齢期

青年期・成人期から中高年期、高齢期については、健康かわちながの21計画の9つの分野別に評価指標を用いて達成状況を検討しました。達成状況の算出方法については、平成13年度と現状を比較し、目標値を達成できたものは「目標値達成」、数値等の改善がみられたものは「改善あり」、数値等の改善がみられなかったものは「改善なし」としました。

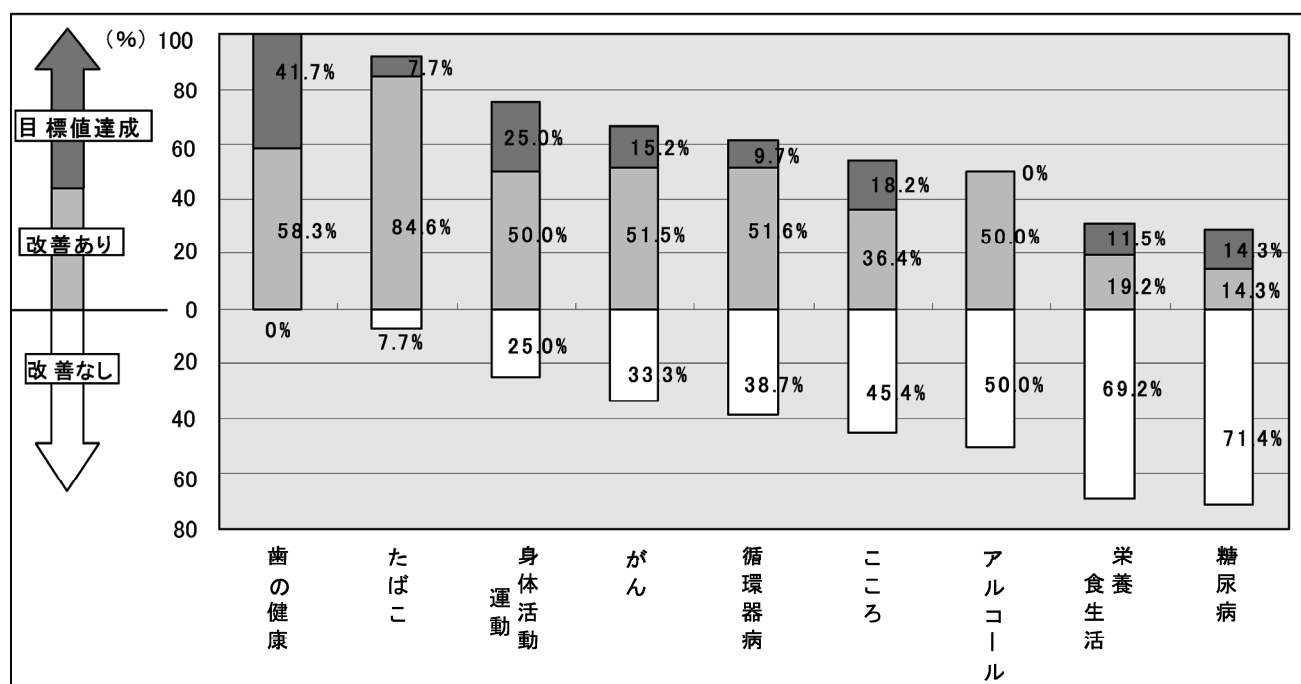
分野別にみると、「歯の健康」や「たばこ」の改善が進んだものの、「糖尿病」や「栄養・食生活」の改善が少なく、今後も生活習慣改善のための対策の強化が必要と考えます。本計画では「身体活動・運動」及び「栄養・食生活」に重点的に取り組むことで、糖尿病をはじめ循環器病などの生活習慣病対策を強化していきます。

図表4-3

状況 分 野		目標値達成		改善あり		改善なし		合計	
		項目数	%	項目数	%	項目数	%	項目数	%
歯の健康	(P124)	5	41.7	7	58.3	0	0.0	12	100.0
たばこ	(P111)	1	7.7	11	84.6	1	7.7	13	100.0
身体活動・運動	(P117)	2	25.0	4	50.0	2	25.0	8	100.0
がん	(P128)	5	15.2	17	51.5	11	33.3	33	100.0
循環器病	(P126)	3	9.7	16	51.6	12	38.7	31	100.0
休養・こころの健康	(P115)	2	18.2	4	36.4	5	45.5	11	100.0
アルコール	(P123)	0	0.0	2	50.0	2	50.0	4	100.0
栄養・食生活	(P119)	3	11.5	5	19.2	18	69.2	26	100.0
糖尿病	(P113)	1	14.3	1	14.3	5	71.4	7	100.0

注：％は合計の項目数に占めるそれぞれの状況の項目数の割合です。

図表4-4



4. ライフステージ別の課題と今後の方向性

<妊産婦期（妊娠から出産）の課題と今後の方向性>

- 妊娠早期からの妊婦への関わりが、その後の子育てにおいても重要になってくるため、妊娠届出時にすべての妊婦に面接できる体制づくりが必要です。
 - 妊娠届は90%以上が妊娠11週までにされ、19歳以下の若年妊婦は横ばいですが、35歳以上の妊婦などハイリスク妊婦は増加しています。数は少ないですが19歳以下の妊婦、妊娠22週以降に届出があった妊婦、妊婦健康診査の未受診者に個別に丁寧な関わりを行っていくための支援体制の充実が必要です。
 - 妊娠中の喫煙（受動喫煙を含む）、飲酒の胎児に及ぼす影響について、妊娠届出時や両親教室などで知識の啓発を継続して行っていくことが必要です。
 - 子どもを産み育てることに対する不安を解消できる相談体制の充実が必要です。
- 妊娠をきっかけに普段の食生活を見直し、出産後の正しい食生活の継続と、子どもの幼少期からの食育の大切さを認識してもらうことが必要です。

子育てがもっとたのしみになる

ママパパ教室

平成23年度版

プログラム

- 管理栄養士からのおいしい話
～ママの栄養は赤ちゃんの栄養～
●友達ができる！ママ友づくり
- ママのための【無料】産科健診
●産もビックリかわプラッシング実習
●知らない言葉！子育てのためのお役立ち制度
- ベテラン助産師による
妊婦さんのお悩み解決コーナー
●先輩ママが赤ちゃんと一緒にやってくる！
出産・育児体験談を聞いてみよう
●赤ちゃんと同じ遊び？手作りおもちゃ体験

●児童精神科医 北畑英樹先生からの
子育てがもっとたのしみになる話
～こころ豊かな子どもに育てるために～
●ドキドキ！初めてのお風呂体験
●パパのための妊婦体験

日程

1クール	2クール	3クール	4クール	土曜日
① 5/20	① 8/19	① 11/18	① 2/17	6/11
② 5/27	② 8/26	② 11/25	② 2/24	9/10
③ 6/3	③ 9/2	③ 12/2	③ 3/2	12/10
				3/10

土曜日コースと合わせてご参加できます ※土曜日は4日とも同じ内容です

土曜日だけの参加もOK！

会場

フォレスト三田市（住所：三田市町32-1）
3階 乳幼児健診センター

参加費

無料

申込み

電話または市のHPから ※先着順
（申込み方法の詳細は裏面）

持ち物

母子健康手帳・筆記用具・
2回目のみ牛乳パック
（ブラッシング実習で使います）

パパもきてね！

申込み方法

電話またはパソコンからお申込みができます

電 話：0721(55)0301（河内長野市立保健センター）

パソコン：河内長野市のホームページ
トップページの「電子申請」をクリック
または「ママパパ教室」のページより

定員30組
※定員になり次第、締め切りとさせていただきます

※第2子以降を妊娠中の方は、
上のお子様を預けてきてください

～過去に参加した先輩ママ・パパの感想～

たくさんのお友達や先輩ママと話せたことがとても励みになりました。

北畑先生の話はとても楽しくて、笑顔で子育てしよう！と思いました。

妊婦体験やお風呂の実習など夫婦で楽しく参加できました。

赤ちゃんのことや産後のことが想像できませんでしたが、教室に参加することで実感がわき、出産が楽しみになりました。

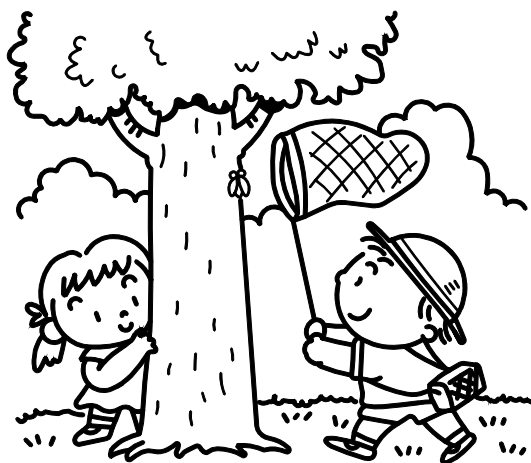
子どもが生まれてからも良いママ友になれる人を知り合えてよかったです。

お問い合わせ

河内長野市立保健センター
電話：0721(55)0301
住所：菊水町2番13号

＜乳幼児期（出生から5歳）課題と今後の方向性＞

- こんにちは赤ちゃん訪問事業の実施率は約7割となっており、乳児早期からの支援が展開できていますが、さらに実施率を向上させるとともに継続支援が必要な家庭の見極めと、育児不安の解消にむけた支援方法の充実が必要です。
- 2人以上の子育ては母親の身体的負担に伴う育児不安になりやすいため、丁寧な支援を行い、育児不安解消に努める必要があります。
- 幼児期の死因で最も多い事故防止のため、事故予防対策の強化が必要です。
- 虐待予防の観点から、乳幼児健康診査の未受診者対策の強化が必要です。
- 3歳児のう歯（むし歯）のある幼児は低くなってますが、2歳6か月児からのう歯（むし歯）のある幼児が高くなっているため、保護者へ歯科検診を勧奨し、正しい知識の啓発と実践できるよう支援することが必要です。
- 朝食を欠食する子どもや野菜をほとんど食べない子どもが少ないながらもいることから、乳幼児健診における効果的な栄養指導の方法を検討し、乳幼児期からの適切な食生活の大切さを啓発していくことが必要です。
- 保護者に「食育」という言葉だけでなくその意味の普及や、食育に関心のない人を無くすための啓発活動が必要です。



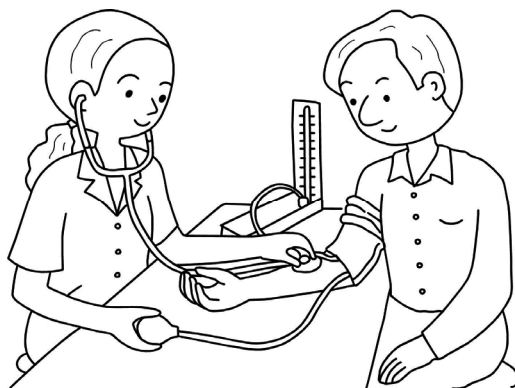
＜学童・思春期（６歳から１８歳）の課題と今後の方向性＞

- 家族や身近な人の喫煙は、未成年者の喫煙に対する考えに影響を及ぼすため、今後も大人に対する喫煙の害に関する啓発や禁煙支援を強化していく必要があります。
- 中学３年生時の飲酒経験が高いことから、飲酒が低年齢化していると考えられます。高校生の飲酒率も高く、飲酒経験者が中学から高校にかけて増加しています。小学校からの飲酒防止教育や、飲酒を勧めないよう大人への啓発も必要です。
- 小学校・中学校で薬物乱用の知識が重要であることから、早期から薬物乱用についての知識を啓発することが必要です。
- 悩み事を相談する相手がいないと答えた児童・生徒が存在することから、家庭と学校が協働して子どもを見守る体制づくりが必要です。
- 朝食の欠食率が年齢が上がるにつれて高くなっていることから、小学校低学年から学校における食育を強化していくことが必要です。



＜青年期・成人期（19歳から39歳）の課題と今後の方向性＞

- 男性の肥満者が約 2 割おり、今後加齢とともに増加することが予測され生活習慣病になる可能性が高くなっています。若い世代ほど認知度や関心度が高い「食育」と「メタボリックシンドローム」を視野に入れた食生活改善への取り組みが有効と考えます。また、青年期・成人期では「食事バランスガイド」の認知度は高いにも関わらず、参考になっている割合が低くなっているため、「食事バランスガイド」の活用方法の普及・啓発も必要です。
- 20 歳代 30 歳代の女性のやせが全国と比べ高いため、原因を追究するとともに適正体重や食生活改善について正しい知識を啓発することが必要です。
- 健康診査の受診率が低いため、疾病の早期発見・早期治療が遅れる可能性があります。疾病の発見のみならず、生活習慣を見直すためにも、受診率の向上を目指し、健康診査を受けやすい環境の整備や周知方法を検討していくことが必要です。
- 中高年期、高齢期に比べると、歯の健康に対する関心が低く、今後加齢とともに歯周病の罹患の増加が懸念されるため、日頃から歯科に対し関心を持てるような情報提供が必要です。歯の健康力を高めることは、健康的で質の高い生活を維持・向上していくためにも重要となります。今後も生涯を通じた 8020 運動、噛ミング 30 運動の取り組みが重要です。
- 本人や家族が結婚・妊娠・出産を迎える時期であり、家族や子どもへの影響をふまえ、あらゆる保健活動を通じて禁煙支援を継続的に行う必要があります。禁煙や分煙の徹底を職場に働きかけるなどの支援も必要と考えます。
- 糖尿病のハイリスク者が増加する青年期・成人期からの肥満予防、健康診査受診の勧奨と必要な人にはその後の健康相談や治療へ確実につなげる支援が必要です。
- 普段の生活でストレスを感じている人が他の年齢層より多いですが、解消できている割合も高くなっています。今後、こころの健康を保ちにくい状況とならないよう、必要に応じてリラックス方法や相談できる専門機関を情報提供したり職場に働きかけることが必要です。
- 運動不足解消の動機づけを行い、日々の生活に運動を取り入れ肥満や生活習慣病の予防を図る支援が重要です。



＜中高年期（４０歳から６４歳）の課題と今後の方向性＞

- 肥満の者が最も多い世代であり、特定健康診査においては、約 6 割の者が脂質代謝に、約 4 割の者が血圧に所見が認められており、メタボリックシンドロームもしくはその予備軍が多いことが予測され、食生活をはじめとする生活習慣を見直し改善を促す支援が必要です。
- 健康診査未受診者の理由が「受けるのが面倒だから」という者が半数を占めることから、受診の必要性の理解を促し、併せて健康診査を受けやすい体制づくりが必要です。
- 腎不全の死亡が全国と比べても高く、糖尿病が起因していると推察されます。そのため、糖尿病の予防はもとより罹患者が早期に適切に治療が受けられる支援が必要です。
- 男女とも青年期・成人期や高齢期に比べ飲酒率が最も高く、2 合以上飲酒する者も多いため、節度ある飲酒の情報提供が必要です。
- 生活習慣病のリスクが高まる中高年期に禁煙への支援を積極的に行う必要があります。禁煙や分煙の徹底を職場に働きかけるなどの支援も必要です。
- 青年期・成人期に引き続き糖尿病のハイリスク者が増加することから、継続した働きかけにより健康診査受診の勧奨と必要な人にはその後の健康相談や治療へ確実につなげる支援が必要です。
- 自殺が多い年代であり、睡眠や休養の状況を確認し必要に応じて職場に働きかけるなどの支援が必要です。家族や周囲の人が本人の変化に早期に気づき、適切な相談機関や医療機関につなぐことが出来るように啓発することが重要です。
- 肥満や生活習慣病が多くなる中高年期の生活に運動を取り入れる支援を行うことが重要です。本市は山林と自然が多く、ウォーキングコースが整備されています。気軽に身近でウォーキングなどを行えるようにウォーキングコースを周知することが必要です。継続した取り組みを支援するため、リーダー養成や仲間づくりを進めていきます。



＜高齢期（65歳以上）の課題と今後の方向性＞

- 喫煙が健康へ及ぼす影響の認知率や禁煙希望者の割合が青年期・成人期や中高年に比べ少ないことから、個人の状況に応じた丁寧な禁煙支援を行う必要があります。
- 高齢期のやせの予防も重要ですが、高齢期は糖尿病が最も多い年代であり肥満についても予防が必要です。
- 睡眠で休養のとれない人やふだんの生活でストレスを感じる人の割合は青年期・成人期、中高年に比べ低くなっていますが、高齢期は慢性的な病気や身近な人の喪失体験などに伴いつつ状態になりやすいため、それらの人を重点的に支援する必要があります。高齢期の約半数の人がこころの相談ができる専門機関を知らない状況であり、情報提供が必要です。
- 運動不足を感じている人の割合は青年期・成人期や中高年に比べると低くなっていますが、地域活動への参加が3割以下にとどまり、外出や他者との交流の頻度も少ないことが考えられます。坂道が多いことから、高齢者には外出しづらいことが考えられ、閉じこもり予防のため、地域の身近な場所で体操教室などを開催することも必要です。
- 肺炎は本市の死因順位の第3位となっており、口腔ケアなど誤嚥性肺炎の予防に関する取り組みが重要になってきます。また、免疫力の低下から肺炎に罹患するリスクが高くなるため、口腔ケアと併せ、栄養改善など予防的な支援が必要です。



5. その他の施策の分析、方向性

1) 難病対策

- 本市の難病患者数は増加しています。神経筋難病患者・在宅医療処置患者も増加しています。
- 難病対策は大阪府を中心に、医療施設などの整備、調査研究への協力・支援と医療費の自己負担の軽減、患者・家族の自立支援、QOL 向上のための福祉施策の推進を目指し、具体的には保健所において、個別援助、集団援助、システム構築が行われています。
- 今後も大阪府を中心に事業が展開されるため、市民からの問合せに応じて、相談機関や介護保険、福祉サービスなどを紹介していきます。

2) 精神保健

- 精神保健福祉手帳所持者は年々増加傾向にあります。
- 精神保健福祉法の改正により、平成14年度から市において精神保健福祉手帳などの申請や社会復帰、福祉サービスに関する相談などを実施し、大阪府においては、医療相談や家族支援、研修などを実施しています。
- 精神保健福祉に関する法体系の整備とともに精神保健福祉サービスが充実してきています。
- 今後も大阪府と連携し、一人ひとりの支援活動とともに、地域の無理解や偏見を取り除くための啓発活動、障がい者が安心して生活できる地域づくりが必要です。

3) 感染症対策

- 全国の結核罹患率は、平成11年から減少傾向にあります。本市においても減少傾向ですが、年度による差異が大きくなっています
- 富田林保健所管内のHIV相談・検査件数は、電話21件、来所326件、抗体検査183件（平成21年）となっています。
- 予防接種法に基づき、各種予防接種を実施しています。
- 平成21年4月に海外で発生した豚インフルエンザ（H1N1）対策として、対策本部を設置し、相談体制の整備・妊婦へのマスク配布・市民への啓発・関係機関との協議を行いました。また11月から始まった新型インフルエンザワクチンの予防接種について、生活保護世帯及び市民税非課税世帯に属する人に、接種費用を助成しました。
- 感染症予防及びまん延の防止のため、庁内関係課で情報を共有し感染症対策を徹底することを目的に感染症対策会議を開催しています。
- 富田林保健所では、HIV感染者・その他感染症に対する啓発のために、高校・大学の文化祭にパネル出展や、リーフレットの配布を行っています。また高齢者施設、保育所職員にも感染症の知識の普及を行っています。
- 感染症対策は、大阪府を中心に実施されるため、今後も大阪府の指導のもと連携しながら感染症予防の啓発などの対策を進めます。

資 料

1. 「河内長野市第3次保健計画（仮称）」策定のための アンケート調査の概要

1) 母子保健事業アンケート調査の方法

対象者	対象者数	実施方法	実施時期
妊婦	124人	妊娠届出時に実施	平成22年6月7月
4か月児の保護者	222人	4か月児健康診査受診時に実施	平成22年 4月～7月
1歳7か月児の保護者	235人	1歳7か月児健康診査時に実施	
2歳6か月児の保護者	212人	2歳6か月児歯科健康診査時に実施	
3歳6か月児の保護者	210人	3歳6か月児健康診査時に実施	

2) 市民アンケート調査の方法

対象者	対象者数	抽出方法	実施方法	調査票記入基準日	配布回収期間
小学3年生	509人	市内全小学校より クラス単位で抽出 した約500人	学校での 配布と回収	平成22年7月1日	平成22年7月初旬 から7月15日
小学6年生	518人	市内全小学校より クラス単位で抽出 した約500人	学校での 配布と回収	平成22年7月1日	平成22年7月初旬 から7月15日
中学3年生	1,092人	市内在住の中学3 年生全数調査	郵送による 配布と回収	平成22年7月1日	平成22年7月中旬 から7月30日
17歳・18歳 の市民	1,000人	性による 層化無作為抽出	郵送による 配布と回収	平成22年7月1日	平成22年7月中旬 から7月30日
20歳以上 の市民	2,080人	性、年齢による 層化無作為抽出	郵送による 配布と回収	平成22年7月1日	平成22年7月中旬 から7月30日

3) 市民アンケート調査の回収状況

対象者	対象者数(A) (人)	返数(B)	調査対象者数(C) (A-B)	回収数(D)	回収率(E)(%) $D/C \times 100$	有効 回収数(F)	有効回収率(G)(%) $C/(F) \times 100$
小学3年生	509	0	509	472	92.7	469	92.1
小学6年生	518	0	518	492	95.0	491	94.8
中学3年生	1,092	2	1,090	369	33.9	369	33.9
17歳・18歳 の市民	1,000	1	999	295	29.5	294	29.4
20歳以上 の市民	2,080	4	2,076	866	41.7	866	41.7

2. アンケート調査の結果

集計表は上段は人数、下段は%を表しています

1) 妊産婦期

問1 今回の出産は何人目ですか

	人数
1人目	55 44.4%
2人目	41 33.1%
3人目以降	28 22.6%
不明	0 0.0%
全 体	124 100.0%

1人目が最も多い。

問2

ア) 年齢を教えてください

	人数
20歳未満	4 3.2%
20～24歳以下	18 14.5%
25～29歳以下	42 33.9%
30～34歳以下	36 29.0%
35～39歳以下	22 17.7%
40歳以上	1 0.8%
不明	1 0.8%
全 体	124 100.0%

25～34歳で62.9%を占めている。

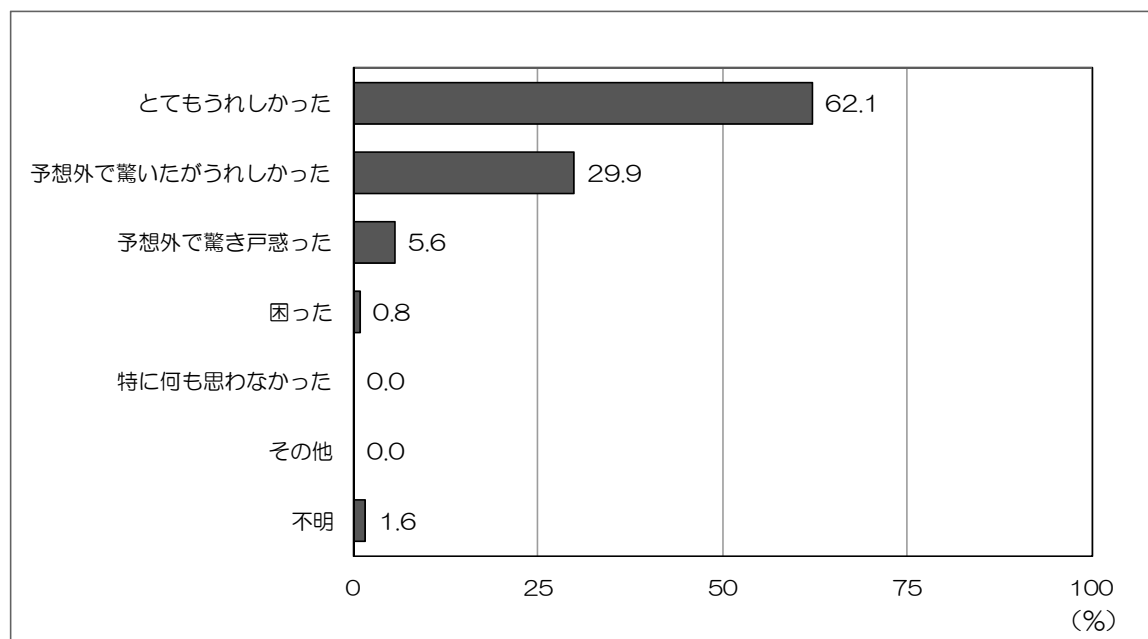
イ) 現在の妊娠週数を教えてください

	人数
4週まで	0 0.0%
4～7週	37 29.8%
8～11週	76 61.4%
12～15週	5 4.0%
16～19週	1 0.8%
20週以上	0 0.0%
不明	5 4.0%
全 体	124 100.0%

8～11週が61.4%と最も多い。

問3 今回の妊娠がわかった時の気持ちについて教えてください

図表1 今回の妊娠がわかった時の気持ち (n=124)



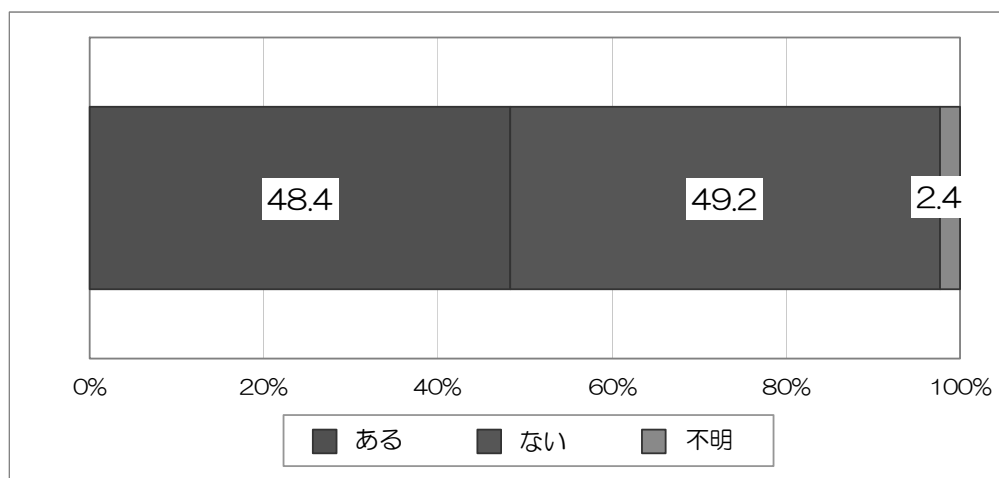
	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40歳以上	不明	全体
とてもうれしかった	2 50.0%	12 66.7%	27 64.3%	24 66.7%	12 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	77 62.1%
予想外で驚いたがうれしかった	2 50.0%	6 33.3%	14 33.3%	6 16.6%	8 36.4%	1 100.0%	0 0.0%	37 29.9%
予想外で驚き戸惑った	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	4 11.1%	2 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	7 5.6%
困った	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%
特に何も思わなかった	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	2 1.6%
全 体	4 100.0%	18 100.0%	42 100.0%	36 100.0%	22 100.0%	1 100.0%	1 100.0%	124 100.0%

年齢にかかわらず大半の人が「うれしかった」と肯定的にとらえている。

問4

ア) 心配なことはありますか

図表2 心配事の有無 (n=124)

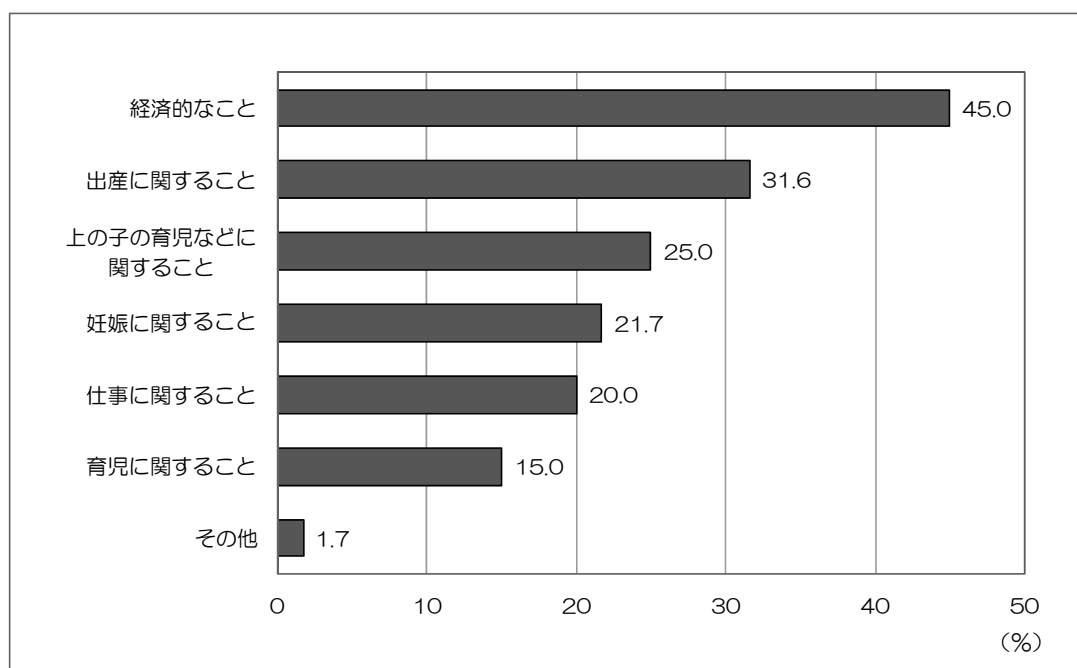


	人数
ない	61
	49.2%
ある	60
	48.4%
不明	3
	2.4%
全 体	124
	100.0%

約半数の人が心配事を持っている。

イ) 心配なことがあると答えた人の内容 (複数回答)

図表3 心配なことがある人の状況 (n=60)



	人数
妊娠に関すること	13 21.7%
出産に関すること	19 31.6%
育児に関すること	9 15.0%
上の子の育児などに関すること	15 25.0%
仕事に関すること	12 20.0%
経済的なこと	27 45.0%
その他	1 1.7%
全 体	60 100.0%

全体の45%の人が経済的なことを心配しており、最も多い回答である。

問5

ア) 悩みを相談できる人がいますか

	人数
いる	123 99.2%
いない	0 0.0%
不明	1 0.8%
全 体	124 100.0%

ほぼ全員に相談できる人がいる。

イ) 相談相手（複数回答）

	人数
夫(パートナー)	110 89.4 %
自分の親	95 77.2%
夫の親	23 18.7%
兄弟姉妹	27 22.0%
友人	51 41.5%
その他	1 0.8%
全 体	123 100.0%

「夫（パートナー）」や「自分の親」に相談している人が多い。

2) 乳幼児期

問1

ア) 本日の健診対象児の性別を教えてください

	4か月児	1歳7か月児	2歳6か月児	3歳6か月児	全体
男	123 55.4%	107 45.5%	112 52.8%	112 53.4%	454 51.6%
女	98 44.1%	125 53.2%	100 47.2%	95 45.2%	418 47.6%
不明	1 0.5%	3 1.3%	0 0.0%	3 1.4%	7 0.8%
全 体	222 100.0%	235 100.0%	212 100.0%	210 100.0%	879 100.0%

イ) 本日の健診対象児は何人目ですか

	4か月児	1歳7か月児	2歳6か月児	3歳6か月児	全体
第1子	95 42.7%	105 44.7%	110 51.9%	105 50.0%	415 47.3%
第2子	83 37.4%	90 38.3%	72 34.0%	71 33.8%	316 35.9%
第3子以上	43 19.4%	37 15.7%	28 13.2%	33 15.7%	141 16.0%
不明	1 0.5%	3 1.3%	2 0.9%	1 0.5%	7 0.8%
全 体	222 100.0%	235 100.0%	212 100.0%	210 100.0%	879 100.0%

各健診において、何人目の子どもであるかに大きな違いはない。

問2 回答者について、健診対象児との関係について教えてください

	4か月児	1歳7か月児	2歳6か月児	3歳6か月児	全体
母	213 95.9%	226 96.1%	202 95.2%	196 93.2%	837 95.2%
父	6 2.7%	6 2.6%	5 2.4%	10 4.8%	27 3.1%
祖母	2 0.9%	1 0.4%	1 0.5%	2 1.0%	6 0.7%
その他	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	1 0.1%
不明	1 0.5%	2 0.9%	3 1.4%	2 1.0%	8 0.9%
全 体	222 100.0%	235 100.0%	212 100.0%	210 100.0%	879 100.0%

90%以上のケースで母が回答しており、各健診による大きな違いはない。

問4 健診を終えて、健診の満足度はどのくらいですか

	4か月児	1歳7か月児	2歳6か月児	3歳6か月児	全体
とても満足	82 36.9%	61 26.0%	43 20.3%	48 22.9%	234 26.6%
満足	111 50.0%	110 46.7%	111 52.4%	101 48.1%	433 49.3%
ふつう	28 12.6%	57 24.3%	50 23.6%	53 25.2%	188 21.4%
やや不満	1 0.5%	0 0.0%	2 0.9%	1 0.5%	4 0.5%
不満	0 0.0%	2 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.2%
不明	0 0.0%	5 2.1%	6 2.8%	7 3.3%	18 2.0%
全 体	222 100.0%	235 100.0%	212 100.0%	210 100.0%	879 100.0%

4か月健診での満足度が最も高かったが、どの健診においても「とても満足」「満足」と感じている人が多い。

問7 健診に望むことについて該当するものに○をつけてください

①相談しやすい雰囲気をお願いしますか

	4か月児	1歳7か月児	2歳6か月児	3歳6か月児	全体
かなり望む	60 27.0%	76 32.3%	58 27.4%	63 30.0%	257 29.2%
少し望む	24 10.8%	20 8.5%	22 10.4%	14 6.7%	80 9.1%
現状でよい	135 60.8%	129 55.0%	122 57.5%	121 57.6%	507 57.7%
望まない	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.1%
不明	3 1.4%	9 3.8%	10 4.7%	12 5.7%	34 3.9%
全 体	222 100.0%	235 100.0%	212 100.0%	210 100.0%	879 100.0%

約40%前後の人が相談しやすい雰囲気を望んでいるが、あとの人は現状に満足している。

②他の保護者との交流を望みますか

	4か月児	1歳7か月児	2歳6か月児	3歳6か月児	全体
かなり望む	19 8.6%	17 7.2%	10 4.7%	13 6.2%	59 6.7%
少し望む	69 31.1%	56 23.8%	50 23.6%	27 12.9%	202 23.0%
現状でよい	130 58.5%	143 60.9%	134 63.2%	153 72.8%	560 63.7%
望まない	2 0.9%	6 2.6%	6 2.8%	5 2.4%	19 2.2%
不明	2 0.9%	13 5.5%	12 5.7%	12 5.7%	39 4.4%
全 体	222 100.0%	235 100.0%	212 100.0%	210 100.0%	879 100.0%

子どもの年齢が小さいほど他の保護者との交流を望む人が多い。

③遊びの紹介を望みますか

	4か月児	1歳7か月児	2歳6か月児	3歳6か月児	全体
かなり望む	27 12.2%	28 11.9%	19 9.0%	14 6.7%	88 10.0%
少し望む	62 27.9%	73 31.1%	60 28.3%	48 22.9%	243 27.6%
現状でよい	130 58.5%	117 49.7%	118 55.7%	130 61.9%	495 56.3%
望まない	1 0.5%	3 1.3%	6 2.8%	3 1.4%	13 1.5%
不明	2 0.9%	14 6.0%	9 4.2%	15 7.1%	40 4.6%
全 体	222 100.0%	235 100.0%	212 100.0%	210 100.0%	879 100.0%

約 40%の人が遊びの紹介を望んでいる。

約 50%の人は現状に満足している。

④子どもが集う場の紹介を望みますか

	4か月児	1歳7か月児	2歳6か月児	3歳6か月児	全体
かなり望む	25 11.3%	26 11.1%	24 11.3%	13 6.2%	88 10.0%
少し望む	44 19.8%	61 26.0%	52 24.5%	44 21.0%	201 22.9%
現状でよい	150 67.5%	131 55.6%	120 56.6%	133 63.3%	534 60.7%
望まない	1 0.5%	2 0.9%	4 1.9%	5 2.4%	12 1.4%
不明	2 0.9%	15 6.4%	12 5.7%	15 7.1%	44 5.0%
全 体	222 100.0%	235 100.0%	212 100.0%	210 100.0%	879 100.0%

約 30%の人が子どもが集う場の紹介を望んでいる。

約 60%の人は現状に満足している。

⑤子育てに関する情報提供を望みますか

	4か月児	1歳7か月児	2歳6か月児	3歳6か月児	全体
かなり望む	25 11.3%	18 7.7%	19 9.0%	16 7.6%	78 8.9%
少し望む	23 10.4%	33 14.0%	26 12.3%	18 8.6%	100 11.4%
現状でよい	167 75.1%	161 68.5%	144 67.9%	157 74.7%	629 71.5%
望まない	1 0.5%	3 1.3%	2 0.9%	2 1.0%	8 0.9%
不明	6 2.7%	20 8.5%	21 9.9%	17 8.1%	64 7.3%
全 体	222 100.0%	235 100.0%	212 100.0%	210 100.0%	879 100.0%

約 20%の人が子育てに関する情報提供を望んでおり、子どもの年齢が小さいほど紹介を望む人が多かった。

約 70%の人は現状に満足している。

問8 住んでいる地域で子育てをする中で感じることにについて該当するものに○をつけてください
(複数回答)

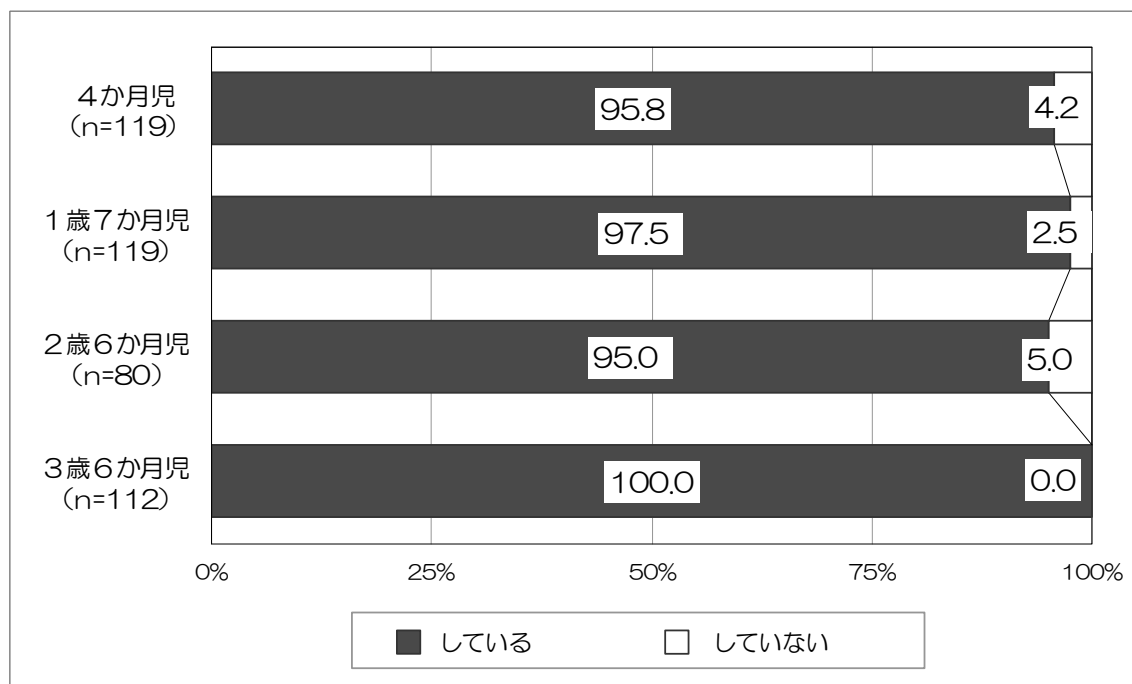
	4か月児	1歳7か月児	2歳6か月児	3歳6か月児	全体
子どもの遊び相手がいない	64	77	65	58	264
	28.8 %	32.8%	30.7%	27.6%	30.0%
遊び場がない	36	44	30	28	138
	16.2%	18.7%	14.2%	13.3%	15.7 %
環境が悪くて安心して遊べない	8	11	16	13	48
	3.6%	4.7%	7.5%	6.2%	5.5%
保護者との交流がない	53	48	47	22	170
	23.9%	20.4%	22.2%	10.5%	19.3%
子育て支援センターが遠い	35	37	37	23	132
	15.8%	15.7%	17.5%	11.0%	15.0%
その他	9	6	5	4	24
	4.1%	2.6%	2.4%	1.9%	2.7%
全 体	222	235	212	210	879
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

どの年代においても約30%の人が「子どもの遊び相手がいない」と感じている。また、3歳6か月児以外の約20%の人が「保護者との交流がない」と感じている。

※以下の質問は、途中から追加した項目のため、回答者数が少なくなっている

問9 事故予防を実施していますか

図表4 事故予防の実施 (n=430)



	4 か月児	1 歳 7 か月児	2 歳 6 か月児	3 歳 6 か月児	全体
している	114	116	76	112	418
	95.8%	97.5%	95.0%	100.0%	97.2%
していない	5	3	4	0	12
	4.2%	2.5%	5.0%	0.0%	2.8%
全 体	119	119	80	112	430
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

約 90%以上の人が事故予防を実施している。

問 10 かかりつけの医師（小児科・内科）はいますか

	4か月児	1歳7か月児	2歳6か月児	3歳6か月児	全体
いる		109	76	103	288
		91.7 %	95.1%	91.9%	92.6%
いない		1	1	1	3
		0.8%	1.2%	0.9%	1.0%
どちらとも いえない		6	1	3	10
		5.0%	1.2%	2.7%	3.2%
不明		3	2	5	10
		2.5%	2.5%	4.5%	3.2%
全 体		119	80	112	311
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

約 90%以上の人がかかりつけ医を持っている。

食生活に関するアンケート （3歳6か月児健診受診者）

問1 子どもは朝食を食べていますか

問2 朝食を毎日は食べない理由（複数回答）

	3 歳 6 か月児
ほぼ毎日食べる	171
	97.7%
週に4、5日食べる	3
	1.7%
週に2、3日食べる	0
	0.0%
ほとんど食べない	1
	0.6%
不明	0
	0.0%
全 体	175
	100.0%

	3 歳 6 か月児
食欲がない	2
	1.1%
時間がない	1
	0.6%
いつも食べないから	3
	1.7%
その他	2
	1.1%
不明	0
	0.0%
全体	175
	100.0%

約 98%の人が毎日食べている。

問3 子どもは次の食品をどれくらい食べますか(飲みますか)

Ⅰ 野菜をどれくらい食べますか

	3歳6か月児
毎食食べる	78 44.6%
一日に2回食べる	66 37.7%
一日に1回食べる	24 13.7%
ほとんど食べない	6 3.4%
不明	1 0.6%
全 体	175 100.0%

毎食食べる人は44.6%である。

Ⅱ 牛乳・乳製品をどれくらい飲みますか

	3歳6か月児
ほぼ毎日食べる(飲む)	141 80.6%
週に4、5日食べる(飲む)	11 6.3%
週に2、3日食べる(飲む)	17 9.7%
ほとんど食べない(飲まない)	6 3.4%
不明	0 0.0%
全 体	175 100.0%

約80%が毎日食べて(飲んで)いる。

Ⅲ ジュースをどれくらい飲みますか

	3歳6か月児
ほぼ毎日飲む	39 22.3%
週に4、5日飲む	25 14.3%
週に2、3日飲む	49 28.0%
ほとんど飲まない	62 35.4%
不明	35 16.7%
全 体	175 100.0%

約35%の人がほとんど飲んでいない。

Ⅳ イオン飲料(スポーツドリンクなど)を飲んでいますか

	3歳6か月児
ほぼ毎日飲む	9 5.2%
週に4、5日飲む	1 0.6%
週に2、3日飲む	21 12.0%
ほとんど飲まない	144 82.2%
不明	0 0.0%
全 体	175 100.0%

約80%の人がほとんど飲んでいない。

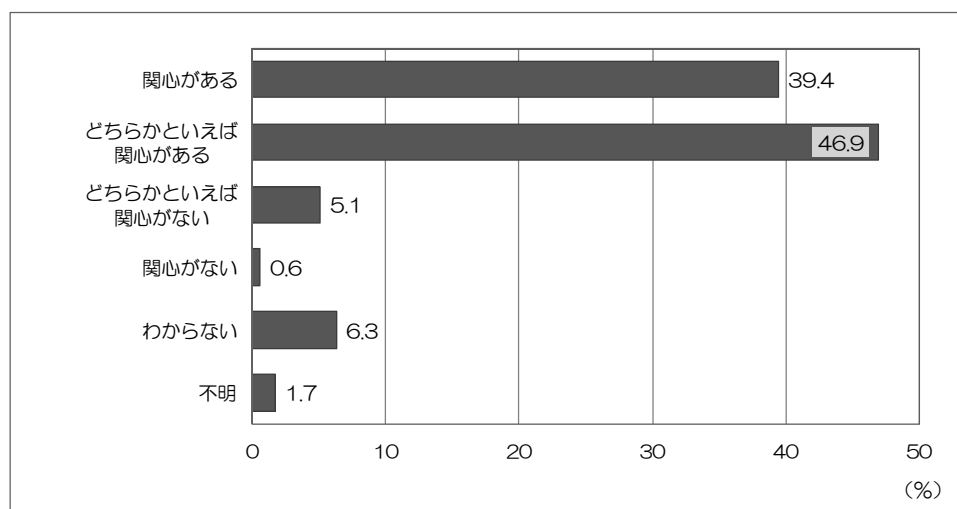
問1 あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていましたか

	3歳6か月児
言葉も意味も知っていた	99 56.6%
言葉は知っていたが、意味は知らなかった	63 36.0%
言葉も意味も知らなかった	10 5.7%
不明	3 1.7%
全 体	175 100.0%

約50%の人が言葉も意味も知っている。

問2 あなたは食育に関心がありますか

図表5 食育への関心（3歳6か月児）（n=175）



	3歳6か月児
関心がある	69 39.4%
どちらかといえば関心がある	82 46.9%
どちらかといえば関心がない	9 5.1%
関心がない	1 0.6%
わからない	11 6.3%
不明	3 1.7%
全 体	175 100.0%

約85%の人が関心を持っている。

問3 食育に関心がある人へ、その理由を教えてください（複数回答）

	3歳6か月児
子どもの心身の健全な発達のために必要	141 93.4%
食品の安全が重要	63 41.7%
生活の乱れが(不規則な食事など)問題になっている	73 48.3%
生活習慣病の増加が問題になっている	42 27.8%
食に対する感謝の気持ちが薄れている	51 33.8%
食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが大切	27 17.9%
その他	2 1.3%
全 体	151 100.0%

「子どもの心身の健全な発達のために必要」と考える人が約90%を占め、最も多い。

3) 学童期・思春期

A あなたご自身についてお聞きします

A問 1 性別

	小学3年生	小学6年生	中学3年生	17・18歳
男	244	228	170	123
	52.1%	46.4%	46.1%	41.8%
女	223	262	198	170
	47.5%	53.4%	53.6%	57.9%
不明	2	1	1	1
	0.4%	0.2%	0.3%	0.3%
全 体	469	491	369	294
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

小学3年生は男性の方が多く、他は女性の方が多い。

A問 2 地区別

	17・18歳
長野中学校区	63
	21.4%
東中学校区	60
	20.4%
千代田中学校区	79
	26.9%
西中学校区	12
	4.1%
加賀田中学校区	23
	7.8%
美加の台中学校区	24
	8.2%
南花台中学校区	26
	8.8%
不明	7
	2.4%
全 体	294
	100.0%

千代田中学校区が最も多く、全体の4分の1以上を占める。

最も少ないのは西中学校区である。

A問 2 家族の人数

	小学3年生	小学6年生	中学3年生	17・18歳
2人	15 3.2%	6 1.2%	3 0.8%	10 3.4%
3人	43 9.2%	54 11.0%	39 10.6%	38 12.9%
4人	232 49.5%	220 44.8%	172 46.6%	140 47.6%
5人	123 26.2%	128 26.1%	97 26.3%	68 23.1%
6人	35 7.5%	45 9.2%	33 8.9%	20 6.8%
7人	11 2.3%	22 4.5%	13 3.5%	11 3.7%
8人	5 1.1%	4 0.8%	4 1.1%	2 0.7%
11人	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%
不明	5 1.1%	12 2.4%	8 2.2%	4 1.4%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

どの年齢においても4人が最も多く全体の4割を超えている。次いで多いのは5人である。4人～5人が全体の約7割である。

A問 4 職業の有無

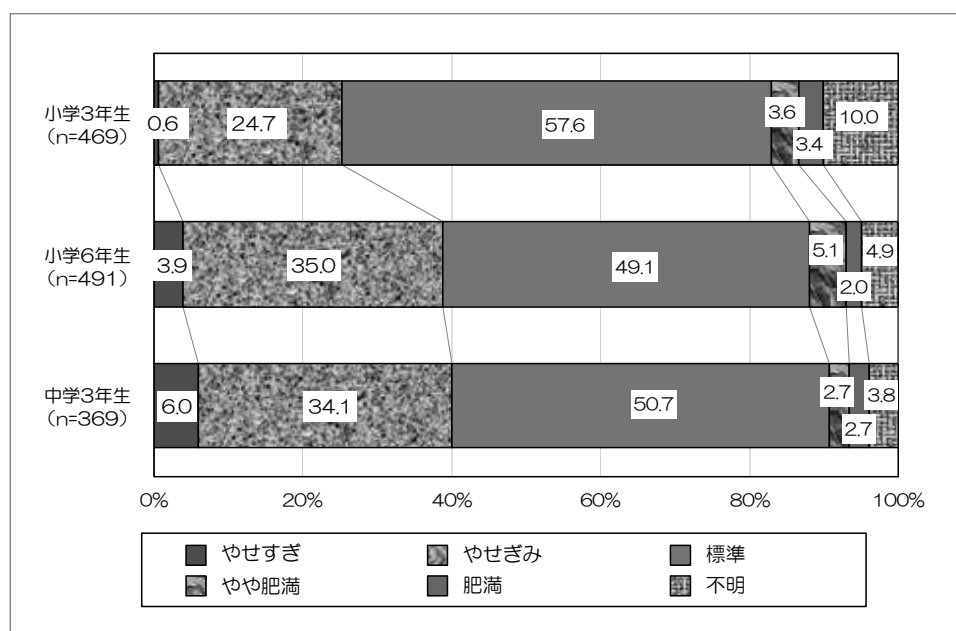
	17・18歳
学生	282 95.9%
仕事をしている	7 2.4%
その他	4 1.4%
不明	1 0.3%
全 体	294 100.0%

学生が最も多い

B あなたの身長・体重についてお聞きします

B ローレル指数（小学3年生、小学6年生、中学3年生）

図表7 ローレル指数（小学3年生・小学6年生・中学3年生）



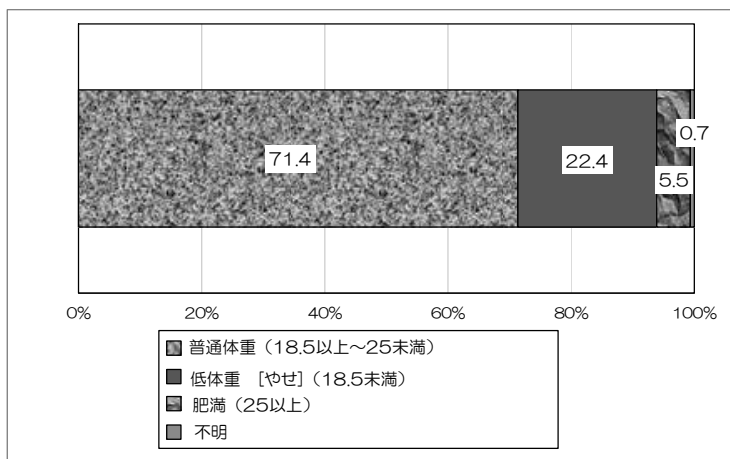
	小学3年生	小学6年生	中学3年生
やせすぎ	3 0.6%	19 3.9%	22 6.0%
やせぎみ	116 24.7%	172 35.0%	126 34.1%
標準	270 57.6%	241 49.1%	187 50.7%
やや肥満	17 3.6%	25 5.1%	10 2.7%
肥満	16 3.4%	10 2.0%	10 2.7%
不明	47 10.0%	24 4.9%	14 3.8%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%

「やせすぎ」「やせぎみ」の人が、年齢が高くなるにつれて増加傾向にある。

「やや肥満」「肥満」の割合は、年齢が高くなるにつれて減少傾向にある。

B 肥満度（17・18 歳）

図表6 肥満度（17・18 歳）（n=294）



	17・18 歳
普通体重（BMI18.5 以上～25 未満）	210 71.4%
低体重〔やせ〕（BMI18.5 未満）	66 22.4%
肥満(BMI25 以上)	16 5.5%
不明	2 0.7%
全 体	294 100.0%

普通体重の人が多いが、低体重の人も 22.4 %いる。

C あなたの健康についてお聞きます（複数回答）

	小学6年生	中学3年生	17・18 歳
内科の病気	122 24.8%	81 22.0%	66 22.4%
アレルギー (アトピー性皮膚炎・喘息・鼻炎など)	102 20.8%	83 22.5%	59 20.1%
目の病気	76 15.5%	33 8.9%	19 6.5%
耳や鼻の病気	72 14.7%	33 8.9%	19 6.5%
むし歯	168 34.2%	60 16.3%	66 22.4%
歯の矯正	57 11.6%	38 10.3%	34 11.6%
骨折・ねんざ	97 19.8%	56 15.2%	46 15.6%
その他	30 6.1%	21 5.7%	25 8.5%
特にない	98 20.0%	117 31.7%	81 27.6%
全 体	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

内科の病気、アレルギーを持つ人は全年齢で2割を超える。
目の病気、耳・鼻の病気は年齢が高くなるにつれて減少する。

Dあなたの食生活についてお聞きします

D問 1 食事回数

	小学3年生	小学6年生	中学3年生	17・18歳
1回未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%
1回	0 0.0%	1 0.2%	6 1.6%	5 1.7%
2回	3 0.6%	5 1.0%	16 4.3%	20 6.8%
3回	455 97.1%	468 95.4%	332 90.1%	251 85.5%
4回	9 1.9%	10 2.0%	13 3.5%	15 5.1%
5回以上	0 0.0%	4 0.8%	2 0.5%	1 0.3%
不明	2 0.4%	3 0.6%	0 0.0%	1 0.3%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

1日3回食べる人が、年齢が高くなるにつれて減少する。

D問 2 朝食頻度

	小学3年生	小学6年生	中学3年生	17・18歳
ほぼ毎日食べる	455 97.1%	461 93.9%	328 88.9%	251 85.4%
週に3～5回程度食べる	6 1.3%	18 3.7%	19 5.1%	20 6.8%
週に1～2回程度食べる	2 0.4%	6 1.2%	10 2.7%	7 2.4%
ほとんど食べない	2 0.4%	6 1.2%	12 3.3%	16 5.4%
不明	4 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

ほぼ毎日食べる人が最も多いが、年齢が高くなるにつれて減少傾向にある。

D問3 ひとりの夕食頻度

	小学3年生	小学6年生	中学3年生	17・18歳
ほとんどない	449 95.8%	420 85.5%	250 67.8%	169 57.6%
週に1～2回程度ある	11 2.3%	49 10.0%	71 19.2%	63 21.4%
週に3～5回程度ある	2 0.4%	11 2.2%	35 9.5%	36 12.2%
ほぼ毎日	1 0.2%	5 1.1%	13 3.5%	25 8.5%
不明	6 1.3%	6 1.2%	0 0.0%	1 0.3%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

「ほとんどない」が最も多いが、年齢が高くなるにつれて「週に1～2回」「週に3～5回」「ほぼ毎日」が増加する。17・18歳では、8.5%がほぼ毎日ひとりで夕食を食べている。

D問4 間食で食べる食品（複数回答）

	小学3年生	小学6年生	中学3年生	17・18歳
スナック菓子 (ポテトチップなど)	352 75.1%	293 59.7%	180 48.8%	151 51.4%
カップ麺	12 2.6%	31 6.3%	46 12.5%	28 9.5%
くだもの	147 31.3%	201 40.9%	105 28.5%	81 27.6%
菓子パン	92 19.6%	97 19.8%	108 29.3%	79 26.9%
洋菓子 (クッキー・ケーキ・チョコレートなど)	270 57.6%	219 44.6%	168 45.5%	150 51.0%
和菓子 (まんじゅう・どら焼きなど)	109 23.2%	57 11.6%	65 17.6%	39 13.3%
ファーストフード (ハンバーガー・ポテトフライ・ピザなど)	28 6.0%	39 7.9%	29 7.9%	33 11.2%
牛乳	123 26.2%	108 22.0%	82 22.2%	43 14.6%
ジュースなど	188 40.1%	238 48.5%	160 43.4%	150 51.0%
スポーツドリンク	79 16.8%	100 20.4%	56 15.2%	35 11.9%
その他	88 18.8%	42 8.6%	37 10.0%	32 10.9%
ほとんど食べない	13 2.8%	40 8.1%	37 10.0%	25 8.5%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

間食はどの年齢においてもスナック菓子が最も多い。

17・18歳で牛乳を飲む人が減少し、ジュースなどが増加する。菓子パン、カップ麺は中学3年生から増加。

D問5 ダイエットという言葉の認知度

	小学6年生				中学3年生			
	全体	男	女	無回答	全体	男	女	無回答
知っている	477 97.1%	219 96.1%	257 98.1%	1 100.0%	359 97.3%	164 96.5%	194 98.0%	1 100.0%
知らない	8 1.6%	5 2.2%	3 1.1%	0 0.0%	5 1.4%	2 1.2%	3 1.5%	0 0.0%
無回答	6 1.2%	4 1.8%	2 0.8%	0 0.0%	5 1.4%	4 2.4%	1 0.5%	0 0.0%
合計	491 100.0%	228 100.0%	262 100.0%	1 100.0%	369 100.0%	170 100.0%	198 100.0%	1 100.0%

ダイエットは97%の認知度。女性の方が認知度がやや高い。年齢別の差異は見られない。

D問6 ダイエットの経験の有無

	小学6年生				中学3年生			
	全体	男	女	無回答	全体	男	女	無回答
ある	47 9.9%	13 5.9%	34 13.2%	0 0.0%	77 21.4%	17 10.4%	60 30.9%	0 0.0%
したことないが したいと思っている	137 28.7%	28 12.8%	108 42.0%	1 100.0%	94 26.2%	12 7.3%	82 42.3%	0 0.0%
興味がない	293 61.4%	178 81.3%	115 44.8%	0 0.0%	188 52.4%	135 82.3%	52 26.8%	1 100.0%
合 計	477 100.0%	219 100.0%	257 100.0%	1 100.0%	359 100.0%	164 100.0%	194 100.0%	1 100.0%

中学校3年生に、ダイエット経験のある人が増加。「したいと思っている」人は女性に多く、40%を超える。
男性は80%以上が「興味がない」

ダイエット経験の有無（17・18歳）

	全体	17・18歳		
		男	女	無回答
ある	61 20.7%	6 4.9%	55 32.4%	0 0.0%
ない	228 77.6%	115 93.5%	112 65.9%	1 100.0%
無回答	5 1.7%	2 1.6%	3 1.8%	0 0.0%
合 計	294 100.0%	123 100.0%	170 100.0%	1 100.0%

ダイエット経験のある人は女性に多い。

。

初ダイエット年齢

	17・18歳
12歳	2 3.3%
13歳	2 3.3%
14歳	7 11.5%
15歳	15 24.6%
16歳	23 37.7%
17歳	6 9.8%
18歳	1 1.6%
不明	5 8.2%
全 体	61 100.0%
非該当	233

16歳が最も多く、
ついて15歳と高校入学前後に多い

E あなたの運動についてお聞きます

E 問 1 運動の有無

	小学6年生	中学3年生	17・18歳
はい	404 82.3%	275 74.5%	124 42.2%
いいえ	87 17.7%	94 25.5%	170 57.8%
不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
全 体	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

運動をしている人は、小学6年生が最も多く、年齢が高くなるにつれて減少する。

E 問 1-1 運動頻度

	小学6年生	中学3年生	17・18歳
週5回以上	113 28.0%	158 57.5%	47 37.9%
週3～4回	109 27.0%	54 19.6%	23 18.5%
週1～2回	138 34.2%	25 9.1%	34 27.4%
月1～2回	6 1.5%	10 3.6%	15 12.1%
その他	3 0.7%	3 1.1%	4 3.2%
不明	35 8.7%	25 9.1%	1 0.8%
全 体	404 100.0%	275 100.0%	124 100.0%
非該当	87	94	170

運動頻度は、中学3年生で週5回以上が57.5%と、中学生に運動頻度が高い人が多い。

E 問 1-2 運動しない理由

	小学6年生	中学3年生	17・18歳
塾などで時間がない	27 31.0%	19 20.2%	56 32.9%
仕事で時間がない			7 4.1%
疲れて運動できない	12 13.8%	24 25.5%	9 5.3%
運動することが嫌い	12 13.8%	11 11.7%	16 9.4%
室内での遊び(テレビゲーム・パソコン)などの方が楽しい	4 1.0%	1 0.4%	10 8.1%
医師から運動することをとめられている	28 32.2%	39 41.5%	2 1.2%
特に理由はない	0 0.0%	0 0.0%	68 40.0%
不明	4 4.6%	0 0.0%	2 1.2%
全 体	87 100.0%	94 100.0%	170 100.0%
非該当	404	275	124

17・18歳に「特に理由がなく」運動しない人が多い。

「塾などで時間がない」人は、小学6年生、17・18歳に多い。「疲れて運動できない」が中学3年生に多い。

F あなたの睡眠についてお聞きます

F 問 1 起床時間

	小学3年生	小学6年生
午前5時	1 0.2%	6 1.2%
午前6時	95 20.3%	102 20.8%
午前7時	363 77.4%	364 74.1%
午前8時	3 0.6%	13 2.6%
午前9時	5 1.1%	1 0.2%
不明	2 0.4%	5 1.0%
全 体	469 100.0%	491 100.0%

7割以上が午前7時に起床する。午前6～7時の間に起床する人が全体の90%以上を占める。

F 問 2 就寝時間

	小学3年生	小学6年生
午後7時	2 0.4%	1 0.2%
午後8時頃	11 2.3%	5 1.0%
午後9時	218 46.5%	52 10.6%
午後10時	204 43.5%	223 45.4%
午後11時	26 5.5%	147 29.9%
午後12時	5 1.1%	43 8.8%
午前1時	1 0.2%	14 2.9%
午前2時	0 0.0%	1 0.2%
不明	2 0.4%	5 1.0%
全 体	469 100.0%	491 100.0%

小学3年生は、午後9時から10時までの間に寝る人が90%近くおり小学校6年生は午後10時～11時までに就寝する人が70%以上、午後12時以降に寝る人も10%以上いる。

G あなたの歯みがきについてお聞きします

G問 1 歯みがき回数

	小学3年生	小学6年生	中学3年生	17・18歳
1回	67 14.3%	58 11.8%	88 23.8%	67 22.8%
2回	228 48.6%	272 55.4%	227 61.5%	199 67.7%
3回以上	165 35.2%	151 30.8%	41 11.1%	22 7.5%
毎日ではない	3 0.6%	3 0.6%	11 3.0%	4 1.4%
しない	3 0.6%	1 0.2%	1 0.3%	1 0.3%
不明	3 0.6%	6 1.2%	1 0.3%	1 0.3%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

年齢が高くなるにしたがって、歯みがきの頻度が減少する。

G問 2 歯みがき剤の使用有無

	小学3年生	小学6年生	中学3年生	17・18歳
はい	373 79.5%	420 85.5%	324 87.8%	273 92.9%
いいえ	93 19.8%	62 12.6%	44 11.9%	19 6.5%
不明	3 0.6%	9 1.8%	1 0.3%	2 0.7%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

年齢が高くなるにしたがって、歯みがき剤の使用が増加する。

G問3 食事中、噛むことを意識しているか

	小学3年生	小学6年生	中学3年生	17・18歳
はい	182 38.8%	194 39.5%	139 37.7%	105 35.7%
いいえ	285 60.8%	286 58.2%	228 61.8%	188 63.9%
不明	2 0.4%	11 2.2%	2 0.5%	1 0.3%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

年齢別に大きな差は見られない。

Hたばこについてお聞きします

H問 1 たばこ認識

	小学6年生	中学3年生	17・18歳
法律で禁止されているからいけない	424 86.4%	261 70.7%	144 49.0%
20歳まで吸えなくても仕方がない	20 4.1%	29 7.9%	24 8.2%
大人が吸っているからかまわない	1 0.2%	0 0.0%	1 0.3%
本人の考えにまかせればいい	36 7.3%	73 19.8%	124 42.2%
不明	10 2.0%	6 1.6%	1 0.3%
全 体	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

「法律で禁止されているからいけない」と答える人は、年齢が高くなるにつれて低くなり、「本人の考えにまかせればいい」が17・18歳では40%を超えている。

H問 2 たばこの害認識

	小学6年生	中学3年生	17・18歳
害があるから絶対にいけない	454 92.5%	340 92.1%	250 85.0%
少しくらいであればかまわない	24 4.9%	25 6.8%	35 11.9%
言われるほどに害はなくかまわない	4 0.8%	0 0.0%	5 1.7%
不明	9 1.8%	4 1.1%	4 1.4%
全 体	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

「害があるから絶対にいけない」と答える人は、年齢が高くなるにつれて低くなり、「少しくらいであればかまわない」が増加する。

H問 3 喫煙家族の有無

	小学6年生	中学3年生	17・18歳
有	246 50.1%	177 48.0%	121 41.2%
無	245 49.9%	192 52.0%	173 58.8%
不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
全 体	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

喫煙家族がいない人が、どの年齢においても約半数である。

H問3 喫煙家族の人数

	小学6年生	中学3年生	17・18歳
1人	173 70.3%	127 71.8%	76 62.8%
2人	57 23.2%	39 22.0%	36 29.8%
3人	3 1.2%	6 3.4%	6 5.0%
4人	2 0.8%	0 0.0%	2 1.7%
不明	11 4.5%	5 2.8%	1 0.8%
全 体	246 100.0%	177 100.0%	121 100.0%
非該当	245	192	173

喫煙家族が1人であると答えた人が、どの年齢においても最も多い。17・18歳に「2人」と答えた人が多い。

家族喫煙者の有無×未成年者が喫煙することに対する考え

		喫煙は、法律で禁止されているからいけないと思う人		
		小学6年生	中学3年生	17・18歳
家族喫煙者の有無	いる	85.3%	68.6%	43.6%
	いない	90.2%	71.7%	53.2%

どの年齢も家族喫煙者がいる人よりいない人の方が高い。

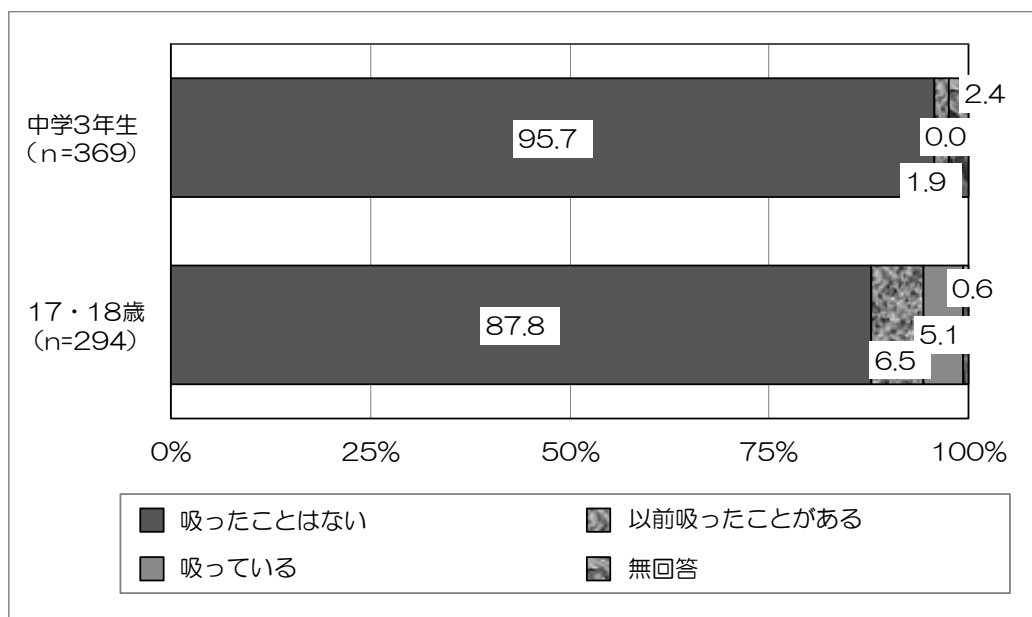
H問4 喫煙による身体への影響（複数回答）

	小学6年生	中学3年生	17・18歳
心臓の病気になりやすい	270 55.0%	181 49.1%	159 54.3%
脳の血管の病気になりやすい	161 32.8%	149 40.6%	172 58.7%
胃潰瘍になりやすい	97 19.8%	66 17.9%	68 23.2%
気管支炎や喘息になりやすい	185 37.7%	191 51.9%	184 62.6%
歯茎の病気になりやすい	202 41.1%	200 54.2%	157 53.4%
肺がんになりやすい	440 89.6%	333 90.2%	272 92.5%
煙が周囲の人の健康を害する	424 86.4%	330 89.4%	276 93.9%
赤ちゃんが予定より早く生まれる	163 33.2%	117 31.8%	159 54.1%
体重の小さい赤ちゃんが生まれやすい	178 36.3%	148 40.2%	198 67.3%
いずれも知らない	6 1.2%	2 0.2%	1 0.3%
全 体	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

気管支炎や喘息、早産、低出生児出産は17・18歳に認知度が高い。

H問 5 喫煙経験の有無

図表8 喫煙経験の有無（中学3年生、17・18歳）



	中学3年生				17・18歳			
	全	男	女	無回答	全	男	女	無回答
吸ったことはない	353 95.7%	164 96.4%	189 95.5%	0 0.0%	258 87.8%	105 85.4%	152 89.4%	1 100.0%
以前吸ったことがある	7 1.9%	2 1.2%	4 2.0%	1 100.0%	19 6.5%	8 6.5%	11 6.5%	0 0.0%
吸っている	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	15 5.1%	9 7.3%	6 3.5%	0 0.0%
無回答	9 2.4%	4 2.4%	5 2.5%	0 0.0%	2 0.6%	1 0.8%	1 0.6%	0 0.0%
全 体	369 100.0%	170 100.0%	198 100.0%	1 100.0%	294 100.0%	123 100.0%	170 100.0%	1 100.0%

中学3年生の1.9%、17・18歳の11.6%に喫煙経験あり。

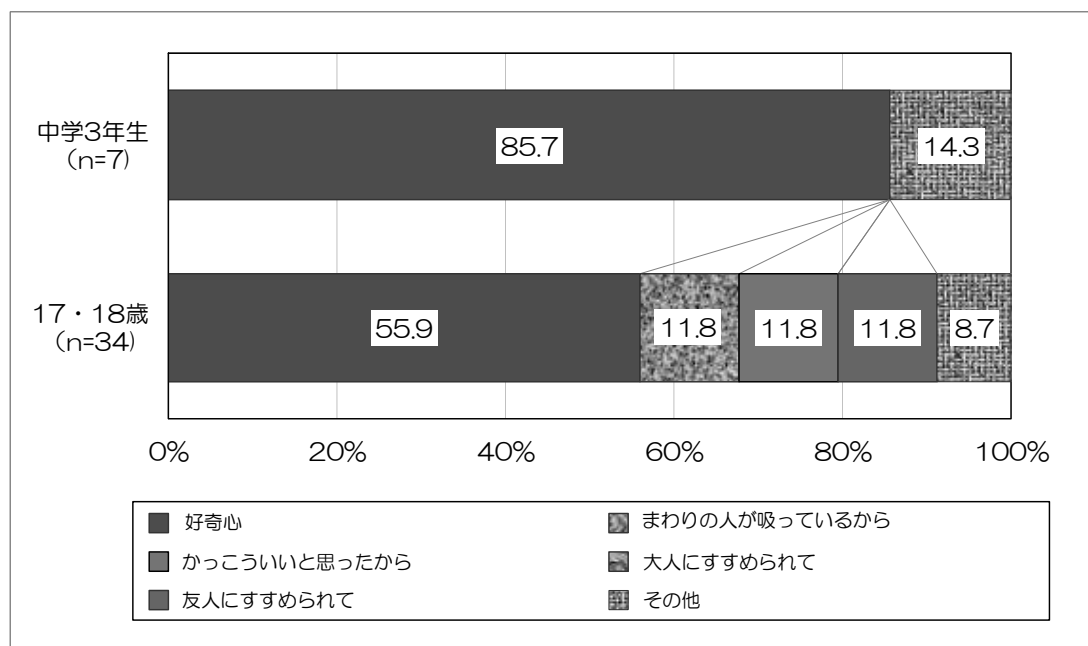
H問6 初喫煙年齢

		中学3年生	17・18歳
小学校1～3年生		4	1
		57.1%	2.9%
小学校4～6年生		1	2
		14.3%	5.9%
中学校1～3年生		2	22
		28.6%	64.7%
中学卒業後			9
			26.5%
初喫煙年齢 (再掲)	16歳		5
			55.6%
	17歳		3
			33.3%
	18歳		1
			11.1%
	合計		9
			100.0%
全 体		7	34
		100.0%	100.0%
非該当		362	260

中学3年生の初喫煙年齢は小学校1～3年生が多く、17・18歳は中学校1～3年生が多い。

H問7 たばこを吸うきっかけは

図表9 喫煙のきっかけ（中学3年生、17・18歳）



	中学 3 年生	17・18 歳
好奇心	6 85.7%	19 55.9%
まわりの人が吸っているから	0 0.0%	4 11.8%
かっこいいと思ったから	0 0.0%	4 11.8%
大人にすすめられて	0 0.0%	0 0.0%
友人にすすめられて	0 0.0%	4 11.8%
その他	1 14.3%	3 8.7%
全 体	7 100.0%	34 100.0%
非該当	362	260

中学 3 年生は好奇心から吸った人が全体の 8 割以上を占めていた。

17・18 歳では好奇心からが約 6 割で、まわりの人や友人のすすめの人も約 1 割いる。

H 問 8 友人からたばこをすすめられたら断ることが出来るか

	中学 3 年生	17・18 歳
必ず出来ると思う	270 74.6%	211 81.2%
かなり出来ると思う	60 16.6%	28 10.8%
少しは出来ると思う	22 6.1%	12 4.6%
まったく出来ないと思う	9 2.5%	5 1.9%
無回答	1 0.2%	4 1.5%
全 体	362 100.0%	260 100.0%
非該当	7	34

たばこをすすめられたら必ず断ることが出来ると思う人が多い。

中学 3 年生は、17・18 歳に比べ全く断れない人が多い。

I お酒についてお聞きします

I 問 1 飲酒認識

	小学 6 年生	中学 3 年生	17・18 歳
法律で禁止されているからいけない	387 78.8%	193 52.4%	88 29.9%
20 歳まで飲めなくても仕方がない	47 9.6%	62 16.8%	40 13.6%
大人が飲んでいるからかまわない	9 1.8%	6 1.6%	3 1.0%
本人の考えにまかせればいい	45 9.2%	106 28.8%	161 54.8%
不明	3 0.6%	2 0.3%	2 0.7%
全 体	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

「法律で禁止されているからいけない」と答える人は、年齢が高くなるにつれて低くなり、「本人の考えにまかせればいい」が増加する。「20 歳まで飲めなくても仕方がない」は、中学 3 年生で最も高い。

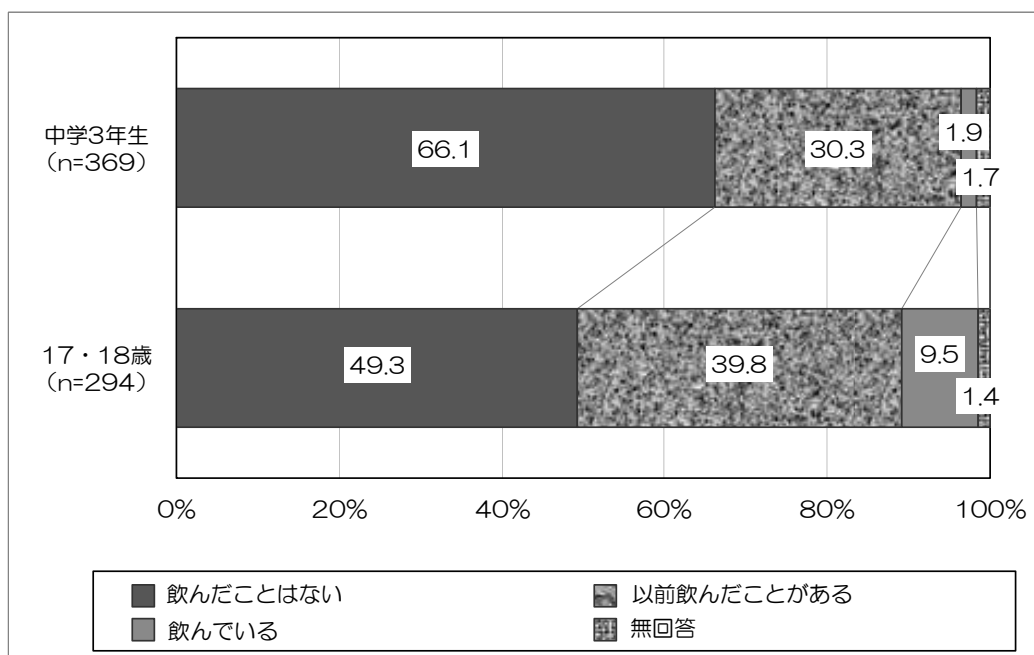
I 問 2 飲酒の害認識

	小学6年生	中学3年生	17・18歳
害があるから絶対にいけない	384 78.2%	196 53.3%	94 32.0%
少しくらいであればかまわない	95 19.3%	159 43.2%	181 61.6%
言われるほどに害はなくかまわない	8 1.6%	9 2.4%	18 6.1%
不明	4 0.8%	5 1.1%	1 0.3%
全 体	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

「害があるから絶対にいけない」と答える人は、年齢が高くなるにつれて低くなり、「少しくらいであればかまわない」が増加する。

I 問 3 飲酒経験の有無

図表 10 飲酒経験（中学3年生、17・18歳）



	中学3年生				17・18歳			
	全体	男	女	無回答	全体	男	女	無回答
飲んだことはない	244 66.1%	111 65.3%	132 66.7%	1 100%	145 49.3%	56 45.6%	89 52.3%	0 0.0%
以前飲んだことがある	112 30.3%	52 30.6%	60 30.3%	0 0.0%	117 39.8%	54 43.9%	63 37.1%	0 0.0%
飲んでいる	7 1.9%	3 1.8%	4 2.0%	0 0.0%	28 9.5%	11 8.9%	17 10.0%	0 0.0%
無回答	6 1.7%	4 2.3%	2 1.0%	0 0.0%	4 1.4%	2 1.6%	1 0.6%	1 100.0%
全 体	369 100.0%	170 100.0%	198 100.0%	1 100.0%	294 100.0%	123 100.0%	170 100.0%	1 100.0%

飲酒経験のある人は、中学3年生で32.2%、17・18歳で49.3%。

17・18歳ではほぼ半数である。

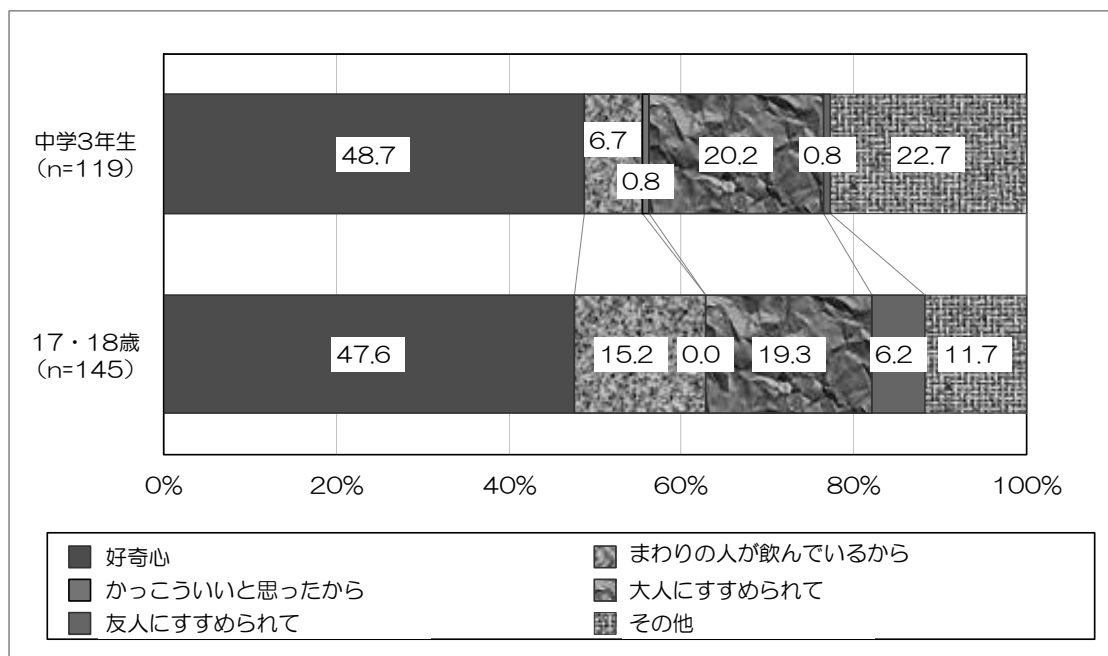
I 問 4 初飲酒年齢

		中学 3 年生	17・18 歳
小学校 1～3 年生		28	14
		23.5%	9.7%
小学校 4～6 年生		49	21
		41.2%	14.5%
中学校 1～3 年生		42	69
		35.3%	47.5%
中学卒業後			41
			28.3%
初飲酒年齢 (再掲)	15 歳		5
			12.2%
	16 歳		22
			53.7%
	17 歳		14
			34.1%
	合計		41
			100.0%
無回答		0	0
		0.0%	0.0%
全 体		119	145
		100.0%	100.0%
非該当		250	149

中学 3 年生の飲酒経験者は、小学校 4～6 年生で初飲酒する人が多く、
17・18 歳の飲酒経験者は、中学校 1～3 年生で初飲酒する人が多い。

I 問 5 飲酒のきっかけ

図表 11 飲酒のきっかけ（中学 3 年生、17・18 歳）

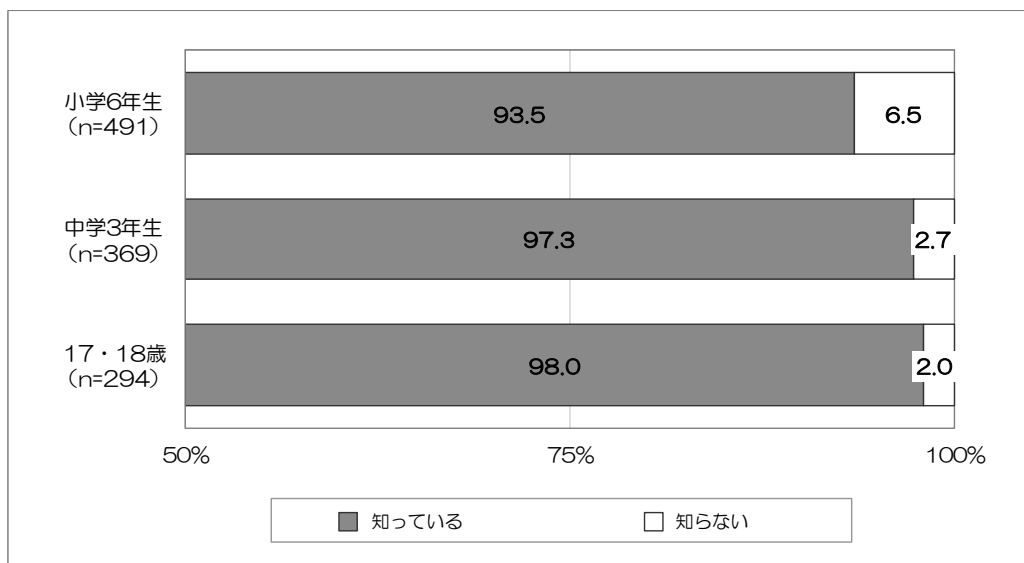


	中学3年生	17・18歳
好奇心	58 48.7%	69 47.6%
まわりの人が飲んでいるから	8 6.7%	22 15.2%
カッコいいと思ったから	1 0.8%	0 0.0%
大人にすすめられて	24 20.2%	28 19.3%
友人にすすめられて	1 0.8%	9 6.2%
その他	27 22.7%	17 11.7%
無回答	0 0.0%	0 0.0%
全 体	119 100.0%	145 100.0%
非該当	175	149

飲酒のきっかけは、どの年齢においても「好奇心」が最も多く、次に「大人にすすめられて」が多い。

Ⅱ 薬害による心と身体への影響（複数回答）

図表 12 薬害による心と身体への影響（小学6年生、中学3年生、17・18歳）



	小学6年生	中学3年生	17・18歳
知っている	459 93.5%	359 97.3%	288 98.0%
知らない	32 6.5%	10 2.7%	6 2.0%
全 体	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

薬害による心と体への影響については、どの項目においても、年齢が高くなるほど認知度が高い。

K 性のことについてお聞きします

K問1 性行動で相手を傷つける可能性

	17・18 歳			
	全体	男	女	無回答
あると思う	277 94.2%	115 93.5%	161 94.7%	1 100.0%
ないと思う	13 4.4%	7 5.7%	6 3.5%	0 0.0%
無回答	4 1.4%	1 0.8%	3 1.8%	0 0.0%
合 計	294 100.0%	123 100.0%	170 100.0%	1 100.0%

女性に「あると思う」と答えた人がやや多い。

K問2 性行動により感染症などになることの認識

	17・18 歳			
	全体	男	女	無回答
知っている	288 98.0%	119 96.7%	168 98.8%	1 100.0%
知らない	4 1.4%	3 2.4%	1 0.6%	0 0.0%
不明	2 0.7%	1 0.8%	1 0.6%	0 0.0%
合 計	294 100.0%	123 100.0%	170 100.0%	1 100.0%

98%以上が性行動による感染症を知っている。女性の方が、性感染症の認識がやや高い。

K問3 自分の体を大切にしているか

	17・18 歳			
	全体	男	女	無回答
大切にしている	270 91.8%	109 88.6%	160 94.1%	1 100.0%
大切にしていない	22 7.5%	13 10.6%	9 5.3%	0 0.0%
不明	2 0.7%	1 0.8%	1 0.6%	0 0.0%
合 計	294 100.0%	123 100.0%	170 100.0%	1 100.0%

90%以上の人が「大切にしている」と答えている。女性の方が「大切にしている」人が多い。

L あなたのその他の生活についてお聞きします

L 問 1 テレビ鑑賞時間

	小学3年生	小学6年生	中学3年生	17・18歳
ほとんど見ない	31 6.6%	18 3.7%	20 5.4%	52 17.7%
1時間未満	102 21.7%	71 14.5%	45 12.2%	63 21.4%
1時間以上 3時間未満	286 61.0%	243 49.5%	179 48.5%	131 44.6%
3時間以上	46 9.8%	153 31.2%	120 32.5%	47 16.0%
不明	4 0.9%	6 1.2%	5 1.4%	1 0.3%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

1時間以上 3時間未満テレビを見ている人が、どの年齢においても多い。
 「ほとんど見ない」人は、17・18歳層に最も多い。

L 問 2 ゲーム・パソコン時間

	小学3年生	小学6年生	中学3年生	17・18歳
ほとんどしない	219 46.7%	157 32.0%	135 36.6%	167 56.8%
1時間未満	154 32.8%	172 35.0%	87 23.6%	45 15.3%
1時間以上 3時間未満	87 18.6%	125 25.5%	114 30.9%	64 21.8%
3時間以上	6 1.3%	34 6.9%	27 7.3%	15 5.1%
不明	3 0.6%	3 0.6%	6 1.6%	3 1.0%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

年齢が高くなるほど、ゲーム・パソコン時間が増加するが、「ほとんどしない」人は、
 17・18歳層に最も多く、過半数を超える。

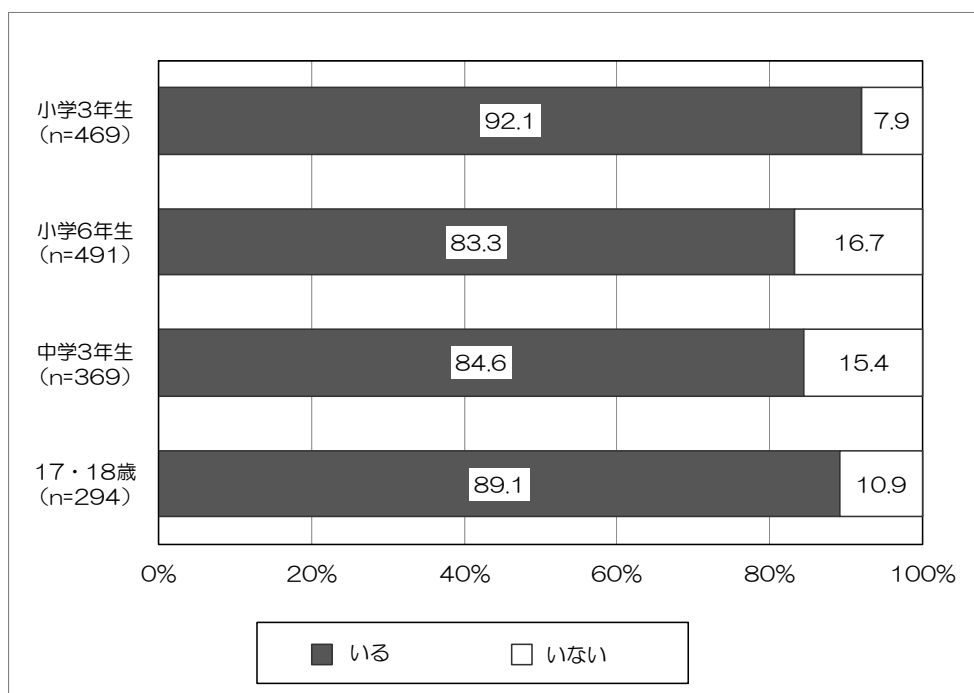
Ｌ問３ 悩み事（複数回答）

	小学３年生	小学６年生	中学３年生	１７・１８歳
友だちのこと	54 11.5%	72 14.7%	63 17.1%	55 18.7%
家族のこと	17 3.6%	40 8.1%	31 8.4%	37 12.6%
勉強のこと	57 12.2%	99 20.2%	183 49.6%	167 56.8%
仕事のこと				26 8.8%
その他	16 3.4%	21 4.3%	41 11.1%	40 13.6%
特にない	338 72.1%	302 61.5%	141 38.2%	81.0 27.6%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

「勉強のこと」で悩む人がどの年齢においても最も多い。「特にない」人は、年齢が上がるごとに少なくなっている。

Ｌ問４ 相談相手（複数回答）

図表 13 相談相手（小学３年生、小学６年生、中学３年生、１７・１８歳）



	小学３年生	小学６年生	中学３年生	１７・１８歳
いる	432 92.1%	409 83.3%	312 84.6%	262 89.1%
いない	37 7.9%	82 16.7%	57 15.4%	32 10.9%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

相談相手がいる人は 80～90%である。

Ｌ問５ 毎日の生活（複数回答）

	小学３年生	小学６年生	中学３年生	１７・１８歳
毎日が楽しい	332 70.8%	313 63.7%	206 55.8%	131 44.6%
楽しくない日が多い	38 8.1%	41 8.4%	41 11.1%	38 12.9%
体がいつもだるい	38 8.1%	60 12.2%	69 18.7%	73 24.8%
日中眠いことがある	116 24.7%	188 38.3%	201 54.5%	165 56.1%
学校や仕事に行きたくない と思うことがよくある	80 17.1%	84 17.1%	78 21.1%	78 26.5%
食欲がない	21 4.5%	16 3.3%	20 5.4%	16 5.4%
頭が痛いことがある	86 18.3%	93 18.9%	95 25.7%	83 28.2%
おなかが痛いことがある	106 22.6%	119 24.2%	124 33.6%	68 23.1%
特にない	29 6.2%	39 7.9%	27 7.3%	30 10.2%
全 体	469 100.0%	491 100.0%	369 100.0%	294 100.0%

「毎日が楽しい」と答える人は、年齢が高くなるごとに少なくなり、「楽しくない日が多い」と答える人が増加している。

「毎日が楽しい」「おなかが痛いことがある」以外の項目は、年齢が上がるごとに増加している。

4) 成人期

＜基本属性＞

		全体	年齢			
			20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
性別	男	400	81	135	179	5
		46.2%	39.9%	41.9%	54.2%	45.5%
	女	466	122	187	151	6
		53.8%	60.1%	58.1%	45.8%	54.5%
合 計		866	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体：女性の方が若干多い。

年齢別：20～39 歳層で女性は 60.1%である。

＜体重について＞

問1 あなたの身体の状態についてお聞きします。

(1)身長、体重

		全体	年齢			
			20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
B M I	18.5 未満	80	31	24	24	1
		9.2%	15.3%	7.5%	7.3%	9.1%
	18.5 以上 25 未満	628	150	235	236	7
		72.5%	73.9%	73.0%	71.5%	63.6%
	25 以上	148	21	61	64	2
		17.1%	10.3%	18.9%	19.4%	18.2%
	無回答	10	1	2	6	1
		1.2%	0.5%	0.6%	1.8%	9.1%
合 計		866	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体：普通体重の人は、72.5%である。

年齢別：若い人ほど普通体重の人の割合が多い。

BMI 値＝体重（キログラム）÷身長（メートル）²

BMI →

18.5 未満	低体重（やせ）
18.5 以上 25 未満	普通体重
25 以上	肥満

＜男性＞

		全体	年齢			
			20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
BMI	18.5 未満	13	3	2	8	0
		3.3%	3.7%	1.5%	4.5%	0.0%
	18.5 以上 25 未満	286	62	92	129	3
		71.4%	76.6%	68.2%	72.1%	60.0%
	25 以上	97	15	40	41	1
		24.3%	18.5%	29.6%	22.9%	20.0%
	無回答	4	1	1	1	1
		1.0%	1.2%	0.7%	0.5%	20.0%
合 計		400	81	135	179	5
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

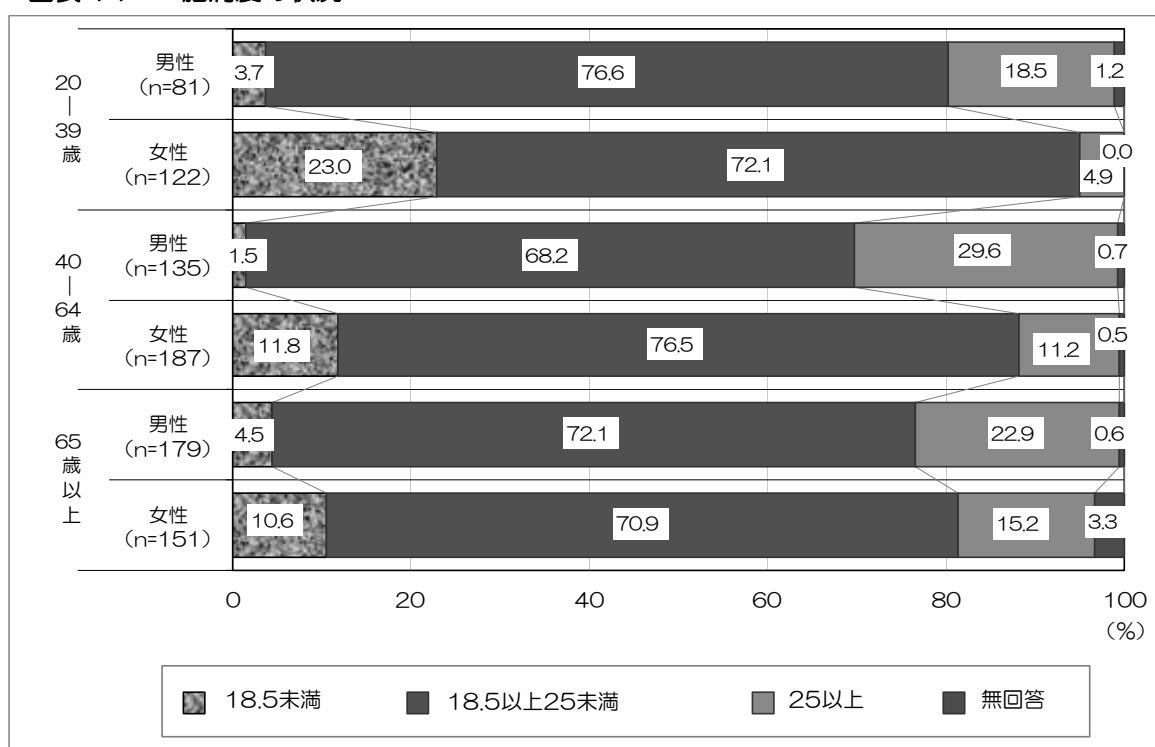
全体：普通体重の人は 71.4%である。肥満の人は、24.3%いる。

<女性>

		全体	年齢			
			20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
B M I	18.5 未満	67 14.4%	28 23.0%	22 11.8%	16 10.6%	1 16.7%
	18.5 以上 25 未満	342 73.4%	88 72.1%	143 76.5%	107 70.9%	4 66.6%
	25 以上	51 10.9%	6 4.9%	21 11.2%	23 15.2%	1 16.7%
	無回答	6 1.3%	0 0.0%	1 0.5%	5 3.3%	0 0.0%
	合 計	466 100.0%	122 100.0%	187 100.0	151 100.0	6 100.0

全体：普通体重の人は 73.4%である。性別：男性に比べて女性の方がやせの人が多く、肥満の人は少ない。

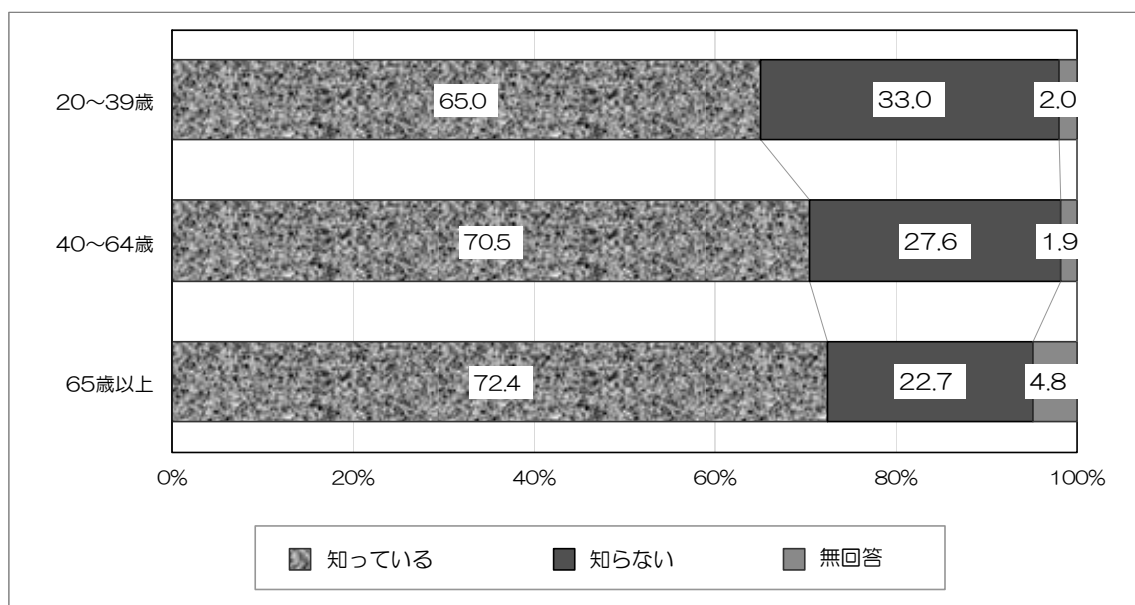
図表 14 肥満度の状況



<年齢別・性別とBMIの状況>

		18.5 未満	18.5 以上 25 未満	25 以上	無回答	合計
20～39 歳	男性	3 3.7%	62 76.6%	15 18.5%	1 1.2%	81 100.0%
	女性	28 23.0%	88 72.1%	6 4.9%	0 0.0%	122 100.0%
40～64 歳	男性	2 1.5%	92 68.2%	40 29.6%	1 0.7%	135 100.0%
	女性	22 11.8%	143 76.5%	21 11.2%	1 0.5%	187 100.0%
65 歳以上	男性	8 4.5%	129 72.1%	41 22.9%	1 0.6%	179 100.0%
	女性	16 10.6%	107 70.9%	23 15.2%	5 3.3%	151 100.0%

図表 15 適正体重の認知度



	全体	性別		年齢		
		男	女	20~39 歳	40~64 歳	65 歳以上
知っている	603 69.7%	300 75.0%	303 65.0%	132 65.0%	227 70.5%	239 72.4%
知らない	235 27.1%	93 23.3%	142 30.5%	67 33.0%	89 27.6%	75 22.7%
無回答	28 3.2%	7 1.8%	21 4.5%	4 2.0%	6 1.9%	16 4.8%
合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%

全体：「知っている」は 69.7%

性別：「知っている」は男性の方が女性より多い。

年齢：「知っている」割合が最も高いのは、65 歳以上である。

<喫煙について>

問 2 あなたは、たばこを吸いますか。

ア) 市民一般の喫煙の状況

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
喫煙の有無	吸う	155	101	54	42	69	43	1
		17.9%	25.3%	11.6%	20.7%	21.4%	13.0%	9.1%
	吸わない	507	144	363	124	182	196	5
		58.5%	36.0%	77.9%	61.1%	56.6%	59.4%	45.4%
	以前は吸っていた が今はやめた	191	151	40	35	70	84	2
		22.1%	37.7%	8.6%	17.2%	21.7%	25.5%	18.2%
	不明	13	4	9	2	1	7	3
		1.5%	1.0%	1.9%	1.0%	0.3%	2.1%	27.3%
合 計		866	400	466	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体 : 喫煙している人は 17.9%

性別 : 喫煙している人は男性 25.3%、女性は 11.6%で男性の方が喫煙率が高い。

年齢別 : 40～64 歳の層が最も喫煙率が高い。

		全体	ストレスの有無				
			よくある	ときどきある	あまりない	ほとんどない	無回答
喫煙の有無	吸う	155	35	75	20	20	5
		17.9%	18.1%	19.1%	12.7%	19.0%	27.8%
	吸わない	507	117	242	85	54	9
		58.5%	60.7%	61.5%	54.2%	51.4%	50.0%
	以前は吸っていたが今はやめた	191	39	71	49	30	2
		22.1%	20.2%	18.1%	31.2%	28.6%	11.1%
	不明	13	2	5	3	1	2
		1.5%	1.0%	1.3%	1.9%	1.0%	11.1%
合 計		18	18	193	393	157	105
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

ストレス別 : 大差はない。

イ) 喫煙している人のうち、1日20本以上の喫煙者

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
うち1日20本 以上の喫煙者		78	60	18	15	43	20	0
		50.3%	59.4%	33.3%	35.7%	62.3%	46.5%	.0%
合 計		155	101	54	42	69	43	1
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

		全体	ストレスの有無				
			よくある	ときどき ある	あまり ない	ほとんど ない	無回答
うち1日20本 以上の喫煙者		78	16	37	11	10	4
		50.3%	45.7%	49.3%	55.0%	50.0%	80.0%
合 計		155	35	75	20	20	5
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

ストレス別 : 大差はない。

<男性>

	全体	年齢			
		20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
うち1日20本以上の喫煙者	60 59.4%	13 43.3%	29 72.5%	18 60.0%	0 0.0%
男性合計	101 100.0%	30 100.0%	40 100.0%	30 100.0%	1 100.0%

<女性>

	全体	年齢			
		20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
うち1日20本以上の喫煙者	18 33.3%	2 16.7%	14 48.3%	2 15.4%	0 0.0%
女性合計	54 100.0%	12 100.0%	29 100.0%	13 100.0%	0 100.0%

全体 : 1日20本以上吸う人は50.3%

性別 : 1日20本以上吸う人は男性で59.4%と高い。

性×年齢別: 男女ともに40～64歳層に多い。

ウ) 喫煙している人のうち、1日20本以上30年以上の喫煙者

	全体	性別		年齢			
		男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
うち1日20本以上30年以上の喫煙者	47 30.3%	39 38.6%	8 14.8%	2 4.8%	25 36.2%	20 46.5%	0 0.0%
合 計	155 100.0%	101 100.0%	54 100.0%	42 100.0%	69 100.0%	43 100.0%	1 100.0%

<男性>

	全体	年齢			
		20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
うち1日20本以上30年以上の喫煙者	39 38.6%	2 6.7%	19 47.5%	18 60.0%	0 0.0%
男性合計	101 100.0%	30 100.0%	40 100.0%	30 100.0%	1 100.0%

<女性>

	全体	年齢			
		20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
うち1日20本以上30年以上の喫煙者	8 14.8%	0 0.0%	6 20.7%	2 15.4%	0 0.0%
女性合計	54 100.0%	12 100.0%	29 100.0%	13 100.0%	0 100.0%

全体 : 1日20本以上30年以上の喫煙者は30.3%。

性別 : 1日20本以上30年以上の喫煙者は男性が38.6%と高い。

性×年齢別: 男女とも65～74歳層に多い。

工) 吸い始めた年齢（喫煙している市民のみ）

		全体	性別	
			男	女
吸い始めの年齢	12 歳未満	1 0.6%	1 0.9%	0 0.0%
	12 歳以上 15 歳未満	5 3.2%	5 5.0%	0 0.0%
	15 歳以上 18 歳未満	15 9.7%	10 9.9%	5 9.3%
	18 歳以上 20 歳未満	21 13.6%	16 15.8%	5 9.3%
	20 歳	58 37.4%	42 41.6%	16 29.6%
	21 歳以上	46 29.7%	21 20.8%	25 46.3%
	不明	9 5.8%	6 5.9%	3 5.6%
合 計		155 100.0%	101 100.0%	54 100.0%

全体：20 歳が最も多い。20 歳未満で吸い始めた人は 27.1%。

性別：男性では 20 歳未満で吸い始めた人は 31.6%、女性では 18.6%。

オ) 今後禁煙したいと考えていますか

<男性>

	全体	年齢			
		20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
禁煙したい	65 64.4%	19 63.3%	26 65.0%	19 63.3%	1 100.0%
喫煙している男性合計	101 100.0%	30 100.0%	40 100.0%	30 100.0%	1 100.0%

<女性>

	全体	年齢			
		20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
禁煙したい	42 77.8%	11 91.7%	23 79.3%	8 61.5%	0 0.0%
喫煙している女性合計	54 100.0%	12 100.0%	29 100.0%	13 100.0%	0 100.0%

性別：男女とも半数以上の方が喫煙を望んでおり、女性の方が多い。

年代別：男性ではどの年齢層の人も 60% 台の禁煙希望者がいる。女性では 20～39 歳層の人は 90% 以上が禁煙を望んでおり、いずれも女性の方が禁煙を望む人が多い。

問3 あなたは、喫煙が健康に次のような影響を及ぼすことを知っていますか。(複数回答)

ア) 市民一般の認知度

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
喫煙の健康に対する影響	肺がん	822 94.9%	382 95.5%	440 94.4%	201 99.0%	315 97.8%	296 89.7%	10 90.9%
	ぜんそく	521 60.2%	220 55.0%	301 64.6%	120 59.1%	192 59.6%	203 61.5%	6 54.5%
	気管支炎	587 67.8%	263 65.8%	324 69.5%	137 67.5%	225 69.9%	220 66.7%	5 45.5%
	心臓病	427 49.3%	200 50.0%	227 48.7%	84 41.4%	176 54.7%	163 49.4%	4 36.4%
	脳卒中	406 46.9%	191 47.8%	215 46.1%	105 51.7%	166 51.6%	133 40.3%	2 18.2%
	胃かいよう	220 25.4%	98 24.5%	122 26.2%	あ 21.7%	79 24.5%	95 28.8%	2 18.2%
	早産	310 35.8%	72 18.0%	238 51.1%	108 53.2%	141 43.8%	58 17.6%	3 27.3%
	低体重児出産	319 36.8%	66 16.5%	253 54.3%	108 53.2%	147 45.7%	62 18.8%	2 18.2%
	歯周病	213 24.6%	75 18.8%	138 29.6%	66 32.5%	97 30.1%	49 14.8%	1 9.1%
	まったく知らない	20 2.3%	10 2.5%	10 2.1%	4 2.0%	6 1.9%	10 3.0%	0 0.0%
	無回答	21 2.5%	4 1.0%	17 3.6%	0 0.0%	5 1.6%	16 4.8%	0 0.0%
合 計		866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体：肺がんと喫煙との関連については認知度は94.9%と高い。

心臓病、脳卒中、胃かいよう、早産、低体重児出産、歯周病は半数以下。

性別：早産、低出生児出産について、女性は認知度が50%を超えているが、男性は低い。

年齢別：肺がん、脳卒中、早産、低出生児出産、歯周病は年齢が高くなるほど認知率が下がる。

問4 (1)働いている人のうち、職場では、分煙が行われていますか。

		全体
禁煙・分煙の状況	すべて禁煙	95 22.4%
	空間分煙(喫煙できるところとできないところがある)	201 47.3%
	時間分煙(禁煙タイム、もしくは喫煙タイムがある)	8 1.9%
	空間・時間分煙の両方	8 1.9%
	分煙は行われていない	44 10.4%
	わからない	12 2.8%
	無回答	57 13.4%
合 計		425 100.0%

全体：すべて禁煙となっているのは22.4%、分煙が行われているが51.1%。

問 4 (2)禁煙・分煙が行われている職場のうち、禁煙・分煙は守られていますか。

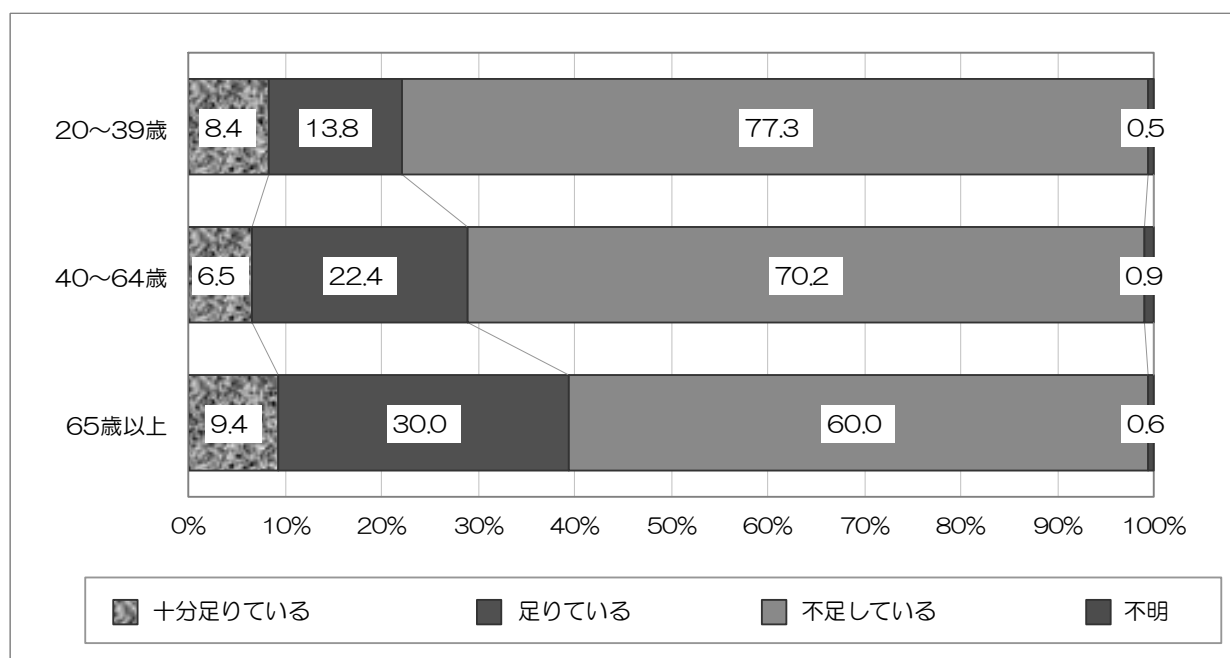
		全体
職場の分煙	守られている	297 95.2%
	守られていない	13 4.2%
	無回答	2 0.6%
合 計		312 100.0%

全体：分煙が守られていないのは4.2%。

＜身体を動かすことや運動について＞

問 5 あなたは、自分自身の身体を動かすことについてどう思いますか。

図表 16 運動の状況



	全体	性別		年齢		
		男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上
十分足りている	70	39	31	17	21	31
	8.1%	9.8%	6.7%	8.4%	6.5%	9.4%
足りている	203	97	106	28	72	99
	23.4%	24.2%	22.7%	13.8%	22.4%	30.0%
不足している	586	263	323	157	226	198
	67.7%	65.7%	69.3%	77.3%	70.2%	60.0%
不明	7	1	6	1	3	2
	0.8%	0.3%	1.3%	0.5%	0.9%	0.6%
合 計	866	400	466	203	322	330
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

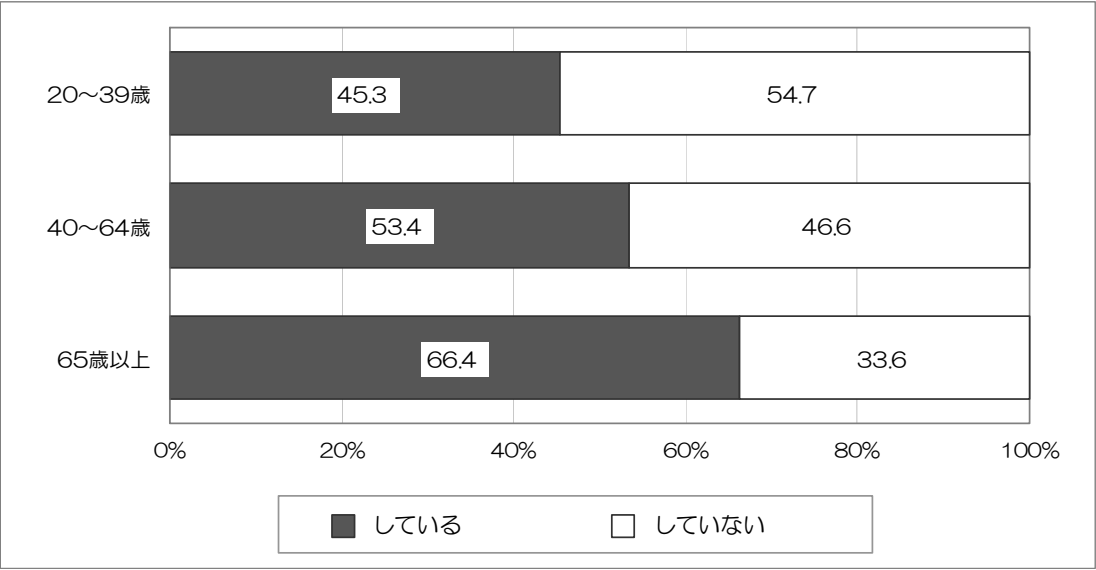
全体：半数以上の人々が「不足している」と感じている。

性別：男性の方が足りていると感じている人が多い。

年齢別：65 歳以上で「不足している」と答える人が少ない。

問 6 あなたは、健康の維持・増進のために意識的に身体を動かすなどの運動をしていますか。

図表 17 意識的な運動の状況



	全体	性別		年齢		
		男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上
している	491 56.7%	236 59.0%	255 54.7%	92 45.3%	172 53.4%	219 66.4%
していない	375 43.3%	164 41.0%	211 45.3%	111 54.7%	150 46.6%	111 33.6%
合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%

全体：半数以上の人が意識的な運動をしている。
性別：男性の方が女性より多い。
年齢別：年齢があがるにつれ「している」人が多い。

問 7 (1)それはどの程度ですか。

	全体	性別		年齢		
		男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上
ほとんど毎日	209 42.6%	107 45.3%	102 40.0%	33 35.5%	77 44.7%	97 44.5%
週 2～3 回	191 38.9%	88 37.3%	103 40.4%	38 40.8%	66 38.4%	84 38.5%
週 1 回	60 12.2%	32 13.6%	28 11.0%	17 18.3%	22 12.8%	20 9.2%
その他	19 3.9%	5 2.1%	14 5.5%	3 3.2%	6 3.5%	10 4.6%
不明	12 2.4%	4 1.7%	8 3.1%	2 2.2%	1 0.6%	7 3.2%
合 計	491 100.0%	236 100.0%	255 100.0%	93 100.0%	172 100.0%	218 100.0%

全体：「ほとんど毎日」が最も多い。
性別：大差がない。
年齢別：大差がない。

(2) 1 回の時間はどの程度ですか。

		全体	性別		無回答
			男	女	
運動時間	15 分未満	49 10.0%	19 8.1%	30 11.8%	0 0.0%
	15 分以上 30 分未満	109 22.2%	43 18.2%	66 25.9%	0 0.0%
	30 分以上 1 時間未満	156 31.8%	74 31.4%	82 32.1%	0 0.0%
	1 時間以上 2 時間未満	115 23.4%	65 27.5%	50 19.6%	0 0.0%
	2 時間以上	36 7.3%	25 10.6%	11 4.3%	0 0.0%
	その他	3 0.6%	1 0.4%	2 0.8%	0 0.0%
	不明	23 4.7%	9 3.8%	14 5.5%	0 0.0%
合 計		491 100.0%	236 100.0%	255 100.0%	0 0.0%

全体：30 分以上 1 時間未満が 31.8%と最も多い。

性別：女性の方が、運動時間が短い人が多い。

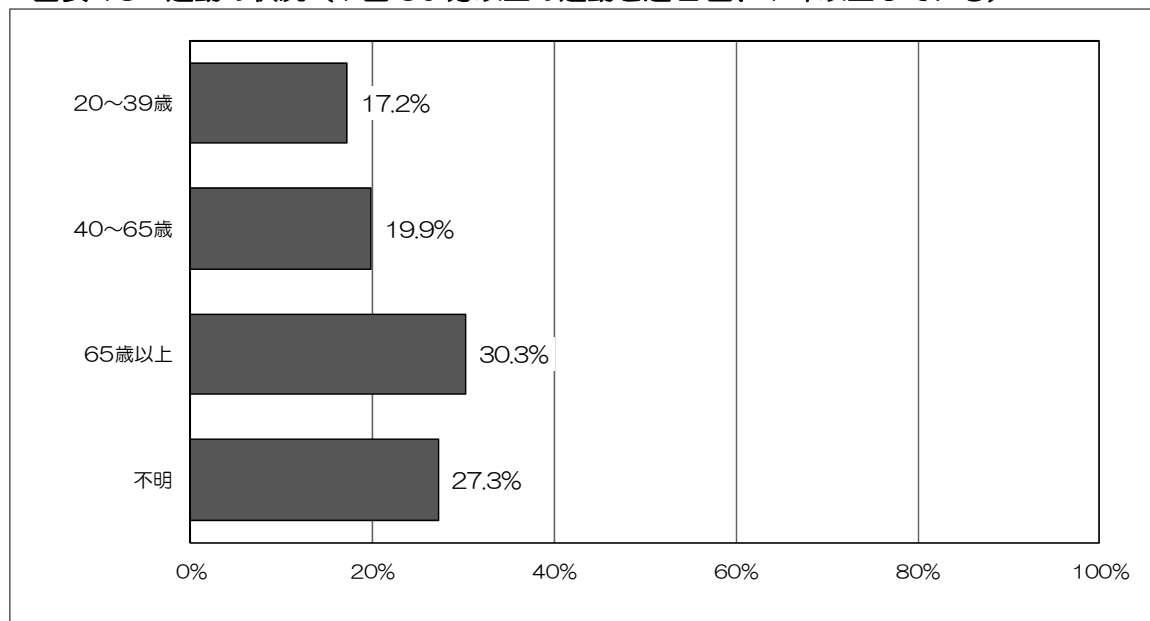
(3) 期間はどの程度ですか。

		全体	性別		無回答
			男	女	
運動期間	半年未満	83 16.9%	30 12.7%	53 20.8%	0 0.0%
	半年以上 1 年未満	54 11.0%	24 10.2%	30 11.8%	0 0.0%
	1 年以上	323 65.8%	171 72.4%	152 59.6%	4 0.0%
	不明	31 6.3%	11 4.7%	20 7.8%	0 0.0%
	合 計	491 100.0%	236 100.0%	255 100.0%	0 0.0%

全体：1 年以上継続している人は 65.8%と最も多い。

性別：男性の方が 1 年以上継続している人が多い。

図表 18 運動の状況（1 回 30 分以上の運動を週 2 回、1 年以上している）



	全体	性別		年齢			
		男	女	20～39歳	40～65歳	65歳以上	不明
1回30分以上の運動を週2回、1年間以上している人	202 23.3%	109 27.3%	93 20.0%	35 17.2%	64 19.9%	100 30.3%	3 27.3%
合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

<男性>

	全体	年齢			
		20～39歳	40～64歳	65歳以上	不明
1回30分以上の運動を週2回、1年間以上している人	109 27.3%	20 24.7%	28 20.7%	60 33.5%	1 20.0%
男性合計	400 100.0%	81 100.0%	135 100.0%	179 100.0%	5 100.0%

<女性>

	全体	年齢			
		20～39歳	40～64歳	65歳以上	不明
1回30分以上の運動を週2回、1年間以上している人	93 20.0%	15 12.3%	36 19.3%	40 26.5%	2 33.3%
女性合計	466 100.0%	122 100.0%	187 100.0%	151 100.0%	6 100.0%

全体 : 1 回 30 分以上の運動を週 2 回、1 年間以上している人は 23.3%である

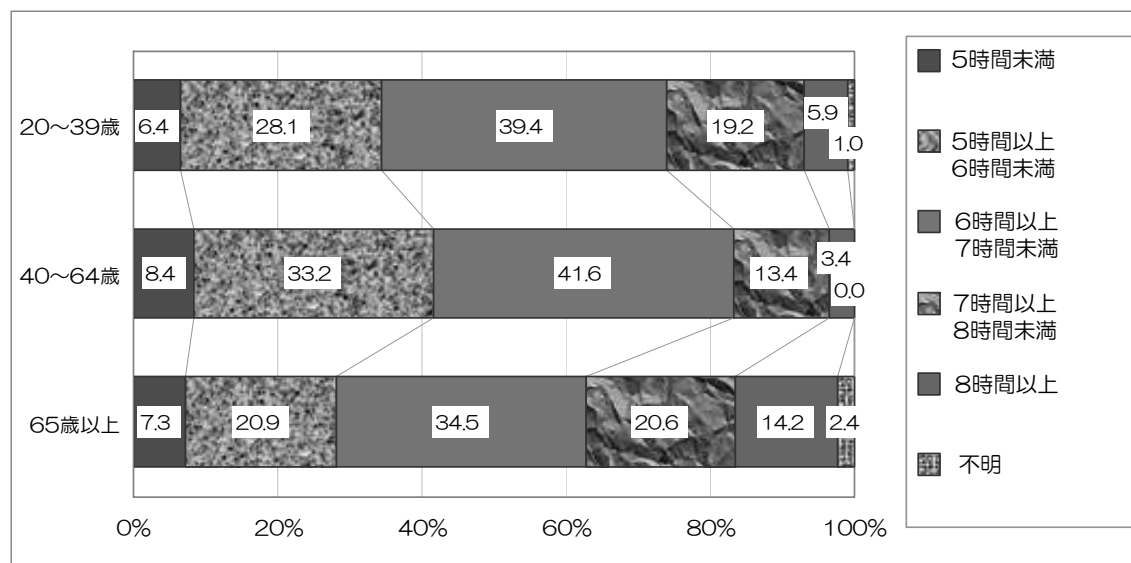
性別 : 男性の方が女性に比べて多い

年齢別 : 男性は、65～74 歳層の人が他の年齢層に比べて多い

<睡眠について>

問 8 あなたの 1 日の平均睡眠時間はどれくらいですか。

図表 19 平均睡眠時間



	全体	性別		年齢		
		男	女	20~39 歳	40~64 歳	65 歳以上
5 時間未満	65 7.5%	37 9.3%	28 6.0%	13 6.4%	27 8.4%	24 7.3%
5 時間以上 6 時間未満	238 27.5%	99 24.8%	139 29.8%	57 28.1%	107 33.2%	69 20.9%
6 時間以上 7 時間未満	330 38.0%	146 36.4%	184 39.5%	80 39.4%	134 41.6%	114 34.5%
7 時間以上 8 時間未満	152 17.6%	80 20.0%	72 15.5%	39 19.2%	43 13.4%	68 20.6%
8 時間以上	71 8.2%	34 8.5%	37 7.9%	12 5.9%	11 3.4%	47 14.2%
不明	10 1.2%	4 1.0%	6 1.3%	2 1.0%	0 0.0%	8 2.4%
合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%

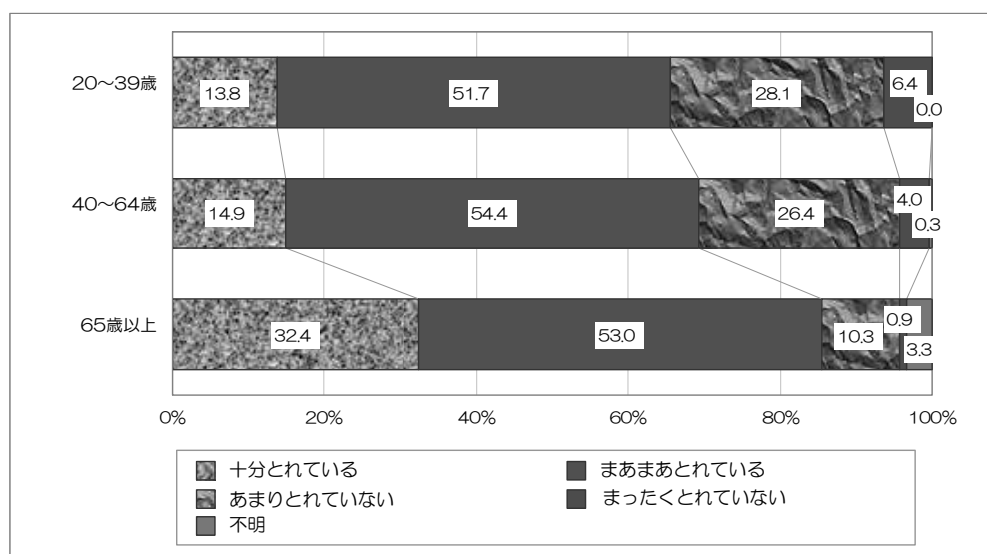
全体：6～7 時間の人が 38.0%と最も多い。5 時間未満は 7.5%である。

性別：男女とも 8 時間未満の人が全体の約 90%を占めている。

年齢別：65 歳以上では 8 時間以上の人が 14.2%で他の年齢層よりも多い。

問 9 あなたは、ふだんっている睡眠で休養が十分とれていますか。

図表 20 睡眠の充足度（睡眠により休養がとれているか）



	全体	性別		年齢		
		男	女	20~39 歳	40~64 歳	65 歳以上
十分とれている	184 21.2%	97 24.2%	87 18.7%	28 13.8%	48 14.9%	107 32.4%
まあまあとれている	463 53.5%	208 52.0%	255 54.7%	105 51.7%	175 54.4%	175 53.0%
あまりとれていない	178 20.6%	76 19.0%	102 21.9%	57 28.1%	85 26.4%	34 10.3%
まったくとれていない	29 3.3%	13 3.3%	16 3.4%	13 6.4%	13 4.0%	3 0.9%
不明	12 1.4%	6 1.5%	6 1.3%	0 0.0%	1 0.3%	11 3.3%
合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%

全体：「十分とれている」21.2%、「まあまあとれている」53.5%である。

性別：女性に「あまりとれていない」人が21.9%と、男性と比較して多い。

年齢別：20~39 歳層では「あまりとれていない」「まったくとれていない」が他層より多い。

問 10 あなたは睡眠の確保のために睡眠補助品(薬)やアルコールを使うことがありますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20~39 歳	40~64 歳	65 歳以上	無回答
睡眠補助品の使用	常にある	92 10.6%	53 13.3%	39 8.4%	7 3.4%	28 8.7%	54 16.4%	3 27.3%
	時々ある	98 11.3%	47 11.8%	51 10.9%	17 8.4%	32 9.9%	47 14.2%	2 18.1%
	ほとんどない	125 14.4%	71 17.8%	54 11.6%	26 12.8%	49 15.2%	47 14.2%	3 27.3%
	まったくない	539 62.2%	225 56.3%	314 67.4%	152 74.9%	212 65.8%	172 52.1%	3 27.3%
	不明	12 1.4%	4 1.0%	8 1.7%	1 0.5%	1 0.3%	10 3.1%	0 .0%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体：「常にある」10.6%、「時々ある」11.3%

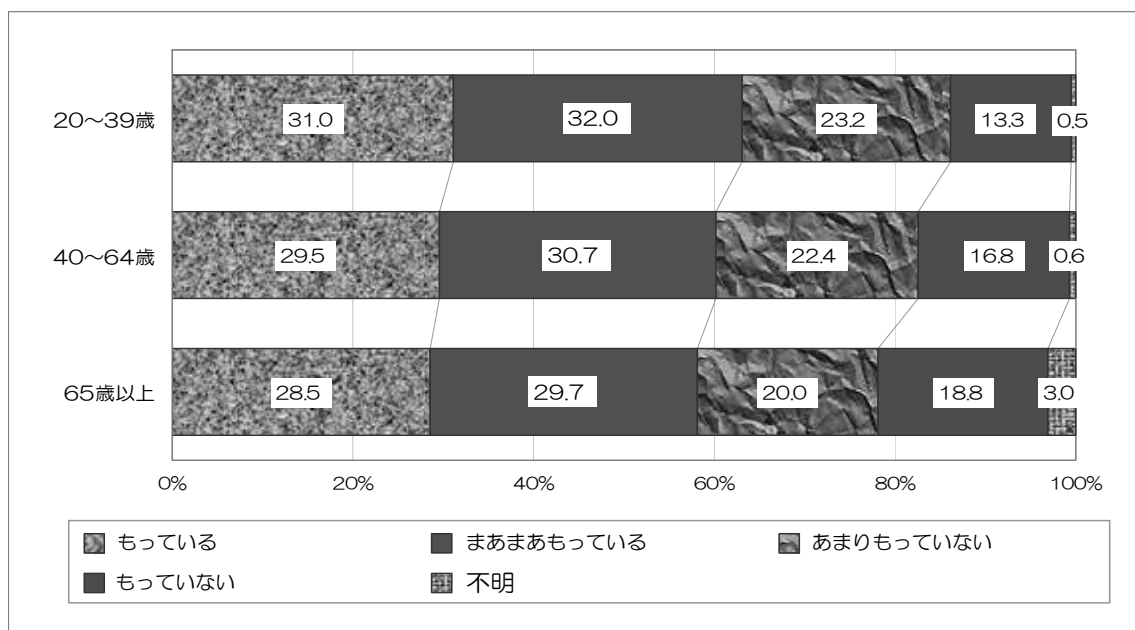
性別：男性に「常にある」「時々ある」が女性と比較して多い。

年齢別：65 歳以上層に使用する人が約 30%いる。年齢があがるにつれ常時使用する人が増加している。

<生きがいやふだんのおつきあいについて>

問 11 あなたは、自分が打ち込んでやりがいや充実感を得られるものを持っていますか。

図表 21 やりがいや充実感の状況



	全体	性別		年齢		
		男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上
もっている	256	120	136	63	95	94
	29.6%	30.0%	29.2%	31.0%	29.5%	28.5%
まあまあもっている	266	123	143	65	99	98
	30.7%	30.7%	30.7%	32.0%	30.7%	29.7%
あまりもっていない	187	92	95	47	72	66
	21.6%	23.0%	20.4%	23.2%	22.4%	20.0%
もっていない	144	59	85	27	54	62
	16.6%	14.8%	18.2%	13.3%	16.8%	18.8%
不明	13	6	7	1	2	10
	1.5%	1.5%	1.5%	0.5%	0.6%	3.0%
合 計	866	400	466	203	322	330
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体：「あまりもっていない」は21.6%、「もっていない」は16.6%である。

性別：大差はみられない。

年齢別：65歳以上の人は他層の人に比べ「もっている」人が少なく、「もっていない」人が多い。

問 12 地域活動などへの参加(町内会、子ども会、老人会、PTA、ボランティアなど)

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
地域活動	多い方 だと思う	54	26	28	6	32	16	0
		6.2%	6.5%	6.0%	3.0%	9.9%	4.8%	0.0%
	ふつう だと思う	187	75	112	43	74	67	3
		21.6%	18.8%	24.0%	21.2%	23.0%	20.3%	27.3%
	少ない方 だと思う	548	267	281	151	207	183	7
		63.3%	66.7%	60.3%	74.3%	64.3%	55.5%	63.6%
	不明	77	32	45	3	9	64	1
		8.9%	8.0%	9.7%	1.5%	2.8%	19.4%	9.1%
合 計		866	400	466	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体：「少ない方だと思」は63.3%。

性別：「少ない方だと思」と答える人は男性に多い。

年代別：若い年齢層の人ほど「少ない方だと思」と感じている。

現在地域活動などへの参加が少ない人×今後の地域活動などへの参加

地域活動への参加が少ないと思う市民		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
地域活動	今のままでよい	358 65.3%	178 66.7%	180 64.0%	97 64.2%	135 65.2%	121 66.1%	5 71.4%
	今より増やしたい	154 28.1%	72 27.0%	82 29.2%	49 32.5%	59 28.5%	45 24.6%	1 14.3%
	今より減らしたい	17 3.1%	10 3.7%	7 2.5%	3 2.0%	10 4.8%	4 2.2%	0 0.0%
	不明	19 3.5%	7 2.6%	12 4.3%	2 1.3%	3 1.5%	13 7.1%	1 14.3%
	合 計	548 100.0%	267 100.0%	281 100.0%	151 100.0%	207 100.0%	183 100.0%	7 100.0%

全体 : 「今のままでよい」と思う人が 65.3%と半数以上いる。

性別 : 「今のままでよい」と思っている人は男性の方が多い。

年齢別 : 「今より増やしたい」と思っている人は年齢層が上がるにつれ減少している。

問 13 あなたは、健康づくりを推進するための学習会や自主グループなどに関心がありますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
健康づくり学習会	関心があり、機会があれば活動したい	173 20.0%	61 15.3%	112 24.0%	38 18.7%	68 21.1%	65 19.7%	2 18.2%
	関心はあるが、活動については考えていない	353 40.8%	157 39.1%	196 42.1%	69 33.9%	139 43.1%	140 42.4%	5 45.4%
	関心がない	184 21.2%	109 27.3%	75 16.1%	47 23.2%	78 24.2%	58 17.6%	1 9.1%
	よくわからない	123 14.2%	58 14.5%	65 13.9%	45 22.2%	34 10.6%	43 13.0%	1 9.1%
	不明	33 3.8%	15 3.8%	18 3.9%	4 2.0%	3 1.0%	24 7.3%	2 18.2%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体 : 「関心があり機会があれば活動したい」が 20.0%。

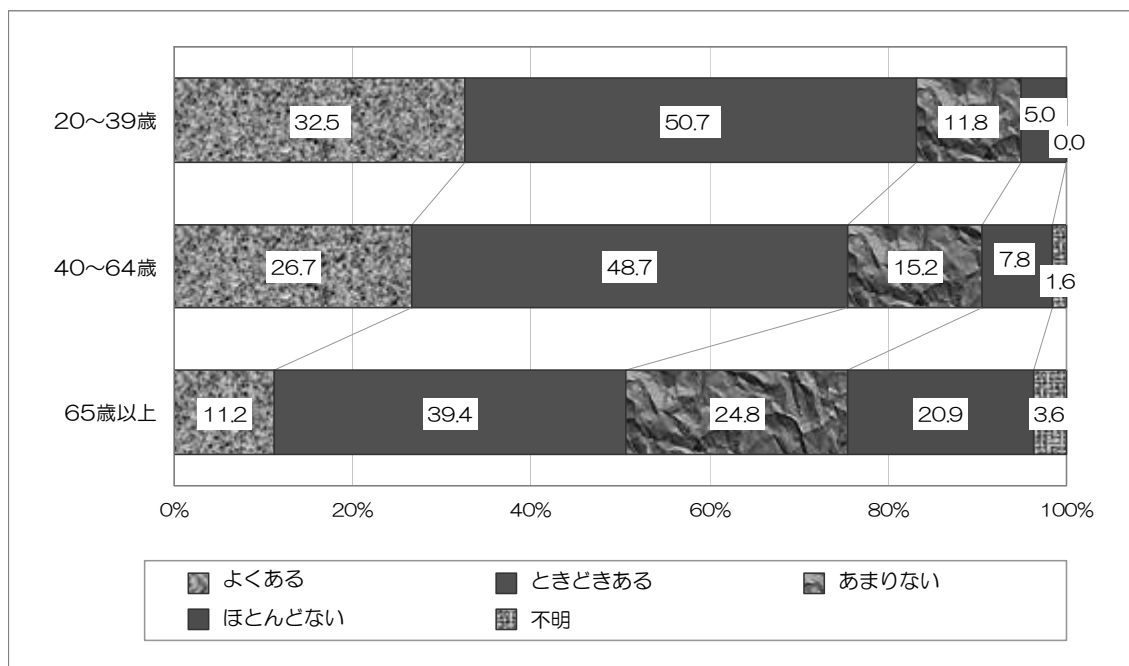
性別 : 女性の方が「活動したい」が多い。

年齢別 : 40 歳～74 歳までの層に関心が高い。

<日頃のストレスについて>

問 14 あなたは、ふだんの生活でストレスを感じることがありますか。

図表 22 ストレスの状況



	全体	性別		年齢		
		男	女	20~39歳	40~64歳	65歳以上
よくある	193	87	106	66	86	37
	22.3%	21.8%	22.7%	32.5 %	26.7%	11.2%
ときどきある	393	151	242	103	157	130
	45.4%	37.6%	51.9%	50.7%	48.7%	39.4%
あまりない	157	87	70	24	49	82
	18.1%	21.8%	15.0%	11.8%	15.2%	24.8%
ほとんどない	105	68	37	10	25	69
	12.1%	17.0%	7.9%	5.0%	7.8%	20.9%
不明	18	7	11	0	5	12
	2.1%	1.8%	2.5%	0.0%	1.6%	3.6%
合 計	866	400	466	203	322	330
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体 : 「よくある」22.3%、「ときどきある」45.4%である。

性別 : 女性は「ときどきある」で男性よりも多い。

年齢別 : 20~39歳層では「よくある」が他層より多い。

問 15 (1)どのようなことでストレスを感じていますか。(複数回答)

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
ス ト レ ス の 原 因	仕事のこと	248 42.3%	130 54.6%	118 33.9%	103 60.9%	130 53.5%	14 8.4%	1 14.3%
	職場の人間関係	108 18.4%	52 21.8%	56 16.1%	42 24.9%	64 26.3%	2 1.2%	0 0.0%
	夫婦のこと	128 21.8%	41 17.2%	87 25.0%	37 21.9%	55 22.6%	34 20.4%	2 28.6%
	子どものこと	163 27.8%	45 18.9%	118 33.9%	46 27.2%	81 33.3%	35 21.0%	1 14.3%
	親のこと	109 18.6%	28 11.8%	81 23.3%	39 23.1%	64 26.3%	6 3.6%	0 0.0%
	近隣との人間関係	65 11.1%	18 7.6%	47 13.5%	15 8.9%	25 10.3%	24 14.4%	1 14.3%
	友人のこと	21 3.6%	5 2.1%	16 4.6%	9 5.3%	8 3.3%	3 1.8%	1 14.3%
	介護	57 9.7%	16 6.7%	41 11.8%	7 4.1%	27 11.1%	23 13.8%	0 0.0%
	経済的な不安	232 39.6%	93 39.1%	139 39.9%	73 43.2%	105 43.2%	52 31.1%	2 28.6%
	失業	39 6.7%	17 7.1%	22 6.3%	12 7.1%	23 9.5%	4 2.4%	0 0.0%
	勉強のこと	21 3.6%	9 3.8%	12 3.4%	12 7.1%	8 3.3%	1 0.6%	0 0.0%
	自分の健康に関すること	183 31.2%	85 35.7%	98 28.2%	31 18.3%	66 27.2%	83 49.7%	3 42.9%
	家族の健康に関すること	123 21.0%	42 17.6%	81 23.3%	21 12.4%	58 23.9%	43 25.7%	1 14.3%
	事故や災害	28 4.8%	10 4.2%	18 5.2%	7 4.1%	10 4.1%	10 6.0%	1 14.3%
	その他	41 7.0%	11 4.6%	30 8.6%	17 10.1%	15 6.2%	9 5.4%	0 0.0%
	合 計	586 100.0%	238 100.0%	348 100.0%	169 100.0%	243 100.0%	167 100.0%	7 100.0%

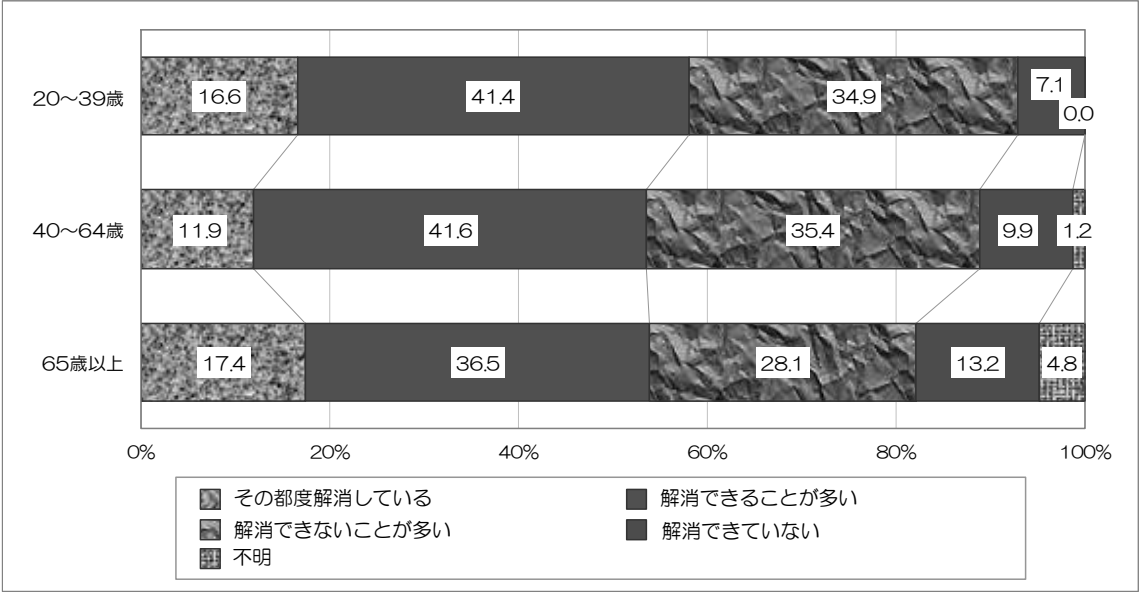
全体 : 最も多いのは「仕事のこと」42.3%、次いで「経済的な不安」39.6%、「自分の健康に関すること」31.2%である。

性別 : 男性では「仕事のこと」「経済的な不安」「自分の健康に関すること」が多い。
女性では「経済的な不安」「子どものこと」「仕事のこと」が多い

年齢別 : 20～39 歳層では「仕事のこと」「経済的な不安」「子どものこと」が多い。
40 歳以上層では「自分の健康に関すること」が徐々に高くなる。

問 14-(2) ストレスをうまく解消できていますか。

図表 23 ストレス解消度合いの状況



	全体	性別		年齢		
		男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上
その都度解消している	86	35	51	28	29	29
	14.7%	14.7%	14.7%	16.6%	11.9%	17.4%
解消できることが多い	235	91	144	70	101	61
	40.0%	38.2%	41.4%	41.4%	41.6%	36.5%
解消できないことが多い	195	78	117	59	86	47
	33.3%	32.8%	33.6%	34.9%	35.4%	28.1%
解消できていない	59	28	31	12	24	22
	10.1%	11.8%	8.9%	7.1%	9.9%	13.2%
不明	11	6	5	0	3	8
	1.9%	2.5%	1.4%	0.0%	1.2%	4.8%
合 計	586	238	348	169	243	167
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体：解消できているのは全体の約5割である。

性別：大差はない。

年齢別：「解消できないことが多い」人は40～64歳層に多い。

(3)どのようにストレスを解消していますか。(複数回答)

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～39歳	40～64歳	65歳以上	無回答
ストレスの解消法	家族に話をする	242 41.3%	63 26.5%	179 51.4%	87 51.5%	99 40.7%	54 32.3%	2 28.6%
	友人や同僚に話をする	228 38.9%	56 23.5%	172 49.4%	93 55.0%	91 37.4%	43 25.7%	1 14.3%
	上司に相談する	13 2.2%	7 2.9%	6 1.7%	9 5.3%	4 1.6%	0 0.0%	0 0.0%
	専門家に相談する	29 4.9%	10 4.2%	19 5.5%	3 1.8%	14 5.8%	12 7.2%	0 0.0%
	先生に相談する	7 1.2%	4 1.7%	3 0.9%	1 0.6%	2 0.8%	3 1.8%	1 14.3%
	趣味を通して	203 34.6%	97 40.8%	106 30.5%	63 37.3%	83 34.2%	54 32.3%	3 42.9%
	スポーツを通して	86 14.7%	54 22.7%	32 9.2%	30 17.8%	38 15.6%	17 10.2%	1 14.3%
	飲食をする	152 25.9%	58 24.4%	94 27.0%	60 35.5%	73 30.0%	17 10.2%	2 28.6%
	よく眠る	191 32.6%	81 34.0%	110 31.6%	65 38.5%	73 30.0%	50 29.9%	3 42.9%
	その他	68 11.6%	31 13.0%	37 10.6%	18 10.7%	13 5.3%	37 22.2%	0 0.0%
合 計		586 100.0%	238 100.0%	348 100.0%	169 100.0%	243 100.0%	167 100.0%	7 100.0%

全体 : 「家族に話をする」が41.3%と最も多い。

性別 : 「家族に話をする」や「友人や同僚に話をする」は女性は男性に比べて多い。

年齢別 : 20～39歳の層は「家族に話をする」「友人や同僚に話をする」が半数を超えている。

問 16 あなたは、必要なとき自由に自分の気持ちを話することができる家族・友人がいますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～39歳	40～64歳	65歳以上	無回答
気持ちを話せる人	いる	717	304	413	177	267	264	9
		82.8%	76.0%	88.6%	87.2%	82.9%	80.0%	81.8%
	いない	129	84	45	24	50	53	2
		14.9%	21.0%	9.7%	11.8%	15.5%	16.1%	18.2%
	不明	20	12	8	2	5	13	0
合 計		866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体 : 「いる」が82.8%である。

性別 : 「自分の気持ちを話することができる人がある」人は、男性より女性の方が高い。

年齢別 : 大差はない。

問 17 あなたはここ 1 ヶ月間、心配事があってよく眠れないことがありますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
こ こ 一 ヶ 月 間 眠 れ な い	よくある	43 5.0%	16 4.0%	27 5.8%	11 5.4%	14 4.3%	16 4.8%	2 18.2%
	ときどきある	205 23.7%	81 20.3%	124 26.6%	43 21.2%	74 23.0%	83 25.2%	5 45.4%
	あまりない	278 32.1%	142 35.5%	136 29.2%	56 27.6%	114 35.4%	105 31.8%	3 27.3%
	ほとんどない	327 37.7%	156 38.9%	171 36.7%	93 45.8%	117 36.3%	116 35.2%	1 9.1%
	不明	13 1.5%	5 1.3%	8 1.7%	0 0.0%	3 1.0%	10 3.0%	0 0.0%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体 : 「よくある」人は 5.0%である。

性別 : 「よくある」「ときどきある」人は男性に比べて女性の方が多い。

年齢別 : 「ほとんどない」の人は 20～39 歳層が最も多い。

問 18 あなたはここ 1 か月間、いつもより気が重くて憂うつになることがありますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
こ こ 一 ヶ 月 間 憂 うつ	よくある	58 6.7%	20 5.0%	38 8.2%	22 10.8%	20 6.2%	15 4.5%	1 9.0%
	ときどきある	249 28.8%	104 26.0%	145 31.1%	60 29.6%	100 31.1%	85 25.9%	4 36.4%
	あまりない	270 31.2%	133 33.3%	137 29.4%	54 26.6%	106 32.9%	106 32.1%	4 36.4%
	ほとんどない	274 31.6%	136 33.9%	138 29.6%	67 33.0%	92 28.6%	113 34.2%	2 18.2%
	不明	15 1.7%	7 1.8%	8 1.7%	0 0.0%	4 1.2%	11 3.3%	0 0.0%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体 : 「よくある」人は 6.7%である。

性別 : 男性に比べ女性の方が多い。

年齢別 : 「よくある」人は、20～39 歳層に多い。

問 19 あなたはここ 1 か月間、身体やところがとても疲れて「死にたい」と考えたことがありますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
死にたいと考えること	よくある	19	8	11	4	9	6	0
		2.2%	2.0%	2.4%	2.0%	2.8%	1.8%	0.0%
	ときどきある	79	34	45	21	22	33	3
		9.1%	8.5%	9.7%	10.3%	6.8%	10.0%	27.3%
	あまりない	151	69	82	26	52	71	2
		17.4%	17.3%	17.6%	12.8%	16.1%	21.5%	18.2%
	ほとんどない	609	285	324	152	236	215	6
		70.3%	71.2%	69.4%	74.9%	73.3%	65.2%	54.5%
	不明	8	4	4	0	3	5	0
		1.0%	1.0%	0.9%	0.0%	1.0%	1.5%	0.0%
合 計		866	400	466	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

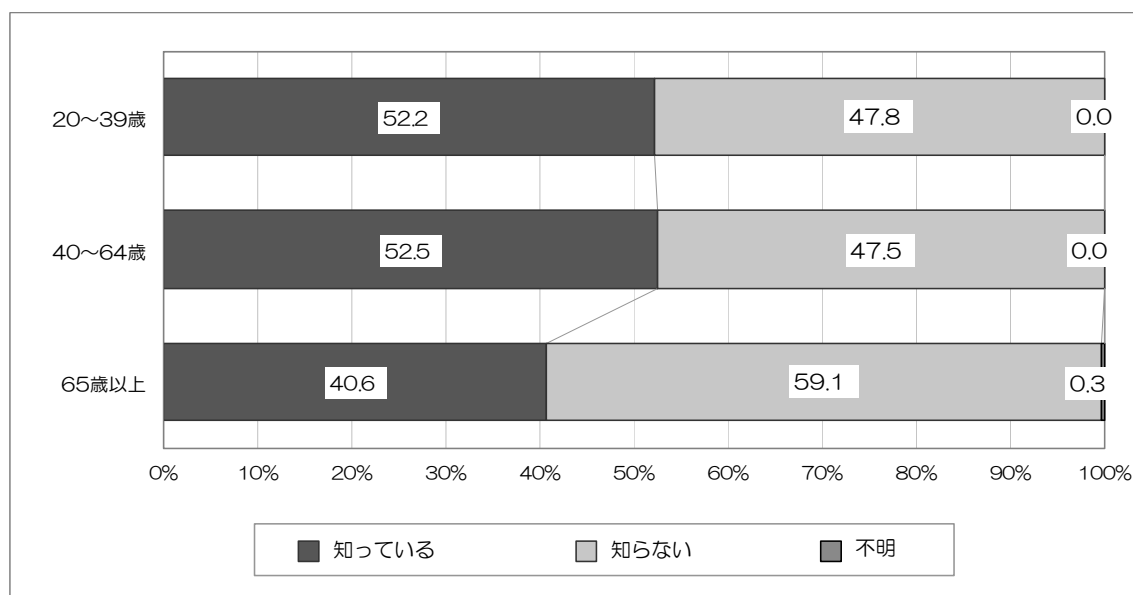
全体：「ほとんどない」は 70.3%であるが、「よくある」「ときどきある」人も 11.3%いる。

性別：大差はない。

年齢別：「よくある」「ときどきある」人は 75 歳以上層が最も多い。

問 20 あなたは、ところが疲れたとき相談できる専門機関を知っていますか。

図表 24 相談できる専門機関の認知度



	全体	性別		年齢		
		男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上
知っている	415	159	256	106	169	134
	47.9%	39.8%	54.9%	52.2%	52.5%	40.6%
知らない	450	240	210	97	153	195
	52.0%	59.9%	45.1%	47.8%	47.5%	59.1%
不明	1	1	0	0	0	1
	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
合 計	866	400	466	203	322	330
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体：「知っている」は 47.9%である。

性別：男性の方が知らない人が多い。

年齢別：65 歳以上では知っている人が減少する。

知っている専門機関すべてに○をつけて下さい。(複数回答)

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
専門機関	医療機関(心療内科、精神科など)	361 87.0%	141 88.7%	220 85.9%	96 90.6%	143 84.6%	116 86.6%	6 100.0%
	府立こころの健康総合センター	54 13.0%	20 12.6%	34 13.3%	13 12.3%	23 13.6%	18 13.4%	0 .0%
	保健所	61 14.7%	23 14.5%	38 14.8%	22 20.8%	18 10.7%	20 14.9%	1 16.7%
	無回答	31 7.5%	9 5.7%	22 8.6%	3 2.8%	16 9.5%	12 9.0%	0 .0%
	合 計	415 100.0%	159 100.0%	256 100.0%	106 100.0%	169 100.0%	134 100.0%	6 100.0%

全体 : 医療機関を知っている人は 87.0%と最も多い。

性別 : 大差なし。

年齢別 : 20～39 歳層と 65～74 歳層では保健所を知っている人が他の年齢層に比べて多い。

問 21 その専門機関へ相談や通院等をしたことがありますか。(複数回答)

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
こころの専門機関へ 相談したことがある	相談したことがある	41 9.9%	15 9.4%	26 10.2%	13 12.3%	17 10.1%	11 8.2%	0 0.0%
	通院したことがある	51 12.3%	19 11.9%	32 12.5%	17 16.0%	13 7.7%	19 14.2%	2 33.3%
	入院したことがある	25 6.0%	11 6.9%	14 5.5%	5 4.7%	6 3.6%	13 9.7%	1 16.7%
	いずれもかかったことがない	241 58.1%	91 57.2%	150 58.6%	65 61.3%	106 62.7%	67 50.0%	3 50.0%
	不明	68 16.4%	25 15.7%	43 16.8%	15 14.2%	26 15.4%	25 18.7%	2 33.3%
	合 計	415 100.0%	159 100.0%	256 100.0%	106 100.0%	169 100.0%	134 100.0%	6 100.0%

全体 : 相談や通院した人はそれぞれ 10%前後であり、かかったことがない人は 58.1%である。

性別 : 大差はない。

年齢別 : 20～39 歳層と 75 歳以上層で相談や通院した人が他の年齢層と比べて多い。

入院は 65 歳以上の層が他の年齢層に比べて多い。

問 21 どんな症状で相談、通院または入院しましたか。(複数回答)

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
症 状	抑うつ・躁うつ	48 11.6%	15 9.4%	33 12.9%	17 16.0%	21 12.4%	10 7.5%	0 0.0%
	アルコール依存	5 1.2%	4 2.5%	1 0.4%	2 1.9%	0 0.0%	2 1.5%	1 16.7%
	不眠	30 7.2%	12 7.5%	18 7.0%	11 10.4%	6 3.6%	12 9.0%	1 16.7%
	拒食や過食	4 1.0%	0 0.0%	4 1.6%	3 2.8%	1 0.6%	0 0.0%	0 0.0%
	認知症	6 1.4%	2 1.3%	4 1.6%	1 0.9%	2 1.2%	3 2.2%	0 0.0%
	その他	31 7.5%	12 7.5%	19 7.4%	3 2.8%	13 7.7%	15 11.2%	0 0.0%
	不明	105 25.3%	37 23.3%	68 26.6%	16 15.1%	32 18.9%	57 42.5%	0 0.0%
合 計		415 100.0%	159 100.0%	256 100.0%	106 100.0%	169 100.0%	134 100.0%	6 100.0%

全体 : 抑うつ・躁うつが 11.6%と最も多く、次いで不眠 7.2%である。

性別 : アルコール依存が男性に多い。

年齢別: 抑うつ・躁うつは若い年齢層の人ほど多い。

不眠は 20～39 歳層と 75 歳以上層が他の年齢層と比べて多い。

75 歳以上層では認知症が 3.6%と他の年齢層と比べて多い。

<食生活について>

問 22 あなたの日頃の食生活についてお聞きます。

(1)食生活についてどのように思いますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
食 生 活 に つ い て	大変よい	80 9.2%	48 12.0%	32 6.9%	19 9.4%	25 7.8%	36 10.9%	0 0.0%
	よい	424 49.0%	189 47.2%	235 50.4%	89 43.8%	141 43.8%	188 57.0%	6 54.5%
	少し問題がある	292 33.7%	136 34.0%	156 33.5%	76 37.4%	124 38.4%	88 26.7%	4 36.4%
	問題が多い	55 6.4%	22 5.5%	33 7.1%	19 9.4%	25 7.8%	11 3.3%	0 0.0%
	不明	15 1.7%	5 1.3%	10 2.1%	0 0.0%	7 2.2%	7 2.1%	1 9.1%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

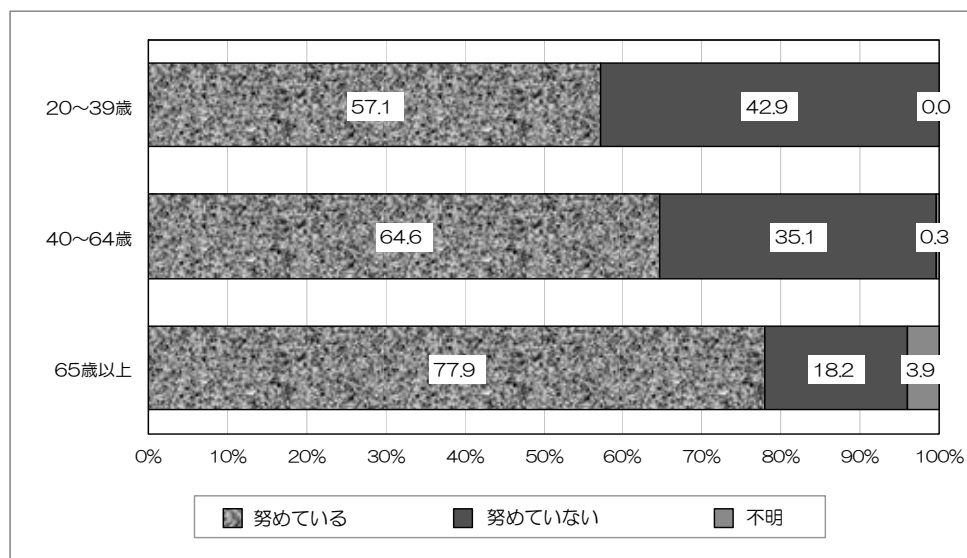
全体 : 「少し問題がある」33.7%、「問題が多い」6.4%。

性別 : 男性は「大変よい」が女性に比べて多い。女性は「よい」「少し問題が多い」が多い。

年齢別: 「少し問題がある」「問題が多い」は 20～39 歳、40～64 歳に多い。

問 23 健康維持のため、食事内容や量のコントロールに努めていますか。

図表 25 食事内容や量のコントロール状況



	全体	性別		年齢		
		男	女	20～39歳	40～64歳	65歳以上
努めている	585 67.6%	249 62.3%	336 72.1%	116 57.1%	216 64.6%	209 77.9%
努めていない	265 30.6%	145 36.3%	120 25.8%	87 42.9%	103 35.1%	104 18.2%
不明	16 1.8%	6 1.5%	10 2.1%	0 0.0%	3 0.3%	17 3.9%
合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%

全体：「努めている」は67.6%である。

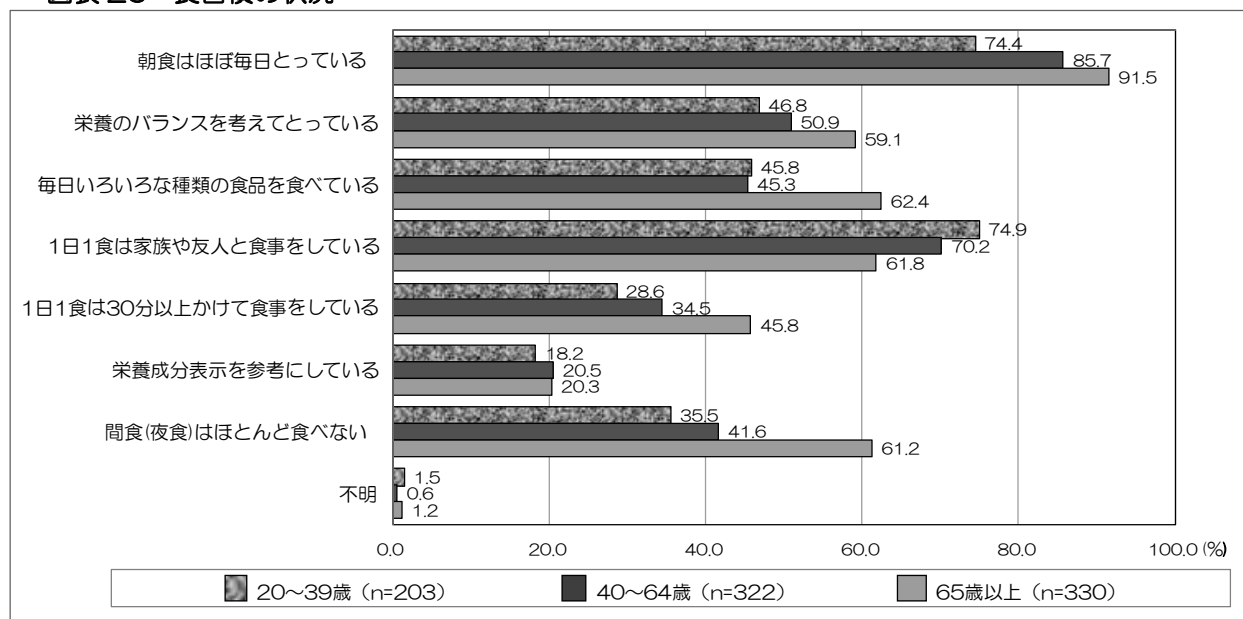
性別：「努めている」人は、女性が72.1%と男性より約10%高い。

年齢別：年齢が高くなるほど「努めている」割合が高い。

問24 食生活についてあてはまるものすべてに○をして下さい。

<食習慣>

図表 26 食習慣の状況



	全体	性別		年齢		
		男	女	20～39 歳 (n=203)	40～64 歳 (n=322)	65 歳以上 (n=330)
朝食はほぼ毎日とっている	735 84.9%	329 82.3%	406 87.1%	151 74.4%	276 85.7%	302 91.5%
栄養のバランスを考えてとっている	459 53.0%	185 46.3%	274 58.8%	95 46.8%	164 50.9%	195 59.1%
毎日いろいろな種類の食品を食べる	450 52.0%	191 47.8%	259 55.6%	93 45.8%	146 45.3%	206 62.4%
1 日最低 1 食は、家族あるいは友人と	586 67.7%	253 63.3%	333 71.5%	152 74.9%	226 70.2%	204 61.8%
1 日最低 1 食は、30 分以上かけて食事	324 37.4%	144 36.0%	180 38.6%	58 28.6%	111 34.5%	151 45.8%
栄養成分表示を参考にする	173 20.0%	49 12.3%	124 26.6%	37 18.2%	66 20.5%	67 20.3%
間食(夜食)はほとんど食べない	414 47.8%	197 49.3%	217 46.6%	72 35.5%	134 41.6%	202 61.2%
不明	11 1.3%	6 1.5%	5 1.1%	3 1.5%	2 0.6%	4 1.2%
全 体	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 403.3%

全体：朝食をほぼ毎日とっている者は 84.9%である。栄養成分表示をみる者は 20.0%と低い。

性別：「間食」を除き全ての項目で女性の方が高い。

年齢別：「1 日最低 1 食は家族、友人と食べる」「毎日色々な種類の食品を食べる」を除き、全ての項目で 20～39 歳は他の年齢層より低い。

<食事の内容>

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
食事の内容について	脂肪の少ない食事 をとっている	319 36.8%	131 32.8%	188 40.3%	44 21.7%	104 32.3%	168 50.9%	3 27.3%
	薄味にしている	352 40.6%	131 32.8%	221 47.4%	61 30.0%	118 36.6%	169 51.2%	4 36.4%
	牛乳や乳製品を ほぼ毎日とっている	470 54.3%	190 47.5%	280 60.1%	106 52.2%	169 52.5%	191 57.9%	4 36.4%
	豆類や大豆製品を ほぼ毎日とっている	352 40.6%	144 36.0%	208 44.6%	66 32.5%	124 38.5%	158 47.9%	4 36.4%
	緑黄色野菜を ほぼ毎日とっている	419 48.4%	153 38.3%	266 57.1%	90 44.3%	134 41.6%	191 57.9%	4 36.4%
	淡黄色野菜を ほぼ毎日とっている	417 48.2%	167 41.8%	250 53.6%	89 43.8%	140 43.5%	182 55.2%	6 54.5%
	果物をほぼ毎日 とっている	333 38.5%	126 31.5%	207 44.4%	50 24.6%	108 33.5%	171 51.8%	4 36.4%
	市の農作物の特産品 を知っている	164 18.9%	68 17.0%	96 20.6%	19 9.4%	68 21.1%	76 23.0%	1 9.1%
	市の農産物を食べる ようにしている	128 14.8%	41 10.3%	87 18.7%	12 5.9%	46 14.3%	67 20.3%	3 27.3%
	不明	11 1.3%	6 1.5%	5 1.1%	3 1.5%	2 0.6%	4 1.2%	2 18.2%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

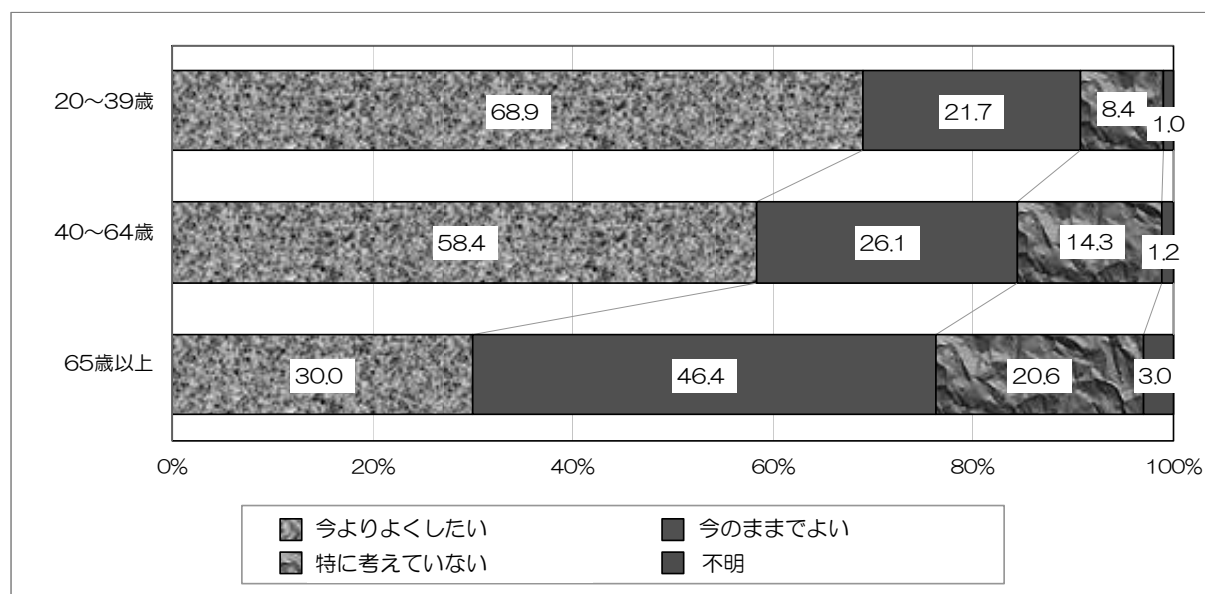
全体：実施者が最も多い内容は「牛乳や乳製品をほぼ毎日とっている」54.3%である。

性別：全ての項目で女性の方が高い。

年齢別：「緑黄色野菜を食べる」、「淡黄色野菜を食べる」以外の項目はすべて、20～39 歳は他の年齢層より低い。

問25 食生活について、今後どのようにしたいと思いますか。

図表 27 食生活の改善の状況



	全体	性別		年齢		
		男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上
今よりよくしたい	431 49.7%	164 41.0%	267 57.3%	140 68.9%	188 58.4%	99 30.0%
今のままでよい	284 32.8%	143 35.7%	141 30.3%	44 21.7%	84 26.1%	153 46.4%
特に考えていない	134 15.5%	83 20.8%	51 10.9%	17 8.4%	46 14.3%	68 20.6%
不明	17 2.0%	10 2.5%	7 1.5%	2 1.0%	4 1.2%	10 3.0%
合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%

年齢別：20～39 歳層、40～64 歳層など若年層ほど「今よりよくしたい」と考えている人が多く、高年層ほど「今のままでよい」と考えている人が多い。

食生活についての今後の意向（今よりよくしたい）と答えた人の現在の食習慣

		全体	性別	
			男	女
食習慣について	朝食はほぼ毎日とっている	347 80.5%	122 74.4%	225 84.3%
	栄養のバランスを考えてとっている	185 42.9%	49 29.9%	136 50.9%
	毎日いろいろな種類の食品を食べる	185 42.9%	60 36.6%	125 46.8%
	1 日最低 1 食は、家族あるいは友人と	288 66.8%	100 61.0%	188 70.4%
	1 日最低 1 食は、30 分以上かけて食事	146 33.9%	53 32.3%	93 34.8%
	外食をする時や食品を買う時は栄養	89 20.6%	14 8.5%	75 28.1%
	間食（夜食）はほとんど食べない	175 40.6%	71 43.3%	104 39.0%
	合 計	431 100.0%	164 100.0%	267 100.0%

「今よりよくしたい」と考えている人の食習慣は、ほとんどの項目で、市民の平均より低い。

食生活についての今後の意向（今よりよくしたい）と答えた人の現在の食事内容

		全体	性別	
			男	女
食事の内容について	脂肪の少ない食事をとっている	127 29.5%	39 23.8%	88 33.0%
	薄味にしている	151 35.0%	39 23.8%	112 41.9%
	牛乳や乳製品をほぼ毎日とっている	215 49.9%	69 42.1%	146 54.7%
	豆類や大豆製品をほぼ毎日とっている	145 33.6%	43 26.2%	102 38.2%
	緑黄色野菜をほぼ毎日とっている	167 38.7%	38 23.2%	129 48.3%
	淡黄色野菜をほぼ毎日とっている	177 41.1%	49 29.9%	128 47.9%
	果物をほぼ毎日とっている	130 30.2%	30 18.3%	100 37.5%
	合 計	431 100.0%	164 100.0%	267 100.0%

「今よりよくしたい」と考えている人の食事内容は、全ての項目で、市民の平均より低い。

<飲酒について>

問 26 あなたは、お酒を飲みますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
飲酒の有無	飲む	410	256	154	107	173	125	5
		47.3%	64.0%	33.0%	52.7%	53.8%	37.9%	45.5%
	飲まない	441	138	303	96	146	193	6
		51.0%	34.5%	65.1%	47.3%	45.3%	58.5%	54.5%
	不明	15	6	9	0	3	12	0
		1.7%	1.5%	1.9%	0.0%	0.9%	3.6%	0.0%
合 計		866	400	466	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体 : 「飲む」人は 47.3 %、「飲まない」人は 51.0%。

性別 : 男性は 64.0%、女性は 33.0%が飲酒しており、男性の方が飲酒率が高い。

年齢別 : 20～39 歳層、40～64 歳層など若年層ほど飲酒している人が多い。

		全体	ストレスの有無				
			よくある	ときどきある	あまりない	ほとんどない	無回答
飲酒の有無	飲む	410	100	179	75	51	5
		47.3%	51.8%	45.5%	47.7%	48.6%	27.8%
	飲まない	441	91	208	80	54	8
		51.0%	47.2%	53.0%	51.0%	51.4%	44.4%
	不明	15	2	6	2	0	5
		1.7%	1.0%	1.5%	1.3%	0.0%	27.8%
合 計		18	866	193	393	157	105
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

ストレス別：大差はない。

問 27 飲む人のうち、1 回に 2 合以上飲酒する人

	全体	性別		年齢			
		男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
1 回に 2 合以上 飲酒する人	74 18.0%	59 23.0%	15 9.7%	17 15.9%	38 22.0%	18 14.4%	1 20.0%
合 計	410 100.0%	256 100.0%	154 100.0%	107 100.0%	173 100.0%	125 100.0%	5 100.0%

全体：1 回 2 合以上飲酒する人は、飲酒する人のうちの 18.0%である。

性別：1 回 2 合以上飲酒する人は男性に多い。

年齢別：40～64 歳層に、1 回 2 合以上飲酒する人が多い。

	全体	ストレスの有無				
		よくある	ときどきある	あまりない	ほとんどない	無回答
1 回に 2 合以上 飲酒する人	74 18.0%	22 11.4%	30 7.6%	12 7.6%	8 7.6%	2 11.1%
合 計	410 100.0%	193 100.0%	393 100.0%	157 100.0%	105 100.0%	18 100.0%

ストレス別：「よくある」人の方が、1 回 2 合以上飲酒する人が多い。

<男性>

	全体	年齢			
		20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
1 回に 2 合以上 飲酒する人	59 23.0%	11 18.0%	30 30.9%	17 18.3%	1 20.0%
男性合計	256 100.0%	61 100.0%	97 100.0%	93 100.0%	5 100.0%

男性：40～64 歳層に、1 回 2 合以上飲酒する人が多い。

<女性>

	全体	年齢			
		20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上	無回答
1 回に 2 合以上 飲酒する人	15 9.7%	6 13.0%	8 10.5%	1 3.1%	0 0.0%
女性合計	154 100.0%	46 100.0%	76 100.0%	32 100.0%	0 100.0%

女性：20～39 歳、40～64 歳層に、1 回 2 合以上飲酒する人が多い。

問 28 あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
食育の意味	言葉も意味も知っていた	353 40.8%	127 31.6%	226 48.5%	98 48.2%	138 42.9%	111 33.7%	6 54.5%
	言葉のみ知っていた	279 32.2%	129 32.3%	150 32.2%	67 33.0%	108 33.5%	102 30.9%	2 18.2%
	言葉も意味も知らなかった	202 23.3%	129 32.3%	73 15.7%	33 16.3%	67 20.8%	101 30.6%	1 9.1%
	不明	32 3.7%	15 3.8%	17 3.6%	5 2.5%	9 2.8%	16 4.8%	2 18.2%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体 : 言葉も意味も知らなかった人が 23.3%いる。

性別 : 女性の方が認知度が高い。

年齢別 : 若い年齢層ほど認知度が高い。

問 29 あなたは食育に関心がありますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
食育に関心	関心がある	216	75	141	63	75	76	2
		24.9%	18.8%	30.3%	31.0%	23.3%	23.0%	18.2%
	どちらかといえば 関心がある	337	135	202	83	136	112	6
		38.9%	33.5%	43.3%	40.9%	42.2%	33.9%	54.5%
	どちらかといえば 関心がない	122	81	41	28	41	52	1
		14.1%	20.3%	8.8%	13.8%	12.7%	15.8%	9.1%
	関心がない	62	43	19	12	26	24	0
		7.2%	10.8%	4.1%	5.9%	8.1%	7.3%	0.0%
	わからない	106	59	47	17	40	47	2
		12.2%	14.8%	10.1%	8.4%	12.4%	14.2%	18.2%
不明	23	7	16	0	4	19	0	
	2.7%	1.8%	3.4%	0.0%	1.3%	5.8%	0.0%	
合 計		866	400	466	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体 : 関心がある（「関心がある」「どちらかというに関心がある」）人は半数を超えている。

性別 : 女性の方が男性に比べて関心が高い。

年齢別 : 20～39 歳層が最も関心が高い。

問 30 食育に関心がある理由は何ですか。（複数回答）

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
食育に関心がある理由	子どもの心身の健全な発達のために必要	297 53.7%	82 39.0%	215 62.7%	106 72.6%	113 53.6%	76 40.4%	2 25.0%
	食に対する感謝が薄れているから	152 27.9%	51 25.0%	101 30.3%	32 21.9%	53 25.6%	65 34.6%	2 25.0%
	食の乱れが問題になっているから	368 67.5%	121 59.3%	247 74.2%	97 66.4%	143 69.1%	127 67.6%	1 12.5%
	食品の安全が重要だから	293 53.0%	90 42.9%	203 59.2%	67 45.9%	122 57.8%	102 54.3%	2 25.0%
	生活習慣病の増加が問題になっているから	382 70.1%	141 69.1%	241 72.4%	93 63.7%	143 69.1%	142 75.5%	4 50.0%
	食にまつわる文化や伝統を守ることが大切	73 13.4%	24 11.8%	49 14.7%	19 13.0%	33 15.9%	20 10.6%	1 12.5%
	その他	16 2.9%	3 1.5%	13 3.9%	9 6.2%	4 1.9%	3 1.6%	0 0.0%
	特にない	11 2.0%	4 2.0%	7 2.1%	1 0.7%	0 0.0%	8 4.3%	2 25.0%
	わからない	11 2.0%	6 2.9%	5 1.5%	4 2.7%	3 1.4%	4 2.1%	0 0.0%
	合 計	553 100.0%	210 100.0%	343 100.0%	146 100.0%	211 100.0%	188 100.0%	8 100.0%

全体：「食の乱れの問題」や「生活習慣病の増加の問題」が60～70%台で最も多い。

性別：全ての項目で女性の方が多く、特に「子どもの発育のための必要性」が女性が62.7%と多い。

年齢別：若い世代ほど「子どもの発育」をあげる人が多い。年齢があがるにつれ「生活習慣病の問題」をあげる人が多い。

問 31 食事の望ましい組み合わせとおよその量を示したコマ型のイラスト「食事バランスガイド」を見たことがありますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
食事バランスガイドを見たことがあるか	ある	418 48.3%	121 30.2%	297 63.7%	136 67.0%	170 52.8%	106 32.1%	6 54.5%
	ない	408 47.1%	260 65.0%	148 31.8%	66 32.5%	142 44.1%	196 59.4%	4 36.4%
	不明	40 4.6%	19 4.8%	21 4.5%	1 0.5%	10 3.1%	28 8.5%	1 9.1%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体：半数近くの人知っている。

性別：男性より女性の方が認知度が高い。

年齢別：若い世代ほど認知度が高い。

問 32 コマ型の「食事バランスガイド」を参考にしてメニューを考えたり、選んだりしますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
食事 バランス ガイドを 参考 に して いる か	毎食参考にしている	35	15	20	7	13	15	0
		4.0%	3.8%	4.3%	3.4%	4.0%	4.5%	0.0%
	毎日 1 食は 参考にしている	30	9	21	6	8	14	2
		3.5%	2.3%	4.5%	3.0%	2.5%	4.2%	18.2%
	時々参考にしている	130	33	97	32	45	52	1
		15.0%	8.3%	20.8%	15.8%	14.0%	15.8%	9.1%
	参考にしない	598	306	292	158	238	197	5
		69.1%	76.4%	62.7%	77.8%	73.9%	59.7%	45.4%
	不明	73	37	36	0	18	52	3
		8.4%	9.2%	7.7%	0.0%	5.6%	15.8	27.3%
合 計		866	400	466	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体 : 参考にしていない人が 69.1%である。

性別 : 女性の方が男性に比べて参考になっている人が多いが参考にしない人は男女とも 60%を超えている。

年齢別 : 若い世代ほど参考にしない人が多い。

問 33 あなたは「メタボリックシンドローム」(内臓脂肪症候群)とは何か知っていますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
メ タ ボ リ ッ ク シ ン ド ロ ー ム を 知 っ て い る か	内容を知っている	651	286	365	171	262	211	7
		75.2%	71.4%	78.5%	84.2%	81.4%	64.0%	63.6%
	言葉を聞いたことはあるが内容は知らない	161	86	75	30	49	79	3
		18.6%	21.5%	16.1%	14.8%	15.2%	23.9%	27.3%
	知らない	41	21	20	2	9	29	1
		4.7%	5.3%	4.3%	1.0%	2.8%	8.8%	9.1%
	不明	13	7	6	0	2	11	0
		1.5%	1.8%	1.1%	0.0%	0.6%	3.3%	0.0%
合 計		866	400	466	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体 : 内容を知っている人は 75.2%と認知度は高い。

性別 : 女性の方が認知度が高い。

年齢別 : 若い世代ほど認知度が高い。

問34 あなたの現在の健康状態はどれにあてはまりますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
現在の健康状態	よい	127	56	71	43	45	38	1
		14.7%	14.0%	15.2%	21.2%	14.0%	11.5%	9.1%
	まあまあよい	218	95	123	60	86	72	0
		25.2%	23.8%	26.4%	29.6%	26.7%	21.8%	0.0%
	ふつう	326	152	174	67	122	130	7
		37.6%	38.0%	37.3%	33.0%	37.9%	39.3%	63.6%
	あまりよくない	135	70	65	25	53	56	1
		15.6%	17.5%	13.9%	12.3%	16.5%	17.0%	9.1%
	悪い	36	22	14	6	9	20	1
		4.2%	5.5%	3.0%	3.0%	2.8%	6.1%	9.1%
	わからない	7	1	6	1	3	3	0
		0.8%	0.3%	1.3%	0.5%	0.9%	1.0%	0.0%
	不明	17	4	13	1	4	11	1
		2.0%	1.0%	2.8%	0.5%	1.2%	3.3%	9.1%
合 計		866	400	466	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体：「よい」「まあまあよい」と回答した人は合わせて39.9%である。

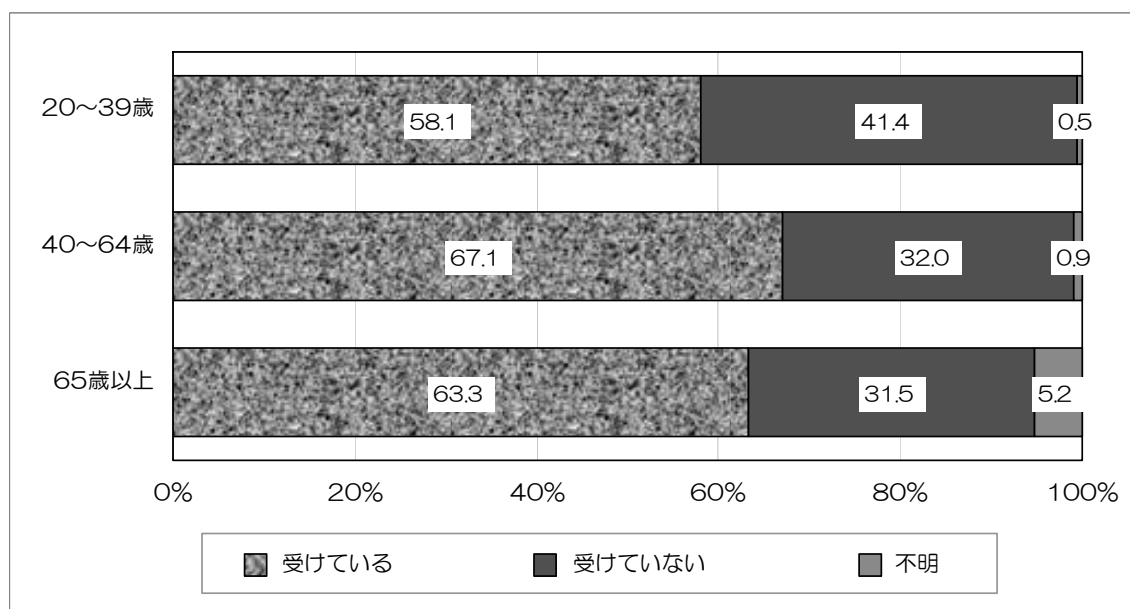
性別：大差はない。

年齢別：75歳以上の層で「あまりよくない」が他の年齢層より高い。

若い人ほど健康状態はよいと感じている人が多い。

問35 あなたは過去1年間に健康診査（がん検診を含む）や人間ドッグを受けたことがありますか。

図表28 過去1年間の受診状況



	全体	性別		年齢		
		男	女	20～39 歳	40～64 歳	65 歳以上
受けている	549 63.4%	258 64.5%	291 62.4%	118 58.1%	216 67.1%	209 63.3%
受けていない	293 33.8%	132 33.0%	161 34.5%	84 41.4%	103 32.0%	104 31.5%
不明	24 2.8%	10 2.5%	14 3.0%	1 0.5%	3 0.9%	17 5.2%
全 体	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%

全体 ：「受けている」が63.4%である。

性別 ：大差なし。

年齢別：20～39 歳層で「受けていない」人が他の層に比べて多い。

(1)どこで受けましたか。(複数回答)

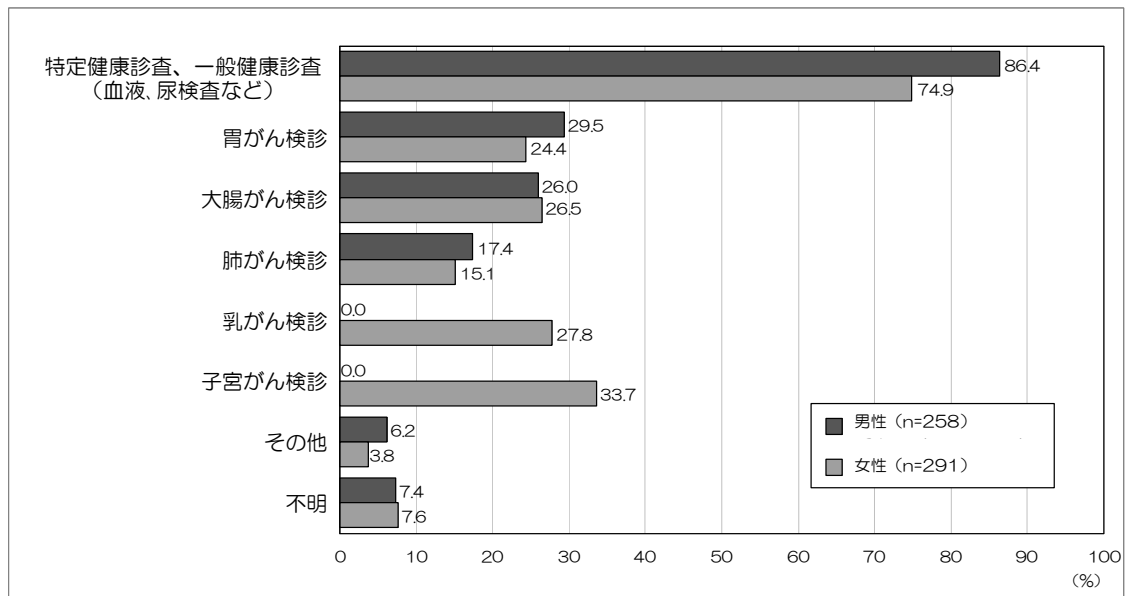
		全体	性別	
			男	女
受診場所	市の健康診査 (保健センターや医療機関)	223 40.6%	88 34.1%	135 46.4%
	職場や学校	188 34.2%	102 39.5%	86 29.6%
	職場以外の人間ドック	55 10.0%	38 14.7%	17 5.8%
	その他	77 14.0%	32 12.4%	45 15.5%
	不明	57 10.4%	23 8.9%	34 11.7%
	合 計	549 100.0%	258 100.0%	291 100.0%

全体 ：市の健康診査や職場、学校で受けた人が多い。

性別 ：男性は「職場や学校」が最も多く、女性は「市の健康診査」が最も多い。

(2)何を受けましたか。(複数回答)

図表 29 受診内容



		全体	性別	
			男	女
受診内容	特定健康診査、一般健康診査 (血液、尿検査など)	441 80.3%	223 86.4%	218 74.9%
	胃がん検診	147 26.8%	76 29.5%	71 24.4%
	大腸がん検診	144 26.2%	67 26.0%	77 26.5%
	肺がん検診	89 16.2%	45 17.4%	44 15.1%
	乳がん検診	81 —	0 0.0%	81 27.8%
	子宮頸がん検診	98 —	0 0.0%	98 33.7%
	その他	27 4.9%	16 6.2%	11 3.8%
	不明	41 7.5%	19 7.4%	22 7.6%
	合 計	549 100.0%	258 100.0%	291 100.0%

全体：特定健康診査・一般健康診査を受けた人は 80.3%である。胃がんや大腸がんは 20%台で、肺がんは 10%台である。

性別：特定健康診査・一般健康診査や胃がん検診は男性の方が受診率が高い。乳がんは 27.8%、子宮頸がんは 33.7%である。

(3) 健康診査はあなたの生活を見直すきっかけになりましたか。

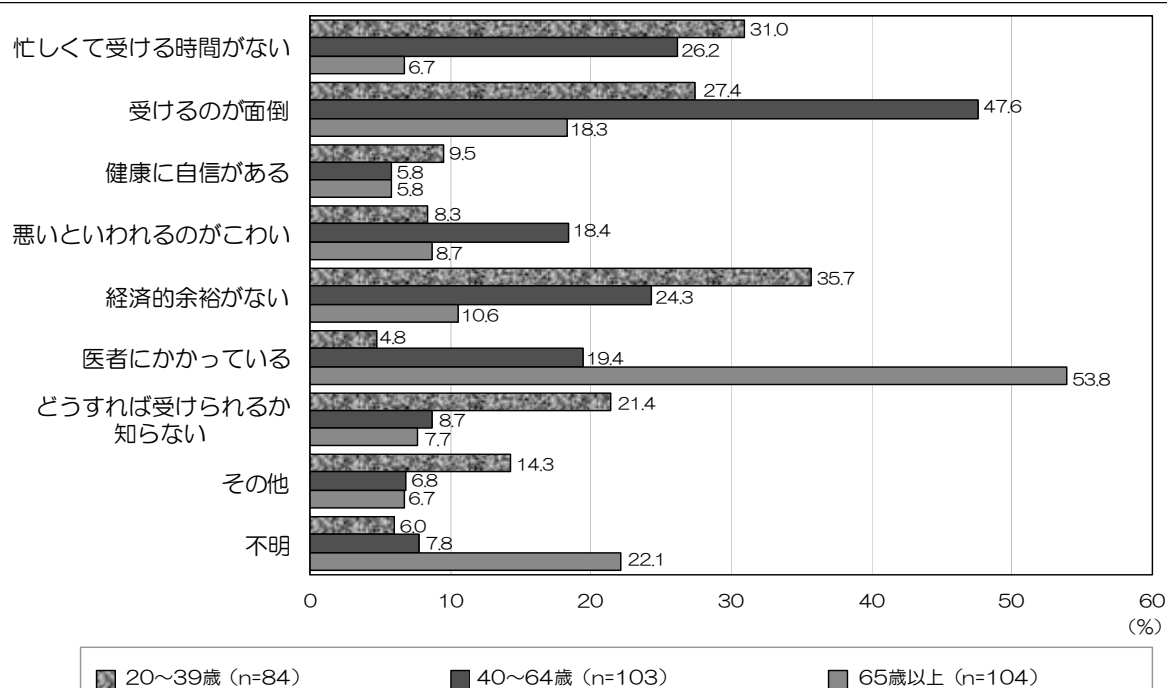
		全体	受診場所				
			市の健康診査 (保健センターや医療機関)	職場や学校	職場以外の人間ドック	その他	不明
健康診査価値	はい	309 56.3%	138 61.9%	95 50.5%	37 67.3%	39 50.6%	20 35.1%
	いいえ	65 11.8%	19 8.5%	35 18.6%	6 10.9%	5 6.5%	3 5.3%
	どちらでもない	110 20.0%	39 17.5%	49 26.1%	8 14.5%	24 31.2%	1 1.8%
	不明	65 11.8%	27 12.1%	9 4.8%	4 7.3%	9 11.7%	33 57.9%
	合 計	549 100.0%	223 100.0%	188 100.0%	55 100.0%	77 100.0%	57 100.0%

全体：生活を見直すきっかけになった人は 56.3%である。

受診場所別：市の健康診査や人間ドックできっかけになっている人が多い。

受けなかった理由を選んで下さい。(複数回答)

図表 30 受診しなかった理由



	全体	性別		年齢		
		男	女	20～39歳	40～64歳	65歳以上
忙しくて受ける時間がない	61 20.8%	23 17.4%	38 23.6%	26 31.0%	27 26.2%	7 6.7%
受けるのが面倒	91 31.1%	39 29.5%	52 32.3%	23 27.4%	49 47.6%	19 18.3%
健康に自信がある	20 6.8%	11 8.3%	9 5.6%	8 9.5%	6 5.8%	6 5.8%
悪いといわれるのがこわい	36 12.3%	10 7.6%	26 16.1%	7 8.3%	19 18.4%	9 8.7%
経済的余裕がない	66 22.5%	27 20.5%	39 24.2%	30 35.7%	25 24.3%	11 10.6%
医者にかかっている	81 27.6%	53 40.2%	28 17.4%	4 4.8%	20 19.4%	56 53.8%
どうすれば受けられるかわからない	35 11.9%	18 13.6%	17 10.6%	18 21.4%	9 8.7%	8 7.7%
その他	26 8.9%	7 5.3%	19 11.8%	12 14.3%	7 6.8%	7 6.7%
不明	36 12.3%	16 12.1%	20 12.4%	5 6.0%	8 7.8%	23 22.1%
合 計	293 100.0%	132 100.0%	161 100.0%	84 100.0%	103 100.0%	104 100.0%

全体：受けるのが面倒が31.1%と最も多い。

性別：女性では「忙しくて受ける時間がない」「悪いといわれるのがこわい」等が男性と比べ多い。
男性では「医者にかかっている」が多い。

年齢別：20～39歳層では時間や経済的余裕のなさや受ける方法を知らないことを理由にしている人が多い。40～64歳層では面倒さや経済的余裕のなさを理由にしている人が多い。
高齢になるほど医者にかかっているを理由にする人が多い。

<医療について>

問36 あなたは、自分の健康について相談したり、病気になったときに診てもらうかかりつけの医師や歯科医師、薬剤師がありますか。

	全体
ある	575 66.4%
ない	278 32.1%
不明	13 1.5%
合 計	866 100.0%

全体 : かかりつけがある人は66.4%である。

かかりつけの医師(複数回答)

	全体
医科(医師)	476 82.8%
歯科(歯科医師)	315 54.8%
薬局(薬剤師)	93 16.2%
不明	4 0.7%
合 計	575 100.0%

全体 : 医師は82.8%と最も多い。

<あなたの歯の状態や手入れについて>

問37 あなたの歯についてお聞きます。

(1)現在、自分の歯は何本ありますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
歯 の 本 数	0 本	47	37	10	1	4	41	1
		5.4%	9.3%	2.1%	0.5%	1.2%	12.4%	9.1%
	1 本以上 10 本未満	103	55	48	0	27	76	0
		11.9%	13.8%	10.3%	0.0%	8.4%	23.0%	0.0%
	10 本以上 20 本未満	154	69	85	12	62	76	4
		17.8%	17.3%	18.2%	5.9%	19.3%	23.0%	36.4%
	20 本以上 24 本未満	182	86	96	44	75	61	2
		21.0%	21.5%	20.6%	21.7%	23.3%	18.5%	18.2%
	24 本以上	362	146	216	146	149	64	3
41.8%		36.5%	46.4%	71.9%	46.3%	19.5%	27.3%	
不明	18	7	11	0	5	12	1	
	2.1%	1.8%	2.4%	0.0%	1.6%	3.6%	9.1%	
合 計		866	400	466	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体 : 24 本以上ある人は41.8%である。

性別 : 24 本以上ある人は女性の方が多い。

年齢別 : 年齢があがるにつれ自分の歯は減少している。

問 37(2) 歯磨き剤を使用していますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
歯磨き剤の使用	使用している	801	360	441	198	305	289	9
		92.5%	90.0%	94.6%	97.5%	94.7%	87.6%	81.8%
	使用していない	47	30	17	5	13	28	1
		5.4%	7.5%	3.6%	2.5%	4.0%	8.5%	9.1%
	無回答	18	10	8	0	4	13	1
		2.1%	2.5%	1.7%	0.0%	1.2%	3.9%	9.1%
合 計		866	400	466	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体 : 使用している人は 92.5%である。

性別 : 大差はない。

年齢別 : 年齢があがるにつれ使用している人は減少し、75 歳以上では使用していない人が 14.5%である。

(3) 歯ブラシ以外に補助的な用具を使用していますか（歯間ブラシ、糸ようじ、電動歯ブラシなど）。

		全体	性別	
			男	女
補助用具	毎日使用している	163	58	105
		18.8%	14.5%	22.5%
	ときどき使用している	249	88	161
		28.8%	22.0%	34.5%
	使用していない	419	232	187
		48.4%	58.0%	40.1%
無回答	35	22	13	
	4.0%	5.5%	2.8%	
合 計		866	400	466
		100.0%	100.0%	100.0%

全体 : 使用している人は 47.6%である。

性別 : 女性の方が使用者が多い。

(4) 定期的に歯科検診を受けていますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
歯科検診	受けている	308	123	185	57	108	136	7
		35.6%	30.8%	39.7%	28.1%	33.5%	41.2%	63.6%
	受けていない	535	264	271	146	211	174	4
		61.8%	66.0%	58.2%	71.9%	65.5%	52.7%	36.4%
	不明	23	13	10	0	3	20	0
		2.7%	3.3%	2.1%	0.0%	0.9%	6.1%	0.0%
合 計		866	400	466	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体 : 受けている人は 35.6%である。

性別 : 女性の方が受けている人が多い。

年齢別 : 20～39 歳層では他の年齢層と比べると受けている人は 28.1%と最も低い。

受けている場所に 1 つだけ○をつけて下さい。

	全体
歯科医院・診療所・病院	285 92.5%
職場	10 3.2%
学校	0 0.0%
その他	4 1.3%
不明	9 2.9%
歯科検診受診者合計	308 100.0%

全体：ほとんどの人が医療機関(92.5%)で受けている。

(6) 定期的に歯石除去や歯面清掃を受けていますか。

		全体	性別	
			男	女
定期清掃	受けている	274	112	162
		31.6%	28.0%	34.8%
	受けていない	556	270	286
		64.2%	68.4%	61.5%
	不明	36	18	18
		4.2%	4.5%	3.9%
合 計		866	400	466
		100.0%	100.0%	100.0%

全体：受けている人は 31.6%である。

性別：女性の方が男性より受けている人が多い。

問 38 食事中、噛むことを意識して食べていますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
噛むことを意識して食べているか	はい	398	169	229	72	119	199	8
		46.0%	42.3%	49.1%	35.5%	37.0%	60.3%	72.7%
	いいえ	459	227	232	131	201	124	3
		53.0%	56.7%	49.8%	64.5%	62.4%	37.6%	27.3%
	不明	9	4	5	0	2	7	0
		1.0%	1.0%	1.1%	0.0%	0.6%	2.1%	0.0%
合 計		866	400	466	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体：意識している人は 46.0%である。

性別：女性の方が男性より意識している人が多い。

年齢別：年齢があがるにつれ意識する人が増加している。

<河内長野市の保健事業について>

問39 あなたは、毎月掲載している「広報かわちながの」の“すこやかライフのページ”の保健事業内容を見たことがありますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
広 報 に つ い て	よくみている	130	35	95	25	38	66	1
		15.0%	8.8%	20.4%	12.3%	11.8%	20.0%	9.1%
	ときどきみている	404	173	231	68	163	168	5
		46.7%	43.3%	49.5%	33.5%	50.6%	51.0%	45.4%
	みたことがない	303	176	127	105	115	80	3
		35.0%	43.9%	27.3%	51.7%	35.7%	24.2%	27.3%
	不明	29	16	13	5	6	16	2
		3.3%	4.0%	2.8%	2.5%	1.9%	4.8%	18.2%
合 計		866	400	466	203	322	330	11
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

全体 : ときどきみている人が46.7%である

性別 : 女性の方が男性よりも見ている人が多い。男性ではみたことがない人が43.9%いる。

年齢別 : 20～39 歳層の人ではみたことがない人が51.7%と半数を超えている。

問４０ 市では、保健事業として次の事業を実施しています。

次の １～１７ の事業について、あなたが知っているもの及び利用したことがあるものすべてに○をつけて下さい。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
知 っ て い る	胃がん検診 (40 歳以上)	438 50.6%	172 43.0%	266 57.1%	72 35.5%	185 57.5%	177 53.6%	4 36.4%
	大腸がん検診 (40 歳以上)	431 49.8%	168 42.0%	263 56.4%	72 35.5%	183 56.8%	172 52.1%	4 36.4%
	結核・肺がん検診 (40 歳以上)	389 44.9%	148 37.0%	241 51.7%	71 35.0%	169 52.5%	145 43.9%	4 36.4%
	子宮頸がん検診 (30 歳以上の女性)	368 42.5%	79 19.8%	289 62.0%	86 42.4%	170 52.8%	109 33.0%	3 27.3%
	乳がん検診 (30 歳以上の女性)	358 41.3%	78 19.5%	280 60.1%	82 40.4%	165 51.2%	108 32.7%	3 27.3%
	青年・成人健康診査	253 29.2%	89 22.3%	164 35.2%	47 23.2%	118 36.6%	85 25.8%	3 27.3%
	健康相談(健康、栄養、 歯、育児などの相談)	310 35.8%	121 30.3%	189 40.6%	58 28.6%	123 38.2%	126 38.2%	3 27.3%
	訪問指導	257 29.7%	101 25.3%	156 33.5%	59 29.1%	96 29.8%	100 30.3%	2 18.2%
	ツール・ド・大阪 かわちながの	197 22.7%	85 21.3%	112 24.0%	26 12.8%	86 26.7%	83 25.2%	2 18.2%
	健康教室	261 30.1%	99 24.8%	162 34.8%	46 22.7%	103 32.0%	109 33.0%	3 27.3%
	口腔の教室	207 23.9%	87 21.8%	120 25.8%	31 15.3%	81 25.2%	93 28.2%	2 18.2%
	介護予防事業	230 26.6%	92 23.0%	138 29.6%	40 19.7%	90 28.0%	98 29.7%	2 18.2%
	元気アップ教室	219 25.3%	92 23.0%	127 27.3%	32 15.8%	85 26.4%	100 30.3%	2 18.2%
	はつらつ元気 アップ教室	199 23.0%	80 20.0%	119 25.5%	30 14.8%	80 24.8%	87 26.4%	2 18.2%
	マタニティマーク 啓発マスコット	163 18.8%	53 13.3%	110 23.6%	59 29.1%	60 18.6%	42 12.7%	2 18.2%
	父子手帳の交付	139 16.1%	49 12.3%	90 19.3%	42 20.7%	56 17.4%	39 11.8%	2 18.2%
	両親教室	182 21.0%	55 13.8%	127 27.3%	67 33.0%	74 23.0%	38 11.5%	3 27.3%
	こんにちは 赤ちゃん訪問	165 19.1%	47 11.8%	118 25.3%	60 29.6%	64 19.9%	39 11.8%	2 18.2%
	離乳食講習会	174 20.1%	52 13.0%	122 26.2%	60 29.6%	74 23.0%	38 11.5%	2 18.2%
	小児夜間救急	209 24.1%	65 16.3%	144 30.9%	68 33.5%	97 30.1%	42 12.7%	2 18.2%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

性別 : 女性の方が男性に比べて認知度や利用度が高い。

内容 : がん検診の利用認知度は全て 40～50%台である。

子宮頸がん、乳がんを除き 20～39 歳層と 75 歳以上層で利用認知度が他と比べて低い。

介護予防関係は 65～74 歳層で他と比べて高い。

母子関係の事業は認知度は 10～20%台である。

<基本属性>

問 41(1) あなたは、ふだん仕事をしていますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
仕事	している	425 49.1%	229 57.3%	196 42.1%	138 68.0%	216 67.1%	61 18.5%	10 90.9%
	していない	441 50.9%	171 42.7%	270 57.9%	65 32.0%	106 32.9%	269 81.5%	1 9.1%
合 計		866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体 : 仕事をしている人は 49.1%である。

性別 : 男性の方が仕事をしている人が多い。

年齢別 : 若い世代ほど仕事をしている人が多い。

問 41(1) 仕事 1

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
仕事 1	常勤社員	211 49.6%	136 59.1%	75 38.5%	91 66.0%	110 51.0%	9 14.8%	1 10.0%
	嘱託・契約 (派遣) 社員	32 7.5%	20 8.7%	12 6.2%	6 4.3%	21 9.7%	5 8.2%	0 0.0%
	アルバイト・ 内職	95 22.4%	22 9.6%	73 37.4%	27 19.6%	49 22.7%	19 31.1%	0 0.0%
	自営業主・ 雇用者	46 10.8%	31 13.5%	15 7.7%	9 6.5%	26 12.0%	11 18.0%	0 0.0%
	その他	17 4.0%	11 4.8%	6 3.1%	3 2.2%	7 3.2%	7 11.5%	0 0.0%
	不明	24 5.6%	10 4.3%	14 7.2%	2 1.4%	3 1.4%	10 16.4%	9 90.0%
	合 計	425 100.0%	230 100.0%	195 100.0%	138 100.0%	216 100.0%	61 100.0%	10 100.0%

全体 : 常勤社員は 49.6%である。

性別 : 女性はアルバイト・内職の人が多く 37.4%である。

年齢別 : 若い世代ほど常勤社員の人が多い。

問 41(2) 仕事 2

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
仕事 2	家事専従	166 37.6%	2 1.2%	164 60.8%	44 66.7%	65 61.9%	57 21.2%	0 0.0%
	学生	9 2.0%	6 3.5%	3 1.1%	5 7.6%	0 0.0%	3 1.1%	1 100.0%
	その他	243 55.2%	153 89.5%	90 33.3%	14 21.2%	36 34.3%	193 71.8%	0 0.0%
	不明	23 5.2%	10 5.8%	13 4.8%	3 4.5%	4 3.8%	16 5.9%	0 0.0%
合 計		441 100.0%	171 100.0%	270 100.0%	66 100.0%	105 100.0%	269 100.0%	1 100.0%

全体 : 家事専従が 37.6%である。

性別 : 女性の家事専従者は 60.8%である。

年齢別 : 若い世代ほど家事専従者が多い。

問 42(1) 住んでいる町名をお答えください。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
中学校区	長野	217 25.0%	108 26.8%	109 23.4%	49 24.1%	87 26.9%	81 24.6%	0 0.0%
	東	139 16.1%	60 15.0%	79 17.0%	31 15.3%	53 16.5%	54 16.4%	1 9.1%
	千代田	209 24.1%	81 20.3%	128 27.5%	66 32.5%	73 22.7%	69 21.0%	1 9.1%
	西	53 6.1%	31 7.8%	22 4.7%	7 3.4%	19 5.9%	27 8.2%	0 0.0%
	加賀田	92 10.6%	44 11.0%	48 10.3%	19 9.4%	35 10.9%	38 11.5%	0 0.0%
	美加の台	57 6.6%	29 7.3%	28 6.0%	10 4.9%	28 8.7%	19 5.6%	0 0.0%
	南花台	69 8.0%	34 8.5%	35 7.5%	17 8.4%	20 6.2%	32 9.7%	0 0.0%
	不明	30 3.5%	13 3.3%	17 3.6%	4 2.0%	7 2.2%	10 3.0%	9 81.8%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体 : 長野が最も多く 25.0%である。

性別 : 大差なし。

年齢別 : 65～74 歳層が南花台中学校区と美加の台中学校区では他と比べて少なく、長野中学校区では多い。

問 42(2) あなたは河内長野市にどのくらいの期間住んでいますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
居住期間	4 年以下	408 47.0%	172 42.9%	236 50.5%	114 56.2%	130 40.5%	163 49.5%	1 9.1%
	5～9 年	64 7.4%	28 7.0%	36 7.7%	10 4.9%	20 6.2%	34 10.3%	0 0.0%
	10～19 年	85 9.8%	30 7.5%	55 11.8%	15 7.4%	41 12.7%	29 8.8%	0 0.0%
	20～29 年	132 15.2%	72 18.0%	60 12.9%	43 21.2%	52 16.1%	37 11.2%	0 0.0%
	30～39 年	94 10.9%	54 13.5%	40 8.6%	21 10.3%	34 10.6%	37 11.2%	2 18.2%
	40～49 年	43 5.0%	19 4.8%	24 5.2%	0 0.0%	27 8.4%	16 4.8%	0 0.0%
	50 年以上	23 2.7%	19 4.8%	4 0.9%	0 0.0%	14 4.3%	9 2.7%	0 0.0%
	不明	17 2.0%	6 1.5%	11 2.4%	0 0.0%	4 1.2%	5 1.5%	8 72.7%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体 : 4 年以下の人が 47%と半数近くいる。

性別 : 大差なし。

年齢別 : 75 歳以上では 5～9 年の方が他の年齢層と比べて多い。

問 42(3) あなたは現在住んでいる地域にどの程度愛着がありますか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
居住地域への愛着	とても愛着がある	148 17.1%	78 19.5%	70 15.0%	34 16.7%	48 14.9%	66 20.0%	0 0.0%
	まあまあ愛着がある	373 43.0%	189 47.2%	184 39.0%	79 38.9%	151 46.9%	142 43.0%	1 9.1%
	どちらともいえない	194 22.4%	84 21.0%	110 23.6%	48 23.6%	67 20.8%	77 23.4%	2 18.2%
	あまり愛着がない	84 9.7%	26 6.5%	58 12.4%	24 11.8%	34 10.6%	20 7.9%	0 0.0%
	全く愛着がない	49 5.7%	18 4.5%	31 6.7%	18 8.9%	20 6.2%	11 3.3%	0 0.0%
	不明	18 2.1%	5 1.3%	13 2.8%	0 0.0%	2 0.6%	8 2.4%	8 72.7%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体 : まあまあ愛着がある人は 43.0%である。

性別 : 男性の方が愛着を持っている人が多い。

年齢別 : 全く愛着がない人は若い世代ほど多い

問 43(3) 一緒に住んでいるご家族は、あなたも含めて何人ですか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
家族数	1 人	111 12.8%	53 13.3%	58 12.4%	14 6.9%	32 9.9%	65 19.7%	0 0.0%
	2 人	289 33.4%	132 32.7%	157 33.8%	58 28.6%	90 28.0%	140 42.4%	1 9.1%
	3 人	196 22.6%	92 23.0%	104 22.3%	67 33.0%	75 23.3%	53 16.1%	1 9.1%
	4 人	161 18.6%	73 18.3%	88 18.9%	49 24.1%	79 24.5%	32 9.7%	1 9.1%
	5 人	55 6.4%	23 5.8%	32 6.9%	10 4.9%	27 8.4%	18 5.5%	0 0.0%
	6 人	31 3.6%	14 3.5%	17 3.6%	4 2.0%	15 4.7%	12 3.6%	0 0.0%
	7 人	6 0.7%	5 1.3%	1 0.2%	0 0.0%	2 0.6%	4 1.2%	0 0.0%
	8 人 以上	3 0.3%	1 0.3%	2 0.4%	1 0.5%	1 0.3%	1 0.3%	0 0.0%
	不明	14 1.6%	7 1.8%	7 1.5%	0 0.0%	1 0.3%	5 1.5%	8 72.7%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体 : 2 人が最も多く 33.4%で、次いで 3 人 22.6%である。

性別 : 大差なし。

年齢別 : 年齢があがるにつれ独居の人が多くなっている。20～64 歳層では 3～4 人の人が多く、65 歳以上では 1～2 人の人が多い。

問 43(4) 一緒に住んでいるご家族の構成は、次のどれですか。

		全体	性別		年齢			
			男	女	20～ 39 歳	40～ 64 歳	65 歳以上	無回答
家族構成	単身世帯	88 10.2%	45 11.3%	43 9.2%	10 4.9%	26 8.1%	52 15.8%	0 0.0%
	夫婦のみの世帯	274 31.6%	136 34.0%	138 29.6%	67 33.0%	79 24.5%	127 38.4%	1 9.1%
	親子二世代世帯	333 38.5%	157 39.1%	176 37.8%	107 52.8%	153 47.5%	72 21.8%	1 9.1%
	親・子・孫三世代世帯	85 9.8%	35 8.8%	50 10.7%	10 4.9%	39 12.1%	36 10.9%	0 0.0%
	その他	52 6.0%	14 3.5%	38 8.2%	7 3.4%	19 5.9%	26 7.9%	0 0.0%
	不明	34 3.9%	13 3.3%	21 4.5%	2 1.0%	6 1.9%	17 5.2%	9 81.8%
	合 計	866 100.0%	400 100.0%	466 100.0%	203 100.0%	322 100.0%	330 100.0%	11 100.0%

全体 : 親子二世代世帯が 38.5%と最も多い。次いで夫婦のみ世帯が 31.6%となっている。

性別 : 大差なし。

年齢別 : 年齢があがるにつれ単身世帯の人が増えている。

5)自由記載（抜粋）

	健康に関する要望・意見・日頃の取り組み
健康診査・検診に関する要望	（がん検診について） ・若い人の発症が増えているので、40歳未満も対象に実施してほしい。 ・医療機関で受診する乳がん健診と子宮がん検診が同時に受けられるようにしてほしい。 ・子宮がん検診実施医療機関を増やしてほしい。 ・保健センターで実施するがん検診の申し込みの時期が早すぎて予定を立てにくいいため、1～2週間前に申し込みを受付してほしい。また空きがあるなら当日も受け付けてほしい。 ・がん検診は職場ではオプション健診になってしまうので、その分野のサービスを向上してほしい。 ・事前申し込み制をなくし、直接病院に行けば受けられるシステムにしてほしい。 （健康診査・検診について） ・高齢者対象に無料診断を半年に一回のペースで行ってほしい。 ・仕事をしていない者への健康診断などの機会を増やすために助成を充実させてほしい。 ・青年成人健診に眼底検査を加えてほしい。 （乳幼児健康診査について） ・子供3人を連れて電車を乗り継ぎベビーカーで乳幼児健診センターに行くのは大変、もう少し便利な場所で健診をしてほしい。
広報に関する要望	・健康診査の案内をハガキなどで教えてほしい。 ・検診などは対象者に個別案内がほしい。 ・もうすぐ母になるので、妊婦・乳幼児関係の情報については気をつけて見ているが、見落とす事もあるので、出産予定の家庭には、マザークラスなどイベントに関する案内がほしい。
事業 保健	・バランスの良い食事・献立に関する教室を開催してほしい。 ・食育やローフードについての教育を実施してほしい。 ・女性や女児に対する子宮頸がんワクチン費用の補助をしてほしい。 ・甘いもの、カロリーの高いもので簡単に食欲を満たしている若者が気になる。食育を若い母親や子どもたちに教えて欲しい。
介護	・夫婦どちらかが看護、介護者になったときの受け入れ制度、施設を完備制度化してほしい。
病院	・車の運転ができなため、駅周辺にもっと多くの病院がほしい。今は医師との相性よりも距離などで選択しなければいけなくなっている。 ・市内に神経科、精神科がある総合医療センターがほしい。 ・小児科の救急病院がほしい。
その他要望	・ランニングコースの整備を希望する。 ・医師の指導による治療やトレーニングを受けながら元気に生活できるプログラムを計画して欲しい。
意見	（広報・啓発について） ・転入前の市に比べ広報のお知らせがわかりにくい。 ・市内にかかりつけ医を作りたいので、各医療機関の口コミや評判などの情報を得られる媒体（ホームページなど）があればいいと思う。 ・メンタル面の健康を保てる取り組みはどういうものをしているのか、どこに助けてくれる人がいるのかの啓発が必要。 ・河内長野市内にスポーツジムがあるのなら、情報（他施設と費用・設備・時間などを比較したもの）を広報してはどうか。

意見	(運動について) ・散歩コースやジムもあり過ごしやすい町と感じている。 ・上り下りが多いので運動が続かない。ハイキングコースのハイキングに参加したいが、高齢者にはハイスピードでついていけないと聞いている。 ・年金生活者なので週に1回、月に1回でもいいので、お金をかけずに公園などに集まって体操などができると良い。 (食事について) ・コンビニ、インスタント食を頼りに生活をする人が増えたことや、車の弊害で運動不足が増えていることは問題であると感じている。 ・若いときの食生活は大切だと感じている。 (その他) ・市内の健康に自信のある人を広報にのせてはどうか。 ・精神保健福祉が大幅に遅れている。もっと支えるべきである。 ・医療費が高いので困る、経済的な余裕がないので病院にいけない。 (保健事業を利用して) ・健康に関するいろいろな事業に参加し楽しく過ごすことができた。 ・転入後出産し、色々サービスを受ける事も多くなったのですが、赤ちゃん訪問や2歳6か月歯科健康診査など、他の大きな区や市よりもとても充実していたり、携わってくださる女の方や市の方もとても親切で相談などもしやすく安心して住んでおります。これからもこのまま変わらず充実したサポートをしていただきたいと思います。どうか頑張ってください。
市民が取り組んでいる健康づくり・健康づくりの中で感じていること	(運動) ・散歩やジムで運動を実践している。 ・四季の移ろいを楽しみながら、ウォーキングなどの有酸素運動を実践している。 ・毎日10分家の中で続けられる運動を実践している。 (食事) ・バランスよく旬の野菜を多く取り入れるように心がけている。 ・必ず朝食は摂るようにしている。 ・一日三食は必ず摂っている。 (こころの健康) ・健康でも病気があっても趣味を持つこと。 (健診・検診・受診) ・一年に一度は血液検査と骨密度測定を受けている。 ・どこか異常を感じれば早めに病院や医院を受診するよう心がけている。 (その他) ・外出先から帰れば手洗い・うがいを励行している。 ・ケガをしないように心がけている。 (感じていること) ・15年以上健康のために早朝ウォーキングを行ってきたが、胃がんになり手術を受けた。検診の必要性を強く感じている。 ・老後は精神的余裕が一番であると感じている。 ・健康づくりについて情報が氾濫しているが、特殊な方法に惑わされないことが大切だと思う。 ・本市は、水と空気がきれい緑が多いので健康に良いと感じる。 ・何か運動をしたいと思っているが、実践できていない。 ・健康は難しいことではなく、毎日規則正しい生活をする事で自然に身に付くものと感じてはいるけれど、なかなか実行できないものかも知れません。 ・近く前日まで健康でありたい。

3. アンケート調査票（次項参照）

- ・妊娠届出時アンケート
- ・4 か月児健康診査アンケート
- ・1 歳 7 か月児健康診査アンケート
- ・2 歳 6 か月児歯科健康診査アンケート
- ・3 歳 6 か月児健康診査アンケート
- ・小学 3 年生アンケート
- ・小学 6 年生アンケート
- ・中学 3 年生アンケート
- ・17・18 歳の市民アンケート
- ・20 歳以上の市民アンケート

妊娠届出時アンケート

母子保健事業をよりよくするための参考とさせていただきます。
ご記入をよろしく願います。

- 問1、今回の出産は何人目ですか。 ①1人目 ②2人目 ③3人以上降
- 問2、妊婦さんの年齢と妊娠週数を教えてください。
年齢 () 才 妊娠週数 () 週
- 問3、今回の妊娠がわかったときの気持ちはいかがでしたか。該当する番号に○をつけ
てください。
①とてもうれしかった ②予想外で驚いたがうれしかった ③予想外で驚き戸惑った
④困った ⑤特に何も思わなかった
⑥その他 ()

問4、心配なこと、不安なこと、困っていること等ありますか。

- ①いいえ
②はい → 該当する番号に○をして、具体的に記入してください。
③ 娠に関すること ()

- ④ 出産に関すること ()
⑤ 育児に関すること ()
⑥ 上の子の育児などに関すること ()
⑦ 仕事に関すること ()
⑧ 経済的なこと ()
⑨ その他 ()

問5、悩み、困ったことを相談できる人がいますか。

- ①いいえ
②はい → それは誰ですか。該当する番号に○をつけてください。
③ 夫 (パートナー) ④ 自分の親 ⑤ 夫の親 ⑥ 兄弟姉妹
⑦ その他 ()

問6、妊娠・出産・育児に関する事で知りたい情報についてご記入ください。

問7、市主催のママパパ教室(両親教室)についておきします。

- 参加予定ですか。 ①参加予定 → 教室に何を期待しますか。
②参加の予定なし → その理由を教えてください。
③ 初産ではないため ④ 医療機関で参加するため
⑤ その他 ()

➡ **ご相談・情報提供などで保健師からの連絡を希望される方は、ご記入ください。**
氏名 () 日中連絡がつく電話番号 ()

河内長野市立保健センターでは、保健師・管理栄養士・歯科衛生士が、妊娠中の過ごし方
についての相談にに応じています。お気軽にご相談ください。また、平日と土曜日にママパパ教
室を開催しています。みなさまのお申し込みをお待ちしています。 アンケートにご協力い
ただきありがとうございます。

4か月児健診おつかれさまでした。 今後、よりよい健診を行うためにアンケートにご協力をお願いします。

問1、本日の健診対象のお子様につ
いて教えてください。

- 住んでいる町名は？ 河内長野市 () 町・台 () 丁目
性別は？ ①男 ②女
何人目のお子様ですか？ ①第1子 ②第2子 ③第3子以降

問2、ご記入いただいている方について教えてください。

- 健診対象のお子様との関係は？ ①母 ②父 ③祖母 ④その他 ()
問3、本日の4か月児健診は下記の内容で行いましたが、この中で期待していたことは何ですか。
(複数回答可)

- ① 師の診察 ② 計測 ③ 育児相談 ④ 栄養相談 ⑤ 成長の確認
⑥ 遊び方・遊び場などの子育て情報 ⑦ ブックススタート
⑧ その他 () ⑨ 特になし

問4、健診を終えて、健診の満足度はどのくらいですか、該当する番号に○をつけてください。

- ① とても満足 ② 満足 ③ ぶつう ④ やや不満 ⑤ 不満

問5、健診で良かったところはどんな点ですか。

問6、健診で改善したほうが良いところはどんな点ですか。

問7、健診に望むことについて該当する番号に○をつけてください。

- ① 相談しやすい雰囲気 ② かなり望む ③ 少し望む ④ 現状でよい ⑤ 望まない
⑥ 他の保護者との交流 ⑦ かなり望む ⑧ 少し望む ⑨ 現状でよい ⑩ 望まない
⑪ 遊びの紹介 ⑫ かなり望む ⑬ 少し望む ⑭ 現状でよい ⑮ 望まない
⑯ 子どもが集う場の紹介 ⑰ かなり望む ⑱ 少し望む ⑲ 現状でよい ⑳ 望まない
㉑ 子育てに関する情報提供 ㉒ かなり望む ㉓ 少し望む ㉔ 現状でよい ㉕ 望まない

例えば、どんな情報がほしいですか

問8、お住まいの地域で子育てをする中で感じることにについて該当する番号に○をつけてくだ
さい。(複数回答可)

- ① 近くに子どもと同じ歳くらいの遊び仲間がない ② 近くに遊び場がない
③ 周辺の環境が悪くて安心して遊べない ④ 近くに住む保護者と交流がない
⑤ 子育て支援センターが遠い
⑥ その他 ()

問9、お子様の事故予防のために実施していることを教えてください。

- ① ベッドの柵を上げておく ② ソファの上に1人で寝かせたまにしない
③ その他 ()
④ 実施していない

問10、保健センターに対する要望・意見があればお書きください。

ご協力ありがとうございました。 河内長野市立保健センター



1歳7か月児健診おつかれさまでした。
今後、よりよい健診を行うためにアンケートにご協力をお願いします。



- 問1、本日の健診対象のお子様について教えてください。
河内長野市（ ）町・台（ ）丁目
性別は？ ①男 ②女
何人目のお子様ですか？ ①第1子 ②第2子 ③第3子以降
- 問2、ご記入いただいている方について教えてください。
健診対象のお子様との関係は？ ①母 ②父 ③祖母 ④その他（ ）
- 問3、本日の1歳7か月児健診は下記の内容で行いましたが、この中で期待していたことは何ですか。（複数回答可）
①医師の診察 ②計測 ③歯科診察 ④育児相談 ⑤栄養相談 ⑥歯科相談
⑦成長の確認 ⑧遊び場などの子育て情報 ⑨発達相談 ⑩その他（ ）
⑪特になし
- 問4、健診を終えて、健診の満足度はどのくらいですか、該当する番号に○をつけてください。
①とても満足 ②満足 ③ふつう ④やや不満 ⑤不満
- 問5、健診で良かったところはどんな点ですか。 }
問6、健診で改善したほうが良いところはどんな点ですか。 }

- 問7、健診に望むことについて該当する番号に○をつけてください。
①相談しやすい雰囲気 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない
②他の保護者との交流 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない
③遊びの紹介 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない
④子どもが集う場の紹介 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない
⑤子育てに関する情報提供 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない

- 問8、お住まいの地域で子育てをすることで感じることにについて該当する番号に○をつけてください。（複数回答可）
①近くに子どもと同じ歳くらいの遊び仲間がない ②近くに遊び場がない
③周辺の環境が悪くて安心して遊べない ④近くに住む保護者と交流がない
⑤子育て支援センターが遠い ⑥その他（ ）

- 問9、お子様の事故予防のために実施していることを教えてください。
①ピーナッツや鮎玉などは子どもの手の届かないところにおいておく
②ベンや歯ブラジなどをくわえて走り回らせない
③熱いお茶、味噌汁など子どもが熱いものに触れないようにしている
④その他（ ）
⑤実施していない

- 問10、お子様が病気やケガで受診されるときのかかりつけ医についてお聞きします。
かかりつけの医師（小児科・内科）は、いますか。
② いる ②いない ③どちらともいえない ④協力ありがとうございます。河内長野市立保健センター



2歳6か月児歯科健診おつかれさまでした。
今後、よりよい健診を行うためにアンケートにご協力をお願いします。
本日の健診対象のお子様について教えてください。
河内長野市（ ）町・台（ ）丁目
性別は？ ①男 ②女
何人目のお子様ですか？ ①第1子 ②第2子 ③第3子以降

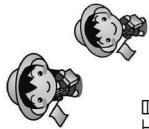
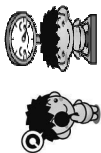
- 問2、ご記入いただいている方について教えてください。
健診対象のお子様との関係は？ ①母 ②父 ③祖母 ④その他（ ）
- 問3、本日の2歳6か月児歯科健診は下記の内容で行いましたが、この中で期待していたことは何ですか。（複数回答可）
①歯科診察 ②フッ素塗布 ③計測 ④育児相談 ⑤栄養相談
⑦歯科相談 ⑦成長の確認 ⑧遊び場などの子育て情報 ⑨発達相談 ⑩その他（ ）
⑪特になし
- 問4、健診を終えて、健診の満足度はどのくらいですか、該当する番号に○をつけてください。
①とても満足 ②満足 ③ふつう ④やや不満 ⑤不満
- 問5、健診で良かったところはどんな点ですか。 }
問6、健診で改善したほうが良いところはどんな点ですか。 }

- 問7、健診に望むことについて該当する番号に○をつけてください。
①相談しやすい雰囲気 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない
②他の保護者との交流 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない
③遊びの紹介 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない
④子どもが集う場の紹介 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない
⑤子育てに関する情報提供 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない

- 問8、お住まいの地域で子育てをすることで感じることにについて該当する番号に○をつけてください。（複数回答可）
①近くに子どもと同じ歳くらいの遊び仲間がない ②近くに遊び場がない
③周辺の環境が悪くて安心して遊べない ④近くに住む保護者と交流がない
⑤子育て支援センターが遠い ⑥その他（ ）

- 問9、お子様の事故予防のために実施していることを教えてください。
① ストープやヒーターは子どもが触れないようにガードをして使用する
② ベンや歯ブラジなどをくわえて走り回らせない
③ 熱いお茶、味噌汁など子どもが熱いものに触れないようにしている
④ その他（ ）
⑤ 実施していない

- 問10、お子様が病気やケガで受診されるときのかかりつけ医についてお聞きします。
かかりつけの医師（小児科・内科）は、いますか。
① いる ②いない ③どちらともいえない ④協力ありがとうございます。河内長野市立保健センター



3歳6か月児健診おつかれさまでした。
今後、よりよい健診を行うためにアンケートにご協力をお願いします。

問1、本日の健診対象のお子様について教えてください。

住んでいる町名は？ 河内長野市（ ）町・台（ ）丁目
性別は？ ①男 ②女

何人目のお子様ですか？ ①第1子 ②第2子 ③第3子以降
問2、ご記入いただいた方について教えてください。

健診対象のお子様との関係は？ ①母 ②父 ③祖母 ④その他（ ）
問3、本日の3歳6か月児健診は下記の内容で行いましたが、この中で期待していたことは何ですか。（複数回答可）

①医師の診察 ②計測 ③歯科診察 ④育児相談 ⑤栄養相談 ⑥歯科相談
⑦成長の確認 ⑧視覚健診 ⑨聴覚健診 ⑩尿検査 ⑪幼稚園・遊び場などの子育て情報
⑫発達相談 ⑬その他（ ） ⑭特になし

問4、健診を終えて、健診の満足度はどのくらいですか、該当する番号に○をつけてください。

①とても満足 ②満足 ③ふつう ④やや不満 ⑤不満
問5、健診で良かったところはどんな点ですか。

〔 〕

問6、健診で改善したほうが良いところはどんな点ですか。

〔 〕

問7、健診に望むことについて該当する番号に○をつけてください。

①相談しやすい雰囲気 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない
②他の保護者との交流 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない
③遊びの紹介 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない
④子どもが集う場の紹介 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない
⑤子育てに関する情報提供 ①かなり望む ②少し望む ③現状でよい ④望まない
〔 〕
例えば、どんな情報がほしいですか

問8、お住まいの地域で子育てをする中で感じることにについて該当する番号に○をつけてください。（複数回答可）

①近くに子どもと同じ歳くらいの遊び仲間がない ②近くに遊び場がない
③周辺の環境が悪くて安心して遊べない ④近くに住む保護者と交流がない
④育て支援センターが遠い ⑥その他（ ）

問9、お子様の事故予防のために実施していることを教えてください。

①ストーリーやヒーターは子どもが触れないようにガードをして使用する
②ペンや歯ブラシなどをくわえて走り回らせない
③熱いお茶、味噌汁など子どもが熱いものに触れないようにしている
④ベランダや窓の側に踏み台になるものはない ⑤子どもに交通ルールを教えている
⑥その他（ ） ⑦実施していない

問10、お子様が病気やケガで受診されるときのかかりつけ医についてお聞きします。
かかりつけの医師（小児科・内科）は、いますか。

①いる ②いない ③どちらともいえない

☆裏面の記入もお願いします。



食生活に関するアンケート



本日3歳6か月児健診を受けられたお子さまについて、あてはまる番号を選んで○をつけてください。

問1、お子さまは朝食を食べていますか。

①ほぼ毎日食べる ②週に4、5日食べる ③週に2、3日食べる ④ほとんど食べない

問2、「問1」で①以外を選んだ方にお聞きます。食べない理由をすべて選んでください。

①食欲がない ②時間がない ③いつも食べないから
④その他（ ）

問3、お子さまは次の食品をどれくらい食べますか（飲みますか）。

I	野菜	①毎食食べる	②一日に2回食べる
		③一日に1回食べる	④ほとんど食べない
II	牛乳・乳製品	①ほぼ毎日食べる（飲む）	②週に4、5日食べる（飲む）
		③週に2、3日食べる（飲む）	④ほとんど食べない（飲まない）
III	ジュース	①ほぼ毎日飲む	②週に4、5日飲む
		③週に2、3日飲む	④ほとんど飲まない
IV	イオン飲料 （スポーツドリンクなど）	①ほぼ毎日飲む	②週に4、5日飲む
		③週に2、3日飲む	④ほとんど飲まない

保護者の方ご本人について、あてはまる番号を選んで○をつけてください。

食育について、以下の資料をお読みになった後にお答えください。

※ 食育とは

私たちの食生活は、ライフスタイルの多様化などに伴って大きく変化してきました。その中で食を大切に
する心や優れた食文化が失われつつあります。また近年、栄養バランスの崩れや不規則な食事の増加などに伴
い、糖尿病や高血圧などの生活習慣病が増加してきています。このような問題を改善し、健全な食生活を取り
戻すために、「食」に関する正しい知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができ
る人を育てることを「食育」といいます。

問1、あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。

①言葉も意味も知っていた ②言葉は知っていたが、意味は知らなかった
③言葉も意味も知らなかった

問2、あなたは食育に関心がありますか。それとも関心がありませんか。

①関心がある ②どちらかといえば関心がある ③どちらかといえば関心がない
④関心がない ⑤わからない

問3、問2で「①関心がある」「②どちらかといえば関心がある」と回答された方にお伺い
します。食育に関心がある理由をすべて選んでください。

①子どもの心身の健全な発達のために必要だから ②食品の安全が重要だから
③生活の乱れ（栄養バランスの崩れ、不規則な食事等）が問題になっているから
④生活習慣病（がん、糖尿病等）の増加が問題になっているから
⑤食に対する感謝の気持ちや薄れているから
⑥食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが大切だから
⑦その他（ ）
⑧持たない ⑨わからない
ご協力ありがとうございます。 河内長野市立保健センター

小学 3 年生のみなさんへ

あなたの「こころ」と「体」のことを教えてください。

河内長野市では、みなさんが明るく元気に生活できる社会にするためにさまざまな取り組みを行っています。これからの取り組みの参考にするために、みなさんが毎日の生活の中でどのように過ごしているかを教えてください。みなさんが答えてくれたことを健康に関する計画づくりに活用します。書き方やわからないことばがあったら、お家の人にきいてね。

保護者の皆様へ

「人生 80 年時代」を迎えた今日、市民一人ひとりが日頃から生活習慣に気をつけて、いつまでも健康で生きがいを持ち、安心して暮らせるまちづくりを目指し、「第 3 次保健計画（仮称）」の策定に取り組んでいます。

計画策定にあたり、アンケート調査を実施することになりました。今回の調査対象者は、市内の小学校在学している 3 年生のうちの約 500 名です。ご記入については、保護者の方のご協力のもとお願いします。

なお、今回のアンケートにお名前はいりません。

みなさんのご協力をお願いします。

平成 22 年 7 月

河内長野市長
芝田 啓治

■保護者の皆様へ（調査票の回収について）

- ①アンケート調査は、小学 3 年生のお子さま自身がお答えください。
- ②アンケート調査票は、**平成 22 年 7 月 1 日現在**でご記入ください。
- ③鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- ④ご回答は、質問をよく読んで、小学 3 年生のお子さまの状態や考え方に最も近い番号を選んで○、または該当する数字をご記入ください。
- ⑤すべて回答が終わりましたら、記入もれがないか確認してください。
- ⑥ご記入いただきました調査票は、平成 22 年 7 月 15 日（木）までに同封筒に入れて担任の先生に提出してください。

＜お問い合わせ先＞

河内長野市 健康増進部 健康推進課
（河内長野市立保健センター）
電話 55-0301 担当 宝来・児島 まで

A あなたのことを教えてください

問 1. 性別	1. 男	2. 女
問 2. 家族の人数	あなたを含めて（ ）人	

B あなたの身長・体重を教えてください

問 1. 身長	（ ）	cm（小数点以下は四捨五入）
問 2. 体重	（ ）	kg（小数点以下は四捨五入）

C あなたの食生活を教えてください

問 1 食事は 1 日何回食べますか。	→	1 日（ ）回
---------------------	---	---------

問 2 あさごはんを食べていますか。（1 つだけ○）

1. ほぼ毎日食べる	2. 週に 3 ～ 5 回程度食べる
3. 週に 1 ～ 2 回程度食べる	4. ほとんど食べない

問 3 ひとりだけで夕はんを食えることがありますか。

1. ほとんどない	2. 週に 1 ～ 2 回程度ある
3. 週に 3 ～ 5 回程度ある	4. ほぼ毎日ひとりで食べる

問 4 おやつはどのようなものをよく食べますか。
（あてはまるものすべてに○）

1. スナック菓子（ポテトチップスなど）	2. カップ麺
3. くだもの	4. 菓子パン
5. 洋菓子（クッキー・ケーキ・チョコレートなど）	
6. 和菓子（まんじゅう・どら焼きなど）	
7. ファストフード（ハンバーガー・ポテトフライ・ピザなど）	
8. 牛乳	9. ジュース
10. スポーツドリンク	
11. その他（ ）	12. ほとんど食べない

D あなたの睡眠について教えてください

問1 何時に起きますか。
あさ（ ）時

問2 夜何時に寝ますか。
よる（ ）時

E あなたの歯みがきについて教えてください

問1 歯みがきは1日何回しますか。
1. 1回 4. 2. 2回 3. 3回以上
毎日 5. しない (1つだけO)

問2 歯みがき剤を使っていますか。
1. はい 2. いいえ (1つだけO)

問3 ごはんを食べるとき、気にして噛むようにしていますか。

1. はい 2. いいえ (1つだけO)

F あなたのその他の生活について教えてください

問1 テレビやDVD（ビデオ）を1日平均どれくらい見ますか。
1. ほとんど見ない 2. 1時間未満 3. 1時間以上3時間未満 4. 3時間以上 (1つだけO)

問2 テレビゲーム（パソコンを含む）を1日平均どれくらいしますか。
1. ほとんどしない 2. 1時間未満 3. 1時間以上3時間未満 4. 3時間以上 (1つだけO)

問3 悩みごとはありますか。
1. 友だちのこと 2. 家族のこと 3. 勉強のこと 4. その他（ ） 5. 特にない (あてはまるものすべてにO)

問4 悩みごとの相談相手は誰ですか。
(あてはまるものすべてにO)

1. 親 2. 兄弟・姉妹 3. 友だち 4. 先生 5. その他（ ） 6. いない

問5 毎日の生活で、あてはまるものがありますか。
(あてはまるものすべてにO)

1. 毎日が楽しい 2. 寝しくない白がましい 3. 体がいつもだるい 4. 日中眠いことがある 5. 学校に行きたくないと思うことがよくある 6. 食欲がない 7. 頭が痛くなることがある 8. おなかが痛くなることもある 9. 特にない

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

調査票は、封筒に入れて平成22年7月15日（木）までに担任の先生に提出してください。

河内長野市「保健計画（仮称）」アンケート調査票

A あなたご自身について教えてください

問1. 性別	1. 男	2. 女
問2. 家族の人数	あなたを含めて（ ）人	

B あなたの身長・体重について教えてください

問1. 身長	（ cm）	（小数点以下は四捨五入）
問2. 体重	（ kg）	（小数点以下は四捨五入）
問3. 希望する体重	（ kg）	（小数点以下は四捨五入）

C あなたの健康について教えてください

過去1年間に次の病気やけがなどで、病院や医院・診療所にかかったことがあり
ますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 内科の病気	2. アレルギー（アトピー性皮膚炎・喘息・鼻炎など）		
3. 目の病気	4. 耳や鼻の病気	5. むし歯	6. 歯の矯正
7. 骨折・ねんざ	8. その他（ ）	9. 特になし	

D あなたの食生活について教えてください

問1 食事は1日何回食べますか。	→ 1日（ ）回		
問2 朝食を食べていますか。	（1つだけ○）		
1. ほぼ毎日食べる	2. 週に3～5回程度食べる		
3. 週に1～2回程度食べる	4. ほとんど食べない		
問3 ひとりで夕食を食べることがありますか。	（1つだけ○）		
1. ほとんどない	2. 週に1～2回程度ある		
3. 週に3～5回程度ある	4. ほぼ毎日ひとりで食べる		
問4 間食（夜食を含む）はどのようなものをよく食べますか。	（あてはまるものすべてに○）		
1. スナック菓子（ポテトチップなど） 2. カップ麺 3. くだもの			
4. 菓子パン 5. 洋菓子（クッキー・ケーキ・チョコレートなど）			
6. 和菓子（まんじゅう・どら焼きなど）			
7. ファストフード（ハンバーガー・ポテトフライ・ピザなど）			
8. 牛乳 9. ジュース 10. スポーツドリンク			
11. その他（ ） 12. ほとんど食べない			

河内長野市内の小学校に在学する6年生のみさんへ
あなたの「こころ」・「体」
「ふだんの生活について」教えてください。

河内長野市では、みなさんが大人になっても、こころの豊かさを持ち、
明るく元気に生活できる社会にするために、積極的な健康づくりを
目指し、「第3次保健計画（仮称）」づくりに取り組んでいます。

今回、市内の小学校に在学している6年生約500名を対象に、「毎日の生活の中で、どのようなことに気をつけて過ご
しているか」などを教えていただくため、アンケート調査を
実施することになりました。調査の結果を計画づくりに活用
させていただきます。

なお、今回のアンケートにお名前が必要ありません。書き方やわ
からない言葉があったらお家の人に聞いてください。

ご協力をよろしくお願いいたします。

平成22年7月
河内長野市長
芝田 啓治

■保護者の皆様へ（調査票の回収について）

- ①アンケート調査は、小学6年生のお子さま自身がお答えください。
- ②アンケート調査票は、平成22年7月1日現在でご記入ください。
- ③鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- ④ご回答は、質問をよく読んで、小学6年生のお子さまの状態や考え方に最も近い番
号を選んで○、または該当する数字をご記入ください。
- ⑤すべて回答が終わりましたら、記入もれがないか確認してください。
- ⑥ご記入いただきました調査票は、平成22年7月15日（木）までに封筒に入れて担任の先生に
提出してください。

＜お問い合わせ先＞ 河内長野市 健康増進部 健康推進課
（河内長野市立保健センター）
電話55-0301 担当 宝来・原島 まで

問5 「ダイエット」という言葉を知っていますか。 (1つだけ○)

1. 知っている	→問6へ	2. 知らない	→Eへ
----------	------	---------	-----

問6 問5で1. 知っている、と答えた人にお聞きします。

あなたは「ダイエット」をしたことがありますか。または、したいと思えますか。

1. したことがある	2. したことはないけれど、したいと思ったことがある
3. 興味がない	

「ダイエット」によって、健康を害することがありますので注意しましょう。

E あなたの運動について教えてください

外で体を使って遊んだり、運動（スポーツ教室など）をしていますか。

(体育の授業を除く)

1. はい	…→ 1) どれくらいしていますか。 (1つだけ○)
	1. 週5回以上 2. 週3～4回 3. 週1～2回 4. 月1～2回 5. その他 ()
2. いいえ	…→ 2) 運動していないのはなぜですか。 (1つだけ○)
	1. 塾などで時間がない 2. 疲れて運動できない 3. 運動することが嫌い 4. 室内での遊び（テレビゲーム・パソコンなど）の方が楽しい 5. 医師から運動することをとめられている 6. 特に理由はない

F あなたの睡眠について教えてください

問1 何時に起きますか。

あさ () 時

問2 夜何時に寝ますか。

よる () 時

G あなたの歯みがきについて教えてください

問1 歯みがきは1日何回しますか。

1. 1回	2. 2回	3. 3回以上	4. 毎日しない	5. しない
-------	-------	---------	----------	--------

(1つだけ○)

問2 歯みがき剤を使っていますか。 (1つだけ○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問3 食事中、噛むことを意識して食べていますか。 (1つだけ○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

H たばこについてお聞きします

問1 あなたは、20歳にならない人（未成年者）がたばこを吸うことについて、どう思いますか。 (1つだけ○)

1. 法律で禁止されているからいけない	2. 20歳まで吸えなくても仕方がない
3. 大人が吸っているからかまわない	4. 本人の考えにまかせればいい

問2 あなたは、たばこを吸うことによる健康への影響について、どう思いますか。 (1つだけ○)

1. 害があるから絶対にいけない	2. 少しくらいであればかまわない
3. 言われるほどに害はなく、かまわない	

問3 家族でたばこを吸っている人がいますか。 (1つだけ○)

1. いる () 人	2. いない
------------------	--------

問4 たばこの、体への影響について知っていることに○をつけてください。

1. 心臓の病気になるやすいこと
2. 脳の血管の病気になるやすいこと
3. 胃かいようになるやすいこと
4. 気管支炎や喘息になるやすいこと
5. 歯ぐきの病気になるやすいこと
6. 肺がんになるやすいこと
7. たばこの煙が、周りの人の健康にも害があること
8. 妊娠中にたばこを吸うと、赤ちゃんが予定より早く生まれやすいこと
9. 妊娠中にたばこを吸うと、体重の小さい赤ちゃんが生まれやすいこと
10. いずれも知らなかった

I お酒についてお聞きします

問1 あなたは、20歳にならない人（未成年者）がお酒を飲むことについて、どう思いますか。（1つだけ○）

1. 法律で禁止されているからいけない	2. 20歳まで飲めなくても仕方がない
3. 大人が飲んでるからかまわない	4. 本人の考えにまかせればいい

問2 あなたは、20歳にならない人（未成年者）が酒類を飲むことによる健康への影響について、どう思いますか。（1つだけ○）

1. 害があるから絶対にいけない	2. 少しぐらいであればかまわない
3. 言われるほどに害はなく、かまわない	

J 薬物についてお聞きします

かすいやくなご、やくすり、覚醒剤等の薬物を使った場合の、こころや体への害について知っていることに○を付けてください。

1. 1回使っただけでも、異常に興奮したり、やる気がなくなったりする
2. 1回使っただけでも、死ぬことがある
3. 自分の意志でやめるのが難しくなる
4. 薬が切れると、体を動かすのがいやになったり、疲れを感じたり、苦しくなったりする
5. 使い続けると、体の様々なところに障がいを感じやすい
6. 使い続けると、脳の神経がおかされ、精神に障がいを感じやすい
7. 使い続けるのをやめても、何かのショックで見えないものが見えたり、聞こえないものが聞こえたりする
8. いずれも知らなかった

K あなたのその他の生活について教えてください

問1 テレビやDVD（ビデオ）を1日平均どれくらい見ますか。（1つだけ○）

1. ほとんど見ない	2. 1時間未満
3. 1時間以上3時間未満	4. 3時間以上

問2 テレビゲーム（パソコンを含む）を1日平均どれくらいしますか。（1つだけ○）

1. ほとんどしない	2. 1時間未満
3. 1時間以上3時間未満	4. 3時間以上

問3 悩みことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 友だちのこと	2. 家族のこと	3. 勉強のこと
4. その他（	）	5. 特にない

問4 悩みごとの相談相手は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 親	2. 兄弟・姉妹	3. 友だち
4. 先生	5. その他（	6. いなし

問5 毎日の生活で、あてはまるものがありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 毎日が楽しい	2. 楽しくない日が多い	3. 体がいつもだるい
4. 日中眠いことがある	5. 学校に行きたくないと思うことがある	
6. 食欲がない	7. 頭が痛くなることがある	
8. おなかが痛くなることがある	9. 特にない	

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

調査票は、封筒に入れて平成22年7月15日（木）までに担任の先生に提出してください。

河内長野市内に住む中学3年生のみなさんへ あなたの「こころ」・「体」

「日常生活について」教えてください。

河内長野市では、みなさんが大人になっても、こころの豊かさを持ち、

明るく元気に生活できる社会にするために、積極的な健康づくりを目指し、

「第3次保健計画（仮称）」づくりに取り組んでいます。

今回、市内にお住まいの中学3年生を対象に、「毎日の生活の中で、どのようなことに気をつけて過ごしているか」などを教えていただくため、アンケート調査を実施することになりました。調査の結果を計画づくりに活用させていただきます。

なお、今回のアンケートにお名前には必要ありません。また、あなたが答えた内容は、ほかの人に知られることはありませんので、思ったとおりに答えてください。みなさんのご協力をよろしく願います。

平成22年7月

市長

河内長野

芝 田 啓 治

■調査票の回収等について

- ①アンケート調査は、あて名のご本人がお答えください。
- ②アンケート調査票は、平成22年7月1日現在でご記入ください。
- ③鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- ④ご回答は、質問をよく読んで、あなたの状態や考え方に最も近い番号を選んで○、または該当する数字をご記入ください。
- ⑤すべて回答が終わりましたら、記入もれがないか確認してください。
- ⑥ご記入いただきました調査票は、平成22年7月30日（金）までに同封の返信用封筒に入れて返送してください。（切手は不要です）

くお問い合わせ先>

河内長野市 健康増進部 健康推進課
 （河内長野市立保健センター）

電話55-0301 担当 宝来・ほくらい 児島 こじま まで

河内長野市「保健計画（仮称）」アンケート調査票

A あなたご自身についてお聞きします

問1. 性別	1. 男	2. 女
問2. 家族の人数	あなたを含めて（ ）人	

B あなたの身長・体重についてお聞きします

問1. 身長	（ ） cm	（小数点以下は四捨五入）
問2. 体重	（ ） kg	（小数点以下は四捨五入）
問3. 希望する体重	（ ） kg	（小数点以下は四捨五入）

C あなたの健康についてお聞きします

過去1年間に次の病気やけがなどで、病院や医院・診療所にかかったことがあり
 ますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 内科の病気	2. アレルギー（アトピー性皮膚炎・喘息・鼻炎・鼻炎など）		
3. 目の病気	4. 耳や鼻の病気	5. むし歯	6. 歯の矯正
7. 骨折・ねんざ	8. その他（ ）	9. 特にない	

D あなたの食生活についてお聞きします

問1 食事は1日何回食べますか。 → 1日（ ）回

問2 朝食を食べていますか。 （1つだけ○）

1. ほぼ毎日食べる	2. 週に3～5回程度食べる
3. 週に1～2回程度食べる	4. ほとんど食べない

問3 ひとりで夕食を食べることがありますか。 （1つだけ○）

1. ほとんどない	2. 週に1～2回程度ある
3. 週に3～5回程度ある	4. ほぼ毎日ひとりで食べる

問4 間食（夜食を含む）はどのようなものをよく食べますか。 （あてはまるものすべてに○）

1. スナック菓子（ポテトチップなど）	4. 菓子パン
2. カップ麺	3. くだもの
5. 洋菓子（クッキー・ケーキ・チョコレートなど）	
6. 和菓子（まんじゅう・どら焼きなど）	
7. ファストフード（ハンバーガー・ポテトフライ・ピザなど）	
8. 牛乳	9. ジュース
10. スポーツドリンク	
11. その他（ ）	12. ほとんど食べない

問5 「ダイエット」という言葉を知っていますか。 (1つだけ○)

1. 知っている	→問6へ	2. 知らない	→Eへ
----------	------	---------	-----

問6 問5で 1. 知っている、と答えた人にお聞きします。

あなたは「ダイエット」をしたことがありますか。または、したいと思いませんか。

1. したことがある	2. したことはないけれど、したいと思ったことがある
3. 興味がない	

「ダイエット」によって、健康を害することがありますので注意しましょう。

E あなたの運動についてお聞きします

外で体を使って遊んだり、運動（学校の部活動・スポーツ教室）をしていますか。
（体育の授業を除く）

1. はい	→ 1) どれくらいしていますか。 (1つだけ○)
2. いいえ	→ 2) 運動していないのはなぜですか。 (1つだけ○)

1. 週5回以上	2. 週3～4回
3. 週1～2回	4. 月1～2回
5. その他（ ）	

1. 塾などで時間がない
2. 疲れて運動できない
3. 運動することが嫌い
4. 室内での遊び（テレビゲーム・パソコンなど）の方が楽しい
5. 医師から運動することを止められている
6. 特に理由はない

F あなたの睡眠についてお聞きします

問1 1日の平均睡眠時間はどれくらいですか。 (1つだけ○)

1. 5時間未満	2. 5時間以上6時間未満	3. 6時間以上7時間未満
4. 7時間以上8時間未満	5. 8時間以上	

問2 夜何時に寝ますか。 (1つだけ○)

1. 午後9時前	2. 午後9時から10時前	3. 午後10時から11時前
4. 午後11時から12時前	5. 午前0時以降	6. 特に決まっていない

G あなたの歯みがきについてお聞きします

問1 歯みがきは1日何回しますか。 (1つだけ○)

1. 1回	2. 2回	3. 3回以上	4. 毎日はいらない	5. しない
-------	-------	---------	------------	--------

問2 歯みがき剤を使っていますか。 (1つだけ○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問3 食事中、噛むことを意識して食べていますか。 (1つだけ○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

H たばこについてお聞きします

問1 あなたは、20歳にならない人（未成年者）がたばこを吸うことについて、どう思いますか。 (1つだけ○)

1. 法律で禁止されているからいけない	2. 20歳まで吸えなくても仕方がない
3. 大人が吸っているからかまわない	4. 本人の考えにまかせればいい

問2 あなたは、たばこを吸うことによる健康への影響について、どう思いますか。 (1つだけ○)

1. 害があるから絶対にいけない	2. 少しくらいであればかまわない
3. 言われるほどに害はなく、かまわない	

問3 家族でたばこを吸っている人がいますか。 (1つだけ○)

1. いる（ ）人	2. いない
-----------	--------

問4 たばこの、体への影響について知っていることに○をつけてください。

1. 心臓の病気になるやすいこと
2. 脳の血管の病気になるやすいこと
3. 胃かいようになるやすいこと
4. 気管支炎や喘息になるやすいこと
5. 歯ぐきの病気になるやすいこと
6. 肺がんになるやすいこと
7. たばこの煙が、周りの人の健康にも害があること
8. 妊娠中にたばこを吸うと、赤ちゃんが予定より早く生まれやすいこと
9. 妊娠中にたばこを吸うと、体重の小さい赤ちゃんが生まれやすいこと
10. いずれも知らなかった

問5 今までにたばこを吸ったことがありますか。 (1つだけ○)

1. 吸ったことはない → Hの間8へ
2. 以前何回か吸ったことがある → Hの間6へ
3. 吸っている（この1か月間） → Hの間6へ

問6 初めて吸ったのはいつ頃ですか。 (1つだけ○)

1. 小学1～3年生	2. 小学4～6年生
3. 中学1～3年生	

問7 たばこを吸ったきっかけは何ですか。 (1つだけ○)

1. 好奇心	2. まわりの人が吸っているから
3. カッコいいと思ったから	4. 大人にすすめられて
5. 友人にすすめられて	6. その他（ ）

K あなたのその他の生活についてお聞きします

問1 テレビやDVD（ビデオ）を1日平均どれくらい見ますか。（1つだけ○）

1. ほとんど見ない	2. 1時間未満
3. 1時間以上3時間未満	4. 3時間以上

問2 テレビゲーム（パソコンを含む）を1日平均どれくらいしますか。（1つだけ○）

1. ほとんどしない	2. 1時間未満
3. 1時間以上3時間未満	4. 3時間以上

問3 悩みことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 友だちのこと	2. 家族のこと	3. 勉強のこと
4. その他（		5. 特にない

問4 悩みごとの相談相手は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 親	2. 兄弟・姉妹	3. 友だち
4. 先生	5. その他（	6. いなし

問5 毎日の生活で、あてはまるものがありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 毎日が楽しい	2. 楽しくない日が多い	3. 体がいつもだるい
4. 日中眠いことがある	5. 学校に行きたくないと思うことがある	
6. 食欲がない	7. 頭が痛くなることもある	
8. おなかが痛くなることもある	9. 特にない	

調査票は、返信用封筒に入れて切手を貼らずに平成22年7月30日（金）までにご返送ください。

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

J 薬物についてお聞きします

問8 たばこを吸ったことがない人にお聞きします。
もし、友人からたばこをすすめられたら、断ることができると思えますか。（1つだけ○）

1. 必ず出来と思う	2. かなり出来と思う
3. 少しは出来と思う	4. まったく出来ないと思う

問1 酒類（アルコール）についてお聞きします
あなたは、20歳にならない人（未成年者）が酒類（アルコール）を飲むことについて、どう思いますか。（1つだけ○）

1. 法律で禁止されているからいけない	2. 20歳まで飲めなくても仕方がない
3. 大人が飲んでいるからかまわない	4. 本人の考えにまかせればいい

問2 あなたは、20歳にならない人（未成年者）が酒類（アルコール）を飲むことによる健康への影響について、どう思いますか。（1つだけ○）

1. 害があるから絶対にいけない	2. 少しくらいであればかまわない
3. 言われるほどに害はなく、かまわない	

問3 今までに酒類（アルコール）を飲んだことがありますか。（1つだけ○）

1. 飲んだことはない	→ Jハ
2. 以前何回か飲んだことがある	→ Iの間4へ
3. 飲んでいる（この1か月間）	→ Iの間4へ

問4 初めて飲んだのはいつ頃ですか。（1つだけ○）

1. 小学1～3年生	2. 小学4～6年生
3. 中学1～3年生	

問5 酒類（アルコール）を飲んだきっかけは何ですか。（1つだけ○）

1. 好奇心	2. まわりの人が飲んでいるから
3. かっこいいと思ったから	4. 大人にすすめられて
5. 友人にすすめられて	6. その他（

質問票等薬物の使用した場合は、この書に記入して知っていただくことについて
1. 1回使っただけでも、異常に興奮したり、やる気がなくなったりする
2. 1回使っただけでも、死亡することがある
3. 自分の意思でやめるのが難しくなる
4. 薬が切れると、体を動かすのがいやになったり、疲れを感じたり、苦しくなったりする
5. 使い続けると、体の様々なところに障がいや起こしやすい
6. 使い続けると、脳の神経がおかされ、精神に障がいを起こしやすい
7. 使い続けるのをやめても、何かのショックで見えないものが見えたり、聞こえないものが聞こえたりする
8. いずれも知らなかった

17・18 歳用アンケート

河内長野市「保健計画（仮称）」策定のための アンケート調査のお願い

河内長野市では、みなさんが大人になっても、こころの豊かさを持ち、明るく元気に生活できる社会にするために、積極的な健康づくりを目指し、「第3次保健計画（仮称）」づくりに取り組んでいます。

そのため、市内にお住まいの平成4年4月2日から平成5年4月1日生まれの方の中から、約1000名を無作為に選び、「毎日の生活の中で、どのようなことに気をつけて過ごしているか」を教えてください。そのため、今回アンケート調査をすることになりました。その結果を計画づくりに活用させていただきます。

なお、今回のアンケートにお名前には必要ありません。また、あなたが答えた内容は、ほかの人に知られることはありませんので、思ったとおりに答えてください。

みなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

平成22年7月

河内長野市長
芝 田 啓 治

■調査票の回収等について

- ①アンケート調査は、あて名のご本人がお答えください。
- ②アンケート調査票は、**平成22年7月1日現在**でご記入ください。
- ③鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- ④ご回答は、質問をよく読んで、あなたの状態や考え方に最も近い番号を選んで〇、または該当する数字をご記入ください。
- ⑤すべて回答が終わりましたら、記入もれがないか確認してください。
- ⑥ご記入いただきました調査票は、**平成22年7月30日（金）**までに同封の返信用封筒に入れて返送してください。（切手は不要です）

＜お問い合わせ先＞

河内長野市 健康増進部 健康推進課
（河内長野市立保健センター）
〒591-8501 河内長野市 宝来 1-18-1
電話55-0301 担当 宝来 虎馬 まで

河内長野市「保健計画（仮称）」アンケート調査票

A あなたご自身についてお聞きします

問1. 性別	1. 男	2. 女
問2. 現在お住まいの町名は	(町・台)	
問3. 家族の人数	あなたを含めて () 人	
問4. あなたは次のどれにあてはまりますか		
1. 学生	2. 仕事をしている	3. その他
(専門学校・定時制含む) ()		

B あなたの身長・体重についてお聞きします

問1. 身長	() cm	(小数点以下は四捨五入)
問2. 体重	() kg	(小数点以下は四捨五入)
問3. 希望する体重	() kg	(小数点以下は四捨五入)

C あなたの健康についてお聞きします

過去1年間に次の病気やけがなどで、病院や医院・診療所にかかったことがあり
りますか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 内科の病気	2. アレルギー (アトピー性皮膚炎・喘息・鼻炎・鼻炎など)		
3. 目の病気	4. 耳や鼻の病気	5. むし歯	6. 歯の矯正
7. 骨折・ねんざ	8. その他 ()	9. 特になし	

D あなたの食生活についてお聞きします

問1 食事は1日何回食べますか。	→ 1日 () 回		
問2 朝食をとっていますか。	(1つだけ〇)		
1. ほぼ毎日とる	2. 週に3～5回程度とる		
3. 週に1～2回程度とる	4. ほとんどとらない		
問3 ひとりで夕食をとることがありますか。	(1つだけ〇)		
1. ほとんどない	2. 週に1～2回程度ある		
3. 週に3～5回程度ある	4. ほぼ毎日ひとりでとる		
問4 間食 (夜食を含む) はどのようなものをよく食べますか。	(あてはまるものすべてに〇)		
1. スナック菓子	2. カップ麺	3. くだもの	4. 菓子パン
5. 洋菓子 (クッキー・ケーキ・チョコレートなど)	6. 和菓子		
7. ファストフード (ハンバーガー・ポテトフライ・ピザなど)			
8. 牛乳	9. ジュース	10. スポーツドリンク	
11. その他 ()	12. ほとんど食べない		

問5 ダイエットの経験はありますか。 (1つだけ○)

1. ある	→	はじめてダイエットした年齢 (歳)	2. ない
-------	---	--------------------	-------

E あなたの運動についてお聞きします

運動 (学校の部活動など) やスポーツをしていますか。 (体育の授業を除く)

問1	1. はい	→	→	1) どれくらいしていますか。 (1つだけ○)
				1. 週5回以上 2. 週3～4回
				3. 週1～2回 4. 月1～2回
				5. その他 ()
問2	1. いいえ	→	→	2) 運動していないのはなぜですか。 (1つだけ○)

1. 塾などで時間がない
2. 仕事で時間がない
3. 疲れて運動できない
4. 運動することが嫌い
5. 室内での遊び (テレビゲーム・パソコン) などの方が楽しい
6. 医師から運動することを止められている
7. 特に理由はない

F あなたの睡眠についてお聞きします

問1 1日の平均睡眠時間はどれくらいですか。 (1つだけ○)

1. 5時間未満	2. 5時間以上6時間未満	3. 6時間以上7時間未満
4. 7時間以上8時間未満	5. 8時間以上	

問2 夜何時に寝ますか。

1. 午後9時前	2. 午後9時から10時前	3. 午後10時から11時前
4. 午後11時から12時前	5. 午前0時以降	6. 特に決まっていない

G あなたの歯みがきについてお聞きします

問1 歯みがきは1日何回しますか。 (1つだけ○)

1. 1回	2. 2回	3. 3回以上	4. 毎日ほしない	5. しない
-------	-------	---------	-----------	--------

問2 歯みがき剤を使っていますか。 (1つだけ○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問3 食事中、噛むことを意識して食べていますか。 (1つだけ○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

H たばこについてお聞きします

問1 あなたは、20歳にならない人 (未成年者) がたばこを吸うことについて、どう思いますか。 (1つだけ○)

1. 法律で禁止されているからいけない	2. 20歳まで吸えなくても仕方がない
3. 大人が吸っているからかまわない	4. 本人の考えにまかせればいい

問2 あなたは、たばこを吸うことによる健康への影響について、どう思いますか。 (1つだけ○)

1. 害があるから絶対にいけない	2. 少しくらいであればかまわない
3. 言われるほどに害はなく、かまわない	

問3 家族でたばこを吸っている人がいますか。 (1つだけ○)

1. いる () 人	2. いない
-------------	--------

問4 たばこの、体への影響について知っていることに○をつけてください。

1. 心臓の病気になるやすいこと
2. 脳の血管の病気になるやすいこと
3. 胃がいようになりやすいこと
4. 気管支炎や喘息 息になりやすいこと
5. 歯ぐきの病気になるやすいこと
6. 肺がんになりやすいこと
7. たばこの煙が、周りの人の健康にも害があること
8. 妊婦中にたばこを吸うと、赤ちゃんが予定よりはやく生まれやすいこと
9. 妊婦中にたばこを吸うと、体重の小さい赤ちゃんが生まれやすいこと
10. いずれも知らなかった

問5 今までにたばこを吸ったことがありますか。 (1つだけ○)

4. 吸ったことはない → Hの間8へ
5. 以前何回か吸ったことがある → Hの間6へ
6. 吸っている (この1か月間) → Hの間6へ

問6 初めて吸ったのはいつ頃ですか。 (1つだけ○)

1. 小学1～3年生	2. 小学4～6年生
3. 中学1～3年生	4. 中学校を卒業してから () 歳

問7 たばこを吸ったきっかけは何ですか。 (1つだけ○)

1. 好奇心	2. まわりの人が吸っているから
3. かっこいいと思ったから	4. 大人にすすめられて
5. 友人にすすめられて	6. その他 ()

問8 たばこを吸ったことがない人にお聞きします。

もし、友人からたばこをすすめられたら、断ることができると思えますか。 (1つだけ○)

1. 必ず出来ると思う	2. かなり出来ると思う
3. 少しは出来ると思う	4. まったく出来ないと思う

I 酒類（アルコール）についてお聞きします

問1 あなたは、20歳にならない人（未成年者）が酒類（アルコール）を飲むことについて、どう思いますか。

1. 法律で禁止されているからいけない

2. 20歳まで飲めなくても仕方がない

3. 大人が飲んでいるからかまわない

4. 本人の考えにまかせればいい

問2 あなたは、20歳にならない人（未成年者）が酒類（アルコール）を飲むことによる健康への影響について、どう思いますか。

1. 害があるから絶対にいけない

2. 少しくらいであればかまわない

3. 言われるほどに害はなく、かまわない

問3 今までに酒類（アルコール）を飲んだことがありますか。（1つだけ○）

1. 飲んだことはない → Jへ

2. 以前何回か飲んだことがある → Iの間4へ

3. 飲んでいる（この1か月間） → Iの間4へ

問4 初めて飲んだのはいつ頃ですか。（1つだけ○）

1. 小学1～3年生

2. 小学4～6年生

3. 中学1～3年生

4. 中学校を卒業してから（ ）歳

問5 酒類（アルコール）を飲んだきっかけは何ですか。（1つだけ○）

1. 好奇心

2. まわりの人が飲んでいるから

3. かっこいいと思ったから

4. 大人にすすめられて

5. 友人にすすめられて

6. その他（ ）

問1 1回使っただけでも、異常に興奮したり、やる気がなくなったりする

2. 1回使っただけでも、死にすることがある

3. 自分の意思でやめるのが難しくなる

4. 薬が切れると、身体を動かすのがいやになったり、疲れを感じたり、苦しくなったりする

5. 使い続けると、身体の様々なところに障がいを起こしやすい

6. 使い続けると、脳の神経がおかされ、精神に障がいを起こしやすい

7. 使い続けるのをやめても、何かのショックで見えないものが見えたり、聞こえないものが聞こえたりする

8. いずれも知らなかった

K 性的ことについてお聞きします

問1 性行動は、相手のところや身体を傷つける可能性があると思いますか。

1. ある

2. ない

問2 性行動によって、性感染症などの病気に感染する可能性がありますか。

1. 知っている

2. 知らない

問3 自分の身体を大切にしていますか。

1. 大切にしている

2. 大切にしていない

問1 テレビやDVD（ビデオ）を1日平均どれくらい見ますか。（1つだけ○）

1. ほとんど見ない

2. 1時間未満

3. 1時間以上3時間未満

4. 3時間以上

問2 テレビゲーム（パソコンを含む）を1日平均どれくらいしますか。（1つだけ○）

1. ほとんどしない

2. 1時間未満

3. 1時間以上3時間未満

4. 3時間以上

問3 悩みことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 友だちのこと

2. 家族のこと

3. 勉強のこと

4. 仕事のこと

5. その他（ ）

6. 特にない

問4 悩みごとの相談相手は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 親

2. 兄弟・姉妹

3. 友だち

4. 先生

5. 上司・同僚

6. その他（ ）

7. いらない

問5 毎日の生活で、あてはまるものがありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 毎日が楽しい

2. 楽しくない日が多い

3. 体がいつもだるい

4. 日中眠いことがある

5. 学校や仕事に行きたくないと思うことがよくある

6. 食欲がない

7. 頭が痛いことがある

8. おなかが痛いことがある

9. 特にない

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

調査票は、返信用封筒に入れて切手を貼らずに平成22年7月30日（金）までにご返送ください。

河内長野市「保健計画(仮称)」策定のための
アンケート調査のお願い

平素は市保健行政に対し、格別のご理解とご協力をいただきまして深く感謝申し上げます。

さて本市では、「人生80年時代」を迎えた今日、市民一人ひとりが日頃から生活習慣に気をつけて、いつまでも健康で生きがいを持ち、安心して暮らせるまちづくりを目指し、「第3次保健計画(仮称)」の策定に取り組んでいます。

そのため、今回アンケート調査をすることになり、住民基本台帳より、20歳以上の方の中から約2,000名を無作為に選定させていただきました。

本調査は、皆様の健康や生活習慣などについてお聞きし、計画策定の基礎資料として、活用させていただくものです。健康に直接関係がないような項目もありますが、よりよい保健・福祉施策を包括的に進めるために必要なのですので、ご多忙とは存じますが、ご回答いただきますようお願い申し上げます。

なお、この調査は無記名です。

平成22年7月

河内長野市長
芝田啓治

■調査票の回収について
ご記入いただいた調査票は、**平成22年7月30日(金)**までに同封の返信用封筒に入れてご返送下さい。(切手は不要です)

＜お問い合わせ先＞

河内長野市 健康増進部 健康推進課
(河内長野市立保健センター)
電話55-0301 担当 宝来・児島 まで

河内長野市「保健計画(仮称)」
アンケート調査票

■ご記入にあたって

- ⑤ アンケート調査は、あて名のご本人がお答え下さい。
- ② アンケート調査票は、**平成22年7月1日現在**でご記入下さい。
- ③ 鉛筆またはボールペンでご記入下さい。
- ④ ご回答は、質問をよく読んで、あなたの状態や考え方に最も近い番号を選んで○、または該当する数字をご記入下さい。
- ⑤ 全て回答が終わりましたら、記入もれがないか確認して下さい。

I. あなたの日頃の生活についてお聞きします

【あなたの身体の状態についてお聞きします】

【問1】あなたの身体の状態についてお聞きします。

(1) 身長と体重をご記入下さい。

＜身長＞

＜体重＞

(2) 自分の適正体重を知っていますか。

- 1. 知っている → 何kgぐらいだと思いますか()kg
- 2. 知らない

【喫煙についてお聞きします】

【問2】あなたは、たばこを吸いますか。 (1つだけ○)

1. 吸う



① 次の()に数字をご記入下さい。
1日()本 喫煙年数()年
吸い始めた年齢()歳

② 今後禁煙したいと考えていますか。
1) 考えている 2) 考えていない

2. 吸わない

3. 以前は吸っていたが.....▶
今はやめた

以前の喫煙状態について次の()に数字をご記入下さい。

1日()本 喫煙年数()年
吸い始めた年齢()歳

【問3】 あなたは喫煙が健康に次のような影響を及ぼすことを知っていますか。
(知っているものすべてに○)

1. 肺がん	2. ぜんそく	3. 気管支炎
4. 心臓病	5. 脳卒中	6. 胃かいよう
7. 早産	8. 低体重児出産	9. 歯周病
10. まったく知らない		

【問4】 働いている方にお聞きします。
(1) 職場では、分煙が行われていますか。(1つだけ○)

1. すべて禁煙	→問4(2)△
2. 空間分煙 (喫煙できるところとできないところがある)	→問4(2)△
3. 時間分煙 (禁煙タイム、もしくは喫煙タイムがある)	→問4(2)△
4. 空間・時間分煙の両方	→問4(2)△
5. 分煙は行われていない	→問5△
6. わからない	→問5△

(2) (1) で1. 2. 3. 4. を選択された方にお聞きします。
禁煙または分煙は守られていますか。

1. 守られている	2. 守られていない
-----------	------------

【身体を動かすことや運動についてお聞きします】

【問5】 あなたは自分自身の身体を動かすことについてどう思いますか。(1つだけ○)

1. 十分足りている	2. 足りている
3. 不足している	

【問6】 あなたは健康の維持・増進のために意識的に身体を動かすなどの運動をしていますか (速く歩くや階段を使うなども含む)。

1. している	→問7△	2. していない	→問8△
---------	------	----------	------

【問7】 問6で1. しているを選択された方にお聞きします。
(1) 運動の頻度はどの程度ですか。(1つだけ○)

1. ほとんど毎日	2. 週2～3回
3. 週1回	4. その他 ()

(2) 1回の運動の時間はどの程度ですか。(1つだけ○)

1. 15分未満	2. 15分以上30分未満
3. 30分以上1時間未満	4. 1時間以上2時間未満
5. 2時間以上	6. その他 ()

(3) 運動を続けている期間はどの程度ですか。(1つだけ○)

1. 半年未満	2. 半年以上1年未満	3. 1年以上
---------	-------------	---------

【睡眠についてお聞きします】

【問8】 あなたの1日の平均睡眠時間はどれくらいですか。(1つだけ○)

1. 5時間未満	2. 5時間以上6時間未満
3. 6時間以上7時間未満	4. 7時間以上8時間未満
5. 8時間以上	

【問9】 あなたは、ふだんとしている睡眠で休養が十分とれていますか。(1つだけ○)

1. 十分とれている	2. まあまあとれている
3. あまりとれていない	4. まったくとれていない

【問10】 あなたは睡眠の確保のために睡眠補助品(薬)やリコールを使うことがありますか。(1つだけ○)

1. 常にある	2. 時々ある
3. ほとんどない	4. まったくない

【あなたの生きがいやふだんのおつきあいについてお聞きします】

【問11】 あなたは、自分が打ち込んでやりがいや充実感を得られるものを持っていますか。(1つだけ○)

1. もっている	2. まあまあもっている
3. あまりもっていない	4. もっていない

【問12】 あなたの日頃の生活をふりかえってみて、地域活動などへの参加 (町内会、子ども会、老人会、PTA、ボランティアなど) についてどのように思いますか。

＜現在＞ (1つだけ○)	＜今後＞ (1つだけ○)
1. 多い方だと思う	1) 今のままでよい
2. ふつうだと思う	2) 今より増やしたい
3. 少ない方だと思う	3) 今より減らしたい

20歳以上用アンケート

【問 13】 あなたは、健康づくりを推進するための学習会や自主グループなどに関心がありますか。
(1つだけ○)

1. 関心があり、機会があれば活動したい
2. 関心はあるが、活動については考えていない
3. 関心がない
4. よくわからない

【日頃のストレスについてお聞きします】

【問 14】 あなたは、ふだんの生活でストレスを感じることがありますか。
(1つだけ○)

2. よくある →問15へ
3. あまりない →問16へ
2. ときどきある →問15へ
4. ほとんどない →問16へ

【問 15】 問 14 で 1. 2. を選択された方にお聞きます。

(1) どのようなことでストレスを感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事のこと
3. 夫婦のこと
5. 親のこと
7. 友人のこと
9. 経済的不安
11. 勉強のこと
13. 家族の健康に関すること
15. その他 ()
2. 職場の人間関係
4. 子どものこと
6. 近隣の人間関係
8. 介護
10. 失業
12. 自分の健康に関すること
14. 事故や災害

(2) ストレスをうまく解消できていますか。(1つだけ○)

1. その都度解消している
3. 解消できないことが多い
2. 解消できることが多い
4. 解消できていない

(3) どのようにストレスを解消していますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 家族に話をする
3. 上司に相談する
5. 先生に相談する
7. スポーツを通して
9. よく眠る
2. 友人や同僚に話をする
4. 専門家に相談する
6. 趣味を通して
8. 飲食をする
10. その他 ()

20歳以上用雇用用アンケート

【問 16】 あなたは、必要なとき自由に自分の気持ちを話すことができる家族・友人がいますか。

1. いる
2. いない

【問 17】 あなたはここ1ヶ月間、心配事があったてよく眠れないことがありますか。
(1つだけ○)

1. よくある
2. ときどきある
3. あまりない
4. ほとんどない

【問 18】 あなたはここ1ヶ月間、いつもより気が重くて憂うつになることがありますか。
(1つだけ○)

1. よくある
2. ときどきある
3. あまりない
4. ほとんどない

【問 19】 あなたはここ1ヶ月間、身体やところがとも疲れて「死にたい」と考えたことがありますか。
(1つだけ○)

1. よくある
2. ときどきある
3. あまりない
4. ほとんどない

【問 20】 あなたは、ここが疲れたとき相談できる専門機関を知っていますか。

1. 知っている →問21へ

- 1) 医療機関
(心療内科、精神科、メンタルクリニック
神経内科、精神神経科)
- 2) 府立こころの健康総合センター
- 3) 保健所

2. 知らない →問22へ

【問 21】 問 20 で 1. 知っている、を選択された方にお聞きます。

その専門機関へ相談や通院をしたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 相談したことがある
2. 通院したことがある
3. 入院したことがある
4. ない。
- どんな症状で相談、通院または入院
しましたか。あてはまるものすべて
に○をつけて下さい。

- 1) けいこ・けいこ
- 2) アルコール依存
- 3) 不眠
- 4) 拒食や過食
- 5) 認知症
- 6) その他

【あなたの日頃の食生活についてお聞きします】

【問 22】 あなたの日頃の食生活についてどのように思いますか。

(1つだけ○)

1. 大変よい 2. よい
3. 少し問題がある 4. 問題が多い

【問 23】 健康維持のため、食事内容や量のコントロールに努めていますか。

1. 努めている 2. 努めていない

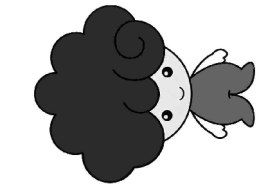
【問 24】 食生活についてあてはまるものすべてに○をして下さい。

1. 朝食はほぼ毎日とっている
2. 栄養のバランスを考えてとっている
3. 毎日いろいろな種類の食品を食べよう努めている
4. 1日最低1食は、家族あるいは友人と食事をともにしている
5. 1日最低1食は、30分以上かけて食事をしている
6. 外食をする時や食品を買う時は栄養成分表示を参考にしている
7. 間食（夜食）はほとんど食べない
8. 脂肪の少ない食事をとっている
9. 薄味にしている
10. 牛乳や乳製品をほぼ毎日とっている
11. 豆類や大豆製品（豆腐、なとうなど）をほぼ毎日とっている
12. 緑黄色野菜（ホウレン草、人参など）をほぼ毎日とっている
13. 淡黄色野菜（大根、キャベツ、白菜など）をほぼ毎日とっている
14. 果物をほぼ毎日とっている
15. 河内長野市の農作物の特産品を知っている
16. 河内長野産の農作物をできるだけ食べるようにしている

【問 25】 食生活について、今後どのようにしたいと思いますか。

(1つだけ○)

1. 今よりよくしたい 2. 今のままでよい 3. 特に考えていない



あと半分です。
頑張ってお答え下さい。

【飲酒についてお聞きします】

【問 26】 あなたは、お酒を飲みますか。

1. 飲む →問 27へ 2. 飲まない →問 28へ

【問 27】 問 26で1. を選択された方にお聞きします。

1回に飲む量はどの程度ですか。 (1つだけ○)

※ビール中ビン1本、焼酎0.4合、ウイスキー・ブランデー1杯、リキュール1.5杯を
日本酒1合とします。

1. 1合未満 2. 1合以上2合未満
3. 2合以上3合未満 4. 3合以上4合未満
5. 4合以上5合未満 6. 5合以上

【食育についてお聞きします】

※食育とは

私たちの食生活は、ライフスタイルの多様化などに伴って大きく変化してきました。その中で食を大切にすると心や体は健康で、食文化が失われつつあります。また近年、栄養バランスの崩れや不規則な食事の増加などに伴い、糖尿病や高血圧などの生活習慣病が増加してきています。このような状況を改善し、健全な食生活を取り戻すために、「食」に関する正しい知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができるとを育てることを「食育」といいます。

【問 28】 あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。

(1つだけ○)

1. 言葉も意味も知っていた
2. 言葉は知っていたが意味は知らなかった
3. 言葉も意味も知らなかった

【問29】 あなたは食育に関心がありますか。

1. 関心がある →問 30 へ
2. どちらかといえば関心がある →問 30 へ
3. どちらかといえば関心がない →問 31 へ
4. 関心がない →問 31 へ
5. わからない →問 31 へ

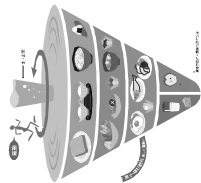
【問30】問29で1. または2. を選択された方にお聞きます。

食育に関心がある理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもの心身の健全な発達のために必要だから
2. 食に対する感謝の気持ちが高まっているから
3. 食生活の乱れ（栄養バランスの崩れ、不規則な食事等）が問題になっているから
4. 食品の安全が重要だから
5. 生活習慣病（がん、糖尿病等）の増加が問題になっているから
6. 食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが大切だから
7. その他（ ）
8. 特にない
9. わからない

【問31】 食事の望ましい組み合わせとおよその量を示したコマ型のイラスト「食事バランスガイド」（下図）を見たことがありますか。

1. ある
2. ない

食事バランスガイド³

【問32】コマ型の「食事バランスガイド」を参考にしてメニューを考えたり、選んだりしますか。(1つだけ○)

1. ほぼ毎食参考にしている
2. 毎日1食は参考にしている
3. 時々参考にしている
4. ほとんど参考にしない

【問 33】あなたは「メタボリックシンドローム」(内臓脂肪症候群)とは何か知っていますか。(1つだけ○)

1. 内容を知っている
2. 言葉を聞いたことはあるが内容は知らない
3. 知らない

Ⅱ. あなたの健康状態などについてお聞きます

【問34】あなたの現在の健康状態はどれにあてはまりますか（1つだけ○）

1. よい 2. まあまあよい 3. ふうふう
4. あまりよくない 5. 悪い 6. わからない

【問35】あなたは、過去1年間に健康診査（がん検診を含む）や人間ドッグを受けたことがありますか。

1. $\frac{2}{3}$

- (1) どこで受けましたか。(あてはまるものすべてに○)
 - 1) 市の健康診査(保健センターや医療機関)
 - 2) 職場や学校
 - 3) 職場以外の人間ドック
 - 4) その他()

(2) 何を受けましたか。(受けたものすべてに○)

- 1) 特定健康診査・一般健康診査（血液、尿検査など）
- 2) 胃がん検診
- 3) 大腸がん検診
- 4) 肺がん検診
- 5) 乳がん検診
- 6) 子宮がん検診
- 7) その他（ ）

(3) 健康診査はあなたの生活を見直すきっかけになりましたか。(1つだけ○)

- 1) はい 2) いいえ 3) どちらでもない

2. ない 

- その理由を選んで下さい。(あてはまるものすべてに○)
- 1) 忙しくて受ける時間がない
 - 2) 受けるのが面倒
 - 3) 健康に自信がある
 - 4) 悪いといわれるのがこわい
 - 5) 経済的余裕がない
 - 6) 医者にかかっている
 - 7) どうすれば受けられるか知らない
 - 8) その他()

【問36】あなたは、自分の健康について相談したり、病気になったときに診てもらおう
かかっている医師や歯科医師、薬剤師がありますか。

1. 25

あてはまるものすべてに○をつけて下さい。

- 1) 医科 (医師) 2) 歯科 (歯科医師)
3) 薬局 (薬剤師)

2. ない

Ⅳ. あなたの歯の状態や手入れについてお聞きします

【問 37】 あなたの歯についてお聞きします。

(1) 現在、自分の歯は何本ありますか。 (1 つだけ○)

1. 0 本 2. 1 本以上 10 本未満 3. 10 本以上 20 本未満
4. 20 本以上 24 本未満 5. 24 本以上

(2) 歯磨き剤を使用していますか。

1. 使用している 2. 使用していない

(3) 歯ブラシ以外に補助的な用具を使用していますか (歯間ブラシ、糸ようじ、デンタルフロスなど) (1 つだけ○)

1. 毎日使用している 2. ときどき使用している
3. 使用していない

(4) 定期的に歯科検診を受けていますか。

1. 受けている 2. 受けていない

受けている場所

1) 歯科医院・診療所・病院
2) 職場
3) 学校
4) その他 ()

(5) 定期的に歯石除去や歯面清掃を受けていますか。

1. 受けている 2. 受けていない

【問 38】 食事中、噛むことを意識して食べていますか。 (1 つだけ○)

1. はい 2. いいえ

Ⅴ. 河内長野市の保健事業についてお聞きします

【問 39】 あなたは、毎月掲載している「広報かわちながの」の“すこやかライフのページ”の保健事業内容を見ることがありますか。

(1 つだけ○)

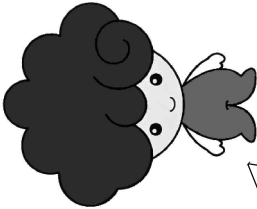
1. よくみている 2. ときどきみている 3. みたことがない

【問 40】 市では、保健事業として次の事業を実施しています。

次の事業について、①～③のうち該当するところに○をつけてください。

① 「利用したことがある」	①	②	③
② 「知っているが利用したことはない」			
③ 「知らないので利用したことがない」			
保健事業の種類			
成人・高齢者関係	がん検診 (40 歳以上の市民対象)	胃がん	
		大腸がん	
		肺がん	
		子宮がん	
	女性のがん検診 (子宮：20 歳以上・乳：40 歳以上対象)	乳がん	
成人・高齢者関係	青年・成人健康診査 (16 歳～39 歳で学校や勤め先などで健康診査を受診する機会がない市民対象)		
	健康相談 (健康、栄養、口腔(歯科)などの相談)		
	訪問指導 (保健師・管理栄養士・歯科衛生士による)		
	ツール・ド・大塚かわちながのウォーキングコース整備事業		
	健康教室 (生活習慣病予防・骨粗しょう症教室など)		
成人・高齢者関係	口腔の教室 (お口の健康教室・歯っぴースマイル教室)		
	介護予防教室 (認知症予防・うつ予防の教室など)		
	元気アップ教室 (各自治会館・老人会館等で開催している教室) 20 歳以上用用アンケート		
	はつらつ元気アップ教室 (保健センターで開催している機能訓練教室)		

妊婦・乳幼児関係	① 「利用したことがある」	① ⑥ ③	
	② 「知っているが利用したことはない」		
	③ 「知らないの で利用したことがない」		
	保健事業の種類		
	マタニティマーク啓発マスケット（母子手帳交付時）		
	父子手帳の交付（母子手帳交付時）		
両親教室 （ママパパ教室）			
	こんにちは赤ちゃん訪問 （生後 4 か月までの赤ちゃんのいるすべての家庭が対象）		
	離乳食講習会 （もぐもぐ教室・かみかみ教室）		
	小児夜間救急システム		



保健センターでは、健康に関するさまざまな事業を行っています。今後の健康づくりのために、ぜひ積極的にご利用ください。

Ⅵ. 最後に、あなたご自身のことについてお聞きします

【問 41】あなたは、どんな仕事をしていますか（継続的に就労し、収入を伴う仕事で、自家営業の手伝いやアルバイトなども含む）。

1. している	あてはまるものに1つだけ○をつけて下さい。 1) 常勤社(職)員 2) 嘱託・契約社(職)員、派遣社(職)員 3) パート、アルバイト、内職など 4) 自営業主、雇業者 5) その他
2. していない	あてはまるものに1つだけ○をつけて下さい。 1) 家事専従 2) 学生（浪人も含む） 3) その他（年金生活、家事手伝い、失業など）

【問 42】あなた自身のお住まいについてお聞きします。

(1) 住んでいる町名をお答えください。

河内長野市〔	町・台〕
--------	------

(2) あなたは河内長野市にどのくらいの期間住んでいますか。

(1つだけ○)

1. 4 年以下	2. 5～9 年	3. 10～19 年	4. 20～29 年
5. 30～39 年	6. 40～49 年	7. 50 年以上	

(3) あなたは現在住んでいる地域にどの程度愛着がありますか。

(1つだけ○)

1. とても愛着がある	2. まあまあ愛着がある
3. どちらともいえない	4. あまり愛着がない
5. 全く愛着がない	

【問 43】あなた自身のことについてお聞きします。

(1) 性別はどちらですか。

1. 男	2. 女
------	------

(2) 年齢は次のどれですか。
(1つだけ○)

1. 20～24 歳	2. 25～29 歳	3. 30～34 歳	4. 35～39 歳
5. 40～44 歳	6. 45～49 歳	7. 50～54 歳	8. 55～59 歳
9. 60～64 歳	10. 65～69 歳	11. 70～74 歳	12. 75～79 歳
13. 80 歳以上			

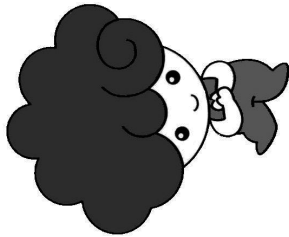
(3) 一緒に住んでいるご家族は、あなたも含めて、何人ですか。(1つだけ○)

1. 1 人	2. 2 人	3. 3 人	4. 4 人
5. 5 人	6. 6 人	7. 7 人	8. 8 人以上

(4) 一緒に住んでいるご家族の構成は、次のどれですか。(1つだけ○)

1. 単身 (ひとりぐらし) 世帯	2. 夫婦のみの世帯
3. 親子二世代世帯	4. 親・子・孫三世代世帯
5. その他 ()	

最後に、健康に関するご意見やご提言などお聞かせ下さい。



お忙しいところご協力
ありがとうございました。

4. 重要課題別ヒアリング結果

重要課題

【身体活動・運動】

庁内関係課	教育総務課	・市立小中学校の学校施設（一部の教室、運動場、体育館）を一般に開放している。
	青少年育成課	・地域における遊び・生活・自然・文化・スポーツなどの体験活動を主催・委託事業を通じて推進している。
	生涯学習課	・「運動の効果や運動に関する教室」についての講座などの情報を、生涯学習情報提供システム「学びやんネット」を通じ市民に広く情報提供している。 ・河内長野市総合スポーツ振興会に加盟している種目別団体と子どもを対象としたスポーツクラブについて、広報、ホームページに掲載し、紹介している。 ・ウォーキングイベントの開催を通じて、ウォーキング団体の組織化を図り、平成21年度に河内長野歩こう会を設立した。 ・長野総合スポーツクラブの活動支援と新規クラブの設立支援を行っている。 ・公民館で活動されているグループを随時紹介している。
	介護高齢課	・老人クラブ活動が活発化するよう老人クラブへの支援を行っている。 ・老人スポーツ大会を実施している。
関係団体	健康づくり推進委員会	健康づくり推進員が主体となり下記の教室を実施している。 ・年2回「はつらつウォーキング」、奇数月に「ちょこっとハイク」 ・健康づくり推進員が居住している地域に住む市民を対象に自治会と協働で毎月ウォーキング（1地域） ・年4回、市民交流センターで運動実技を行う「健康づくり教室」
	はつらつ出前ボランティア	・機能訓練や介護予防事業終了後の自主グループを対象に筋力トレーニングやストレッチを実施している。 ・生涯学習見本市などで、体操や歌体操、レクリエーションを実施している。 ・福祉センター錦溪苑で、毎月歌体操を実施している。 ・地域で行っている介護予防事業に体操ボランティアとして協力している。

重要課題

【栄養・食生活】

庁内関係課	学校教育課	・全小、中学校が、食育の全体計画を作成し、その計画に基づいて指導を実施している。
	子育て支援課	・子育て支援センターでは、保護者の食事に関する疑問に答えたり、栄養士などが事業の際に講話をしたりしている。 ・保育所ではボランティアの協力のもと、畑で野菜作りを行い、栄養士や調理師と相談しながら作った野菜を給食に取り入れたり、季節のめずらしい野菜に触れてもらったり、見せたりしている。食育だよりやほけんだよりを作成し、保護者に配付している。ベランダでの野菜や花作りをしている。クッキングにも取り組んでいる。
	生涯学習課	・「食に対する正しい知識」について学習する講座などの情報を、生涯学習情報提供システム「学びやんネット」を通じ市民に広く情報提供している。 ・公民館において健康に関する講座や講演会を実施し、情報提供などを行っている。
関係団体	食生活改善推進協議会	・地域の公民館で小学生を対象とした料理教室を開催し、食育活動を行っている。 ・主に退職された高齢期の男性を対象とした料理教室を開催し、調理方法の基礎から指導している。 ・いきいき健康展でパネル展示やヘルシーメニューの紹介、野菜のおもちゃなど幼児・児童向けのツールを使用し、食育活動を行っている。 ・保健センターの健康教室の卒業生が開催している、生活習慣病予防のための献立を取り入れた調理実習に講師として参加している。
庁外関係機関	富田林保健所	・商店連合会など団体を通じてカロリー表示店舗を増やすための普及啓発を行っている。コンテストを通じ、ヘルシーメニュー提供店の新規拡大を図っている。 ・モデル市を設定し、若年層のメタボリック症候群予防と食育推進のため親子での教室を開催している。

重要課題

【休養・こころの健康づくり】

庁内 関係課	生涯学習課	・ 様々な主体によって実施されている「趣味・生きがいづくり」「リラックス法」「うつ病」などに関する講座などの情報を生涯学習情報提供システム「学びやんネット」を通じ市民に広く情報提供している。 ・ 「趣味・生きがいづくり」については、団体・グループ、施設などの情報も「学びやんネット」を通じ情報提供し、学習の場として市民交流センターを提供している。また、公民館において様々な講座や講演会を実施し、サークル活動への貸し館などの支援を行っている。
	障がい福祉課	・ 障がい者の相談支援事業の中で、こころの病の原因となる多くの相談を受けている。
	学校教育課	・ 各中学校区にスクールカウンセラーが配置されている。
関係 団体	健康づくり 推進委員会	・ 市民とともに歌い演奏を聴いてこころのリフレッシュを行うことを目的に、年に2～3回健康づくり推進員が主体となり、「ふれあいミュージック」を開催している。 ・ 9月と3月に市が行う自殺防止キャンペーンの街頭での活動に協力している。
庁外 関係 機関	富田林保健所	・ 河内長野市庁舎にて月1回精神科医による保健医療に関する相談を実施。保健所にて精神科医、精神保健福祉相談員、保健師による保健医療に関する相談を実施している。

重要課題

【がん対策】

庁内 関係課	人権推進室 (男女共同参画担当)	・ 講演会などでがん検診の健康教育の時間確保し、周知に協力している。 ・ 講座などでがん検診受診推進のためのちらしの配布とポスターの掲示をしている。
-----------	---------------------	---

5. 策定経過

1) 策定委員会及び検討委員会などの開催経過

開催年月日	会議名等	内 容
平成 22 年 5 月 27 日	第 1 回 検討委員会	・ 副委員長選出について ・ 河内長野市第 3 次保健計画並び策定に伴う概要説明 ・ 河内長野市第 2 次保健計画策定時からの経過について ・ 市民アンケート調査について
平成 22 年 6 月 22 日	第 1 回 策定委員会	・ 委員長・副委員長選出について ・ 河内長野市第 3 次保健計画並び策定に伴う概要説明 ・ 河内長野市第 2 次保健計画策定時からの経過について ・ 市民アンケート調査について
平成 22 年 7 月	市民アンケートの 実施	・ 小学校 3 年生アンケート ・ 小学校 6 年生アンケート ・ 中学 3 年生アンケート ・ 17・18 歳アンケート ・ 20 以上の市民アンケート ・ 妊婦アンケート ・ 乳幼児健診アンケート
平成 22 年 8 月	関係課への ヒアリング	・ 河内長野市第 2 次保健計画策定時からの取り組み状況について
平成 22 年 8 月 31 日	第 2 回 策定委員会	・ 市民アンケート調査の集計・分析結果について ・ 第 2 次保健計画及び健康かわちながの 21 計画等の達成状況について
平成 22 年 11 月 10 日	第 2 回 検討委員会	・ すこやかに こころ豊かに ～河内長野市第 3 次保健計画～（案）について
平成 22 年 11 月 16 日	第 3 回 策定委員会	・ すこやかに こころ豊かに ～河内長野市第 3 次保健計画～（案）について

2) 策定委員会設置規程及び委員構成

(1) 河内長野市保健計画策定委員会設置規程

(設置)

第1条 本市の保健計画を策定するため、河内長野市保健計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、保健計画に関する事項について調査、検討するものとする。

(組織)

第3条 委員会は、委員20名以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 医療関係者
- (3) 関係団体の代表者
- (4) 市民
- (5) 市及び関係行政機関の職員

(任期)

第4条 委員の任期は1年とし、補欠により就任した委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長は、会議の進行のため必要があると認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、別に定める部署において処理する。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員長が会議に諮って別に定める。

附 則

この規程は、公布の日から施行する。

附 則（平成18年3月31日規程第14号抄）

(施行期日)

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。

(2) 策定委員会委員構成

※任用期間 平成22年6月22日～平成23年3月31日

選出区分		氏 名	所 属
学識経験者		伊 木 雅 之	近畿大学医学部
		米 延 策 雄	大阪南医療センター
医療関係者	◎	山 片 重 法	(社)河内長野市医師会
		松 尾 正 氣	同 上
	○	藤 田 進	河内長野市歯科医師会
		生 地 孝 至	同 上
		山 下 茂	河内長野市薬剤師会
		浅 川 徹	同 上
関係団体の代表		岡田 美津子	河内長野市健康づくり推進員会
		曾 和 孝 司	河内長野市老人クラブ連合会
		辻 野 晶 子	河内長野市民生委員児童委員協議会 主任児童委員
		中 尾 と も 子	河内長野市食生活改善推進協議会
公募委員		徳 間 邦 夫	市民
		祐 野 多 美 子	市民
市及び関係行政機関		中 村 顕	大阪府富田林保健所
		大 北 潔	河内長野市地域福祉部
		川 岸 康 泰	河内長野市健康増進部

◎委員長

○副委員長

(順位不同)

3) 検討委員会規程及び委員構成

(1) 河内長野市保健計画検討委員会設置規程

平成13年6月14日

訓令第1号

(設置)

第1条 本市の保健計画の立案並びに実施状況の点検及び見直しを行うため、河内長野市保健計画検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、別表第1に掲げる職にある者をもって組織する。

(委員長及び副委員長)

第3条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は健康増進部長をもってこれに充て、副委員長は、委員の互選によってこれを定める。

3 委員長は、必要があると認めるときは、協議事項に関係のある者に委員会に出席を求めることができる。

(会議)

第4条 委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、健康増進部健康推進課において処理する。

(補則)

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長がこれを定める。

附 則

この規程は、平成13年6月14日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

(2) 検討委員会委員構成

所 属	氏 名	
健康増進部長	◎	川岸 康泰
市民生活部 人権推進室長	○	新谷 修二
市民生活部 自治振興課長		向井 弘暢
健康増進部 介護高齢課長		柴田 肇
健康増進部 保険年金課長		洞淵 元秀
地域福祉部 生活福祉課長		稲田 勝亮
地域福祉部 子育て支援課長		扇田 朋子
地域福祉部 障がい福祉課長		西端 恵子
市長公室 企画政策室長		辻野 修司
教育委員会事務局 教育推進部 教育総務課長		中尾 雅行
教育委員会事務局 教育推進部 学校教育課長		西田 哲
教育委員会事務局 教育推進部 青少年育成課長		中野 隆夫
教育委員会事務局 生涯学習部 生涯学習課長		井上 伸市
消防本部 警防課長		奥開 康司

◎ 委員長

○ 副委員長

(順位不同)

6. 用語解説

【ア行】

■医療的ハイリスク児

低出生体重児で養育医療対象児や、出生時体重 2000 g 以下の児、または出生児体重 2001 g 以上であっても 1 か月以上の NICU 入院などが必要な児などのこと。

■エジンバラ産後うつ病質問票

産後に発症しやすい、うつ病によく見られる症状を 10 項目の質問にした自己記入式の質問票のこと。

■エイズ（AIDS）

HIV（ヒト免疫不全ウイルス=human immunodeficiency virus）の感染によるウイルス感染症で、免疫不全を起こし、日和見感染（ひよりみかんせん）や悪性腫瘍などを発症してくる症候群のこと。

【カ行】

■カリオスタット検査

う蝕活性試験。主として歯垢（プラーク）中のむし歯菌による酸を作る能力を試験液の色の変化によって判定する検査のこと。

■噛ミング 30

より健康的な生活を目指すという観点から一口に 30 回以上噛んで味わおうという運動のこと。

■QOL

クオリティ・オブ・ライフ（Quality of Life,略語：QOL）は、一般に人や社会の生活の質、つまりある人がどれだけ人間らしい生活を送り、「幸福」を見出しているかを尺度としてとらえる概念のこと。

■健康寿命

平均寿命から、日常生活を大きく損ねる病気や、けがの期間を差し引いたもので、日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間のこと。

■こんにちは赤ちゃん事業

生後4か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問し、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供等を行うとともに、親子の心身の状況や養育環境等の把握や助言を行い、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供につなげる訪問事業のこと。

■誤嚥性肺炎

食べ物や飲み物が気管などに入り込み、その後おこる肺炎のこと。

■合計特殊出生率

人口統計上の指標で、一人の女性が一生に産む子供の平均数のこと。この指標によって、異なる時代、異なる集団間の出生による人口の自然増減を比較・評価することができる。

【サ行】

■食育

様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

■自立支援医療

心身の障がい除去・軽減するための医療について、医療費の自己負担額を軽減する公費負担医療制度のこと、で障害者自立支援法に規定されている。

■周産期

出産前後の期間のこと。妊娠22週から出生後7日未満と定義されている。

■食事バランスガイド

厚生労働省及び農林水産省が作成した、1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかが一目でわかる食事の目安のこと。「主食」「副菜」「牛乳・乳製品」「果物」の5グループの料理や、食品を組み合わせるとれるよう、コマにたとえてそれぞれの適量をイラストでわかりやすく示している。

■職域保健

労働者の健康問題と職場の環境や職場の健康課題を関連づけた活動のこと。

■生活習慣病

以前は成人病と呼ばれていたがん、心臓病、脳卒中、糖尿病など生活習慣のゆがみが原因として発症する疾病のこと。

■積極的支援

特定健康診査でメタボリックシンドロームと判定された 40～64 歳の人に対して保健指導を行うこと。（積極的支援は、初回面接のあと3～6か月の継続的な支援を行うことにより、内臓脂肪の減量をめざしている。また保健指導はポイント制になっており、通算 180 ポイント以上実施しなければ、保健指導を完了したことにはならない。）

■専門クリニック

専門分野の医師による診察のこと。（市立保健センターでは、小児神経科・小児整形外科の医師の診察を実施している。）

■続発性不妊

不妊の原因の一つ、1 回以上妊娠したことはあるが、その後不妊となったもの。

【タ行】

■単産

単胎で生まれた出生のこと。（死産は含まない）

■地域保健

社会生活の単位として一定のまとまりを有する地域において、当該地域の住民の健康の保持及び増進を図ること。

■超高齢社会

高齢者（65 歳以上）人口の総人口に占める割合が21％を超える社会のこと。7％を超える社会は、「高齢化社会」、14％を超える社会は「高齢社会」という。

■地域産業保健センター

小規模事業場で働いている人を対象に個別産業保健指導などを行うセンターのこと。

■地域支援事業

介護保険法の中に規定されており、要介護や要支援状態になることを予防するとともに、要介護状態になった場合においても可能な限り、地域において自立した日常生活を営むことができるように支援することを目的に、介護予防事業、総合相談支援事業、権利擁護業務、家族介護支援事業などを実施する。

■地域包括支援センター

介護保険制度の中に位置づけられた機関で、高齢者が住み慣れた地域で尊厳あるその人らしい生活を継続することができるように総合相談支援、虐待の早期発見・防止などの権利擁護、包括的継続的マネジメント、予防給付・介護予防事業のケアマネジメントの機能を担うセンターのこと。

■地産地消

地産地消（ちさんちしょう）は、地域生産地域消費（ちいきせいさん・ちいきしょうひ）の略語で、地域で生産された様々な生産物や資源（主に農産物や、水産物）をその地域で消費すること。

■特定健康診査

平成20 年4 月から、医療保険者（国保・被用者保険）が、40～74 歳の加入者（被保険者・被扶養者）を対象として実施する、内臓脂肪型肥満に着目した検査項目での健康診査のこと。

■特定保健指導

特定健康診査の結果から生活習慣の改善が必要な人を抽出して、医師・保健師・管理栄養士等が、生活習慣の改善のための指導を実施することにより、生活習慣病を予防すること。

■動機づけ支援

メタボリックシンドローム予備群（腹囲＋追加リスク 1 個、または BMI＋追加リスク 1～2 個）と判定された人に、原則 1 回の個別面接をおこない、医師、保健師、管理栄養士などとの面談により、生活習慣改善のための指導をおこなうこと。

【ナ行】

■乳幼児虐待リスクアセスメント指標

虐待が起こる可能性、危険性を評価する指標のこと。

■ネグレクト

正常な発達を妨げるような著しい減食または長時間の放置など

■年齢調整死亡率

年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率のこと。この年齢調整死亡率を用いることによって、年齢構成の異なる集団について、年齢構成の相違を気にすることなく、より正確に地域比較や年次比較をすることができる。

【ハ行】

■BMI

肥満度を判定する体格指数のこと。体重(kg)を身長(m)の2乗で除して算出し、BMIが25以上を肥満型、18.5未満をやせ型とされる。

■標準化死亡比

年齢構成が異なる地域の死亡率を比較するための指標のこと。全国平均を100としており、100以上の場合は国の平均より死亡率が多いと判断され、100以下の場合は死亡率が低いと判断される。

■プライマリケア

診療所など住民に身近な医療機関が行う健康相談や診療などの日常的な保健・医療サービスのこと。

■ブックスタート事業

ゆとりをもって健やかに子育てができるよう、また絵本を通して赤ちゃんと一緒に楽しい時間を持ってもらうために、4か月児健康診査で絵本を配付している事業のこと。

■複産

双子・三つ子等多胎で生まれた出生のこと。（死産は含まない。）

【マ行】

■マタニティマーク

妊産婦自らが身に付け、妊産婦の存在を喚起するためのマークのこと。外見からは判別し難い妊娠初期の妊産婦に対する理解を得ることを主眼としている。

■「見る」「つなぐ」「動かす」

地域や実際の生活の状況を「見る」能力や、地域の人や物を「つなぐ」能力、地域住民のニーズや健康課題に応じて必要な事業を作り出せるような「動かす」能力のことで地域保健活動の基本とされている。

■メタボリックシンドローム

内臓脂肪型肥満に加えて、高血糖、高血圧、脂質異常のうちいずれか2つ以上を合わせもった状態のこと。

【ヤ行】

■約束クリニック

小児科医師による、経過観察健康診査のこと

【ラ行】

■ライフステージ

本計画では誕生から死亡までの人間の一生を特徴的な節目と変化によって妊産婦期（妊娠から出産）乳幼児期（出生から5歳）、学童期・思春期（6歳から18歳）、青年期・成人期（19歳から39歳）、中高年期（40歳から64歳）、高齢期（65歳以上）の6つの段階のこと。

■ローレル指数

児童・生徒の肥満の程度を表す指数のこと。以下の計算式で示される。

ローレル指数 = 体重 (kg) ÷ 身長 (cm)³ × 10000000

ローレル指数が130程度で標準的な体型とされ、プラスマイナス15程度に収まっていれば標準とされる。またプラスマイナス30以上となると、太りすぎ・やせすぎと判断される。肥満の判定基準は160以上で一般には120～130が正常とされている。

すこやかに こころ豊かに
～河内長野市第3次保健計画～

平成23年3月発行

編集・発行／河内長野市 健康増進部 健康推進課

〒586-0012 河内長野市菊水町2番13号

TEL (0721) 55-0301

FAX (0721) 55-0394